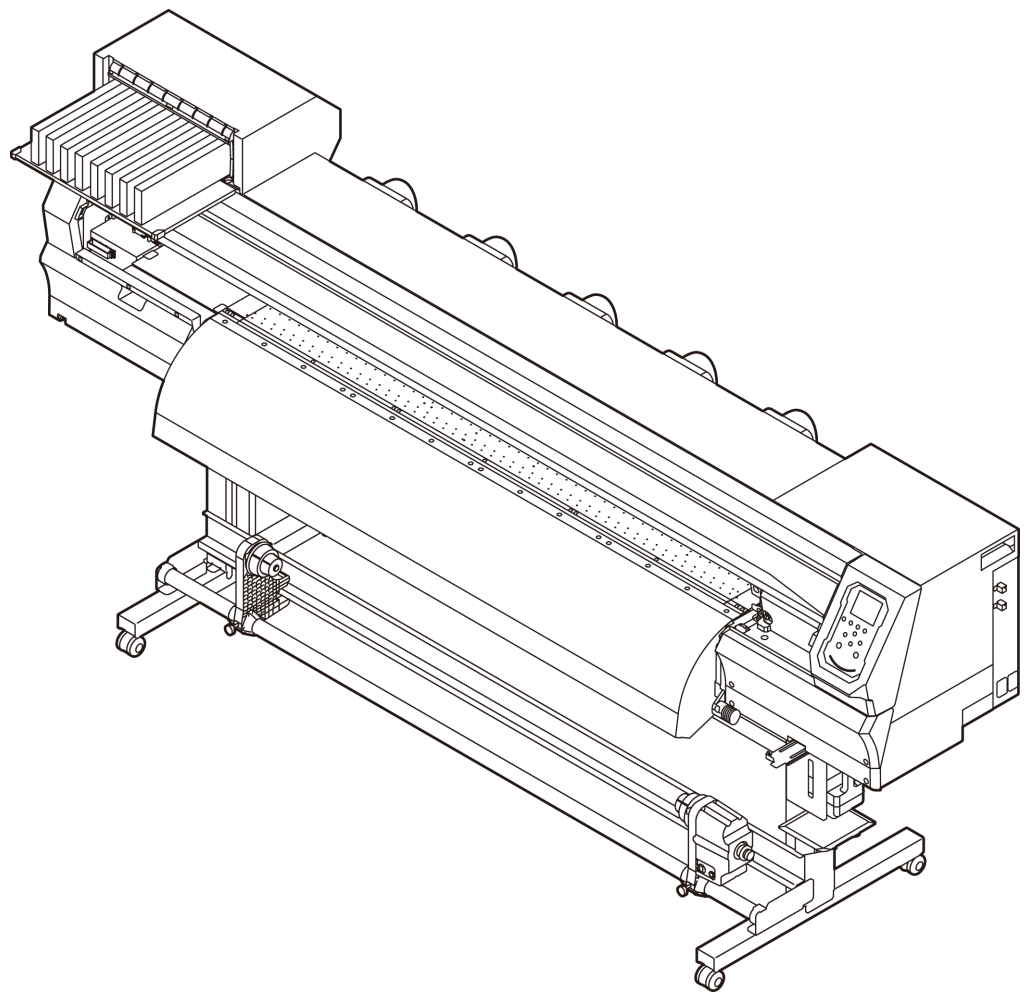


Printer Cutter

CJV300-130/160
CJV300-130/160Plus

取扱説明書



取扱説明書の最新版は、弊社ホームページからもダウンロードできます。

目次

はじめに	v
ご注意	v
おねがい	v
電波障害自主規制	v
テレビ/ラジオの受信障害について	v
使用できるインクについて	v
安全にお使いいただくために	vi
マーク表示について	vi
安全インターロックについて	ix
警告ラベルについて	x

第1章 ご使用の前に

本機の移動	1-2
設置場所について	1-2
使用環境温度について	1-2
本機の移動	1-2
各部の名称とはたらきについて	1-3
装置前面	1-3
装置背面/側面	1-4
操作パネル	1-5
メディアセンサー	1-7
キャリッジ	1-7
カッター刃とカット溝	1-7
キャッピングステーション	1-7
ピンチローラーとグリットローラー	1-7
ケーブルを接続する	1-8
LAN ケーブルを接続する	1-8
USB2.0 インターフェイスクーブルを接続する	1-8
電源ケーブルを接続する	1-9
インクカートリッジを入れる	1-10
インクカートリッジ取り扱い上のご注意	1-10
カートリッジを入れる	1-10
インクカートリッジを交換する	1-11
インクカートリッジランプについて	1-11
本機の制限について	1-11
600ml インクカートリッジの組み立て方	1-12
メディアについて	1-13
使用可能メディアサイズ	1-13
メディア取り扱い上の注意	1-13
メニューモードについて	1-14

第2章 基本的な使い方

プリントの流れ	2-2
電源を入れる/切る	2-3
電源を入れる	2-3
電源を切る	2-3
メディアをセットする	2-4
ヘッド高さを調整する	2-4
メディアに合わせてピンチローラーの位置を調整する	2-5
最大プリントエリア/カットエリアについて	2-8
メディアをセットするときの注意事項	2-8

ロールメディアをセットする	2-9
端面ガイドについて	2-11
ピンチローラー圧を設定する	2-11
巻取装置について	2-12
リーフメディアをセットする	2-13
原点を変更する場合は	2-14
ヒーターの準備をする	2-15
ヒーターの温度設定を変更する	2-15
テストプリントをする	2-15
テストプリントを行う	2-15
通常のテストパターンでテストプリントを行う	2-16
ホワイト確認用のテストパターンでテストプリントを行う	2-16
ヘッドクリーニング	2-17
ヘッドクリーニングについて	2-17
テストプリントの結果に合わせてヘッドクリーニングを行う	2-17
フィード補正の設定	2-18
フィード補正の設定	2-18
ドットの位置がずれたら	2-18
データをプリントする	2-19
プリントを開始する	2-19
プリントを中止する	2-19
受信したデータを消去する(データクリア)	2-19
メディアを裁断する	2-19
カットの流れ	2-20
ツールを取り付ける	2-21
カッターを使う場合	2-21
ボールペンの取り付け方	2-22
カット条件の設定をする	2-24
カット条件について	2-24
ツール条件を選択する	2-24
カット条件を設定する	2-25
テストカットをする	2-26
データをカットする	2-26
原点の設定	2-26
カットを開始する	2-26
カットを中止する(データクリア)	2-27
カッターユニットを退避させる	2-27
メディアを裁断する	2-27

第3章 セットアップ

設定メニューについて	3-2
設定メニュー一覧表	3-3
使い方に合わせた最適なプリント条件を登録する	3-4
フィード補正の設定	3-5
ドットの位置がずれたら	3-6
ヒーターの設定	3-7
ロジカルシークの設定	3-7
乾燥時間の設定	3-8
マージン(左/右)の設定	3-8
吸着ファンの設定	3-9
フィード速度の設定	3-9
MAPS の設定	3-9
オートクリーニングの設定	3-10
定期ワイピングの設定	3-11

マシン設定メニューについて	3-12
マシン設定メニュー一覧表	3-13
オートパワーオフの設定	3-14
オートパワーオンの設定	3-14
巻取りユニットの設定	3-15
トップブロワの設定	3-15
メディア残量表示の設定	3-16
メディア検出の設定	3-16
600ml カートリッジをお使いの場合	3-17
言語の設定	3-20
時刻の設定	3-20
単位 (温度 / 長さ) の設定	3-20
キーブザーの設定	3-20
確認フィードの設定	3-21
余白フィード方式の設定	3-21
ネットワークの設定	3-21
イベントメール機能の設定	3-22
自動リモート	3-25
設定した内容を初期状態に戻す	3-25
ノズルチェックメニューについて	3-26
ノズルチェックメニュー一覧表	3-26
印刷中ノズルチェックの流れ	3-27
「ノズル抜け」判定時ならびにエラー発生時の印刷動作	3-27
印刷中ノズルチェックの設定	3-28
自動ノズルリカバリの設定	3-28
判定条件の設定	3-28
情報メニューについて	3-29
情報メニュー一覧表	3-29
情報を表示させる	3-30

第4章 カット機能

トンボ付きデータをカットする	4-2
トンボ付きデータをカットする流れ	4-2
トンボ付きデータ作成に関する注意事項	4-3
トンボ検出の設定	4-5
トンボを検出する	4-6
ID カット	4-6
カッティングメニューについて	4-7
カッティングメニュー一覧表	4-8
カットモードの設定	4-9
同じデータを複数枚カットする (コピー機能)	4-9
設定サブメニュー	4-10
分割カットの設定	4-10
メディアの切り残しをなくす (オーバーカット機能)	4-12
その他の設定サブメニュー	4-12
設定リセット	4-13
メンテナンス機能	4-14
トンボセンサーのメンテナンス	4-14
サンプルをカットして、カット異常の原因を調べる	4-16
一定の長さのメディアを複数枚カットする	4-16
トンボが無いデータをカットするために (PC 原点オフセット)	4-17
スケール補正の設定をする	4-18

第5章 お手入れ

日常のお手入れ	5-2
お手入れ上のご注意	5-2
メンテナンス洗浄液について	5-2
外装のお手入れ	5-2
プラテンの清掃	5-2
メディアセンサーの清掃	5-3
メディア押さえの清掃	5-3
ジャムセンサーの清掃	5-3
排気BOXフィルタ、または排気BOXの交換	5-4
吹付ファンフィルタの交換	5-4
吹付ファンフィルタの交換	5-4
CPパッドセットの交換	5-5
ペンラインゴム、ペンラインスポンジの交換	5-5
ピンチローラーの清掃、交換	5-6
メンテナンスニューについて	5-7
メンテナンスメニュー一覧表	5-8
メンテナンスメニュー以外のメンテナンス	5-8
キャッピングステーションのメンテナンス	5-9
ワイパーとキャップの清掃	5-9
ヘッドノズルの洗浄	5-10
インク排出路の洗浄	5-11
長期間使用しない場合	5-11
ヘッド周辺の清掃	5-13
ノズルリカバリ機能	5-14
設定値をリセットする	5-15
テストプリント時にノズルリカバリを有効にするか設定する	5-15
オートメンテナンス機能	5-16
リフレッシュ間隔を設定する	5-16
チューブ/ノズル洗浄の間隔を設定する	5-16
クリーニング間隔とタイプを設定する	5-17
インク充填	5-17
インクのメンテナンス	5-18
インクのメンテナンス(ホワイト、シルバー、オレンジを除く)	5-18
ホワイトインク(特色)メンテナンス	5-18
オレンジインクのメンテナンス	5-18
消耗品の交換	5-19
ワイパーを交換する	5-19
廃インクタンク確認メッセージが表示されたら	5-19
廃インクタンク確認メッセージが表示される前に廃インクタンクを交換する 場合	5-21
裁断カッター刃の交換	5-21
カッターの刃の交換と調整	5-22
刃先の交換	5-22
刃先の調整	5-22
付属品以外のカッターの交換方法	5-22
付属品以外のカッター刃先の調整	5-23

第6章 困ったときは

故障かな?と思う前に	6-2
電源が入らない	6-2
プリントできない	6-2
メディア詰まり/メディアが汚れる	6-2

ヒーターの温度が設定値まで上昇しない	6-3
画質不良が発生したときは	6-3
ノズル詰まりを解消したいとき	6-3
カートリッジ異常が発生したら	6-4
インク漏れが発生したら	6-4
メッセージを表示するトラブル	6-5
ワーニングメッセージ	6-5
エラーメッセージ	6-8

第7章 付録

仕様	7-2
プリンタ部仕様	7-2
カット部仕様	7-2
共通仕様	7-3
インク仕様	7-4
インクカートリッジのセット順	7-5
LICENSE Library	7-6
お問い合わせシート	7-7



はじめに

この度は、カラー インクジェットプリンタ CJV300-130/160、CJV300-130/160 Plus をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
「CJV300-130/160」、「CJV300-130/160 Plus」（以後本機と称します）は、1.3m または 1.6m 幅のメディアにソルベントインク（4 色 /6 色 /8 色）または昇華転写インク（4 色 /6 色）でプリントする、高画質に対応したカラーインクジェットプリンタです。

ご注意

株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本機の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。

また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。

一例として、本機を使用したメディア等の損失や、作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。

本機を使用したことによる金銭上の損害および逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

おねがい

- 本書は、本機の操作やメンテナンスなどの取り扱いについて説明いたします。
- 本書で使用しているイラストは、機種によって一部異なる場合がございます。
- 本書をお読みになり、十分理解してからお使いください。
- 本書は、内容について十分注意しておりますが、万一ご不審な点などがありましたら、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
- 本書は、改良のため予告なく変更する場合があります。
- 取扱説明書の最新版は、弊社ホームページからもダウンロードできます。

電波障害自主規制

本機は、クラス A 情報技術装置です。本機を家庭で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

テレビ/ラジオの受信障害について

本機は、使用時に高周波が発生します。このため、本機が不適切な条件下で設置または使用した場合、ラジオやテレビの受信障害が発生する可能性があります。したがって特殊なラジオ/テレビに対しては保証しておりません。本機がラジオ/テレビ受信の障害原因と思われましたら、本機の電源を切り、ご確認ください。電源を切り受信障害が解消すれば、本機が原因と考えられます。次の手順のいずれか、またはいくつかを組み合わせることでお試しください。

- テレビやラジオのアンテナの向きを変え、受信障害の発生しない位置をさがしてください。
- 本機から離れた場所にテレビやラジオを設置してください。
- 本機とは別の電源供給路にあるコンセントにテレビやラジオを接続してください。

使用できるインクについて

本機で使用できるインクは、ソルベントインク (SS21/ES3) と昇華転写インク (Sb53/Sb54) になります。









本書の内容を無断で転載することは禁止されています。
© 株式会社ミマキエンジニアリング
All Rights Reserved.Copyright

安全にお使いいただくために

マーク表示について

本書では、マーク表示により操作上の注意内容を説明しています。注意内容により表示するマークは異なります。各マーク表示の持つ意味をご理解し、本機を安全に正しくお使いください。

マーク表示の例

内 容	
	「警告」マークは、指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。必ずよくお読みになり、正しくお使いください。
	「注意」マークは、指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。
	「重要」マークは、本機をお使いいただく上で、知っておいていただきたい内容が書かれています。操作の参考にしてください。
	「ヒント」マークは、知っておくと便利なことが書かれています。操作の参考にしてください。
	関連した内容の参照ページを示しています。
	△マークは、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。中に具体的な注意事項（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は差し込みプラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

使用上の警告と注意

警告



- 同梱されている電源ケーブルセットは本機専用です。本機以外の電気機器には使用できません。また、同梱されている電源ケーブルセット以外の電源ケーブルセットは、本機には使用しないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重い物をのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源ケーブルが破損し、火災・感電の原因になります。
- 湿気の多い場所での使用は避けてください。また、本機に水をかけないでください。火災や感電、故障の原因になります。
- 万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常事態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに、電源スイッチをオフにして、その後必ずプラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認してから、販売店または弊社営業所に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。
- 本機やインクカートリッジの分解・改造は、絶対にしないでください。感電や故障の原因になります。
- 延長ケーブルは使用しないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源プラグの刃に金属などが触れると、火災や感電の原因になります。
- タコ足配線をしないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、芯線の露出・断線などが見られたりするときはサービス実施店に交換を依頼してください。そのまま使用すると火災や感電の原因になります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。
- 電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張らないでください。ケーブルが傷つき、火災や感電の原因になります。
- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災や感電の原因になります。
- 表示された電源周波数以外では使用しないでください。火災や感電の原因になります。
- 万一、金属、水、液体などの異物が本機内部に入ったときは、すぐに電源を切ってください。その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてサービス実施店に連絡してください。そのまま使用すると火災や感電の原因になります。
- インク漏れが発生した場合は、主電源スイッチをオフにして電源プラグを抜いてから、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
- メディア搬送面のヒーターにホコリやゴミ等が付着しないようにしてください。発火、火災の原因になります。
- 本機に子供を近づけないでください。



警告



- 本機の近くまたは内部で可燃性のスプレーや引火性溶剤などを使用しないでください。引火による火災や感電の原因になります。
- 本機の上や近くに花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品、水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災や感電の原因になります。



- ソルベントインクは、危険物第 4 種第 2 石油類、または危険物第 4 類第 3 石油類に該当します。よって、引火する可能性があるため、本機を使用する場所は、火気厳禁としてください。

使用上のご注意

注意

電源ケーブルについて



- 極性付きのコンセントに接続してください。
- インレット 1・2 には、同じ電圧のコンセントから電源を取ってください。
- 必ず本機の近くにある電源コンセントに接続し、容易に取り外しができるようにしてください。
- 電源プラグは年に 1 回以上コンセントから抜いて、プラグの刃と刃の周辺部分を清掃してください。ほこりがたまると、火災の原因になります。
- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
- 電源を接続する際には、電源コンセントの入力電圧、プレーカーの容量を確認し、それぞれのケーブルはプレーカーが独立している別の電源に接続してください。同じプレーカーにつながっているコンセントに接続すると、プレーカーが遮断することがあります。

電源供給について



- プレーカーは常時 ON にしておいてください。
- 側面にある主電源スイッチはオフ にしないでください。

メンテナンス上の注意



- インクやメンテナンス洗淨液、廃インク、その他 本機で使用されている液体を取り扱うときは、換気に十分注意して、必ず付属の保護メガネと手袋、マスクを着用してください。インクなどの液体が跳ねて、皮膚に付着したり、目や口に入ったりするおそれがあります。
- 手袋は消耗品です。付属の手袋が無くなりましたら市販品をご使用ください。

可動部に注意



- 危険な可動部に、指や体の他の部分を近づけないでください。
- 回転中のグリットローラーには触れないでください。指の皮や爪をはいでけがをする場合があります。
- カット中は、可動部分に顔や手を近づけないでください。髪の毛を巻き込んだり、けがをする場合があります。
- 作業の妨げになるような服装（ダブついた服装、装飾品など）で作業しないでください。また、長い髪の毛は束ねてください。

注意

インクについて



- インクカートリッジにインクに関する注意書きが記載されています。よくお読みいただき、十分に理解してから使用してください。
- インク、メンテナンス用洗淨液の取り扱い前に必ず安全データシート (SDS) をお読みください。
- インクは火気のないところで換気しながらお使いください。
- インクやメンテナンス洗淨液、廃インク、その他本機で使用されている液体が皮膚に付着してしまったり、直ちに布などでふき取ってください。石鹸を使用して、大量の水で洗い流してください。そのまま放置すると、皮膚が炎症をおこすおそれがあります。皮膚に刺激や痛みを感じたときは、速やかに医師の診断を受けてください。
- インクやメンテナンス洗淨液、廃インク、その他本機で使用されている液体が目に入ってしまったときは、直ちに大量の清浄な流水で 15 分以上洗い流してください。コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は、清浄な流水で 15 分以上洗い流した後に外してください。まぶたの裏まで完全に洗ってください。そのまま放置すると、失明や視力低下のおそれがあります。目に刺激や痛みを感じたときは、速やかに医師の診断を受けてください。
- インクやメンテナンス洗淨液、廃インク、その他本機で使用されている液体が口に入ってしまったら、飲み込んでしまったときは、無理に吐かせず直ちにうがいをし、速やかに医師の診断を受けてください。無理に吐かせると、吐いたものが気管に入るおそれがあります。
- 蒸気を大量に吸い込んでしまったときは、新鮮な空気の場所へ移動して、暖かくして呼吸しやすい姿勢で安静にしてください。症状が改善しない場合は、速やかに医師の診断を受けてください。
- すぐに医師の診断を受けられない場合は、(財)日本中毒情報センター 中毒 110 番に相談してください。

(大阪) 072-727-2499: 24 時間対応

(つくば) 029-852-9999: 9 ~ 21 時対応

メディアについて



- ロールメディアをセットする場合は、2 人以上でセットしてください。ロールメディアの重みで腰を痛める可能性があります。
- メディアを交換するときは、指を挟んだり、けがをしないように注意してください。
- 本機内部にはメディアのカッターがあります。メディアの交換、補給およびメディアづまりを取り除くときは、本書で指定している場所以外には触れないでください。けがの原因になります。

ヒーターについて



- メディア搬送面上に液体をかけないでください。ヒーターの故障や発火の原因になります。
- メディア搬送面のヒーターが熱いうちに素手で触らないでください。火傷の原因になります。

⚠ 注意**カッターについて**

- カッターの刃先は鋭利です。触らないでください。
- カッター刃は、子供の手の届かないところに保管してください。また、使用済みのカッター刃は、地域の条例に従い廃棄してください。
- カッターをセットした後、カッターホルダーを振らないでください。刃先が飛び出し、怪我の原因となります。

本体の取り扱い上の注意

- 換気の悪い部屋、または密閉された部屋で使わないでください。
- 使用の際には十分な換気を行ってください。
- 本機内部の掃除をサービス実施店に相談してください。本機内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因になります。

ご注意とお願い**⚠ 警告****クランプレバーについて**

- プリント中にクランプレバーを上げないでください。プリントが終了してしまいます。

定期交換部品

- 本機には定期的に交換する部品があります。機材を末永くご利用いただくためにも、必ず、年間保守契約にご加入ください。

インクカートリッジの取り扱い

- 弊社推奨インクにより安全性を評価しています。安全にご使用いただくため、弊社推奨インクをご使用ください。
- インクカートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、3時間以上室温環境下に放置してから使用してください。
- インクカートリッジは、取付直前に開封してください。開封した状態で長時間放置しておくと、正常にプリントできない場合があります。
- インクカートリッジは、冷暗所で保存してください。
- インクカートリッジや廃インクタンクは、子供の手の届かない場所に保管してください。
- インクカートリッジは、開封してから3カ月以内に使い切ってください。開封後、長時間経過したものは、プリント品質が低下します。
- 不要になったインクカートリッジ・インクパック・廃インクは、販売店またはサービス実施店へお渡しください。なお、お客様自身で廃棄処理される場合は、産業廃棄物処理業者または各国の地域の条例に従って処理してください。
- インクカートリッジを強くたたいたり、激しく振り回さないでください。カートリッジからインクが漏れる場合があります。
- インクパック内、およびインクカートリッジ内のインクを詰め替えないでください。詰め替えたインクを使用して生じた不具合について、弊社はいっさいの責任を負いかねます。
- インクカートリッジの基板接点部分は、手で触れたり、汚したりしないでください。基板の故障の原因になります。
- ホワイトおよびシルバーインクは、印刷を行う前にインクカートリッジを数回振ってください。

⚠ 警告**メンテナンス上の注意**

- できるだけホコリの少ない部屋で利用してください。
- プリント中に、突然インクの雫がヘッドからメディアに落ちるのもホコリが原因です。この場合は、ヘッド周辺の清掃を実行してください。
- キャッピングステーション、およびワイパーの拭き掃除(ホコリ、紙粉)は、こまめに行ってください。
- 印刷していないときもフロントカバーを閉じておいてください。ヘッドのノズルにほこりがたまる可能性があります。

メディアとホコリについて

- メディアは袋に入れて保管してください。メディアに付着したホコリを拭き取ると、静電気により逆効果になります。
- 夜帰宅する際は、メディアをロールハンガーに掛けっぱなしにしないでください。メディアの上にホコリが付着してしまいます。

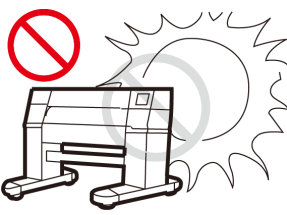


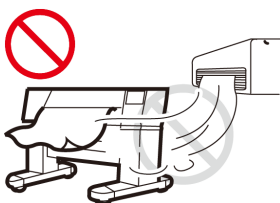
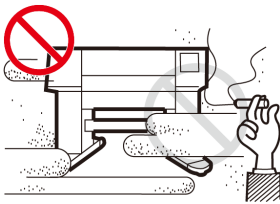
本機の廃棄処分について

- 本機を廃棄したいときは、販売店またはサービス実施店にご相談ください。なお、お客様自身で廃棄処理される場合は、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

メディアの取り扱い

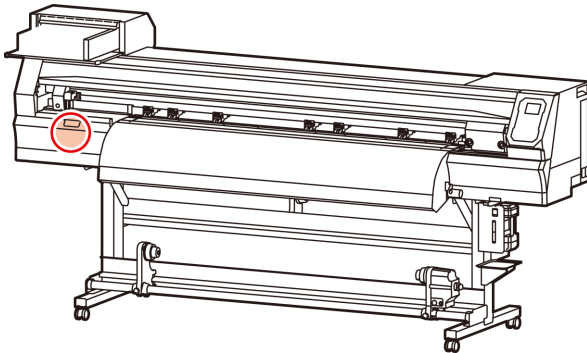
- 推奨メディアをご使用ください。安定した高画質でプリントするには、弊社推奨のメディアをご使用ください。
- メディアの伸縮にご注意ください。包装を開けて間もないメディアは、使用しないでください。室内の温度や湿度によって、メディアが伸縮する場合があります。包装を開けて、使用する場所で30分以上さらしてから装置に取り付けてください。
- カールしたメディアは使用しないでください。メディアづまりの原因になるだけでなく、画質にも影響を及ぼします。また、カールのきついメディアは、カールを取り除いてから使用してください。コーティングした定型サイズ紙をまるめて保管する場合は、コーティング面が外側になるようにしてください。
- メディアのフチのホコリにご注意ください。ロールによっては、包装に含まれるホコリがロール端面に溜まっていることがあります。そのままお使いになると、ノズル抜けやインクのポタ落ちなどによるプリント品質劣化の原因となりますので、ロール端面についたホコリを取り除いてからセットしてください。
- メディアの特性に合わせ、ヒーター温度を設定してください。(ヒーター搭載機)
- メディアの種類や特性に合わせて、プリヒーター、プリントヒーターおよびポストヒーターの温度を設定してください。また、専用RIPからプロファイル指定により自動温度設定を操作パネルから指定する方法があります。指定方法は、お使いのRIPの取扱説明書を参照してください。(ヒーター搭載機)
- メディアをセットしたまま、ヒーターオン状態で長時間放置しないでください。(ヒーター搭載機)

設置上のご注意

⚠ 注意	
直射日光が当たる場所	水平でない場所
	
振動が発生する場所	エアコンなどの風が直接当たる場所
	
温度や湿度の変化が激しい場所	火を使う場所
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">!</div> <ul style="list-style-type: none"> • 次の環境下でお使いください。 • 使用環境： 20 ~ 30 °C (68 ~ 86 °F) 35 ~ 65 % (Rh) </div>	

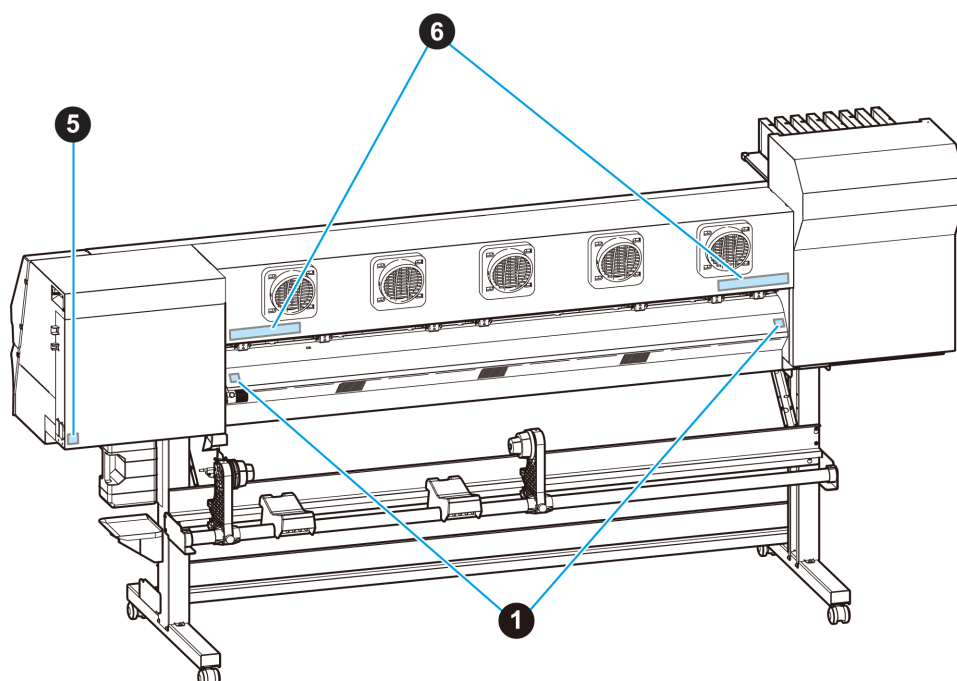
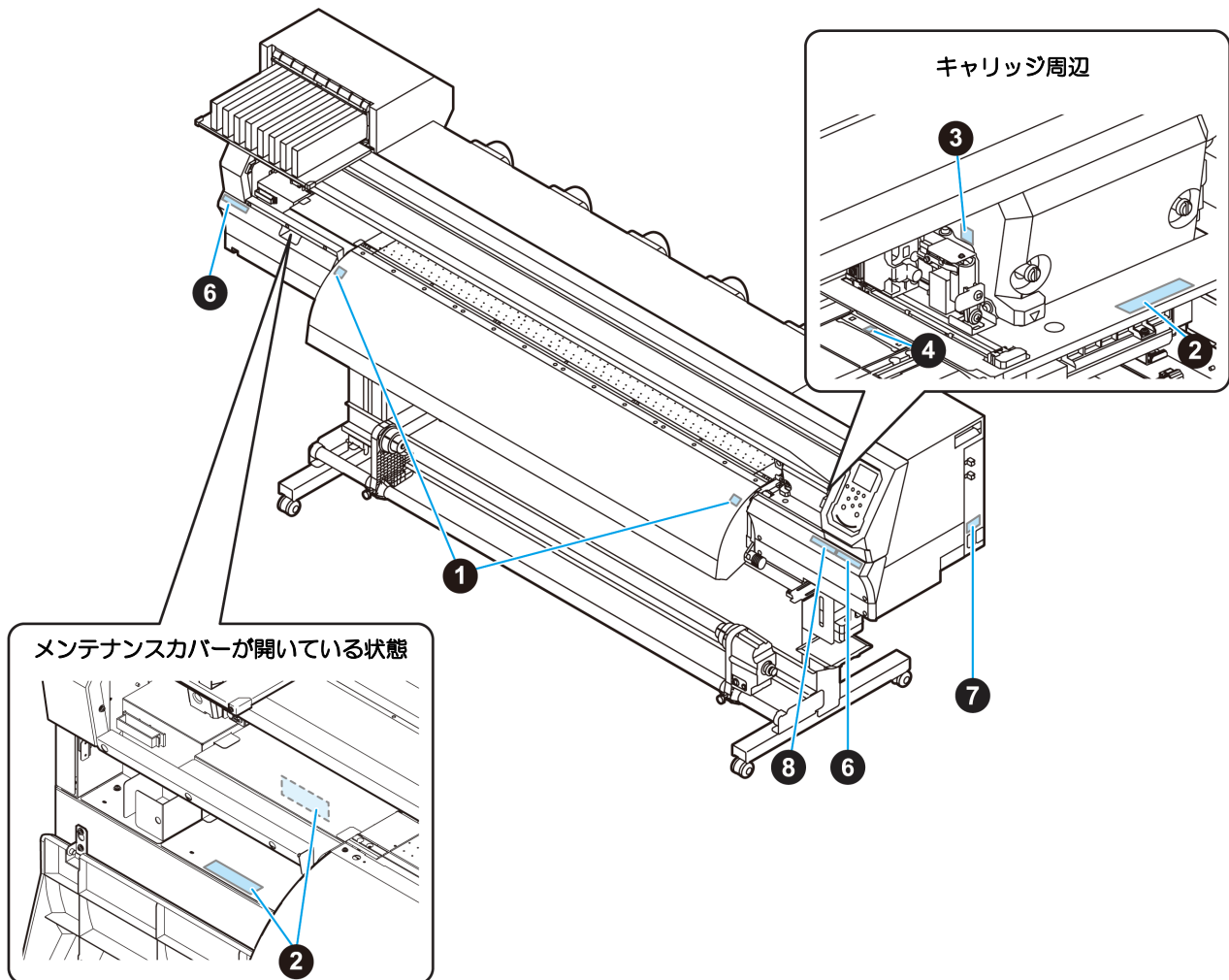
安全インターロックについて







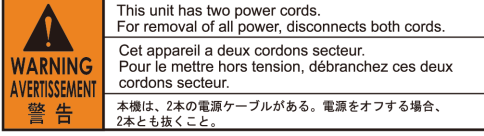
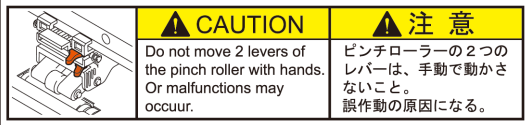
本機は安全のため、プリント中などにカバーが開いた場合に動作を中断させるためのインターロックがついています。(下図の赤丸部分)



警告ラベルについて

本機には、下記の警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。
 なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり剥がれた場合は、新しい警告ラベルを販売店または弊社営業所にてお買い求めください。



No.	注文番号	ラベル
1	M903239	
2	M903330	
3	M903405	
4	M906144	
5	M907935	
6	M905811	
7	M906031	
8	M905935	

第1章 ご使用前に



この章では ...

本機の各部の名称や設置方法など、ご使用前に知っておいていただきたいことについて説明します。

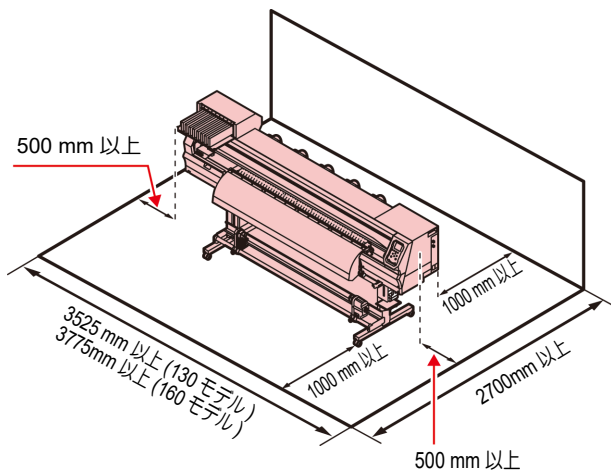
本機の移動	1-2	USB2.0 インターフェイスケーブルを	
設置場所について	1-2	接続する	1-8
使用環境温度について	1-2	電源ケーブルを接続する	1-9
本機の移動	1-2	インクカートリッジを入れる	1-10
各部の名称とはたらきについて	1-3	インクカートリッジ取り扱い上のご注意 ..	1-10
装置前面	1-3	カートリッジを入れる	1-10
装置背面 / 側面	1-4	インクカートリッジを交換する	1-11
操作パネル	1-5	インクカートリッジランプについて	1-11
メディアセンサー	1-7	本機の制限について	1-11
キャリッジ	1-7	600ml インクカートリッジの組み立て方 ..	1-12
カッター刃とカット溝	1-7	メディアについて	1-13
キャッピングステーション	1-7	使用可能メディアサイズ	1-13
ピンチローラーとグリットローラー	1-7	メディア取り扱い上の注意	1-13
ケーブルを接続する	1-8	メニューモードについて	1-14
LAN ケーブルを接続する	1-8		

本機の移動

設置場所について

本機を組み立てる前に、設置するスペースを確保してください。
 本体の大きさとプリントのために必要なスペースを考慮して設置します。

機種	横幅	奥行き	高さ	全体重量
CJV300-130 CJV300-130 Plus	2525mm	700mm	1392mm	157kg
CJV300-160 CJV300-160 Plus	2775mm	700mm	1392mm	168kg



使用環境温度について

本機は安定したプリントを行うために、20～30℃の環境でご使用ください。

本機の移動

本機をやむを得ず、段差のない同一フロア内で移動する場合は、下記のように行ってください。

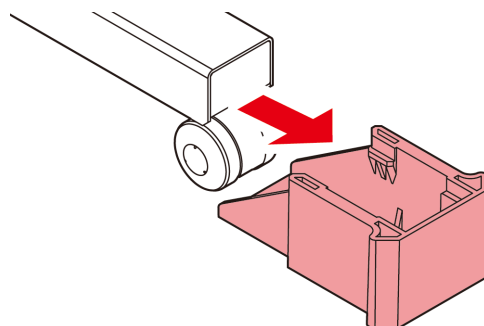
重要!

- 本機の移設の際は、弊社営業所または販売店までご連絡ください。
 お客様が本機の移設を行うと、故障や破損の原因になります。
 本機の移設は、必ず専門の担当者におまかせください。



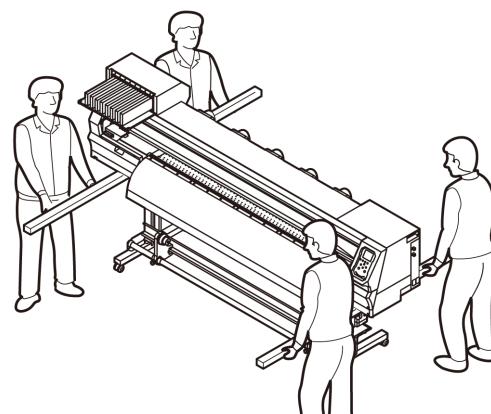
- 移動するときは、大きな振動を与えないください。
- 移動後は、必ずキャスターをロックしてください。

1 キャスターブロックを取り除く

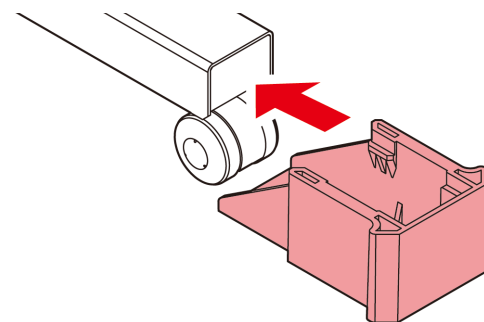


2 図のようにして、移動する

- 本機を移動するときは、必ず4人以上で行ってください。
- カバーを押して移動すると、カバーが割れる可能性があります。



3 キャスターブロックを取り付ける



各部の名称とはたらきについて

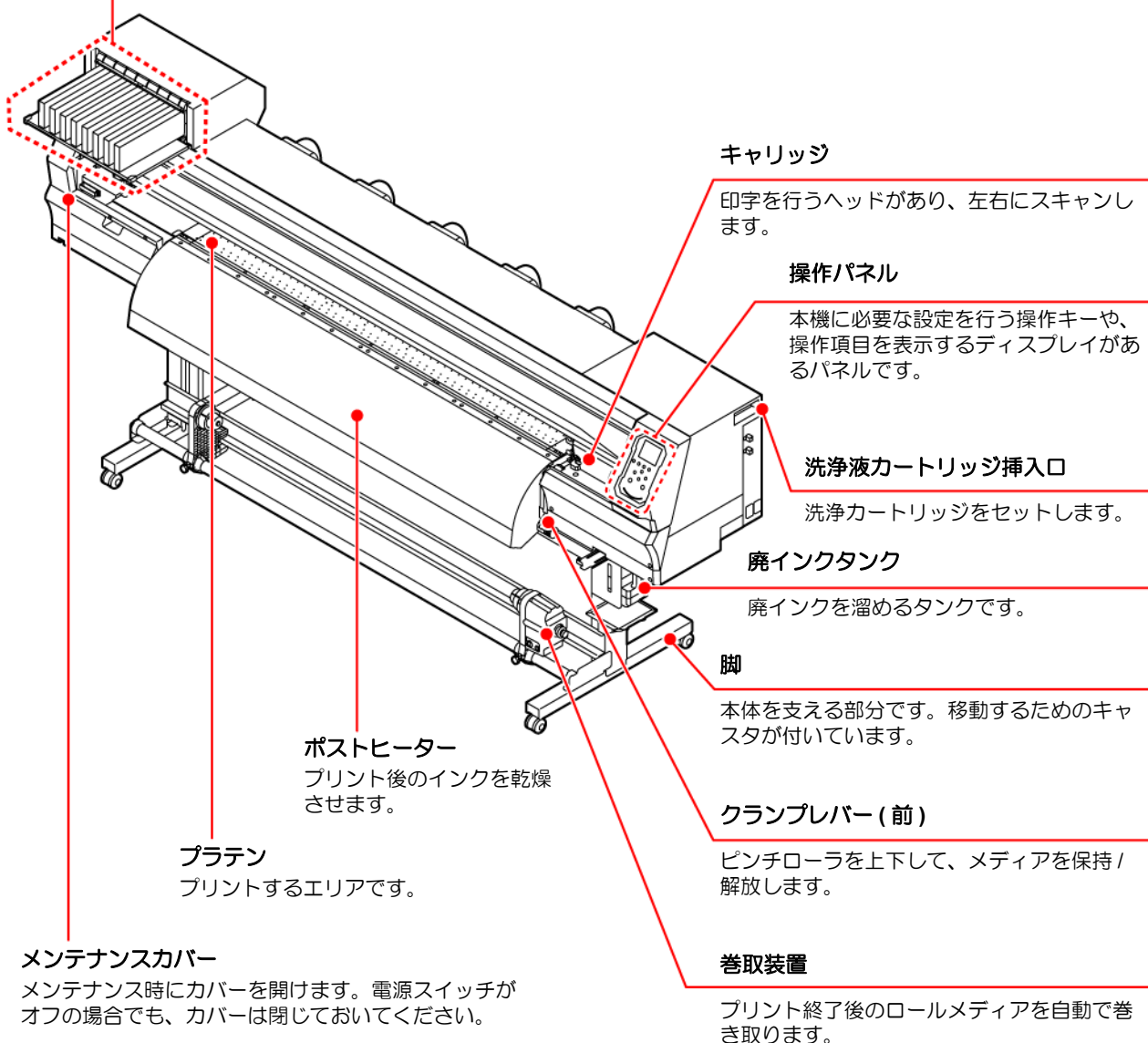
装置前面

インクカートリッジ

各色のインクが入っています。

カートリッジ保護カバー

インクカートリッジの突出によるケガや装置の破損などを防止します。
(インクカートリッジの下にあります)



キャリッジ

印字を行うヘッドがあり、左右にスキャンします。

操作パネル

本機に必要な設定を行う操作キーや、操作項目を表示するディスプレイがあるパネルです。

洗浄液カートリッジ挿入口

洗浄カートリッジをセットします。

廃インクタンク

廃インクを溜めるタンクです。

脚

本体を支える部分です。移動するためのキャスタが付いています。

クランプレバー (前)

ピンチローラを上下して、メディアを保持 / 解放します。

巻取装置

プリント終了後のロールメディアを自動で巻き取ります。

ポストヒーター

プリント後のインクを乾燥させます。

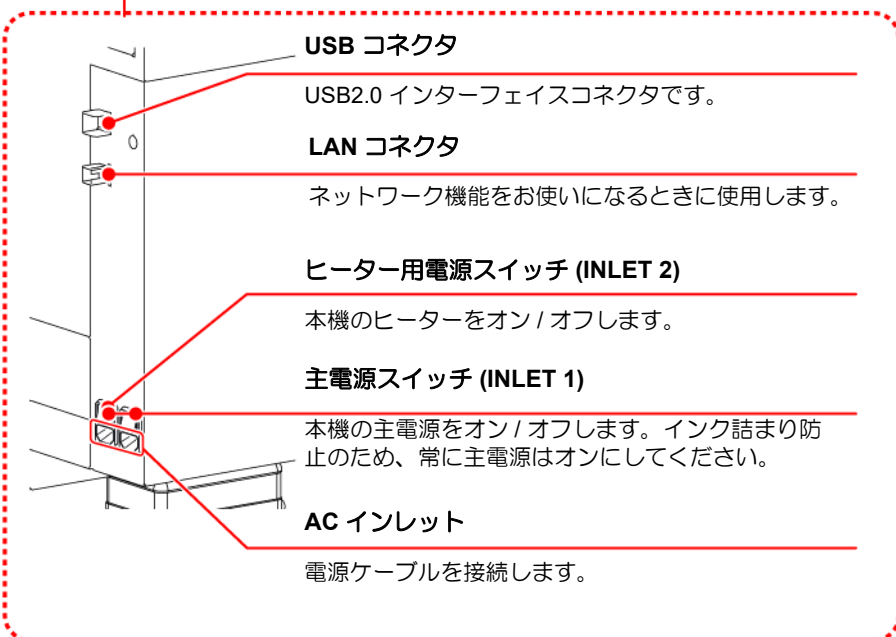
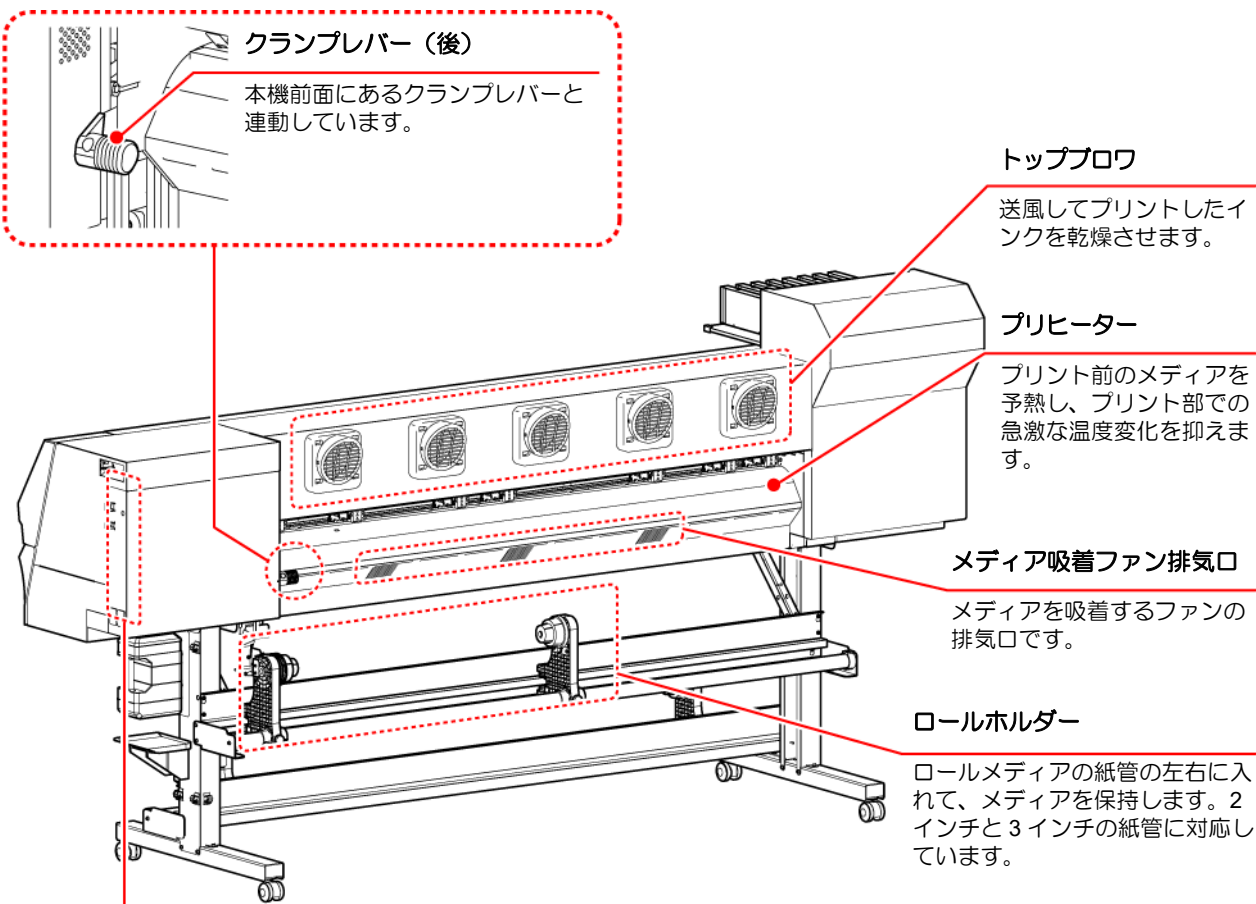
プラテン

プリントするエリアです。

メンテナンスカバー

メンテナンス時にカバーを開けます。電源スイッチがオフの場合でも、カバーは閉じておいてください。

装置背面 / 側面



操作パネル

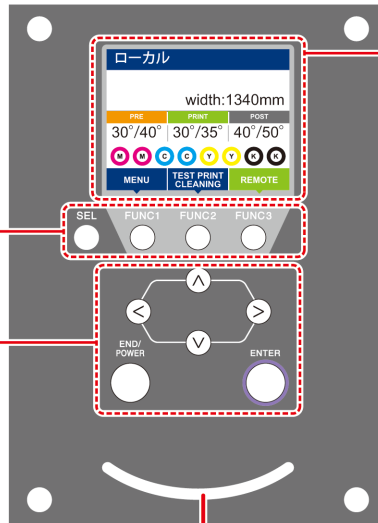
操作パネルは、プリント方法の設定、各種操作に使用します。

SEL キー

ファンクションボタン ([FUNC1] ~ [FUNC3]) の機能を切り替えます。

[FUNC1] / [FUNC2] / [FUNC3] キー

各種機能の設定やテストプリントをするときに押します。ファンクションボタンの機能は、[SEL] を押すたびに切り替わります。



ディスプレイ

次の各項目が表示されます。

- 本機の状態
- セットしているメディアの幅
- ヒーター温度 (現在温度 / 設定温度)
- インクの状態^{*1}
- [FUNC1] ~ [FUNC3] に割り当てられている機能^{*2}

ジョグキー

ローカルでのヘッドやメディアの移動、各種設定の項目選択に使用します。

[END/POWER] キー

直前に入力した設定のキャンセルや、設定メニューを1つ前の階層に戻す場合に使用します。また、電源のON/OFFをするときに押します。(電源を切るときは、長押ししてください。)

[ENTER] キー

1 段下の階層メニューに移動する場合や、設定値の確定に使用します。

状態表示ランプ

本機の状態 (プリント中、エラー発生中等) をランプでお知らせします。

ランプの点灯状態	装置の状態
消灯	ローカルになっていて、プリントデータの受信やエラー等が発生していない状態です。
水色点灯	リモートに切り替えた状態です。
水色点滅	プリント中の状態です。 テストプリントなど、本機に内蔵しているパターン各種をプリントしている状態です。
青色点灯	本機にプリントデータが残っている状態です。
赤色点滅	エラーが発生しています。
赤色点灯	エラー (SYSTEM HALT) が発生しています。



- 電源スイッチをオンにすると操作パネル下の電源スイッチが青に点灯し、オフにすると消灯します。主電源スイッチ (P.1-4) をオンにしておく、電源スイッチをオフにしても定期的にインク詰まり防止動作を行います。(オートメンテナンス機能)














*1: インクの状態について

インク残量やエラーなど、インクの状態がアイコンで表示されます。

アイコン	内容																		
	インクの残量を9段階のイラストでお知らせします。 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>インクフル</td> <td>約 1/8 消費</td> <td>約 1/4 消費</td> <td>約 3/8 消費</td> <td>約 1/2 消費</td> <td>約 5/8 消費</td> <td>約 3/4 消費</td> <td>約 7/8 消費</td> <td>ニアエンド</td> </tr> </table>										インクフル	約 1/8 消費	約 1/4 消費	約 3/8 消費	約 1/2 消費	約 5/8 消費	約 3/4 消費	約 7/8 消費	ニアエンド
インクフル	約 1/8 消費	約 1/4 消費	約 3/8 消費	約 1/2 消費	約 5/8 消費	約 3/4 消費	約 7/8 消費	ニアエンド											
	インクニアエンドになると表示されます。インクの残りがわずかになっていますので、新しいインクを用意してください。																		
	インクエンド、もしくはインクエラーになると表示されます。プリントすることができません。																		
	インクの消費有効期限が切れる则表示されます。新しいインクに交換する、もしくは早めに使い切ってください。プリントすることは可能です。																		

*2 : [FUNC1] ~ [FUNC3] に割り当てられている機能

[FUNC1] ~ [FUNC3] に割り当てられている機能の内容を説明します。

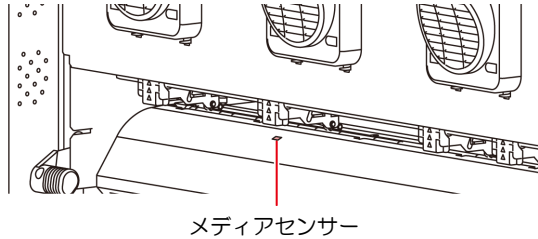
アイコン	内容
	各機能を設定する“MENU”が表示されます。
	テストプリント・クリーニング等のメンテナンス機能が表示されます。
	ローカルで、リモートに移行し、プリントを開始します。
	フィード補正、ドット位置補正等の調整機能が表示されます。
	ヒーター温度の設定を行います。
	データクリアを実行します。
	リモートにてプリントを中断し、ローカルへ移行します。
	メディアカットを実行します。
	MENU 画面等で、複数の項目がある場合、前のページへ移動します。
	MENU 画面等で、複数の項目がある場合、次のページへ移動します。
	警告メッセージが表示された場合など、確認の完了を行う場合に使用します。
	ヒーター設定を OFF にする場合など、機能を OFF や無効にする場合に使用します。
	何らかの設定や機能が割り当てられています。各機能の説明に従い、操作してください。
	クリーニングの対象ヘッド選択など、複数の項目を選択する場合に有効 / 無効を切替えます。
	カット条件の設定を行います。
	テストカットほか、カッティング関連機能の確認や設定を行います。
	ピンチローラー圧の設定を行います。



- ・本機の状態によって、アイコンの色は変化します。
 アイコンの色が緑色のとき:本機がリモートの状態になっている
 アイコンの色が紺色のとき:本機がローカルの状態になっているとき
 アイコンの色が黄色のとき:ワーニングが発生しているとき
 アイコンの色が赤色のとき:エラーが発生しているとき

メディアセンサー

メディアセンサーは、メディアの有無とメディア長を検出します。プラテン上（背面側）にメディアセンサーが1箇所あります。



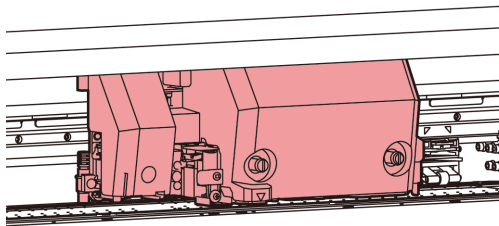
メディアセンサー

重要!

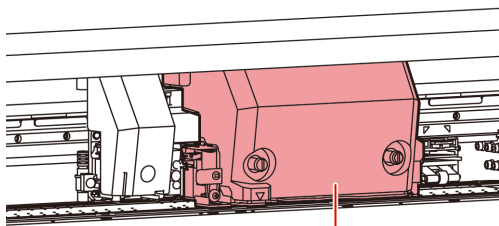
メディアをセットするときは、プラテン後部側にあるメディアセンサーを覆い隠すようにセットしてください。センサー上にメディアがないと、メディア検出を実行できません。

キャリッジ

キャリッジは、プリンタユニットとカッターユニットで構成されています。

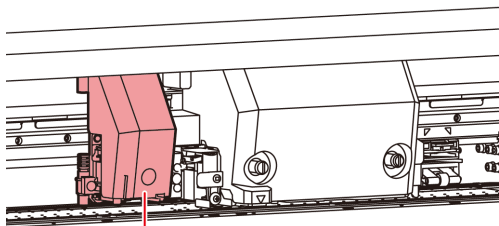


プリンタユニット



プリンタユニット

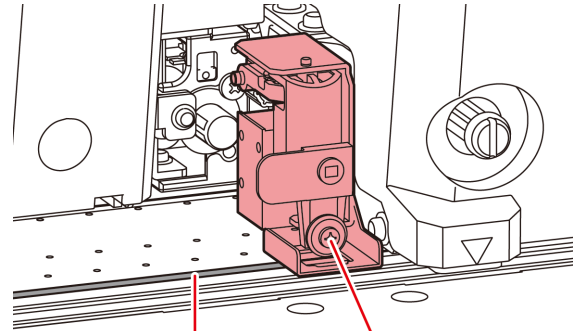
カッターユニット



カッターユニット

カッター刃とカット溝

キャリッジにはメディアをカットするカッターユニットが付いています。プラテンのカット溝に沿ってメディアをカットします。



カット溝

カッター部

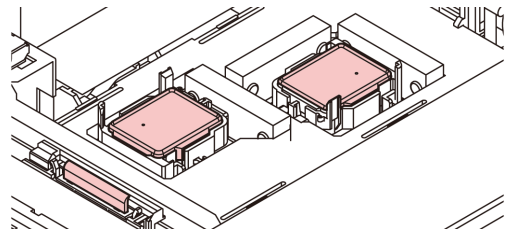
キャッピングステーション

キャッピングステーションは、インクキャップやヘッドのメンテナンスに必要なワイパなどで構成されています。インクキャップは、インクヘッドのノズル乾きを防ぎます。

ワイパは、ヘッドのクリーニングに使用します。ワイパは、消耗品です。ワイパが変形したりメディアが汚れる場合は、新しいワイパに交換してください。



キャッピングステーション内をクリーニングする場合は、必ず付属の保護メガネを着用してください。目にインクが入る危険があります。

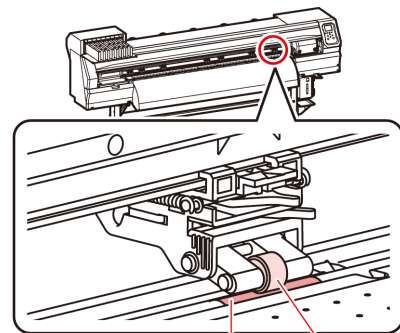


ピンチローラーとグリットローラー

ピンチローラーとグリットローラーでメディアを押さえます。

重要!

本機を使用しない時は、ピンチローラーを上げた状態にしておいてください。ピンチローラーを下げたまま長時間放置しておくと、ピンチローラーが変形し、メディアを確実に保持できなくなる場合があります。



グリットローラー ピンチローラー

ケーブルを接続する

LAN ケーブルを接続する

LAN ケーブルを接続するときは、以下の注意事項を厳守してください。

- カチッと音が出るまで確実に差し込んでください。
- データ転送中は、ケーブルの抜き差しをしないでください。

ネットワーク経由で印刷を行う場合

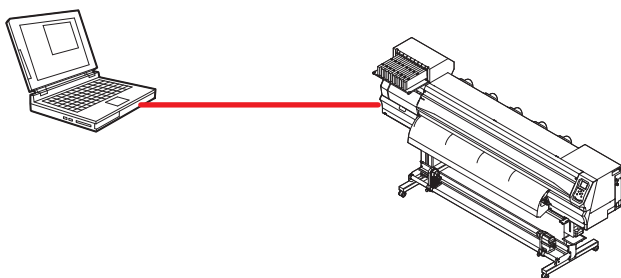
対応機種：Plus シリーズ

ネットワーク経由で印刷を行う場合、下記の環境でネットワークを構築する必要があります。不適切な環境で構築を行うと、印刷が停止する原因となります。

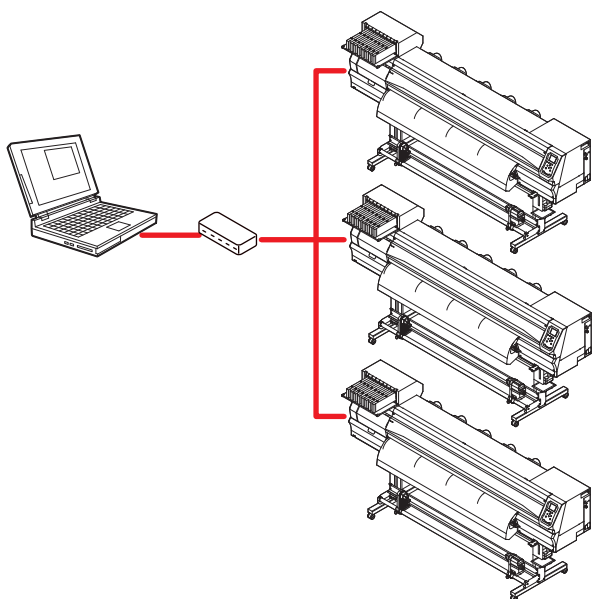
- カテゴリー 6 以上の LAN ケーブルを使用する。
- 1000BASE-T 対応の PC、スイッチングハブを使用する。

- 重要!**
- 印刷データを送信する PC とプリンタは同じネットワークとなるようにしてください。
 - ルータを経由した接続はできません。

● プリンタと直接接続する場合



● スwitchングハブを経由して接続する場合



プリンタに接続した PC、機器が 1000BASE-T 以外の場合、印刷できません。接続後、以下を確認してください。

- (1) プリンタの画面表示を確認する。

- ローカルモード画面、メディア検出画面から [ENTER] キーを数回押し、情報画面を表示する。
- LAN ステータスの項目に「100Mbps」と表示されていることを確認する。



- [100Mbps], [10Mbps], [接続なし] と表示されている場合、LAN を使用して印刷を行うことができません。
- [100Mbps], [10Mbps] の場合、イベントメール (3 章「イベントメール機能の設定」) は使用できません。



(2) LAN コネクタの緑ランプを確認する

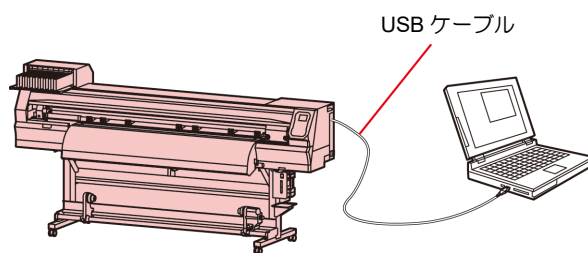
- 本体起動後、以下のように LAN コネクタのランプが点灯します。

色	状態	状態
緑	点灯	1000BASE-T で接続
	消灯	1000BASE-T 以外で接続
黄	点灯	リンクアップ
	点滅	データ受信中
	消灯	リンクダウン



- 黄色のみが点灯もしくは点滅している場合、100Mbps になっていません。PC、機器、ケーブルの仕様を確認してください。

USB2.0 インターフェイスケーブルを接続する



コンピュータと本機を USB2.0 インターフェイスケーブルで接続します。



- ご使用の RIP が USB2.0 インターフェイスに対応している必要があります。
- USB2.0 インターフェイスがコンピュータに付いていない場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

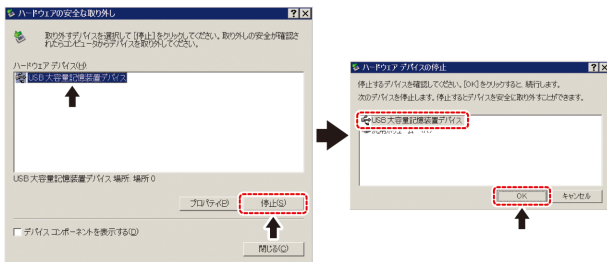
USB 2.0 インターフェイスについての注意事項

- 重要!** ・ご使用の RIP が、USB 2.0 に対応している必要があります。

● **1 台のパソコンに複数の CJV300 を接続する場合**
1 台のパソコンに CJV300, CJV300 Plus を複数台接続する場合、本機を正常に認識できない場合があります。複数の USB ポートが付いているパソコンの場合は、他の USB ポートに接続して本機を認識できるか確認してください。USB ポートを変えても本機を認識しない場合は、市販の USB2.0 リピータケーブルを使用してください。

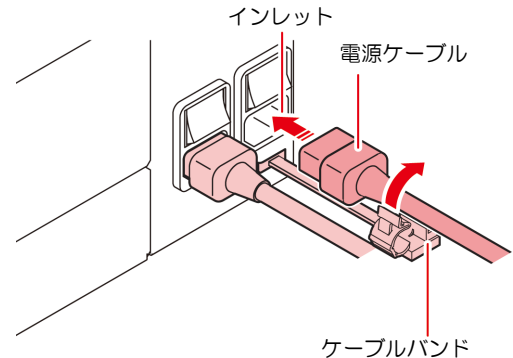
● **USB ハイスピードモードの周辺機器について**
本機と USB ハイスピードモードで動作する周辺機器 (USB メモリ、USB-HDD など) を併用した場合、USB 機器が認識できない場合があります。外付けの USB のハードディスクドライブなどを接続したパソコンに本機を接続した場合、本機へのデータ出力速度が遅くなる場合があります。よって、プリント中にヘッドが右端または左端でいったん停止する原因になります。

● **USB メモリの抜きかた**
本機を接続してあるパソコンに USB メモリを差してある場合は、「ハードウェアの安全な取り外し」により「停止」させてから抜いてください。
[ERROR 10 コマンドエラー] 発生の原因になります。スプールデータをハードディスクにコピーした後、プリント出力してください。



電源ケーブルを接続する

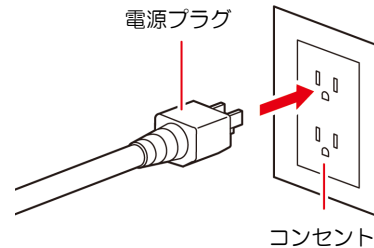
1 電源ケーブルを本機のインレットに差し込む



2 ケーブルバンドを固定する

- ・本機に備え付けのケーブルバンドでケーブルを固定します。

3 電源プラグをコンセントに差し込む



- ・付属品の電源ケーブル以外は使用しないでください。

重要!

- ・必ず本機の近くにある電源コンセントに接続し、容易に取り外しができるようにしてください。
- ・電源ケーブルのプラグは、アース処理したコンセントに接続してください。感電・火災の原因となります。

インクカートリッジを入れる

インクカートリッジ取り扱い上のご注意



- ・インクカートリッジにインクに関する注意書きが記載されています。よくお読みいただき、十分に理解してから使用してください。
- ・インク、メンテナンス用洗浄液の取り扱い前に必ず安全データシート(SDS)をお読みください。
- ・インクは火気のないところで換気しながらお使いください。
- ・インクやメンテナンス洗浄液、廃インク、その他本機で使用されている液体が皮膚に付着してしまったときは、直ちに布などでふき取ってください。石鹸を使用して、大量の水で洗い流してください。そのまま放置すると、皮膚が炎症をおこすおそれがあります。皮膚に刺激や痛みを感じたときは、速やかに医師の診断を受けてください。
- ・インクやメンテナンス洗浄液、廃インク、その他本機で使用されている液体が目に入ってしまったときは、直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗い流してください。コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は、清浄な流水で15分以上洗い流した後外してください。まぶたの裏まで完全に洗ってください。そのまま放置すると、失明や視力低下のおそれがあります。目に刺激や痛みを感じたときは、速やかに医師の診断を受けてください。
- ・インクやメンテナンス洗浄液、廃インク、その他本機で使用されている液体が口に入ってしまったら、飲み込んでしまったときは、無理に吐かせず直ちにうがいをし、速やかに医師の診断を受けてください。無理に吐かせると、吐いたものが気管に入るおそれがあります。
- ・蒸気を大量に吸い込んでしまったときは、新鮮な空気の場所へ移動して、暖かくして呼吸しやすい姿勢で安静にしてください。症状が改善しない場合は、速やかに医師の診断を受けてください。
- ・すぐに医師の診断を受けられない場合は、(財)日本中毒情報センター 中毒110番に相談してください。
(大阪) 072-727-2499: 24時間対応
(つくば) 029-852-9999: 9~21時対応
- ・弊社推奨インクにより安全性を評価しています。安全にご使用いただくため、弊社推奨インクをご使用ください。
- ・インクカートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、3時間以上室温環境下に放置してから使用してください。
- ・インクカートリッジは、取付直前に開封してください。開封した状態で長時間放置しておく、正常にプリントできない場合があります。
- ・インクカートリッジは、冷暗所で保存してください。
- ・インクカートリッジや廃インクタンクは、子供の手の届かない場所に保管してください。
- ・インクカートリッジは、開封してから3カ月以内に使い切ってください。開封後、長時間経過したものは、プリント品質が低下します。
- ・不要になったインクカートリッジ・インクパック・廃インクは、販売店またはサービス実施店へお渡しください。なお、お客様自身で廃棄処理される場合は、産業廃棄物処理業者または各国の地域の条例に従って処理してください。
- ・ホワイトおよびシルバーインクは、印刷を行う前にインクカートリッジを数回振ってください。



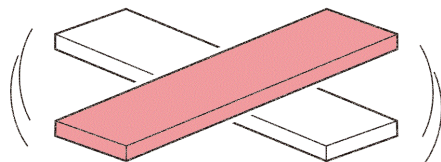
- ・インクカートリッジを強くたたいたり、激しく振り回さないでください。カートリッジからインクが漏れる場合があります。
- ・インクパック内、およびインクカートリッジ内のインクを詰め替えないでください。詰め替えたインクを使用して生じた不具合について、弊社はいっさいの責任を負いかねます。
- ・インクカートリッジの基板接点部分は、手で触れたり、汚したりしないでください。基板の故障の原因になります。



・インクカートリッジは分解しないでください。

カートリッジを入れる

1 図のようにインクカートリッジを振る



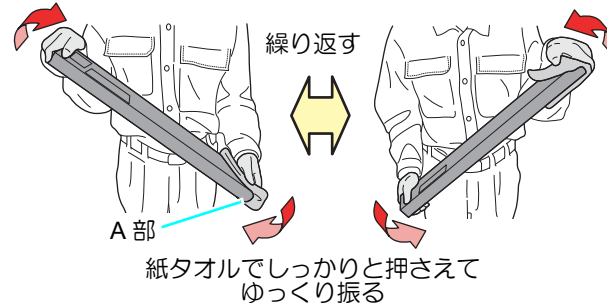
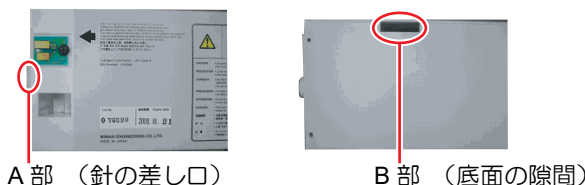
- ・ホワイトまたはシルバーインクをご使用の場合：電源オン状態で24時間が経過、または電源オン時にメッセージが表示されます。ホワイト、シルバーインクの成分は沈降しやすいため、定期的に振ってください。また、印刷する前に必ず振ってください。

White/Silver カートリッジ
を振ってください [ENT]

- ・オレンジインクをご使用の場合：オレンジインクの成分は沈降しやすいため、以下の場合に振ってください。
- 1週間に1回程度
- 前回の印刷から24時間が経過した場合
- ・上記の色以外のソルベントインク(SS21/ES3)をお使いの場合：1カ月に1回程度振ってください。
- ・上記の色以外の昇華転写インク(Sb53/Sb54)をお使いの場合：1週間に1回程度振ってください。

● 600ml カートリッジをお使いのとき

振ったときにインクが漏れ出すのを防ぐため、手袋を着用して紙タオルなどでカートリッジ上面のA部とカートリッジ底面のB部をしっかりと塞ぎ、ゆっくりとインクを流すように左右に20回以上振ります。

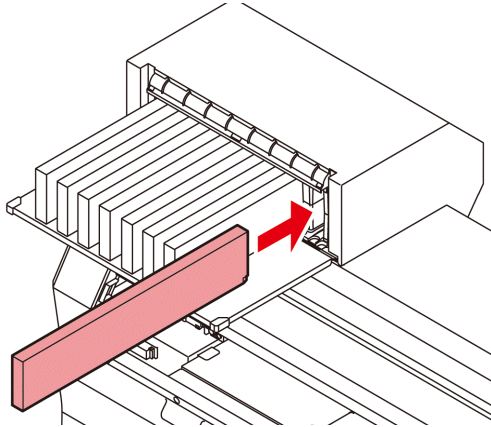


- ・強く振りすぎると内部のバックを傷つけ、インク漏れの原因となることがあるため、慎重に行ってください。
- ・インク残量が少ないと十分にかくはんできない場合があるので、カートリッジが縦になるまで傾けてください。
- ・2L インクパックも同様のやり方で振ってください。ただし、MBIS(オプション)の脱着回数は計10回以内としてください。

2

インクカートリッジを差し込む

- インク IC チップがある方を左側に向けて、縦にして差し込んでください。



- ディスプレイには、次のように色が表示されます。ブラック：K、シアン：C、マゼンダ：M、イエロー：Y、ブルー：B、ライトシアン：c、ライトマゼンダ：m、ライトブルー：b
- インクカートリッジのセット順は P.7-5「インクカートリッジのセット順」を参照してください。

インクカートリッジを交換する

ディスプレイに[インクエンド]や[インクニアエンド]などが表示されたときは、次のようにしてください。

● [インクエンド]が表示されたとき

- (1) 交換するインクカートリッジを引き抜く
- (2) インク IC チップの向きに注意して、新しいインクカートリッジを差し込む

● [インクニアエンド]が表示されたとき

インク残量が少なくなっています。続けてプリントをすることはできますが、プリント中にインクがなくなる恐れがあります。早めにインクカートリッジの交換をすることをお勧めします。

ローカモードで [FUNC1] - [ENTER] キーを押すと、交換対象カートリッジを情報メニューで確認できます。(P.3-30)

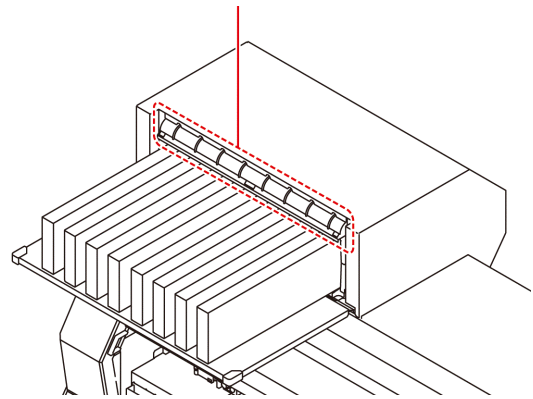
重要!

- [インクニアエンド]表示中は、オートクリーニングは動作しません。(P.3-10)
- 600ml インクカートリッジをお使いの場合、インクパックを交換した際は、かならずインク IC チップも交換してください。

インクカートリッジランプについて

インクカートリッジの上にあるランプで、セット中のインクカートリッジの状態を確認することができます。

カートリッジランプ



ランプの状態	説明
緑色に点灯	異常なし(インク供給中)
消灯	異常なし
黄色に点灯 または点滅	次のいずれかのエラーが発生しています。 • インクニアエンド • インクエンド • インク期限切れ(1ヶ月)
赤色に点滅	インク期限切れ(2ヶ月)
赤色に点灯	次のいずれかのエラーが発生しています。 • インクの残量が0になった • インクカートリッジが挿入されていない • その他のインクエラー (P.6-7)

本機の制限について

インクボトルにインクの消費有効期限が記載されています。インクの消費有効期限を超えると、インクの吐出不良や色みに変化を生じるおそれがあります。消費有効期限を超えてもプリントすることはできますが、新しいインクに交換する、もしくは早めに使い切ることをお勧めします。

例) 消費有効期限の記載が4月の場合

- 5月：新しいインクに交換する、もしくは早めに使い切ってください。プリントすることは可能です。
- 6月(ランプ黄点灯)：新しいインクに交換する、もしくは早めに使い切ってください。プリントすることは可能です。
- 7月(ランプ赤点滅)：プリントすることができません。



- ディスプレイにメッセージを表示してお知らせします。

600ml インクカートリッジの組み立て方

インクカートリッジをセットする前に、インクパックをエコカートリッジにセットする必要があります。次の手順に従って、インクカートリッジを組み立ててください。

1 エコカートリッジのフタを開ける

- (1) フタの中央部分を指で押す
- ・インクICチップの取り付け部がない方のツメが外れます。

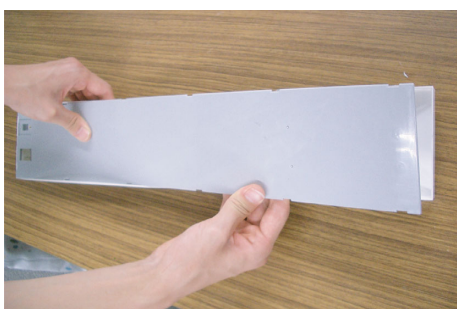


中央部分を指で押す。

- (2) 図のようにして、フタを持ち上げる
- ・この時点ではインクICチップ側のツメは外れていません。無理にフタを持ち上げて、ツメを破損しないようにご注意ください。



- (3) 図のようにしてフタを押し込みながら残りのツメを外し、フタを取り外す



2 エコケースにインクパックをセットする

- (1) 両面テープが貼り付けられている方を下に向け、口栓をはめ込む
- ・口栓をはめ込んだあと、指でしっかりと押し込んでください。



- (2) 両面テープのシールを剥がす



3 インクパックがエコケースからずれないように、両面テープでしっかりと固定する

- ・インクパックがたるまないように、インクパックを引っ張ってから固定してください。



- 重要!** インクパックを固定するときは、エコケース内での偏りが無いように固定してください。

良い例



ケースの角とインクパックの角が合っている。

悪い例



インクパックが下に偏っている。



インクパックが所々たるんでいる。

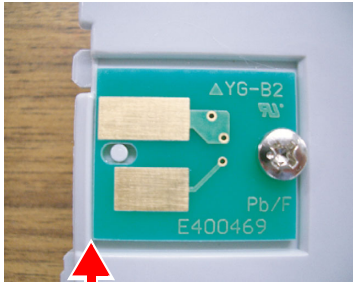
4 フタを取り付ける

- ・インク IC チップ側のツメを引っかけてから、ケースにフタをはめ込みます。



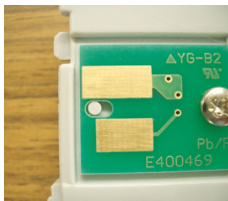
5 インク IC チップを取り付ける

- ・図のようにしてインク IC チップを取り付けます。
- ・矢印部分に隙間ができないように取り付けてください。

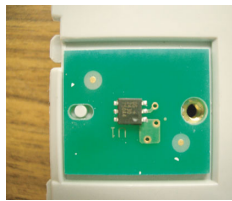


隙間が無いようにする。

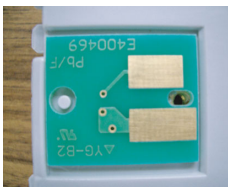
- ・インク IC チップの間違った取り付け例



隙間がある。



裏表が逆。



前後が逆。

6 カートリッジケースの重量を登録する

- ・本機では、600mlカートリッジの重量からインク残量を計算するため、エコケースの重量を登録しておく必要があります。



次の場合にカートリッジケースの重量を登録してください。

- ・初めて 600ml カートリッジを使う場合
- ・エコケースの交換などにより、ケースの重量が変わった場合

重要!

- ・エコケースの重量は、ケース毎に誤差があります。正確なインク量を管理するために、必ず個々のエコケースの重量を登録してください。

- ・登録方法についてはP.3-18「初めて 600ml カートリッジをお使いになるとき」をご覧ください。

メディアについて

使用可能なメディアサイズと、その取り扱い方法について説明します。

使用可能メディアサイズ

機種名	CJV300-130	CJV300-160	CJV300-130 Plus	CJV300-160 Plus
推奨メディアの種類	ラベル原紙 (紙ベース) / 塩ビシート (ラミネート加工を含み、厚さ 0.25mm 以下) / 蛍光シート / 反射シート (高輝度反射シートは除く) / 熱転写ラバーシート			
最大幅	1371mm	1620mm	1371mm	1620mm
最小幅	210mm	210mm	210mm	210mm
最大プリント範囲	1361mm	1610mm ^{*1}	1361mm	1610mm ^{*1}
ロールメディア	厚さ	1.0mm 以下		
	ロール外径	Φ250mm 以下 (紙メディア) Φ210mm 以下 (その他)	端面ガイド未使用時: Φ250mm 以下 (紙メディア) Φ210mm 以下 (その他) 端面ガイド使用時: Φ200mm 以下 ^{*2}	
	ロール重量	40kg 以下	45kg 以下	
	紙管内径	2 インチまたは 3 インチ		
プリント面	ロール外側面			
巻き終り処理	紙管にテープ止めまたは弱粘着			

*1. 設定メニューの“マージン (右/左)”を最小 (-10mm) に設定している場合。

*2. Φ200mm ~ 120mm 以下 (端面ガイドの取り付け位置によって変わります)

メディア取り扱い上の注意

メディアの取り扱いについて、次の点にご注意ください。

重要!

- ・推奨メディアをご使用ください。安定した高画質でプリントするには、弊社推奨のメディアをご使用ください。
- ・メディアの伸縮にご注意ください。包装を開けて間もないメディアは、使用しないでください。室内の温度や湿度によって、メディアが伸縮する場合があります。包装を開けて、使用する場所で 30 分以上さらしてから装置に取り付けてください。
- ・カールしたメディアは使用しないでください。メディアが曲まるの原因になるだけでなく、画質にも影響を及ぼします。また、カールのきついメディアは、カールを取り除いてから使用してください。コーティングした定型サイズ紙をまるめて保管する場合は、コーティング面が外側になるようにしてください。
- ・メディアのフチのホコリにご注意ください。ロールによっては、包装に含まれるホコリがロール端面に溜まっていることがあります。そのままお使いになると、ノズル抜けやインクのポタ落ちなどによるプリント品質劣化の原因となりますので、ロール端面についたホコリを取り除いてからセットしてください

メニューモードについて

本機には4つのモードがあります。各メニューモードについて説明します。

ノットレディモード

メディアを検出する前のモードです。

ローカルモード

ローカルモードは、プリント準備状態のモードです。

全てのキーが有効です。

コンピュータから、データを受信できます。ただし、プリントは行いません。

ローカルモード中のディスプレイ表示

現在のヒーター温度が表示されます。

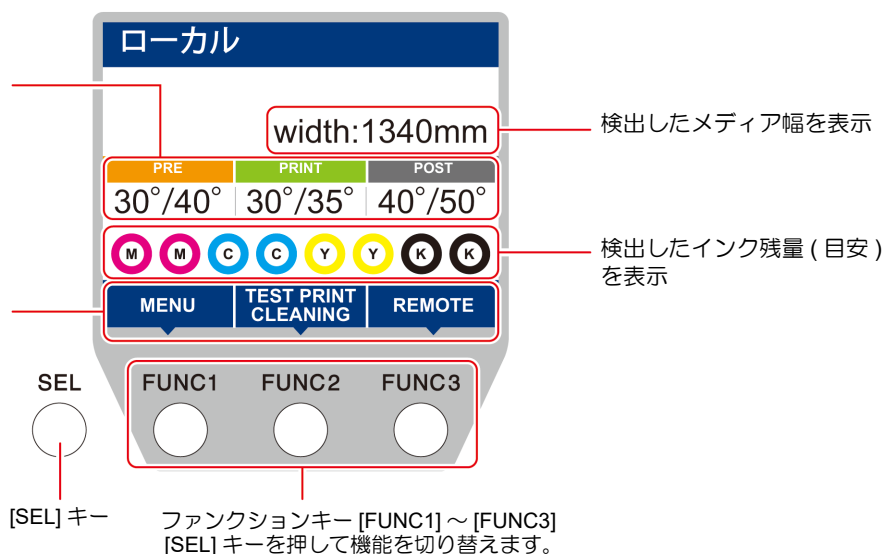
現在のヒーターの状態によって、温度表示の上にあるアイコンの色が変わります。

オレンジ：温度上昇中

緑：設定温度に到達

グレー：ヒーター OFF

ファンクションキー [FUNC1]～[FUNC3] に設定されている機能を表示



ローカルでは以下の操作が可能です。

- ・ジョグキーを押して、プリント原点やプリント範囲を設定します。
- ・[ENTER] キーを押して、インク残量、カートリッジエラーの内容、機種名およびファームウェアバージョンなどを確認します。

メニューモード

ローカル時に、[FUNC1] キーを押すとメニューモードになり、各機能を設定できます。

リモートモード

受信したデータをプリントします。

第2章 基本的な使い方



この章では ...

プリントするためのインク／メディアの準備や、プリントまでの手順や設定方法について説明します。

プリントの流れ	2-2	テストプリントの結果に合わせてヘッド	
電源を入れる / 切る	2-3	クリーニングを行う	2-17
電源を入れる	2-3	フィード補正の設定	2-18
電源を切る	2-3	フィード補正の設定	2-18
メディアをセットする	2-4	ドットの位置がずれたら	2-18
ヘッド高さを調整する	2-4	データをプリントする	2-19
メディアに合わせてピンチローラーの位置を		プリントを開始する	2-19
調整する	2-5	プリントを中止する	2-19
最大プリントエリア / カットエリアに		受信したデータを消去する	
ついて	2-8	(データクリア)	2-19
メディアをセットするときの注意事項	2-8	メディアを裁断する	2-19
ロールメディアをセットする	2-9	カットの流れ	2-20
端面ガイドについて	2-11	ツールを取り付ける	2-21
ピンチローラー圧を設定する	2-11	カッターを使う場合	2-21
巻取装置について	2-12	ボールペンの取り付け方	2-22
リーフメディアをセットする	2-13	カット条件の設定をする	2-24
原点を変更する場合は	2-14	カット条件について	2-24
ヒーターの準備をする	2-15	ツール条件を選択する	2-24
ヒーターの温度設定を変更する	2-15	カット条件を設定する	2-25
テストプリントをする	2-15	テストカットをする	2-26
テストプリントを行う	2-15	データをカットする	2-26
通常のテストパターンでテストプリントを		原点の設定	2-26
行う	2-16	カットを開始する	2-26
ホワイト確認用のテストパターンでテスト		カットを中止する(データクリア)	2-27
プリントを行う	2-16	カッターユニットを退避させる	2-27
ヘッドクリーニング	2-17	メディアを裁断する	2-27
ヘッドクリーニングについて	2-17		

プリントの流れ

電源を入れる / 切る

「電源を入れる / 切る」(☞ P.2-3) を参照してください。

メディアをセットする

「メディアをセットする」(☞ P.2-4) を参照してください。

ヒーターの準備をする

「ヒーターの準備をする」(☞ P.2-15) を参照してください。

テストプリントをする

「テストプリントをする」(☞ P.2-15) を参照してください。

ヘッドクリーニング

「ヘッドクリーニング」(☞ P.2-17) を参照してください。

データをプリントする

「データをプリントする」(☞ P.2-19) を参照してください。

電源を入れる / 切る

電源を入れる

本機には、2つの電源スイッチがあります。

主電源スイッチ：

本機の側面にあります。常時「オン」にしておいてください。

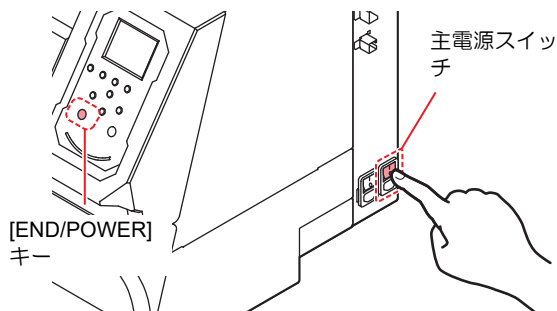
[END/POWER] キー：

通常、電源のオン/オフをするときはこのキーを使用します。

[END/POWER] キーがオフでも、主電源スイッチがオンになっていれば、定期的に電源が自動的に入り、ノズル詰まり防止機能が動作します。

1 主電源スイッチを入れる

- 装置側面にある主電源スイッチを「I」側に倒します。



- 電源をオンにするとファームウェアのバージョンを表示し、初期動作を実行します。

2 [END/POWER] キーを押して、電源を入れる

- ローカルになります。

3 接続しているコンピュータの電源をオンにする

- 重要!**
- フロントカバー/メンテナンスカバーを閉じてから電源を入れてください。
 - 主電源スイッチを「オフ」のまま長時間放置すると、ヘッドのノズル詰まりの原因となります。

電源を切る

プリンタの使用が終了したら、装置前面にある電源スイッチを押して電源をオフにします。

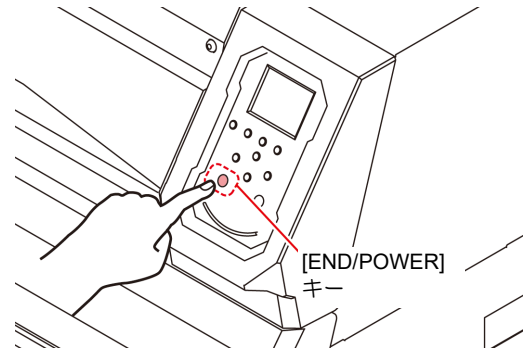
電源を切るときは、次のことを確認してください。

- コンピュータからデータを受信中ではないか、また、未出力のデータが残っていないか。
- ヘッドはキャッピングステーションに戻っているか。
- エラーは発生していないか。
(P.6-8 エラーメッセージ)

1 接続してあるコンピュータの電源をオフにする

2 [END/POWER] キーを長押しして、電源を切る

- 装置側面にある主電源スイッチは、切らないでください。
- 次に、本機をご使用になるときは、[END/POWER] キーを押してからお使いください。



電源を切るときのご注意

- **主電源スイッチは切らないでください。**
主電源スイッチが入っていると、定期的に電源が入りノズル詰まり防止機能（フラッシング機能）が働きます。主電源スイッチを切っていると、フラッシング等のオートメンテナンス機能が働かず、ノズル詰まりの原因となります。
- **ヘッドの位置を確認してから電源を切ってください。**
ヘッドがキャッピングステーションに戻っていない状態で電源を切ると、ヘッドが乾燥してノズル詰まりの原因となります。このときは、再度、電源を入れ、ヘッドがキャッピングステーションに戻ったことを確認してから電源を切ってください。
- **プリント/カット中は電源を切らないでください。**
ヘッドがキャッピングステーションに戻らないことがあります。
- **[END/POWER] キーで電源を切ってから、主電源スイッチを切ってください。**

装置の移動や装置のエラー対処等で主電源スイッチを切る場合、必ず、装置前面にある [END/POWER] キーを長押し、操作パネルのディスプレイ表示が消えていることを確認してから主電源スイッチを切ってください。

メディアをセットする

本機では、ロールメディアとリーフメディアをご使用になれます。

使用できるメディアについては、P.1-13「使用可能メディアサイズ」を参照してください。

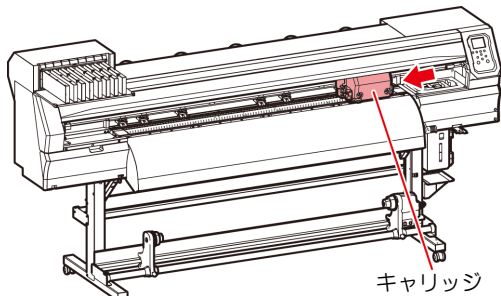
- 重要!**
- ロールメディアをセットするときは、メディアを足などに落とさないように注意してください。メディアの重みで怪我をすることがあります。
 - ロールメディアをセットする場合は、2人以上でセットしてください。ロールメディアの重みで腰を傷める可能性があります。
 - ヘッド高さの調整は、メディアをセットする前に行ってください。メディアをセットしたあとに調整すると、メディア詰まりやプリント品質の低下、ヘッドの破損の原因となります。
 - 使用目的に応じ、ヘッド、イニシャル高さのレンズを2段階に調整できます。
 - 本機の印刷高さ範囲は、Lレンジ(2mm/3mm)からHレンジ(3mm/4mm)です。(出荷時は、Lレンジ2mmで設定)

ヘッド高さを調整する

お使いになるメディアの厚みに合わせて、ヘッド高さを調節してください。

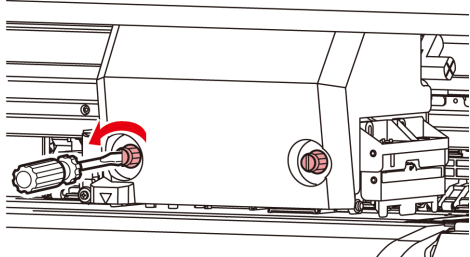
1 キャリッジをプラテン上に移動する

- 電源オン時
メンテナンス機能の「ステーションメンテナンス-キャリッジアウト」を実行(☞P.5-9 手順 1,2)
- 電源オフ時
フロントカバーを開け、手でキャリッジを動かす



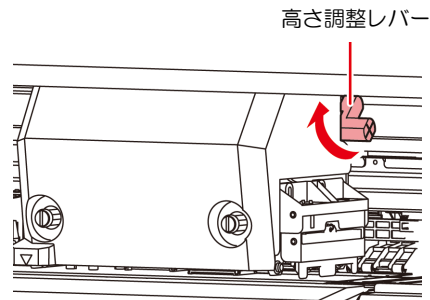
2 正面にあるネジを緩める

- マイナスドライバー等を使って、1回転程度回して緩めます。



3 高さ調整レバーをメディアに応じて調整する

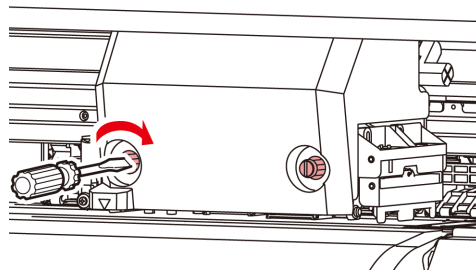
- P.2-4「調整レバーとレンズについて」を参照して、レバーの位置を調整してください。
- 高さ調整レバーは、確実に上か下に設定してください。レバーが中間にあると、プリント異常をおこします。



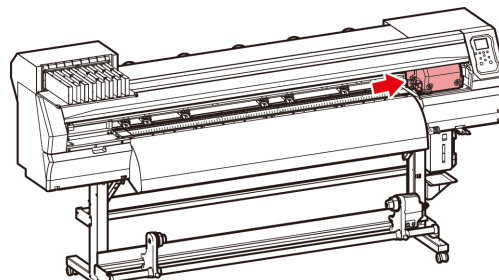
4 キャリッジを固定する

- ネジは緩まないように確実に締めてください。

- 重要!**
- 高さ調整レバーをLレンジまたはHレンジに設定している場合、ねじを締め込むときに高さ調整レバーを下に押しつけたり、上に押し上げたりしないでください。



5 キャリッジをステーションに戻す



調整レバーとレンズについて

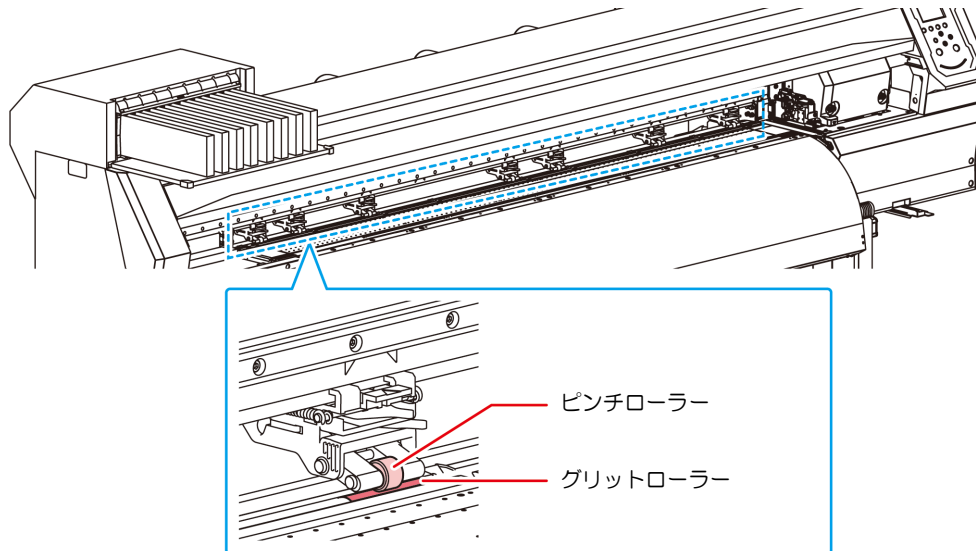
レンジ	ヘッド高さ	備考
Lレンジ	2mm (出荷時設定位置)	ヘッド高さのベースを1~2mm上げることができます。 この場合は、弊社営業へお問い合わせください。
Mレンジ	2.5mm	
Hレンジ	3mm	

メディアに合わせてピンチローラーの位置を調整する

セットするメディアの幅に合わせて、ピンチローラーの位置を調整します。本機は、ピンチローラーとグリットローラーでメディアを搬送し、プリントやカットを行っています。ピンチローラーはグリットローラーの上になるようにしてください。



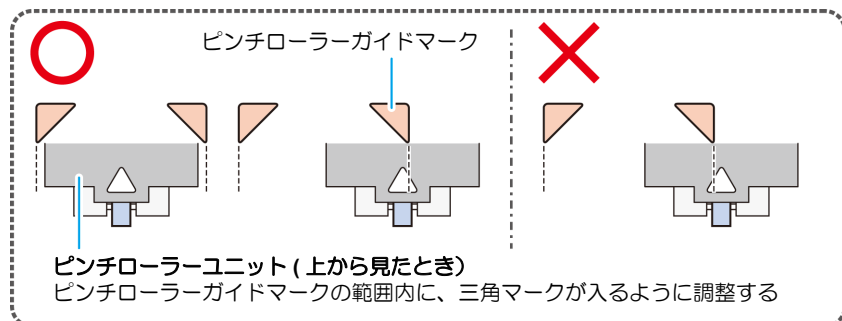
- メディアをセットしたとき、メディアから外れているピンチローラーは、グリットローラー上に置かないでください（「ピンチローラーの合わせ方」の、「X」図のようにズラしてください。）。ピンチローラーとグリットローラーの間にメディアが挟まっていない状態で本機を動作させると、ピンチローラーが摩耗する恐れがあります。



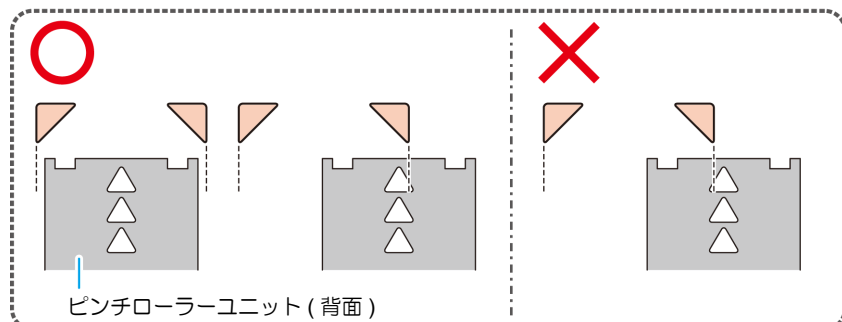
ピンチローラーの合わせ方

ピンチローラーユニットを移動させて、ピンチローラーの位置を調整します。ピンチローラーガイドマークを目安にしてください。

前面から合わせるとき



背面から合わせるとき

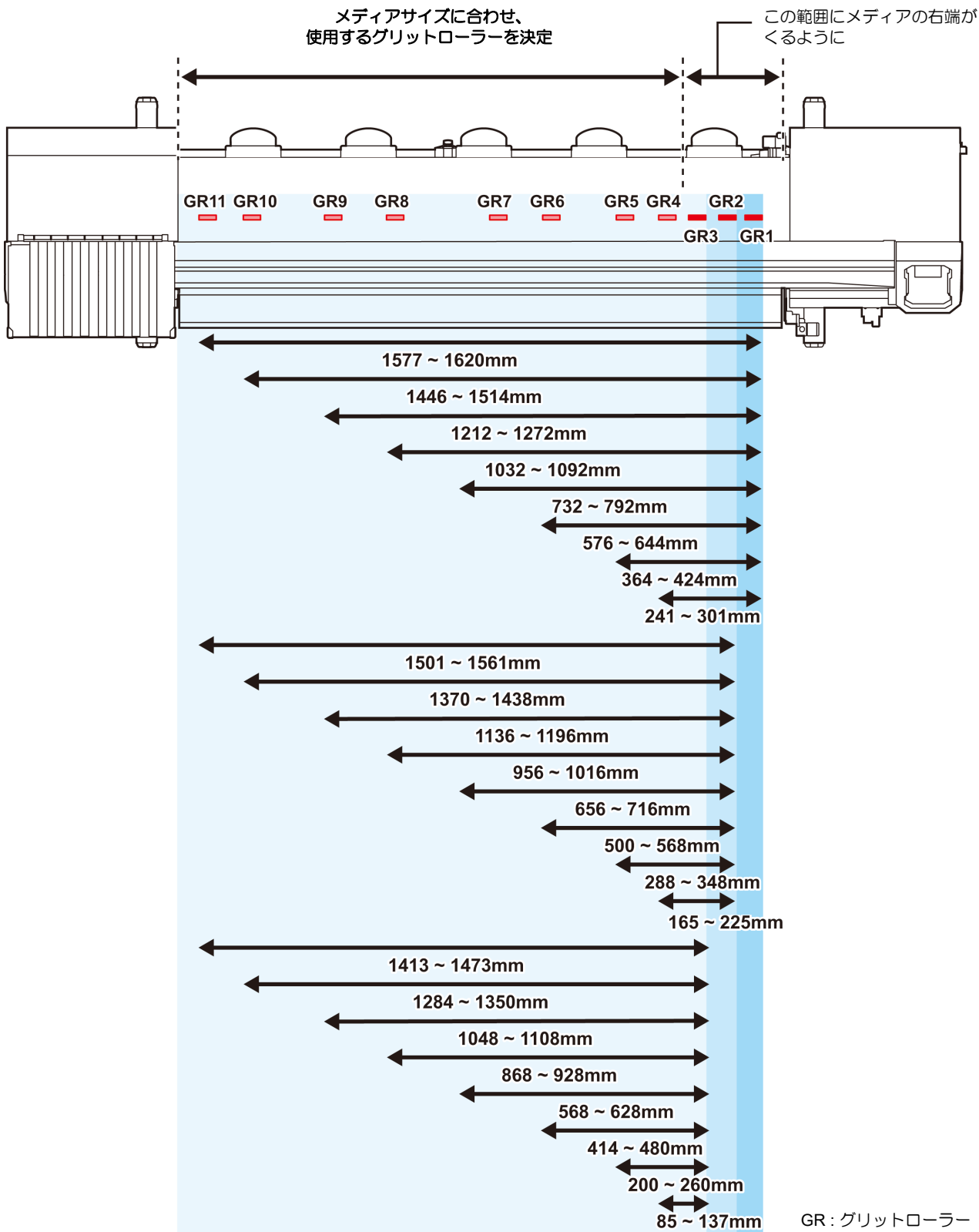


メディアサイズとグリットローラーについて (CJV300-160、CJV300-160 Plus)

メディアのサイズによって、使用するグリットローラーが決定されます。

重要!

- メディアをスムーズに搬送するため、メディアを等間隔で押さえられるような位置のグリットローラーを選択してください。
- 使用するグリットローラーが決定したら、P.2-5「ピンチローラーの合わせ方」を参照して、ピンチローラーユニットを合わせてください。
- ピンチローラーユニットは2～7個の間なら、何個使っても問題はありません。
- 両端のピンチローラーは、メディアの端から左 10cm/ 右 2cm 以内の位置に合わせてください。それ以上離れた位置に合わせてると、メディア裁断時に切り残しになります。

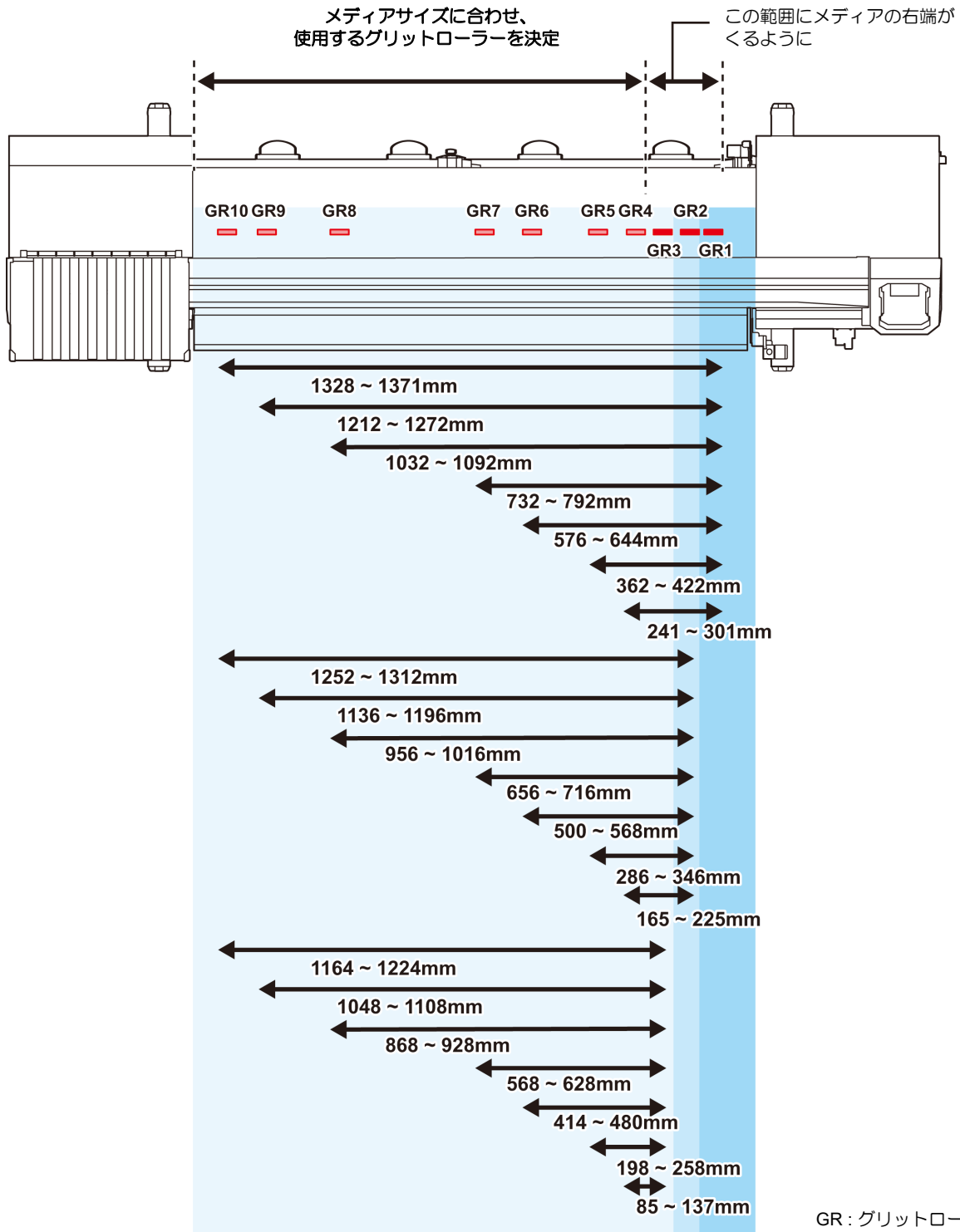


メディアサイズとグリットローラーについて (CJV300-130、CJV300-130 Plus)

メディアのサイズによって、使用するグリットローラーが決定されます。

重要!

- メディアをスムーズに搬送するため、メディアを等間隔で押さえられるような位置のグリットローラーを選択してください。
- 使用するグリットローラーが決定したら、P.2-5「ピンチローラーの合わせ方」を参照して、ピンチローラーユニットを合わせてください。
- ピンチローラーユニットは2～6個の間なら、何個使っても問題はありません。
- 両端のピンチローラーは、メディアの端から左 10cm/ 右 2cm 以内の位置に合わせてください。それ以上離れた位置に合わせると、メディア裁断時に切り残しになります。



最大プリントエリア/カットエリアについて

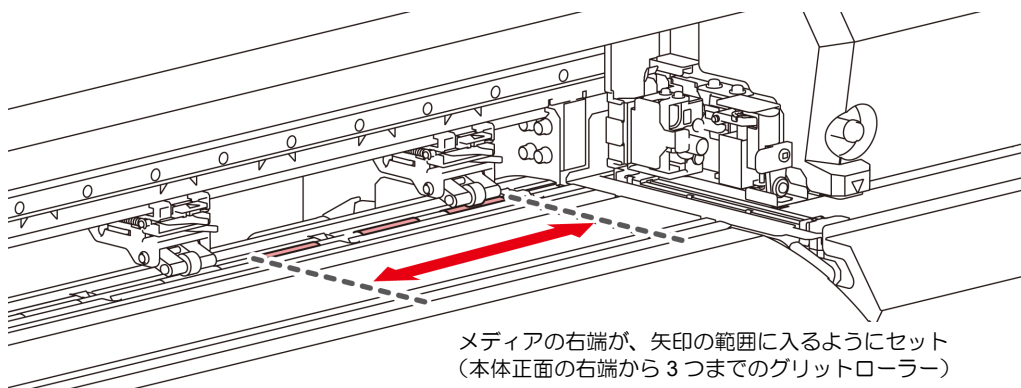
最大プリントエリア/カットエリアは、ピンチローラの位置 (P.2-6 ~ P.2-7) および原点の位置 (P.2-14) により変わります。下図の白部が最大プリント/カットエリアとなります。それ以外のプリント/カットできない範囲が、デッドスペースとなります。

	CJV300-130	CJV300-160	CJV300-130 Plus	CJV300-160 Plus
最大プリント/カット幅	1361mm	1610mm	1361mm	1610mm

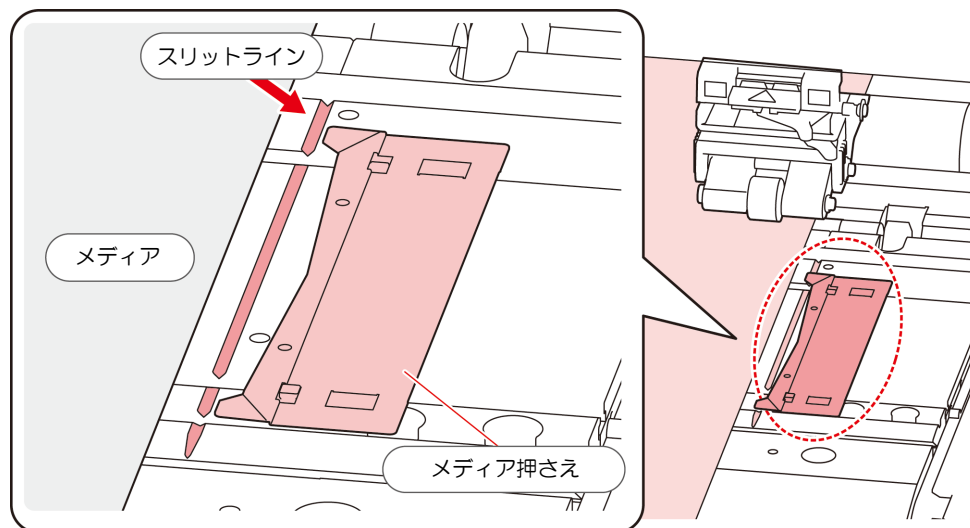
メディアをセットするときの注意事項

メディアのセット位置について

メディアの右端が下図の範囲に入るようにセットしてください。



プラテン上のスリットラインを超える位置にメディアをセットしない



ロールメディアをセットする

ロールメディアは、装置背面にあるロールメディアホルダーにセットします。

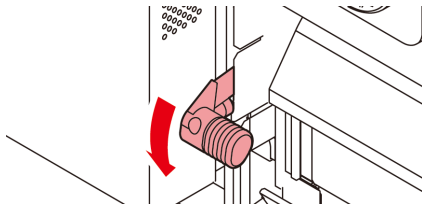


・セットするときは、メディアを足などに落とさないように注意してください。メディアの重みで怪我をすることがあります。

1 装置背面にあるロールホルダーを、装置中央方向に移動する

・ロールホルダー固定ネジを緩めてから移動させます。

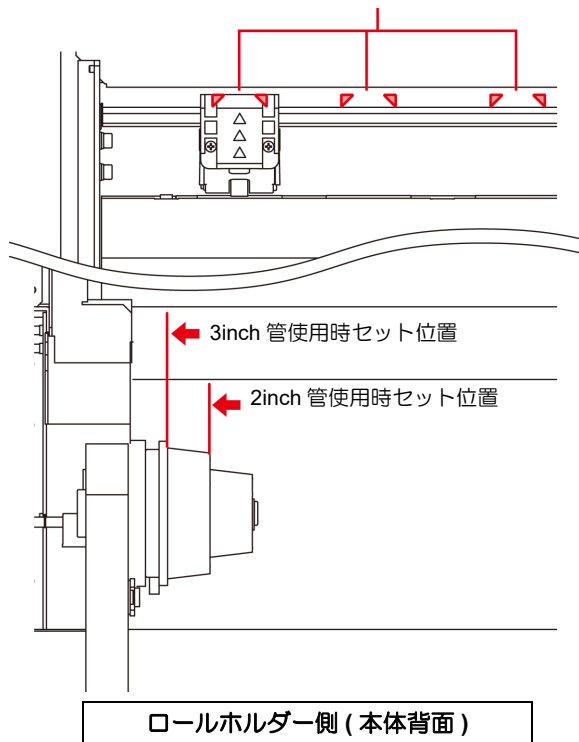
2 クランプレバーが下がっていることを確認する



3 ロールホルダーをロールセット位置へ移動する

・お使いになっている装置に合わせて、P.2-6 ~ P.2-7 を参照し、メディアサイズとメディアをセットする位置を確認してください。

ロールホルダーの基準位置が、ピンチローラーガイドマークの間に入るようにする

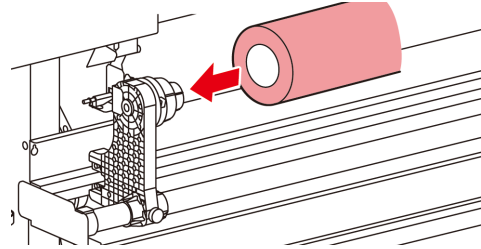


4 ロールホルダー固定ネジを締める

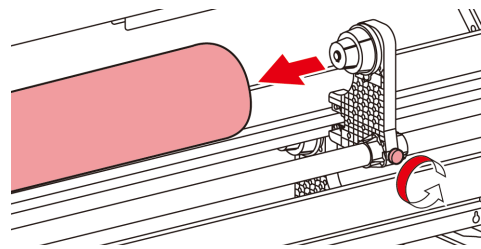
・手順 2 ~ 3 を、再度確認してください。

5 左側のホルダーにロールメディアの紙管を差し込む

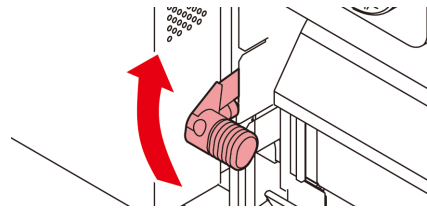
・紙管が動かなくなるまで、奥に差し込んでください。



6 右側のロールホルダーのネジを緩め、ホルダーを紙管に差し込む



7 装置背面のクランプレバーを上げる



8 本機にロールメディアを差し込む

・メディアを斜めにすると、引っ掛かりが少なくスムーズに差し込めます。

- (1) プラテンの先端まで届くくらい、メディアを引き出す
- (2) プラテンとピンチローラーの間にメディアを差し込む
 - ・装置前面からメディアをつかめるくらい、メディアを送り出してください。
- (3) 装置背面からクランプレバーを下げる
 - ・メディアが保持されます。

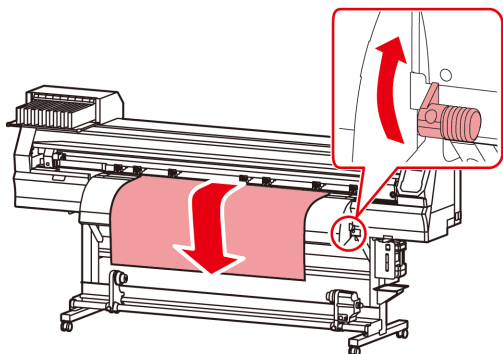


・メディアをほぼ等間隔で押さえられるように、ピンチローラーユニットをセットしてください。等間隔にセットできない場合は、手順 3 からやり直してください。

・メディアの両端から 5mm 以上をデットスペース (P.2-8) として確保してください。

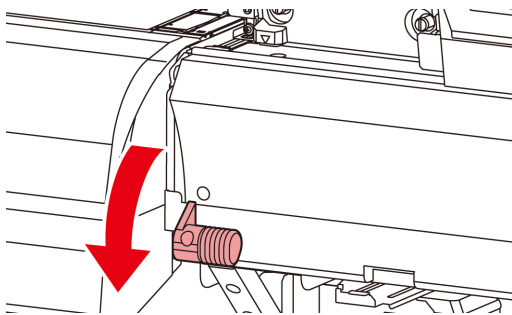
9 ロールメディアを引き出す

- (1) フロントカバーを開ける
- (2) 装置前面からクランプレバーを上げる
- (3) ロールメディアを静かに引き出し、軽くロックのかかる位置で止める



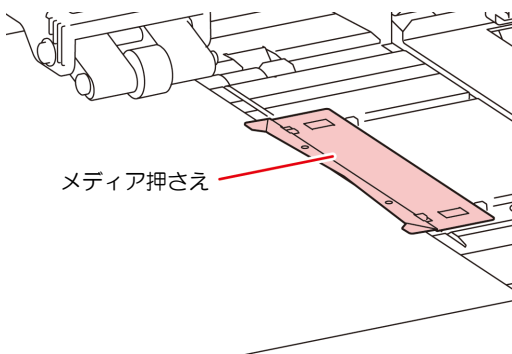
10 ロールメディアを均等にし、クランプレバーを下げる

- メディアの数カ所を軽く引っ張り、ロールメディアの引き出し量がほぼ均等になっているのを確認してから、クランプレバーを下げてください。

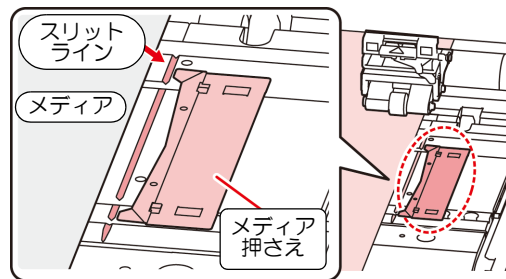


11 メディア押さえでメディアを軽くはさむ

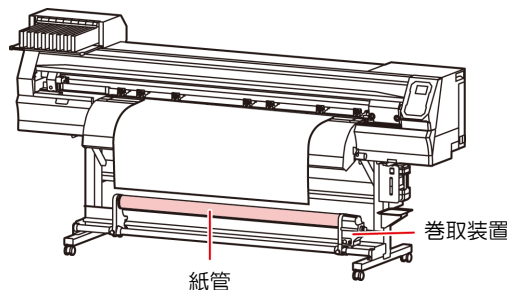
- 右端のピンチローラーより右側にメディアがはみ出さないようにセットしてください。
- 厚みのあるメディアを使用する場合は、メディア押さえをメディアから外してプリントしてください。
- カットिंगの場合は、メディア押さえを使用しないでください。



- メディアをセットするときは、プラテン上のスリットラインにメディア右端を合わせるようにしてセットしてください。メディアをスリットラインよりも右側にセットすると、メディアが斜行した場合、メディアが浮き上がりヘッドを破損する原因となります。
- メディアが規定位置より左右に寄っていると、メディア検出後、エラーメッセージ“メディアイチミグシギマス”を表示してお知らせします。メディアをセットし直してください。



12 巻取装置に空の紙管をセットする



13 ◀を押して、“ロール”を選択する

- メディア幅を検出します。
- マシン設定の「メディア検出」の設定が“MANUAL”になっている場合 (P.3-16)、メディア幅の検出は自動で行いません。P.2-12「マニュアルメディア幅設定について」を参照してメディア幅を入力してください。

14 メディア幅の検出が終わったら、▲▼を押して使用しているピンチローラーの数を入力する

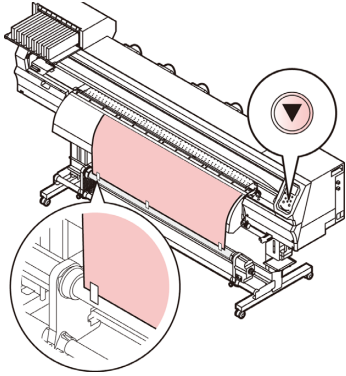
- マシン設定の「メディア検出」の設定でピンチローラー数の設定が“OFF”になっている場合 (P.3-16)、ピンチローラー数入力画面は表示されません。手順 16 へ進んでください。

15 ENTER キーを押す

- マシン設定の「メディア残量表示」の設定が“ON”の場合 (P.3-16)、[ENTER] キーを押した後、メディア残量入力画面が表示されます。(P.2-12)

16 巻取装置にメディアを固定する (P.2-12)

- (1) [▼]を押して、巻取装置の紙管に届くまでメディアをフィードする
- (2) 粘着テープでメディアの中央を固定する
- (3) 同様にメディアの左右を固定する
 - ・ロールメディアを左右均等に引っ張り、メディアにタルミ、シワが無いことを確認し、テープを貼ってください。



端面ガイドについて

● 対応機種：Plus シリーズ

巻き取ったロールメディアの端面が、横方向へズレることがあります。そのような場合は、端面ガイドを使用することで、横方向へのズレを防ぎます。

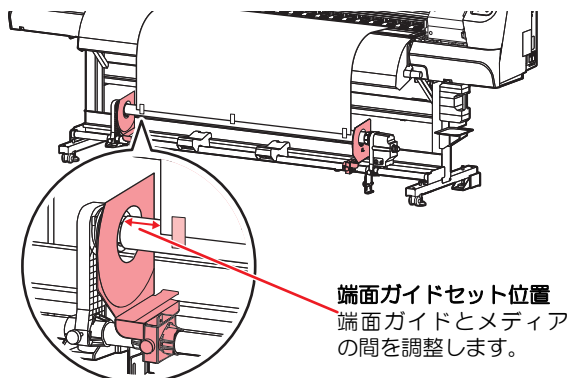


- ・端面ガイドを使用する場合、ロールメディア直径に制限があります。
- ・Φ200mm ~ Φ120mm 以下で使用してください。(端面ガイドの取り付け位置によって変わります)

1 端面ガイドの位置を調整して固定します。

- ・端面ガイドのセット位置は、プリント前のロールメディアの直径によって異なります。下記の表を参考に調整してください。

ロールメディア直径	端面ガイドセット位置
~Φ 120mm	1mm
~Φ 170mm	3mm
~Φ 200mm	5mm



ピンチローラー圧を設定する

メディアをセットした後は、メディアを保持するピンチローラーの圧力を設定してください。ピンチローラー圧の値によって、プリント/カット時にメディアが斜行したり、メディア上にピンチローラー後が残ってしまう場合があります。セットしたメディアに適した圧力に設定してください。ピンチローラー圧設定では、次の項目を設定できます。

項目	設定値	概要
使用個数の設定	1 ~ 7	使用しているピンチローラーの数を設定します。お使いになっている機種により、使用個数は異なります。
プリント設定	LOW/ MID/ HIGH	プリント時のピンチローラー圧を設定します。
カット設定：両端	LOW/ MID/ HIGH	カット時に使用するピンチローラーのうち、両端(左端/右端)の圧力を設定します。
カット設定：中間	OFF/ LOW/ MID/ HIGH	カット時に使用するピンチローラーのうち、両端以外のピンチローラーの圧力を設定します。
切替動作実行	PRINT/ CUT	プリント時設定とカット時設定を切り替えます。

1 ローカルで、**[FUNC3]** (PR) キーを押す

2 **[▲]** **[▼]** を押して設定項目を選び、**[ENTER]** キーを押す

3 **[▲]** **[▼]** を押して、設定値を選ぶ

4 **[ENTER]** を押す

5 **[▶]** を押して、設定を終了する

- ・すぐに設定を切り替えたい場合は、**[<]** を押してください。

ピンチローラー圧の個別設定

使用するメディアに応じ、中間ピンチローラーの設定を個別に行うことができます。

1 ローカルで、**[FUNC3]** (PR) キーを押す

2 **[▲]** **[▼]** を押して設定項目を選び、**[ENTER]** キーを押す

3 **[FUNC2]** キーを押す

4 **[▲]** **[▼]** **[◀]** **[▶]**、**[FUNC3]** を押して、各ピンチローラー圧を設定する

- ピンチローラーの選択：**[◀]****[▶]** で選ぶ
- ピンチローラー圧の設定：**[▲]****[▼]** で設定
- プリント/カットの切り替え：**[FUNC3]** で切り替え

5 **[ENTER]** を押す

6 終了するときは **END/POWER** キーを数回押す

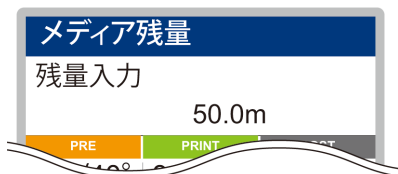


- プリントするときは、すべてのピンチローラー圧を同じ値に設定してください。
- カットするときは、両端のピンチローラー圧を同じ値に設定してください。
- 詳しくは [P & C ピンチローラー/トンプ設定ガイド] (D202813) を参照してください。

メディア残量入力について

マシン設定の「メディア残量表示」の設定を“ON”にしている場合 (P.3-16)、メディア幅の検出が終了すると、メディア残量の入力画面が表示されます。

1 メディア残量入力画面を表示する



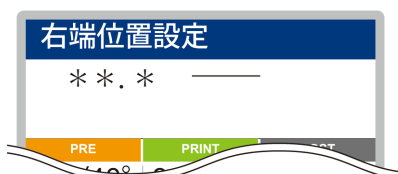
2 **▲ ▼** を押して、メディア残量を入力する

3 **ENTER** キーを押す

マニュアルメディア幅設定について

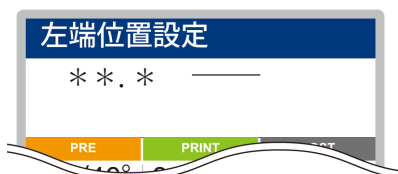
マシン設定の「メディア検出」の設定を“MANUAL”にしている場合 (P.3-16)、次のようにしてメディア幅を設定してください。

1 右端メディア位置入力画面を表示する



2 **▲ ▼** を押して、メディア右端位置を入力する

3 **ENTER** キーを押す
• 次に、左端メディア位置入力画面が表示されます。



4 **▲ ▼** を押して、メディア左端位置を入力する

5 **ENTER** キーを押す



- メディア外へのプリントやカットを行ってしまう場合があるので、メディアの範囲を超えて設定しないよう注意してください。

メディア残量プリントについて

メンテナンス機能の「メディア残量表示」の設定を“ON”にしている場合 (P.3-16)、現在の日付とメディア残量を印刷したリストをプリントすることができます。

1 ローカルで、**▲ ▼ ◀ ▶** を押す
• 原点設定モードになります。

2 **FUNC3** キーを押す

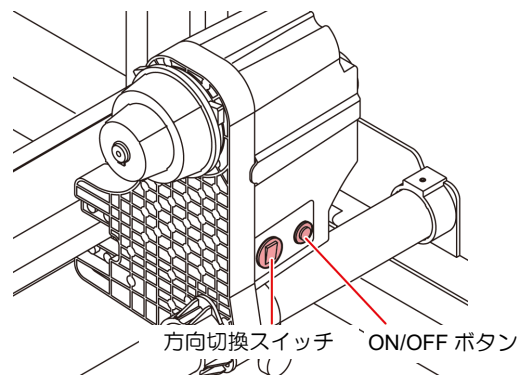
- メディア残量プリントの確認画面が表示されます。

3 **ENTER** キーを押す

- メディア残量プリントを開始します。

巻取装置について

巻取装置のスイッチを使って、メディアの巻き取り方向の選択などができます。



方向切換スイッチ	上 (REVERSE)	プリント面を内側にして巻き取る
	下 (FORWARD)	プリント面を外側にして巻き取る
ON/OFF ボタン	巻取動作の ON/OFF を切り替える (ボタンを押して巻取装置を動作させると、再度ボタンを押すまで巻取動作を継続します。*1)	

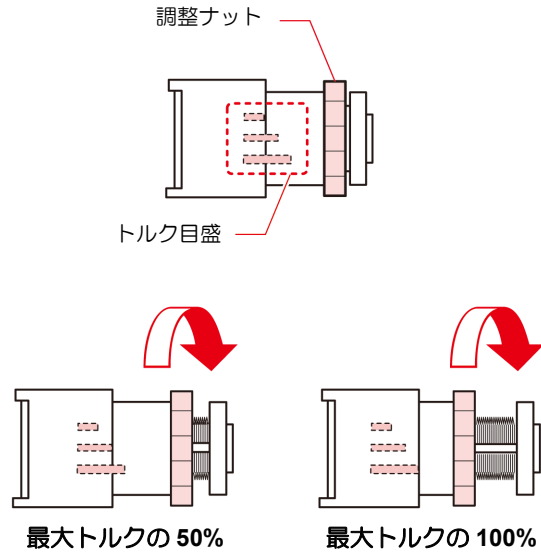
*1. ON/OFF ボタンを押している間だけ、巻取動作をするように背部できます。詳しくは、マシン設定の「巻取りユニットの設定」(P.3-15) を参照してください。

トルクリミッタを調節する

巻取装置には、トルクリミッタが付いています。トルクリミッタを調整して、巻き取りの強さを変更できます。(工場出荷時は、トルクリミッタを“中”で設定してあります。)
薄いメディアを使用してテンションが強すぎる時は、調節を弱めてください。

時計回り : テンションが強くなる (ターポリン等の重量のある厚いメディア)

反時計回り : テンションが弱くなる (軽いメディア)

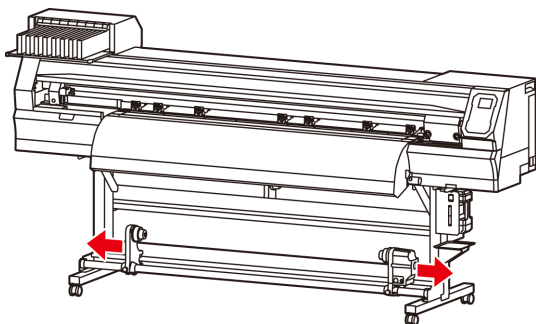


- テンションを強めに設定した場合、メディアの種類によっては、巻き取られたロールメディアの端面が、横方向へズレだすことがあります。そのような場合は、端面ガイドをご使用ください。

巻取装置を使わないとき



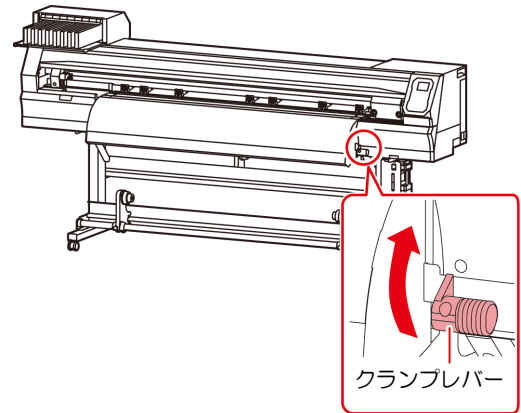
- 巻取装置を使用しないで、手前方向に700mm以上のプリントまたはカットをする場合、巻取装置を左右へ退避してください。メディアの前端が巻取装置に触れた衝撃によって、プリントやカットの品質が悪くなる場合があります。



リーフメディアをセットする

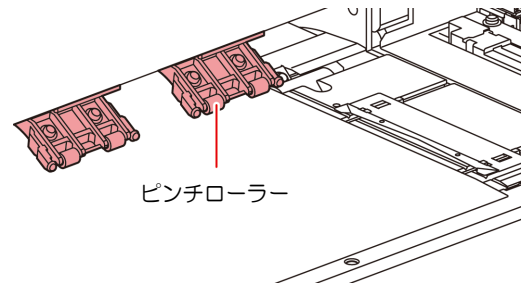
リーフメディアは、メディアをロールホルダーに固定する必要はありません。

1 クランプレバーを上げる



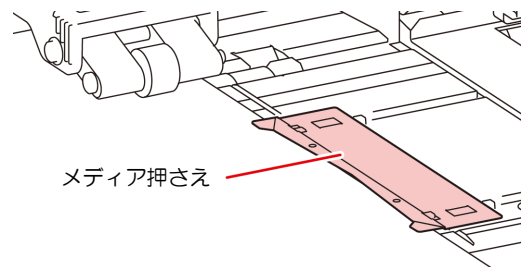
2 リーフメディアをピンチローラーとプラテンの間に差し込む

- メディアが右端のピンチローラーより右側にはみ出さないようにセットしてください。



3 プリントの場合、メディア押さえでメディアを軽くはさむ

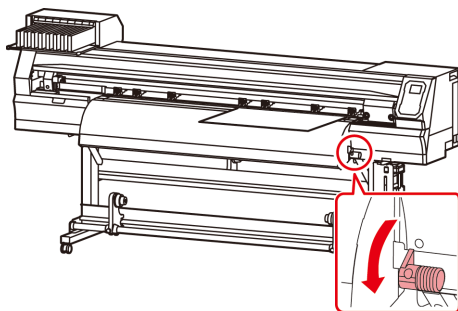
- 右端のピンチローラーより右側にメディアがはみ出さないようにセットしてください。
- 厚みのあるメディアを使用する場合は、メディア押さえをメディアから外してプリントしてください。
- カットの場合は、メディア押さえを使用しないでください。



- メディアをはば等間隔で押さえられるように、ピンチローラーをセットしてください。等間隔にセットできない場合は、手順2からやり直してください。
- メディアの両端から5mm以上をデットスペース (P.2-8) として確保してください。

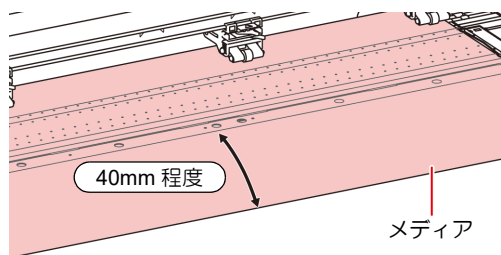
4 クランプレバーを下げる

- メディアはまっすぐにセットしてください。



重要!

- メディアは、プラテンの黒い部分に 40mm 程度出した状態でセットしてください。これより短いと、メディア検出ができない場合があります。



5

ENTER キーを押す

6

▶ を押して、“リーフ”を選択する

7

メディアの検出を始める

- メディア幅を検出する
- メディアがフィードし、メディア後端の検出をする
- 検出が終わると、ローカルに戻る

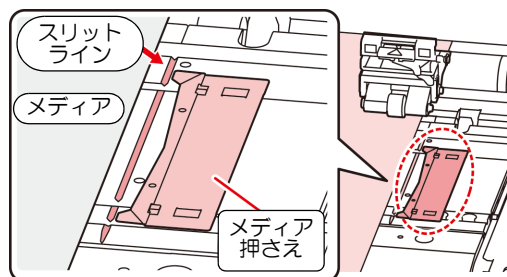


- メディアをセットした後は、P.2-11「ピンチローラー圧を設定する」を参照して、ピンチローラー圧を設定してください。

メディア押さえをお使いになるときの注意事項



- メディアをセットするときは、プラテン上のスリットラインにメディア右端を合わせるようにしてセットしてください。メディアをスリットラインよりも右側にセットすると、メディアが斜行した場合、メディアが浮き上がりヘッドを破損する原因となります。
- メディアが規定位置より左右に寄っていると、メディア検出後、エラーメッセージ“メディアイミギスギマス”を表示してお知らせします。メディアをセットし直してください。



原点を変更する場合は

プリント原点の位置を変更することができます。変更したい位置へLEDポインタを移動させて決定します。

1

ローカルで、**▲▼◀▶** を押す

- 原点設定モードになります。



2

▲▼◀▶ を押して、LEDポインタの光点を変更したい位置へ合わせる

- ▲▼◀▶** でキャリッジとメディアを移動させて選びます。

3

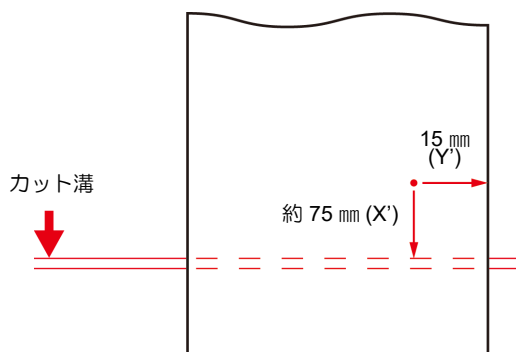
プリント原点を決定したら、キーを押す

- 原点が変更されます。

原点設定位置の目安

プリント原点は、奥行方向 (X') はプラテン上にあるカット溝から奥側約 75 mm の位置になります。

横方向 (Y') の値は、メディア右端より 15 mm です。設定メニューの「マージン」(P.3-8) により変更できます。また、ジョグキーを使って変更することもできます。



ヒーターの準備をする

ヒーターの温度設定を変更する

ヒーターの温度設定は、設定メニューの「ヒーター」で変更・保存できます。(P.3-7)

ここでは、設定モードで設定した温度の変更方法について説明します。

お使いになるメディアに合わせて、ヒーター温度を設定してください。

お買い上げ時、ヒーターの温度設定は "OFF" になっています。

プリント中にも温度の調整ができるため、適切な温度調整ができます。

周囲の温度により、設定した温度に到達するまでに数分から数十分かかることがあります。

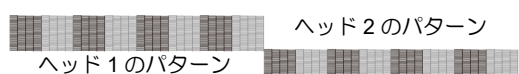
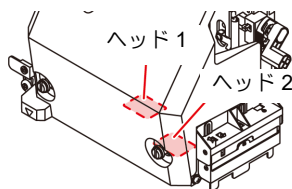
- 1 ローカルで **[SEL]** キーを押し、**[FUNC2]** (HEATER) を押す
 - ・ヒーター温度調節画面を表示されます。
- 2 **[▲]****[▼]****[◀]****[▶]** を押して、各ヒーターの温度を設定する
 - ヒーターの選択: **[◀][▶]** で選ぶ
 - 温度の設定: **[▲][▼]** で設定
 - ・ヒーターの加熱が始まります。
- 3 ヒーターの加熱が終了する
 - ・ヒーターの温度が設定温度に達すると、ディスプレイのヒーターアイコンが緑色に変わります。
- 4 終了するとき、**[ENTER]** キーを押す
 - ・ローカルに戻ります。

テストプリントをする

テストパターンをプリントして、ノズル詰まりなどの吐出不良（カスレや抜け）がないか確認します。

ヘッドの配列とテストパターンの関係

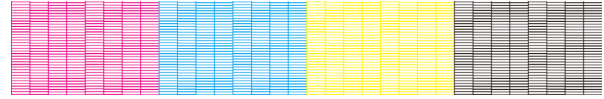
ヘッドの配列とプリントしたテストパターンのプリント位置は、下図の通りです。



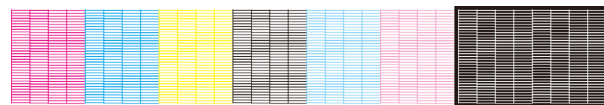
テストパターンについて

本機では、2種類のテストパターンを用意しています。

- 通常のテストパターン
(ホワイトインク以外のインクをご使用の場合)
白いメディアにテストパターンをプリントして確認できるインクをお使いの場合は、こちらのテストパターンをプリントしてください。



- ホワイト確認用のテストパターン
白いメディアをお使いでホワイトインクの吐出状態を確認したい場合は、こちらのテストパターンをプリントしてください。



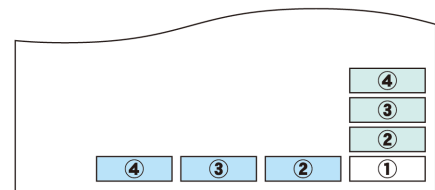
テストプリントに関する注意事項

- 重要!**
 - ・リーフメディアを使用する場合、A3サイズ横書き以上のサイズのメディアをセットしてください。幅の狭いメディアをセットすると、途中までしかプリントされません。
 - ・ロールメディアを使用する場合、プリントを開始する前にロールメディアを手で巻き戻し、たわみのない状態にしてください。画質不良の原因になります。

テストプリントを行う

テストパターンをプリントして、ノズル詰まりなどの吐出不良（カスレや抜け）がないか確認します。

また、テストプリントを繰り返し実行するときのために、プリントするテストパターンの配置方向を次の2種類から選択することができます。使い方に合わせて選択してください。



- : 設定値が "FEED ホウコウ" のとき
- : 設定値が "SCAN ホウコウ" のとき

テストプリントの前に確認してください

- ・メディアをセットしているか (P.2-4)
- ・原点位置をセットしているか
- ・ヘッドギャップを調整しているか (P.2-4)

通常のテストパターンでテストプリントを行う

1 ローカルで、**FUNC2** (TEST PRINT/CLEANING) を押し、**ENTER** キーを押す

- テストプリントメニューが表示されます。
- **▲**/**▼** を押して、テストパターンの配置方向を変更できます。
- 配置方向を“SCAN ホウコウ”から“FEED ホウコウ”に変更してテストプリントを実行すると、1つめのテストプリントの位置に改行されます。

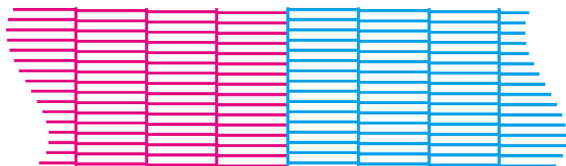
2 **ENTER** キーを押す

- テストプリントを開始します。
- プリントが終わると、ローカルに戻ります。

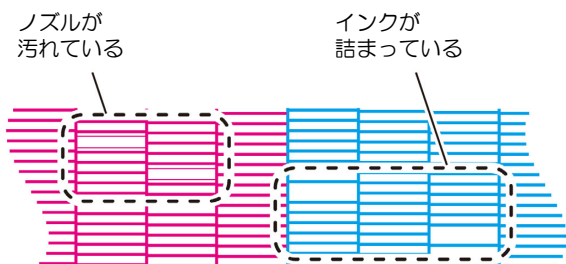
3 プリント結果を確認する

- 正常な場合は、操作を終了します。
- 異常があった場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。(P.2-17)

正常なパターン



異常なパターン



- メンテナンスメニューの「ノズルリカバリ」(P.5-14)で、リカバリノズルを登録し、かつテストプリントの設定(P.5-15)を“ON”にしている場合は、登録したノズルを他のノズルでリカバリしたパターンがプリントされます。

ホワイト確認用のテストパターンでテストプリントを行う

パターン中のホワイトインク箇所、下地をプリントすることで、確認しやすくなります。

1 ローカルで、**FUNC2** (TEST PRINT/CLEANING) を押し、**ENTER** キーを押す

- テストプリントメニューが表示されます。

2 **▲**/**▼** を押して、“特色確認”を選ぶ

3 **ENTER** キーを押す

- 次の順番で、テストパターンをプリントします。
 - (1) 黒塗りつぶしパターンをプリントする
 - (2) パターンを 30 秒間乾燥する
 - **ENTER** キーを押すと待ち時間をキャンセルし手順(3)へ移行します。
 - (3) メディアを自動的に戻し、テストパターンをプリント

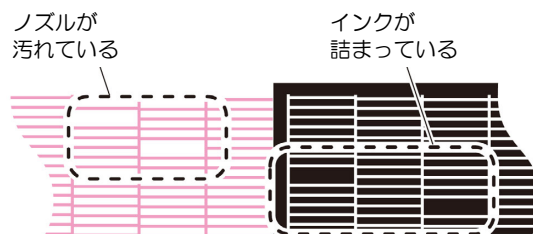
4 プリント結果を確認する

- 正常な場合は、操作を終了します。
- 異常があった場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。(P.2-17)

正常なパターン



異常なパターン



- メンテナンスメニューの「ノズルリカバリ」(P.5-14)で、リカバリノズルを登録し、かつテストプリントの設定(P.5-15)を“ON”にしている場合は、登録したノズルを他のノズルでリカバリしたパターンがプリントされます。

ヘッドクリーニング


ヘッドクリーニングについて

プリントしたテストパターンの結果を確認して、症状に合わせたクリーニングを行います。
次の4種類から選んでください。

- ノーマル : 線の抜けがある時
- ソフト : ヘッドワイブのみ実行したい時 (線の曲がりがある場合)
- ハード : ノーマル、ソフトでクリーニングを実行しても画質不良が改善しない時
- ウルトラ : ハードクリーニングを実行しても画質不良が改善しない時

テストプリントの結果に合わせてヘッドクリーニングを行う

ヘッドクリーニングには、4種類あります。パターンプリントの結果によって使い分けてください。

- 1 ローカルで、**(FUNC2)** (TEST PRINT/CLEANING) キーを押す
 ・クリーニングメニューが表示されます。
 - 2 **(▲)** **(▼)** を押して、クリーニングタイプを選択する
 ・ノーマル : 線の抜けがある時
 ・ソフト : ヘッドワイブのみ実行したい時 (線の曲がりがある場合)
 ・ハード : ノーマル、ソフトでクリーニングを実行してもプリント不良が改善しない時
 ・ウルトラ : ハードクリーニングを実行してもプリント不良が改善しない時
 - 3 **(ENTER)** キーを押す
 - 4 **(▲)** **(▼)** を押してクリーニングするヘッドを選択し、**(FUNC2)** (✓) を押す
 ・ヘッド選択後に [FUNC2] キーを押して、チェックボックスにチェックを入れてください。
 チェックが入っているヘッドのみクリーニングを行います。
 ・ヘッド 1, 2 を両方ともクリーニングしたい場合は、両方のチェックボックスにチェックを入れてください。
 - 5 **(ENTER)** キーを押す
 - 6 再度テストプリントを実行し、プリント結果を確認する
 ・プリント結果が正常になるまで、クリーニングとテストプリントを繰り返してください。
-  **ヘッドクリーニングを実行しても画質品質が改良されない場合**
- ・ワイパーとインクキャップのクリーニングをする (☞ P.5-9)
 - ・ヘッドノズルの洗浄をする (☞ P.5-10)

600ml カートリッジをお使いのとき

- ディスプレイに[インクレベル]が表示されていても、ヘッドクリーニングに必要な量のインクが残っている場合があります。
 [インクレベル]が表示されたら、P.3-19「[インクレベル ロー]を表示したら」を参照して600ml インクカートリッジの重量を入力してください。
- インクパックにヘッドクリーニングに必要な量のインクが残っていないとき
 インクの残量がヘッドクリーニングに必要な分だけ残っていない場合、「ヘッドクリーニングを行う」の手順3でエラーメッセージ“Error”を表示してお知らせします。この場合は、新しいインクパックに交換 (☞ P.1-12) して、最初からヘッドクリーニングをやり直してください。

フィード補正の設定

お使いになるメディアの種類に合わせて、メディアの送り量を補正してください。
補正値が適切でないと、プリントした画像に縞が入るなど、きれいにプリントできない場合があります。

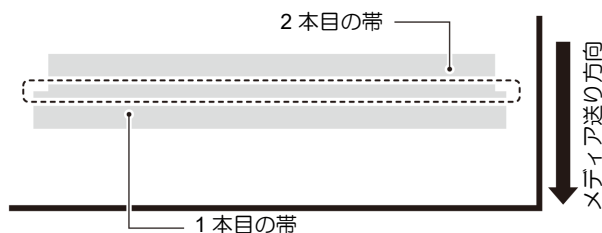
- 重要!**
- ロールメディアをご使用の場合、フィード補正を終了すると、プリント原点位置までメディアが戻り、本機背面のロールメディアにたるみが生じます。プリントを開始する前にロールメディアを手で巻き戻し、たるみのない状態にセットしてください。画質不良の原因になります。
 - 巻取装置を使用しているプリントの場合、あらかじめメディアをセットした状態でフィード補正を行ってください。

フィード補正の設定

補正パターンをプリントして、メディア送り量の補正を行います。



- 補正パターンでは2本の帯をプリントします。
- 2本の帯の境が均等の濃さになるように調整してください。



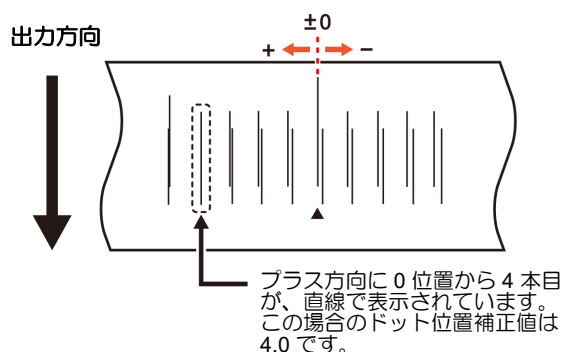
- 1** メディアをセットする (☞ P.2-4)
- ローカルで **(SEL)** キーを押し、**(FUNC2) (ADJUST)** を押す
 - 調整メニューが表示されます。
- (ENTER)** キーを2回押して、補正パターンをプリントする
- 4** 補正パターンを確認し、補正値を入力する
 - 補正値の入力画面が表示されます。
 - "+" に入力すると:
2本の帯の間隔が広がる方向に移動します。
 - "-" に入力すると:
2本の帯の間隔が近づく方向に移動します。
 - 補正値を "30" 変更するごとに、約 0.1mm 帯が移動します。

ドットの位置がずれたら

プリント時の条件（メディアの厚み / インクの種類など）が変わったときは、次の操作をして双方向（Bi）プリント時のインクの落下位置を補正し、適正なプリント結果を得られるようにしてください。

- 重要!**
- リーフメディアを使用する場合、A3サイズ横置き以上のサイズのメディアをセットしてください。幅の狭いメディアをセットすると、途中で止まらずにプリントされません。

パターンプリント例



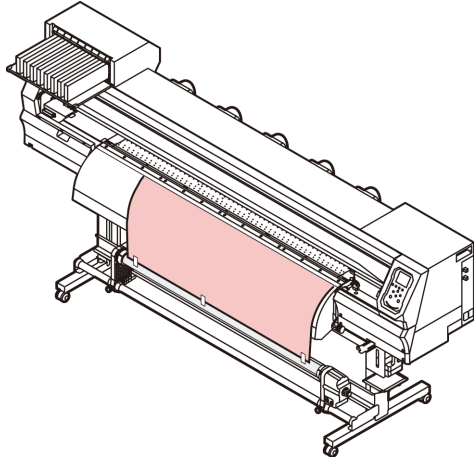
- 1** ローカルで **(SEL)** キーを押し、**(FUNC1) (ADJUST)** を押す
 - 調整メニューが表示されます。
- (▼)** を押し、**(ENTER)** キーを押す
 - “ドット位置補正” が選択されます。
- (ENTER)** キーを押す
 - ドット位置補正のパターンプリントを開始します。
 - 複数のテストパターンをプリントします。(プリント順にパターン 1,2,3... と呼ぶ)
- (▲) (▼)** を押してパターン 1 の補正値を入力し、**(ENTER)** キーを押す
 - 補正値：-40 ~ 40
 - テストパターンを確認し、往路と復路が1本の直線になっている位置が補正値となります。
 - 補正値が -40 ~ 40 の間でない場合は、ヘッドの高さを調整後、手順 2 から操作をし直してください。
- 手順 4 と同様にして、パターン 2~ の補正値を入力し、**(ENTER)** キーを押す
- 6** 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す

データをプリントする

プリントを開始する

- 重要!** ・ロールメディアを使用する場合、プリントを開始する前にロールメディアを手で巻き戻し、たるみのない状態にしてください。画質不良の原因になります。

1 メディアをセットする (P.2-4)

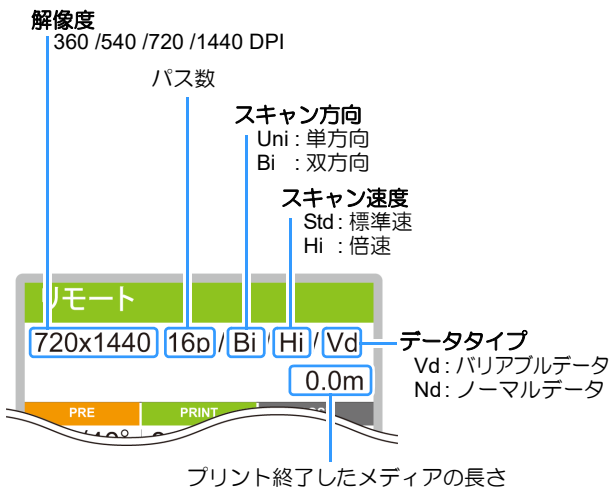


2 ローカルで、**FUNC3** (REMOTE) キーを押す

- ・リモートになり、コンピュータからのデータを受信できるようになります。

3 コンピュータからプリントするデータを送信する

- ・データの送信方法については、出力ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。



4 プリント開始

- ・解像度によっては同じデータをプリントしても、セットしたメディアの幅やプリント原点の位置によってプリント速度が変化することがあります。

プリントを中止する

プリントを途中で中止する場合、次の操作をしてください。

1 プリント中に、**FUNC3** (LOCAL) を押す

- ・プリント動作を中止します。
- ・コンピュータからデータを送信している場合は、コンピュータ側でデータ送信を止めます。
- ・再度 [REMOTE] キーを押すと、中断したデータからプリントを再開します。

受信したデータを消去する (データクリア)

プリントを中止したいときは、受信済みのデータを消去してください。

1 ローカルで **SEL** キーを押し、**FUNC3** (DATA CLEAR) を押す

2 **ENTER** キーを押す

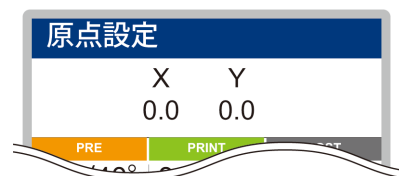
- ・受信データを消去し、ローカルに戻ります。

メディアを裁断する

操作パネル上のキーを使い、任意の位置でメディアをカットします。

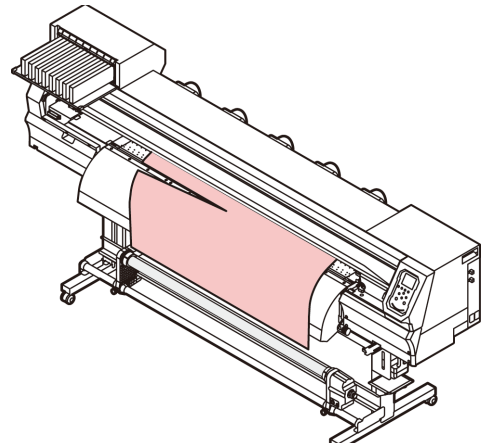
1 ローカルで、**▲** **▼** **◀** **▶** を押す

- ・原点設定モードになります。
- ・**▼** を押して、カットする位置までメディアをフィードします。



2 **FUNC2** **ENTER** キーを押す

- ・メディアをカットします。
- ・カットが終了すると、ローカルに戻ります。



カットの流れ

電源を入れる / 切る

「電源を入れる / 切る」(☞ P.2-3) を参照してください。

メディアをセットする

「メディアをセットする」(☞ P.2-4) を参照してください。

ツールを取り付ける

「ツールを取り付ける」(☞ P.2-21) を参照してください。

カット条件の設定をする

「カット条件の設定をする」(☞ P.2-24) を参照してください。

テストカットをする

「テストカットをする」(☞ P.2-26) を参照してください。

データをカットする

「データをカットする」(☞ P.2-26) を参照してください。

ツールを取り付ける

本機では、以下のツールを使用することができます。

カッター：

シートに印字した画像をカットしたり、カッティングシートで切り文字をするときに選択します。

ペン（水性ボールペン）：

実際にどのようにカットするのか「試し書き」をするときに選択します。

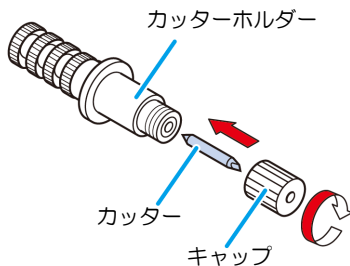
カッターを使う場合



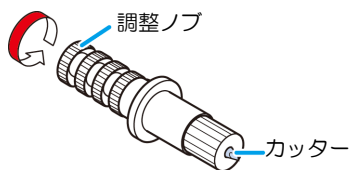
- カッターの刃先は鋭利です。触らないでください。
- カッター刃は、子供の手の届かないところに保管してください。また、使用済みのカッター刃は、地域の条例に従い廃棄してください。
- カッターをセットした後、カッターホルダーを振らないでください。刃先が飛び出し、怪我の原因となります。

カッターを取り付ける

- 1 先端のキャップを回して外し、ピンセット等で新しいカッターに交換する



- 2 カッターの出し量を調整する
 - 調整ノブを、図の矢印方向に回すと刃が出ます。(1周で0.5mm)



刃先を調整する

使用するカッターやシートの種類に応じてカッターの刃先を調節します。

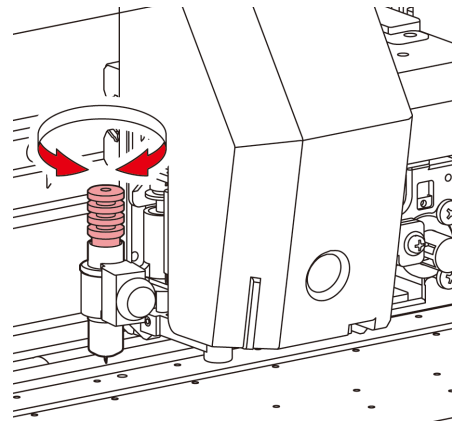
刃先の調整後、カット条件の設定および試し切りを行い、切れ具合を確認してください。

付属のカッターは、ツールホルダーにカッターを取り付けたまま、刃先の出し量を調整できます。

- 重要!** 刃先を出しすぎないように注意してください。台紙まで切り抜き、本機を傷付けることがあります。

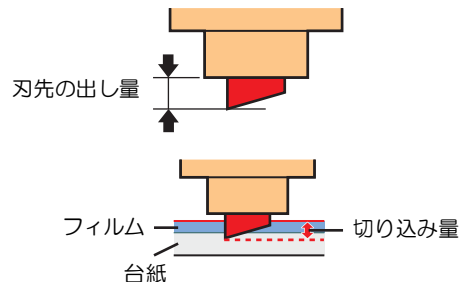
1 調整ノブを回し、刃先の出し量を調整する

- 調整ノブを右側に回すと刃が出ます。(1周で0.5mm)



- 重要!** 付属品以外のカッターの刃先調整については、P.5-23「付属品以外のカッター刃先の調整」を参照してください。

刃先の出し量を調整する



$$\text{切り込み量} = \frac{(\text{フィルムの厚さ} + \text{台紙の厚さ})}{2}$$

- ただし、フィルムの厚さくベース紙の厚さのとき

参考：刃先の出し量＝0.2～0.5mm
(切れない場合は交換してください)

- 重要!**
- 台紙にカッター跡が若干付く程度に圧力を調整してください。
 - 台紙の厚さがフィルムの厚さより薄く、正確なカット品質を得られない場合、刃先の出し量を変更すると、良い結果が得られる場合があります。

カッターホルダーを取り付ける

重要! ・カッターホルダーは浮きがないように、奥までしっかりと差し込んでください。

1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU) → (FUNC3) (>>)**
→ (ENTER) キーを押す

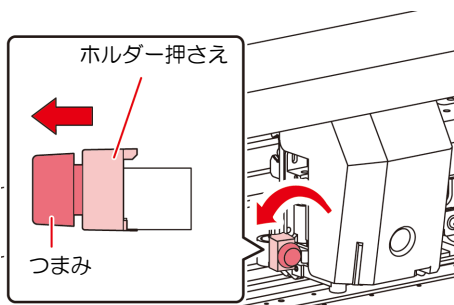
・カッティングメニューが表示されます。

2 **(▲) (▼)** を押して “ツール交換” を選び、
(ENTER) キーを押す

3 **(ENTER) キーを押す**

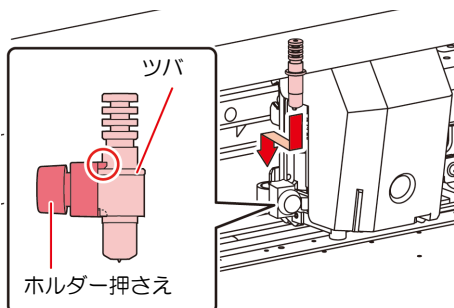
・カッターユニットが、本機の左端へ移動します。

4 つまみを回し、ホルダー押さえを緩める



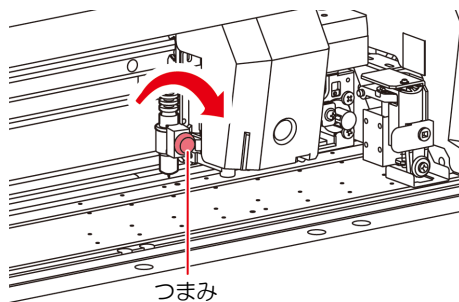
5 カッターホルダーをツールホルダーに入れる

・カッターホルダーのツバをツールホルダーに押し当てます。
 ・ホルダー押さえでカッターホルダーのツバを押さえます。



6 カッターホルダーを固定する

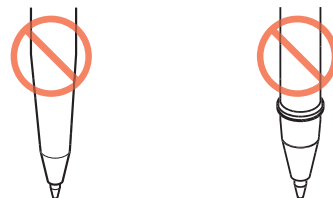
・つまみを時計方向に回し、確実に固定してください。



重要! ・カッターホルダーは確実に固定してください。カッターホルダーの固定が緩いと、正確なカット品質を得ることができなくなります。

ボールペンの取り付け方

重要! ・市販ボールペンを使用する場合は、直径 8mm ~ 9mm のペンをご使用ください。画質は、ペンによって変わることがあります。
 (推奨ボールペン：ぺんてる株式会社 製品番号：K105-A、K105-GA)
 ・下記のようなボールペンは、ペンアダプタで保持した場合、ペンが傾きカバーに当たる場合があります。(軸の太さが変わるペン・軸に突起物や段差のあるペン)



軸の太さが途中で変わるペン

軸に突起物や段差のあるペン

1 ペンアダプタにキャップをかぶせる

・キャップはペンの高さを調整するために使用します。

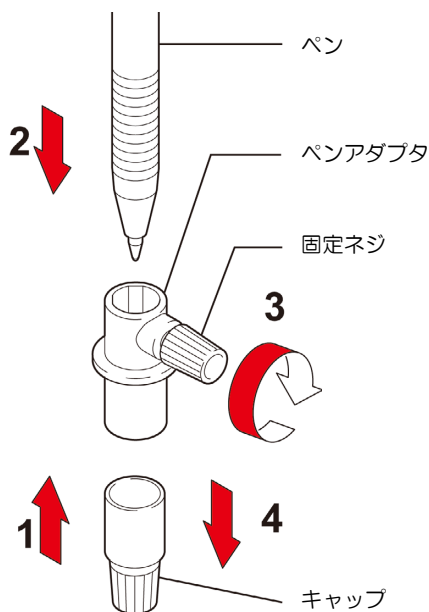
2 ペンをペンアダプタに差し込む

・ペン先がキャップに突き当たるまで差し込みます。

3 ペン先を固定する

・固定ネジを時計回りに締めます。
 ・ペンアダプタの固定ネジは、締めすぎないように注意してください。ボールペンが割れることがあります。

4 キャップを取り外す



5 ローカルで、**(FUNC1) (MENU) → (FUNC3) (>>)**
→ (ENTER) キーを押す

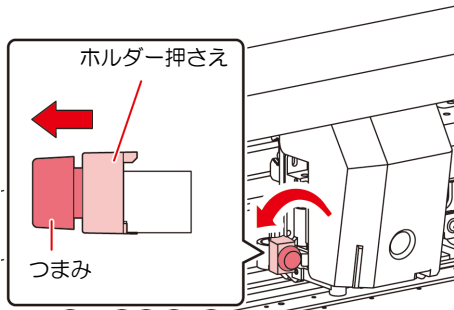
・カッティングメニューが表示されます。

6 ▲▼を押して“ツール交換”を選び、
ENTERキーを押す

7 ENTERキーを押す

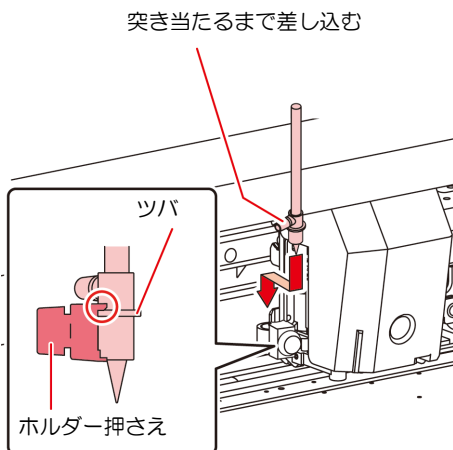
・カッターユニットが、本機の左端へ移動します。

8 つまみを回し、ホルダー押さえを緩める



9 ペンをつけたペンアダプタをツールホルダーに入れる

- ・ペンアダプタのツバをツールホルダーに押し当てます。
- ・固定ネジが妨げにならない方向にセットしてください。
- ・ホルダー押さえでペンアダプタのツバを押さえます。



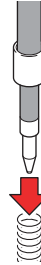
10 ツールを固定する

- ・つまみを時計方向に回し、確実に固定してください。



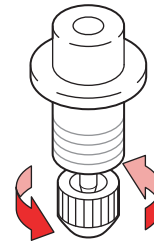
- ・ボールペンの代わりに、添付のボールペン芯を取り付けることができます。以下のようにして、ボールペン芯をペンアダプタに取り付けてから、手順6と同様にしてツールホルダーに入れてください。

(1) ペン先をバネに差し込む



(2) キャップをバネに押さえつけながら、ペンアダプタに取り付ける

- ・キャップを矢印の方向に回して、ペンアダプタに取り付けます。



重要!

- ・ボールペン芯 (SPB-0726) を交換したいときは、お買い上げの販売店または弊社営業所へお問い合わせください。

カット条件の設定をする

使用するシートやツールの種類に合わせて、カット速度や圧力などを登録しておくことができます。(カット条件)

カット条件について

カット条件で設定できる項目

ツール条件	カット条件 No.(1～7) または作図条件 (PEN) を選べます。
カット速度	カットするときの速度を設定します。
カット圧力	カットするときの圧力 (g) を設定します。
オフセット値 *1	カッターホルダの中心から、刃先までの距離を設定します。
ハーフカット *2	ハーフカット機能の有効 (ON)/ 無効 (OFF) を設定します。
ハーフカット 圧力	切り残し部分の圧力を設定します。(g)
切り残し長さ	切り残す長さを設定します。(mm)
切り抜き長さ	切り抜く長さを設定します。(mm)

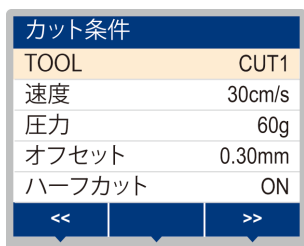
*1. ツール条件で“PEN”を選んでいるときは、設定できません。
*2. ハーフカットの設定をONにすると、下の3項目の設定ができます。

カット条件の選び方

1 ローカルで **SEL** キーを押して、“TOOL” を表示させる



2 **FUNC1** を押して、カット条件を表示させる
 ・“ハーフカット”の設定をONにしないと、下の画面に表示されている3項目は表示されません。

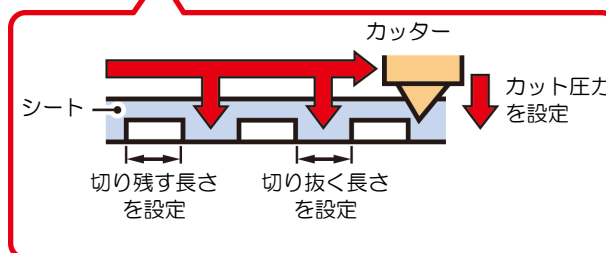
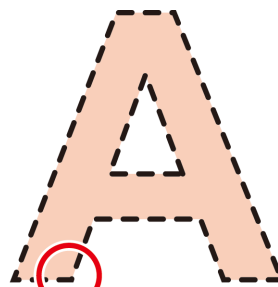


FUNC3



ハーフカットについて

カットをするときに、シートを切り抜かずに点線でカットすることができます。(ハーフカット)
 ハーフカットの設定を有効(オン)にすれば、ハーフカット機能をお使いになることができます。



重要! ・上記イラストはイメージ図です。カット条件により、切断面の形状は変わります。

ツール条件を選択する

カット(作図)をする前に、使用するシートやツールの種類に合わせてツール条件を選択してください。

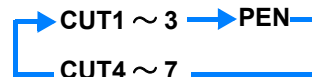
1 ローカルで **SEL** キーを押して、“TOOL” を表示させる

2 **FUNC1**(TOOL) を押す

3 **ENTER** キーを押す

4 **▲▼** を押して、使用するツール条件を選択する

・**▲▼** を押すたびに、ツール条件は次のように切り替わります。



5 カットを行う

カット条件を設定する

カットまたはペン作図するときの条件を設定します。

カット条件 (CUT1 ~ 7) の設定内容：

カット速度 (SPEED)/ カット圧力 (PRESS)/OFFSET 値 / ハーフカット

作図条件 (PEN) の設定内容：

作図速度 (SPEED)/ ペン圧力 (PRESS)

1 ローカルで **SEL** キーを押し、“TOOL” を表示させる

2 **FUNC1**(TOOL) を押す

3 **▲▼** を押し使用するツール条件を選び、**ENTER** キーを押す

4 **▼** を押しカーソルを速度へ移動し、**ENTER** キーを押す

5 **▲▼** を押し速度を設定し、**ENTER** キーを押す

- カットまたはペン作図するときの、ツールが移動する速度を設定します。
- 設定値：1~10cm/s (1cm/s ステップで設定可能)
15~30cm/s (5cm/s ステップで設定可能)

6 **▼** を押しカーソルを圧力へ移動し、**ENTER** キーを押す

7 **▲▼** を押し圧力を設定し、**ENTER** キーを押す

- カットまたはペン作図するときの、ツールがシートを押す圧力を設定します。
- 設定値：10~20g (2g ステップで設定可能)
25~100g (5g ステップで設定可能)
110~450g (10g ステップで設定可能)

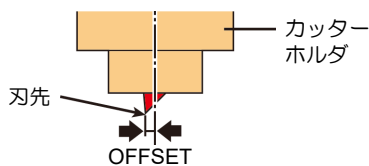


- カット (作図) 圧力の設定が終わったら、OFFSET 値の設定に進みます。作図条件 (PEN) の設定をする場合は、OFFSET 値の設定およびハーフカットの設定はできません。手順 16 へ進んでください。
- PEN 選択時の最大圧力は 150g になります。

8 **▼** を押しカーソルを OFFSET へ移動し、**ENTER** キーを押す

9 **▲▼** を押し OFFSET 値を設定し、**ENTER** キーを押す

- カット条件 (CUT1 ~ 7) を設定する場合、カッターホルダの中心から刃先までの距離を設定します。
- 設定値：0~250 (0.00~2.50mm)
(0.05mm ステップで設定可能)



- 「0」の場合 LCD には表示されません。

10 **▼** を押しカーソルをハーフカットへ移動し、**ENTER** キーを押す

11 **▲▼** を押し、ON/OFF を設定し、**ENTER** キーを押す

- ハーフカットを行う場合、ON を選択し手順 11 へ進みます。
- ハーフカットを行わない場合は、OFF を選択して手順 17 へ進んでください。

12 **▼** を押しカーソルを切り残し部分の圧力設定へ移動し、**ENTER** キーを押す

13 **▲▼** を押し圧力を設定し、**ENTER** キーを押す

- ハーフカットをするときの、切り残し部分の圧力を設定します。
- 設定値：0~450g (5g ステップで設定可能)

14 **▼** を押し、カーソルを切り残し長さの設定へ移動し、**ENTER** キーを押す

15 **▲▼** を押し、切り残す長さを設定し、**ENTER** キーを押す

- ハーフカットをするときに、切り残す部分の長さを設定します。
- 設定値：0.1~5mm (0.1mm ステップで設定可能)

16 **▼** を押し、カーソルを切り抜く長さの設定へ移動し、**ENTER** キーを押す

17 **▲▼** を押し、切り抜く長さを設定し、**ENTER** キーを押す

- ハーフカットをするときに、切り抜く部分の長さを設定します。
- 設定値：5~150mm
(5~20mm: 1mm ステップ、20~150mm: 5mm ステップ)

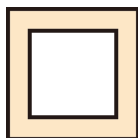
18 **END/POWER** キーを押し、設定内容を登録する

- ローカルへ戻ります。

重要! 設定した値は、電源をオフにしても保持していません。

テストカットをする

テスト作図（試し切り）を実行して、ツール条件の設定が適切か確認します。試し切りを実行すると、右のような2つの正方形をカットします。



- 重要!**
- ・カッター刃の磨耗により切れ味が悪くなってきたときは、暫定的に PRESSURE を強くして対処することができます。
(この措置は、あくまで暫定的な措置です。カット品質を維持する上でもカッター刃の交換を推奨いたします。)



ツール条件の設定が適切な場合は、試し切り結果が以下ようになります。

- ・2つの正方形をはがして、全て切れている
- ・ベース紙が切れていない
- ・正方形の角が丸くない
- ・正方形の角がめくれていない

1 ローカルで **SEL** キーを押し、“TEST CUT”を表示させる

2 **FUNC2** (TEST CUT) を押す

3 **ENTER** キーを押す

- ・試し切りを行い、終了するとローカルモードに戻ります。

テストカットの結果により、カット条件の設定をやり直してください。

症状	原因	対処
切れていない部分がある	SPEED が速すぎるため、刃先が浮き上がっている	SPEED を遅くする (P.2-25)
		ツールホルダーのツマミを締める (P.2-22)
メディアのベース紙が切れている	PRESSURE が強すぎる 刃先の出し量が多い	PRESSURE を弱くする (P.2-25)
		刃先の出し量を調節する (P.2-21)
角が丸い	OFFSET の値が不適正	お使いのカッターに合わせて、OFFSET 値を調節する (P.2-25)
角がめくれている	刃先の出し量が多い カット圧力が高い [ホセイアツオフセット値]が多い	刃先の出し量を調節する (P.2-21)
		カット圧力を調整する (P.2-25)
	上記の2つ以上が該当している	刃先補正圧オフセット値を調整する (P.4-12)

データをカットする

ツールやメディアの取り付け、ツール条件の設定後、カットを開始します。

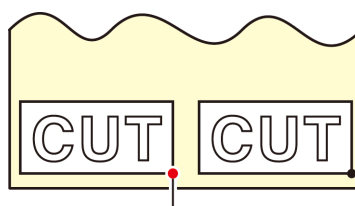
原点の設定

原点とは、カットするデータの基準となる点です。原点を変更したときは、カットを開始する前に原点を再設定してください。

- 重要!**
- ・次のデータをカットする前に、原点位置を再設定してください。原点位置を変更しないと、前回カットしたデータの上をカットしてしまいます。

1 原点となる位置へキャリッジを移動する

- ・**[▶]**: キャリッジを右側へ移動
- ・**[◀]**: キャリッジを左側へ移動
- ・**[▲]**: メディアを本体後側へ移動
- ・**[▼]**: メディアを本体前側へ移動



新しい原点

2 **ENTER** キーを押して原点を登録する

- ・有効カットエリアを表示した後、ツール条件が表示されます。

カットを開始する

1 原点を設定後、**FUNC3** (REMOTE) を押す

- ・リモートになり、コンピュータからのデータを受信できるようになります。

2 コンピュータからカットするデータを送信する

- ・データを受信すると、カットしながら、データの残容量が表示されます。

カットの一時停止

カット中に一時停止する場合は、**[FUNC3]** (REMOTE) キーを1回押します。もう一度押すと、カットを再開します。

- 重要!**
- ・カット中にメディアが外れた場合、すみやかに電源を切ってください。メディアが外れたままカットを続けると、本体を傷つける原因になります。



- ・一時停止中に動作を伴う機能は、実行できません。その場合は、カットを終了させるか、データクリア (P.2-27) でカットを中止してください。

カットを中止する(データクリア)

受信したデータのカットを中止したい場合、データクリアを行います。



- データクリアを実行した場合、[FUNC3](REMOTE) キーを押しても、処理は再開しません。
- データクリア実行後、リモートに切り替えてデータを受信するすると新しいデータをカットします。

重要!

- データクリアは、データ送信の途中では行わないでください。
- データクリア実行後も、受信データは受信バッファ内に保存されています。

1

ローカルで **SEL** キーを押し、**FUNC3** (DATA CLEAR) を押す

2

ENTER キーを押す

- 受信バッファをクリアし、ローカルに戻ります。

カッターユニットを退避させる

カットまたはペン作図が終了したとき、カッターユニットはプラテン上にあります。

カット(ペン作図)した結果の確認や、新しいメディアをセットするときには次の操作をして、カッターユニットをプラテン上から退避させてください。

1

SEL キーを押して、“TEST CUT” を表示させる

2

FUNC2 (TEST CUT) を押す

3

▲▼ を押して“カッター移動/退避”を選び、**ENTER** キーを押す

- カッターユニットがプラテン上から本機の左端へ移動します。
- プリンタユニットに連結ユニットが接続されている状態のときは、カッターユニットに連結ユニットを切り替えてから原点に移動します。(カッターユニット移動)

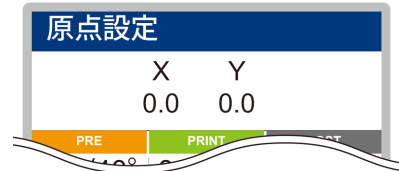
メディアを裁断する

操作パネル上のキーを使い、任意の位置でメディアをカットします。

1

ローカルで、**▲▼◀▶** を押す

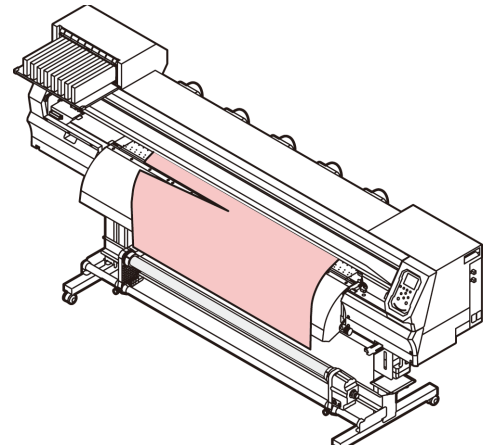
- 原点設定モードになります。
- ▼** を押して、カットする位置までメディアをフィードします。



2

FUNC2 **ENTER** キーを押す

- メディアをカットします。
- カットが終了すると、ローカルに戻ります。



2

第3章 セットアップ



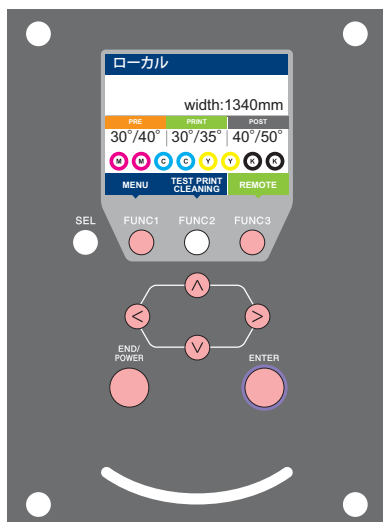
この章では ...

本機の各種設定方法について説明しています。

設定メニューについて	3-2	600ml カートリッジをお使いの場合	3-17
設定メニュー一覧表	3-3	言語の設定	3-20
使い方に合わせた最適なプリント条件を 登録する	3-4	時刻の設定	3-20
フィード補正の設定	3-5	単位 (温度 / 長さ) の設定	3-20
ドットの位置がずれたら	3-6	キープザーの設定	3-20
ヒーターの設定	3-7	確認フィードの設定	3-21
ロジカルシークの設定	3-7	余白フィード方式の設定	3-21
乾燥時間の設定	3-8	ネットワークの設定	3-21
マージン (左 / 右) の設定	3-8	イベントメール機能の設定	3-22
吸着ファンの設定	3-9	自動リモート	3-25
フィード速度の設定	3-9	設定した内容を初期状態に戻す	3-25
MAPS の設定	3-9	ノズルチェックメニューについて	3-26
オートクリーニングの設定	3-10	ノズルチェックメニュー一覧表	3-26
定期ワイピングの設定	3-11	印刷中ノズルチェックの流れ	3-27
マシン設定メニューについて	3-12	「ノズル抜け」判定時ならびにエラー発生時の 印刷動作	3-27
マシン設定メニュー一覧表	3-13	印刷中ノズルチェックの設定	3-28
オートパワーオフの設定	3-14	自動ノズルリカバリの設定	3-28
オートパワーオンの設定	3-14	判定条件の設定	3-28
巻取りユニットの設定	3-15	情報メニューについて	3-29
トップブロワの設定	3-15	情報メニュー一覧表	3-29
メディア残量表示の設定	3-16	情報を表示させる	3-30
メディア検出の設定	3-16		

設定メニューについて

設定メニューでは、普段使用するメディアに合わせてプリント条件を設定することができます。



- FUNC1** : 設定メニューを選ぶとき、または、1つ前の画面に切り替えるときに押す
- FUNC3** : 次の画面に切り替えるときに押す
- ▲ ▼** : 設定項目を選ぶときに押す
- ENTER** : 設定を確定するときなどに押す

◆ 設定メニュー一覧

設定1～4またはTemporaryを選び、**ENTER** キーを押す

FUNC1 **FUNC3**

FUNC1 **FUNC3**

FUNC1 **FUNC3**

FUNC1 **FUNC3**

設定メニュー一覧表

- 重要!**
- 次の各設定項目については、接続しているホスト PC でお使いの RIP ソフトウェアからプリント時に指定した設定値に従って動作するように設定できます。
 - 設定項目:** 乾燥時間 / マージン (左右) / 吸着 / フィード速度レベル
 - 各項目を“ホスト”に設定すれば、RIP の設定内容に従って動作します。本機での設定を優先させたいときは、“ホスト”以外に設定してください。
 - RIP ソフトウェアでの指定方法については、RIP ソフトウェアの取扱説明書をご参照ください。

機能名称		設定値 *1	RIP から指示がない場合 *2	概要
フィード補正 (P.3-5)		-9999 ~ 0 ~ 9999	—	メディアの送り量を補正するためのパターンをプリントし、補正します。
	プリント条件別 フィード補正 (Plus シリーズ) (P.3-6)	ON/OFF -255 ~ 0 ~ 255		異なるフィード条件を持つプリントモード毎にフィード補正を実施し、補正値を適用することができます。
ドット位置補正 (P.3-6)		-40.0 ~ 0 ~ 40.0	—	往復プリントにおける、着弾位置の調整を行います。
ヒーター (P.3-7)	PRE	OFF / 20 ~ 60 °C	—	各ヒーターの温度を設定します。
	PRINT			
	POST			
	OFF 時間	無し / 0 ~ 90 分		プリントが終了してから、ヒーターを OFF にするまでの時間を設定します。
ロジカルシーク (P.3-7)		ホスト / ON / OFF	OFF	プリント中のスキャン可動範囲を設定します。
乾燥時間 (P.3-8)	スキャン	ホスト / 0.0 ~ 9.9 sec	0 sec	インクの乾燥時間を設定します。
	プリントエンド	ホスト / 0 ~ 120 min	0 min	プリント後の乾燥時間を設定します。
マージン / 左 (P.3-8)		-10 ~ 85mm	0 mm	左右のプリント余白を設定します。
マージン / 右 (P.3-8)			0 mm	
吸着ファン (P.3-9)		ホスト / 弱 / 標準 / 強	強	メディアの吸着する力を設定します。
フィード速度 *3 (P.3-9)		10 ~ 100 ~ 200%	100 %	プリント中などにメディア送りをする速度を変更します。
オート クリーニング (P.3-10)	OFF、ファイル、 距離、時間			プリント前またはプリント中に行う、ヘッドの自動クリーニング動作を設定します。
	ファイル タイプ	間隔	1 ~ 1000	
		タイプ	ノーマル / ソフト / ハード	
	距離 タイプ	間隔	0.1 ~ 100.0m	
		タイプ	ノーマル / ソフト / ハード	
	時間 タイプ	間隔	10 ~ 120min	
タイプ		ノーマル / ソフト / ハード		
クリーニング後 チェック		ON / OFF		オートクリーニング後にノズルチェックを実行する / しなないを設定します。
定期ワイピング (P.3-11)		3 ~ 255 分, OFF	—	プリント中に行う、ワイピング動作を設定します。
MAPS (P.3-9)	AUTO			"MAPS" の効果を変更します。
	MANUAL	速度	50 ~ 100%	
		スムージング レベル	0 ~ 100%	
設定リセット (P.3-5)		設定 1 ~ 4 で設定した内容を、個別にリセットできます。		

*1. お買い上げ時は下線の値に設定されています。

*2. 本機で“ホスト”を設定しているのに、RIP ソフトウェア (ホスト) 側で設定値の指定がないまたは、装置側の設定値を優先する設定にしている場合、プリント時に使用される設定値です。

*3. 100% 以上に設定した場合、プリント完了までの時間は短くなりますが、十分な乾燥時間が得られずに画質に影響する場合があります。

使い方に合わせた最適なプリント条件を登録する

本機では、あらかじめ、お使いになるメディアに合わせて個別にプリント条件 (設定 1 ~ 4) を登録しておくことができます。

例えば、違う種類のメディアにプリントをした後に、いつも使っているメディアに戻した場合など、登録済みの設定 (1 ~ 4) を選ぶだけで最適な作図条件を設定できます。



- 本機であらかじめ登録できるプリント条件は、“設定 1” ~ “設定 4” の 4 種類です。
- 頻繁に使うことのないプリント条件でプリントする場合、“Temporary” を選んでプリント条件を設定することができます。
Temporary で設定した内容は電源を再投入すると、初期値 (お買い上げ時の状態) に戻ります。また、“Temporary” が選ばれた状態で電源を再投入すると、“設定 1” が選ばれた状態になります。

設定 (1 ~ 4) にプリント条件を登録する

1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(ENTER)** キーを押す

2 **(▲▼)** を押して設定 1 ~ 4 を選び、**(ENTER)** キーを押す

- 選択している項目には●、それ以外には○が表示されます。
- 設定メニューが表示されます。

3 **(▲▼)** を押して設定メニュー一覧表の各項目を選び、設定する

- 詳細な設定方法は設定メニュー一覧表に記載した参照ページをご覧ください。

Temporary の使い方

Temporary は 1 度だけ使うプリント条件を設定するだけでなく、登録済みの設定「1 ~ 4」を一部だけ変えて使いたい場合や、Temporary で設定したプリント条件を、設定 1 ~ 4 に反映させることもできます。

● Temporary にプリント条件を登録する

Temporary へのプリント条件の登録は、設定 1 ~ 4 への登録と同様の方法で登録できます。

1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(ENTER)** キーを押す

2 **(▲▼)** を押して“Temporary”を選び、**(ENTER)** キーを押す

- 設定メニューが表示されます。

3 **(▲▼)** を押して設定メニュー一覧表の各項目を選び、設定する

- 詳細な設定方法は設定メニュー一覧表に記載した参照ページをご覧ください。

● 設定 1 ~ 4 の内容を Temporary にコピーする

設定 1 ~ 4 の登録内容の一部を変更してお使いになることができます。

Temporary の登録画面から、“設定リセット” → “コピー”を選び、コピー元 (設定 1 ~ 4) を指定します。

1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(ENTER)** キーを押す

2 **(▲▼)** を押して“Temporary”を選び、**(ENTER)** キーを押す

- 設定メニューが表示されます。

3 **(FUNC1) (<<)** を押す

4 **(▲▼)** を押して“設定リセット”を選び、**(ENTER)** キーを押す

5 **(▲▼)** を押して“コピー”を選び、**(ENTER)** キーを押す

- コピー元選択画面が表示されます。

6 **(▲▼)** を押してコピー元 (設定 1 ~ 4) を選び、**(ENTER)** キーを押す

- ディスプレイにコピーの確認画面が表示されます。

7 **(ENTER)** キーを押す

- 手順 5 で選んだ設定内容が、Temporary にコピーされます。

8 **(▲▼)** を押して変更する設定項目を選び、**(ENTER)** キーを押す

- 詳細な設定方法は設定メニュー一覧表に記載した参照ページをご覧ください。

● Temporary で設定した内容を設定 1 ~ 4 へ反映させる

1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(ENTER)** キーを押す

2 **(▲▼)** を押して“Temporary”を選び、**(ENTER)** キーを押す

- 設定メニューが表示されます。

3 **(▲▼)** を押して設定メニュー一覧表の各項目を選び、設定する

- 詳細な設定方法は設定メニュー一覧表に記載した参照ページをご覧ください。

4 Temporary の最終ページを表示させて“設定保存”を選び、**(ENTER)** キーを押す

- 保存先選択画面が表示されます。

5 **(▲▼)** を押して保存先 (設定 1 ~ 4) を選び、**(ENTER)** キーを押す

- ディスプレイに保存確認画面が表示されます。

6 **(ENTER)** キーを押す

- 手順 5 で選んだ保存先に、Temporary の設定内容が保存されます。

7 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す

登録した内容をリセットする

設定 1～4 に登録した内容をリセットします。

- 1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **ENTER** キーを押す
- 2 **▲** **▼** を押してリセットする設定(1～4)を選び、**ENTER** キーを押す
 - 設定メニューが表示されます。
- 3 **FUNC1** (<<) を押す
- 4 **▲** **▼** を押して “ 設定リセット ” を選び、**ENTER** キーを押す
 - 設定リセットの確認画面が表示されます。
- 5 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

フィード補正の設定

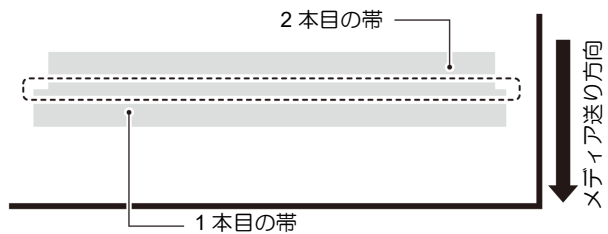
お使いになるメディアの種類に合わせて、メディアの送り量を補正してください。
補正値が適切でないと、プリントした画像に縞が入るなど、きれいにプリントできない場合があります。

- 重要!**
- ロールメディアをご使用の場合、フィード補正を終了すると、プリント原点位置までメディアが戻り、本機背面のロールメディアにたるみが生じます。プリントを開始する前にロールメディアを手で巻き戻し、たるみのない状態にセットしてください。画質不良の原因になります。
 - 巻き取り装置を使用してのプリントの場合、あらかじめメディアをセットした状態でフィード補正を行ってください。

補正パターンをプリントして、メディア送り量の補正を行います。



- 補正パターンでは 2 本の帯をプリントします。
- 2 本の帯の境が均等の濃さになるように調整してください。



- 1 メディアをセットする (P.2-4)
- 2 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **ENTER** キーを押す
- 3 **▲** **▼** を押して設定 1～4 を選び、**ENTER** キーを押す
 - 設定メニューが表示されます。
- 4 **▲** **▼** を押して “ フィード補正 ” を選び、**ENTER** キーを押す
- 5 **ENTER** キーを 2 回押して、補正パターンをプリントする
- 6 補正パターンを確認し、補正値を入力する
 - 補正値の入力画面が表示されます。
 - “+” に入力すると：
2 本の帯の間隔が広がる方向に移動します。
 - “-” に入力すると：
2 本の帯の間隔が近づく方向に移動します。
 - 補正値を “30” 変更することにより、約 0.1mm 帯が移動します。
- 7 **ENTER** キーを押す
 - 再度、補正パターンをプリントして確認します。
 - 補正の必要がある場合は、手順 6 の操作をして補正してください。
- 8 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

プリント中にメディア送りを補正したいとき

リモートモードや画像データのプリント中でもメディア送り量の補正ができます。

- 1 リモートで、**(FUNC1) (ADJUST)** → **(ENTER)** キーを押す
- 2 **(▲) (▼)** を押して、補正量を入力する
 - 補正量：-9999 ~ 9999
 - ここで入力した値は、すぐに補正量に反映されます。
- 3 **(ENTER)** キーを2回押す
 - 変更した値が登録されます。
 - **[ENTER]** キーの代わりに **[END]** キーを押すと、ここで補正した内容は一時、有効となります。(再度メディア検出を行うか電源をOFFすると、補正値はクリアされます)

プリント条件別フィード補正

● 対応機種：Plus シリーズ (FW Ver.1.20 以降)

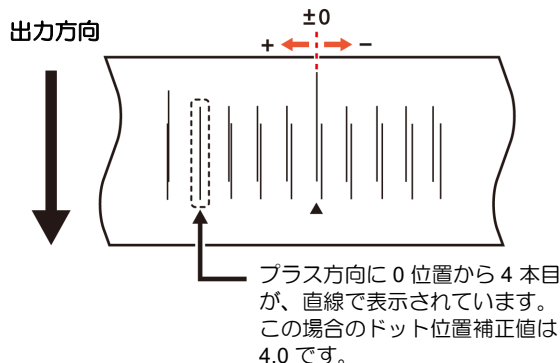
プリントモードによりフィード速度などの条件が異なります。それぞれのモードに応じた補正値をもたせることで、同設定内で異なるプリントモードを出力させる場合に、補正値の変更作業を軽減させることができます。

- 1 メディアをセットする (☞ P.2-4)。
 - 2 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(ENTER)** キーを押す。
 - 3 **(▲) (▼)** を押して設定1~4を選び、**(ENTER)** キーを押す。
 - 設定メニューが表示されます。
 - 4 **(▲) (▼)** を押して“フィード補正”を選び、**(ENTER)** キーを押す。
 - 5 “プリント開始”待ち画面で、**(FUNC1) (MENU)** を押して、ON/OFFを切り替えます。
 - ONの場合：
 - 条件別に補正し、補正値を入力することができます。
 - プリント条件に応じ、それぞれの補正値が適用されます。
 - (1) 360x360
 - (2) 540x360
 - (3) 上記を除くすべてのプリントモード(解像度)
 - OFFの場合：
 - 1つの補正値が全プリントモード(解像度)に適用されます。
- !** 詳細設定を“ON”にした場合、使用するすべてのプリントモード(解像度)で調整を実施してください。

ドットの位置がずれたら

プリント時の条件 (メディアの厚み/インクの種類など) が変わったときは、次の操作をして双方向 (Bi) プリント時のインクの落下位置を補正し、適正なプリント結果を得られるようにしてください。

パターンプリント例



- 1 メディアをセットする (☞ P.2-4)
 - パターンプリントをするには、幅 500mm 以上の大きさのメディアが必要です。
- 2 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(ENTER)** キーを押す
- 3 **(▲) (▼)** を押して設定 1 ~ 4 を選び、**(ENTER)** キーを押す
 - 設定メニューが表示されます。
- 4 **(▲) (▼)** を押して“ドット位置補正”を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 5 **(ENTER)** キーを押す
 - ドット位置補正のパターンプリントを開始します。
 - 複数のテストパターンをプリントします。(プリント順にパターン 1,2,3... と呼び)
- 6 **(▲) (▼)** を押してパターン 1 の補正値を入力し、**(ENTER)** キーを押す
 - 補正値：-40 ~ 40
 - テストパターンを確認し、往路と復路が1本の直線になっている位置が補正値となります。
 - 補正値が -40 ~ 40 の間にない場合は、ヘッドの高さを調整後、手順2から操作をし直してください。
- 7 手順4と同様にして、パターン2~のドット位置を補正し、**(ENTER)** キーを押す
- 8 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す

ヒーターの設定

プラテンには、プリヒーター・プリントヒーター・ポストヒーターが内蔵されています。

ヒーターの種類	働き
プリヒーター	プリント前のメディアを予熱し、プリント部での急激な温度変化を抑えます。
プリントヒーター	プリントする際の画像品質を上げます。
ポストヒーター	プリント後のインクを乾燥させます。

ここでは、各ヒーターの温度設定の他に、プリントが終了してからヒーターを OFF にするまでの時間も設定できます。

- 1 ローカルで、**[FUNC1] (MENU)** → **[ENTER]** キーを押す
- 2 **[▲]** **[▼]** を押して設定 1～4 を選び、**[ENTER]** キーを押す
・設定メニューが表示されます。
- 3 **[▲]** **[▼]** を押して“ヒーター”を選び、**[ENTER]** キーを押す
- 4 **[▲]** **[▼]** **[◀]** **[▶]** を押して、各ヒーター温度を設定する
・ヒーターの選択 : **[▲]** **[▼]** で選ぶ
・温度の設定 : **[◀]** **[▶]** で設定
- 5 **[▲]** **[▼]** を押して“OFF 時間”を選び、**[ENTER]** キーを押す
- 6 **[▲]** **[▼]** を押してプリント終了後にヒーターを OFF するまでの時間を設定し、**[ENTER]** キーを押す
- 7 終了するとき、**[END/POWER]** キーを数回押す

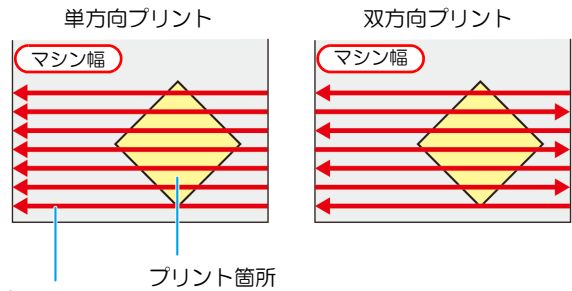


- ・手順 3 で **[FUNC3] (OFF)** を押すと、全ヒーターが“OFF”になります。また、**[FUNC1]** を押すと、全ヒーターが 10 °C ずつ上がります。
- ・手順 6 で設定した OFF 時間中にキー操作やデータ受信をすると、自動的に設定温度に復帰します。

ロジカルシークの設定

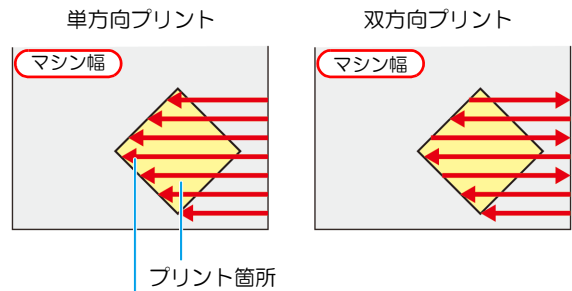
ロジカルシークの設定により、下図のようにヘッドの動作が変わります。

ロジカルシーク OFF 時のヘッドの動き



赤矢印：
ヘッドの動き

ロジカルシーク ON 時のヘッドの動き



赤矢印：
ヘッドの動き

- 1 ローカルで、**[FUNC1] (MENU)** → **[ENTER]** キーを押す
- 2 **[▲]** **[▼]** を押して設定 1～4 を選び、**[ENTER]** キーを押す
・設定メニューが表示されます。
- 3 **[▲]** **[▼]** を押して“ロジカルシーク”を選び、**[ENTER]** キーを押す
- 4 **[▲]** **[▼]** を押して設定値を選び、**[ENTER]** キーを押す
・設定値：ホスト / ON/OFF
- 5 終了するとき、**[END/POWER]** キーを数回押す

乾燥時間の設定

乾燥時間の設定では、インクの乾燥時間に関する次の各項目の設定をします。

- **スキャン** : スキャン毎のインク乾燥時間を設定 (双向プリントの場合は、往路 / 復路のスキャン毎に設定した時間だけ一時停止する)
- **プリントエンド** : プリント後の乾燥時間を設定

- 重要!**
- RasterLink 側の設定を優先させたいときは、設定値を“ホスト”にしてください。
 - RasterLink では、本機で設定する“スキャン”は“スキャン毎の乾燥時間”と表示しています。
 - プリントエンドの設定については、RasterLink 側での指定ができません。本機の設定で“ホスト”に設定した場合は、プリント時“プリントエンド=0 秒”の状態ですべてプリントされます。

1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(ENTER)** キーを押す

2 **(▲)** **(▼)** を押して設定 1 ~ 4 を選び、**(ENTER)** キーを押す
 ・設定メニューが表示されます。

3 **(▲)** **(▼)** を押して“乾燥時間”を選び、**(ENTER)** キーを押す

4 **(ENTER)** キーを押す

5 **(▲)** **(▼)** **(◀)** **(▶)** を押して乾燥時間を設定し、**(ENTER)** キーを押す

- スキャン時とプリント終了後の乾燥時間を設定します。お使いの RIP で指定している乾燥時間を有効にする場合は“ホスト”を選んでください。
- **スキャンの設定値** : ホストまたは 0.0 ~ 9.9 秒
- **プリントエンドの設定値** : ホストまたは 0 ~ 120 分
- **項目の選択** : **[▲]****[▼]** で選ぶ
- **時間の設定** : **[◀]****[▶]** で設定

6 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す

マージン(左/右)の設定

メディアの左右のマージン (余白) を設定します。ここでは、標準マージン 15mm に対するオフセット値を設定します。

- 重要!**
- RIP ソフトウェア側の設定を優先させたいときは、設定値を“ホスト”にしてください。
 - 付属の RIP ソフトウェア (RasterLink) では、マージンの指定ができません。RasterLink をお使いの場合に本機の設定で“ホスト”にすると、プリント時には左右のマージンのオフセット値 = “0mm” の状態でプリントされます。
 - マージンの設定は、メディア幅の検出時に反映されます。

1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(ENTER)** キーを押す

2 **(▲)** **(▼)** を押して設定 1 ~ 4 を選び、**(ENTER)** キーを押す
 ・設定メニューが表示されます。

3 **(FUNC3) (>>)** を押す

4 **(▲)** **(▼)** を押して“マージン/左”または“マージン/右”を選び、**(ENTER)** キーを押す

5 **(▲)** **(▼)** を押して設定値を選び、**(ENTER)** キーを押す

- 設定値 : ホスト / -10 ~ 85mm

6 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す



- メディア押さえを使ってプリントする場合、左右のマージンを -5mm 以下に設定すると、メディア押さえの上からプリントを開始することがあるのでお気をつけください。

吸着ファンの設定

メディアを吸着する強さを設定します。メディアに合わせた吸着力を設定することにより、メディアの浮きによるプリントミスを防止できます。

- 1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** ➡ **ENTER** キーを押す
- 2 **▲▼** を押して設定 1～4 を選び、**ENTER** キーを押す
・設定メニューが表示されます。
- 3 **FUNC3 (>>)** を押す
- 4 **▲▼** を押して“吸着ファン”を選び、**ENTER** キーを押す
- 5 **ENTER** キーを押す
- 6 **▲▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す
・設定値：ホスト / 弱 / 標準 / 強
- 7 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

フィード速度の設定

プリント中などにメディア送りをする速度を変更します。

- 1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** ➡ **ENTER** キーを押す
- 2 **▲▼** を押して設定 1～4 を選び、**ENTER** キーを押す
・設定メニューが表示されます。
- 3 **FUNC3 (>>)** を押す
- 4 **▲▼** を押して“フィード速度”を選び、**ENTER** キーを押す
- 5 **ENTER** キーを押す
- 6 **▲▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す
・設定値：ホスト / 10～200%
- 7 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

重要! ・プリント条件によっては、速度が変わらない設定値があります。

MAPS の設定

MAPS(Mimaki Advanced PassSystem) 機能とは、パスの境界を分散させることにより、パス間の送り縞が目立ちにくくさせる機能です。

本機能ではMAPSの適用割合を変更することができます。

重要!

- ・MAPS の設定には“AUTO”と“MANUAL”があります。MAPS はお使いのプリント条件に最適なものが適用されているため、通常は“AUTO”（初期値）で使用してください。
- ・本機能を使用するには、Mimaki ドライバ Ver 4.2.0 以上が必要です。



- ・MAPS の設定を変更すると、色味の変化がみられる場合があります。あらかじめ確認を行った上で使用してください。
- ・プリントする画像によっては MAPS 機能の効果が得られない場合があります。あらかじめ効果の確認を行った上で使用してください。

オートクリーニングの設定

プリント終了後に今までプリントしたファイル数または長さまたは時間をカウントし、クリーニングが必要な場合は自動的にクリーニングを行うよう設定できます。

オートクリーニングの設定は、次の3種類から選べます。

- **ファイル** : プリントファイル数でクリーニング間隔を設定する
- **距離** : プリントした長さでクリーニング間隔を設定する
- **時間** : プリントした時間でクリーニング間隔を設定する

ヘッドを常に清潔に保つことで、安定した出力結果を持続することができます。

その他にも、オートクリーニング後に自動的にノズルチェックを実施するように設定できます。(クリーニング後チェック機能)

ヘッドを常に清潔に保つことで、安定した出力結果を持続することができます。

1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(ENTER)** キーを押す

2 **(▲)** **(▼)** を押して設定 1 ~ 4 を選び、**(ENTER)** キーを押す

- 設定メニューが表示されます。

3 **(FUNC3) (>>)** を押す

4 **(▲)** **(▼)** を押して“オートクリーニング”を選び、**(ENTER)** キーを押す

5 **(ENTER)** キーを押し、**(▲)** **(▼)** でオートクリーニングの種類を選ぶ

- オートクリーニングの種類には“ファイル”、“距離”と“時間”があります。
- **ファイル** : 設定した回数のプリントが終了したら、自動的にヘッドクリーニングを行う
- **距離** : 設定した長さを経過したら、自動的にヘッドのクリーニングを行う
- **時間** : 設定した時間を通過したら、自動的にヘッドのクリーニングを行う
- オートクリーニングの設定をしない場合は、“OFF”を選んでから手順7へ進んでください。

6 **(ENTER)** キーを押し、**(▲)** **(▼)** でクリーニング間隔を設定する

- 手順3で選んだオートクリーニングの種類によって、設定値は異なります。
- **ファイルの場合** : 1 ~ 1000 ファイル
- **距離の場合** : 0.1 ~ 100.0m (0.1m単位で設定)
- **時間の場合** : 10 ~ 120min (10min単位で設定)

7 **(ENTER)** キーを押し、**(▲)** **(▼)** でクリーニングタイプを設定する

- 設定値 : ノーマル / ソフト / ハード

8 **(ENTER)** キーを押し、**(▲)** **(▼)** で“クリーニング後チェック”を選ぶ

9 **(ENTER)** キーを押し、**(▲)** **(▼)** で設定値を選ぶ

- 設定値 : ON / OFF

10 **(ENTER)** キーを押す

11 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す

- 重要!**
- ヘッド等の状態によっては、本機能を実行してもプリント不良が復旧しない場合があります。この場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

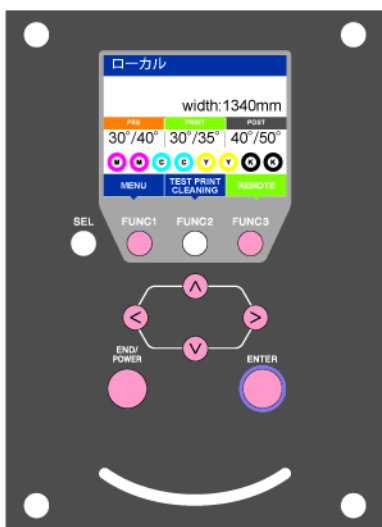
定期ワイピングの設定

設定した時間が経過すると、自動的にヘッドのノズル面の清掃を行い、ノズル面に付着したインク滴を取り除きます。
飛行曲がりやノズル抜け、インク滴が落ちるなどの症状が出た場合、動作間隔を設定します。

- 1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **ENTER** キーを押す
- 2 **▲** **▼** を押して設定 1 ~ 4 を選び、**ENTER** キーを押す
 - 設定メニューが表示されます。
- 3 **FUNC1** (<<) を押す
- 4 **▲** **▼** を押して“定期ワイピング”を選び、**ENTER** キーを押す
- 5 **▲** **▼** を押して、動作間隔を設定する
 - 設定値：3 ~ 255 分, OFF
 - [OFF] にすると、定期ワイピングを行いません。
- 6 **ENTER** キーを押す
- 7 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

マシン設定メニューについて

本機を快適に使用するための各種設定です。
マシン設定で設定できる内容は、次の項目です。



- FUNC1** : マシン設定メニューを選ぶとき、または、1つ前の画面に切り替えるときに押す
- FUNC3** : 次の画面に切り替えるときに押す
- ▲▼** : 設定項目を選択するときに押す
- ENTER** : 設定を確定するときなどに押す

◆ マシン設定メニュー一覧

FUNC1 **FUNC3**

FUNC1 **FUNC3**

FUNC1 **FUNC3**

FUNC1 **FUNC3**

*1: [オートパワーオン], [600ml カートリッジ], [自動リモート] 対応機種 : Plus シリーズ

マシン設定メニュー一覧表

機能名称		設定値		初期値	内 容
オートパワーオフ (P.3-14)		しない / 10 ~ 600min		30min	設定した時間操作がない場合、自動で電源をオフにします。
オートパワーオン (Plus シリーズ) (P.3-14)	設定	ON/OFF		OFF	装置を設定した曜日、時間に自動で起動します。
	時刻	0:00 ~ 23:59 [1分単位]		0:00	
	曜日	各曜日 ON/OFF		全 ON	
巻取りユニット (P.3-15)	巻取りスイッチ	ON / OFF		ON	巻取ユニットを使用する / しないを設定します。
	巻取り / 繰出しスイッチ	動作継続 / 一時動作		動作継続	巻き取り装置の ON/OFF ボタンを押したときの動作方法を設定します。
乾燥 / 排気ファン		オプションの乾燥 / 廃棄ファンをお使いになるときに設定します。詳しくは、乾燥 / 廃棄ファンに添付されている取扱説明書を参照してください。			
トップブロウ (P.3-15) (ON)	ON / OFF		ON		プリント中のトップブロウの動作を設定します。
	強さ	AUTO / 弱 / 標準		AUTO	プリント中のトップブロウの強さを設定します。
メディア残量 (P.3-16)		ON / OFF		OFF	メディアの残量を管理することができます。
メディア検出 (P.3-16)	検出方法	AUTO/MANUAL		AUTO	メディア検出方法を設定します。
	使用ピンチローラー確認	ON / OFF		ON	メディア検出時に、使用しているピンチローラーの数を入力するか設定します。
	検出速度 (Plus シリーズ)	高速 / 標準		標準	メディア検出速度を設定します。
LANGUAGE (P.3-20)		English / 日本語		English	表示言語を変更します。
時刻設定 (P.3-20)		+4h ~ -20h		日本時間	現在の日付と時刻を設定します。
単位 / 温度 (P.3-20)		°C (摂氏) / °F (華氏)		°C	温度の表示単位を設定します。
単位 / 長さ (P.3-20)		mm / inch		mm	長さ、面積の表示単位を設定します。
600ml カートリッジ ¹ (P.3-17)	ケース重量	_____			エコケースの重量を登録します。
	カートリッジ重量	_____			カートリッジの重量を登録します。
キープザー (P.3-20)		ON / OFF		ON	キーを押したときのブザー音を設定します。
確認フィード (P.3-21)		ON / OFF		ON	テストプリントなどのプリント結果を確認するためにメディアのフィードを行うか設定します。
余白フィード方式 (P.3-21)		間欠 / 連続		間欠	画像データに含まれる余白部分のフィード方式を変更します。
ネットワーク (P.3-21)	ネットワークの設定をします。				
	IP アドレス確認	現在、本機が使用中の IP アドレスが表示されます。			
	MAC アドレス確認	現在、本機が使用中の MAC アドレスが表示されます。			
	DHCP	ON / OFF			ON の場合、DHCP サーバーより与えられた IP アドレスを使用します。
	AutoIP	ON / OFF			ON の場合、AutoIP プロトコルにより使用する IP アドレスを決定します。ただし、DHCP が ON の場合は DHCP を優先します。
	IP アドレス ²	本機が使用する IP アドレスを設定します。			
	デフォルトゲートウェイ ²	本機が使用するデフォルトゲートウェイを設定します。			
	DNS アドレス ²	本機が使用する DNS サーバーのアドレスを設定します。			
サブネットマスク ²	本機が使用するサブネットマスクの桁数を設定します。				
イベントメール	メール送信 (P.3-22)	ON / OFF		OFF	設定したイベントが起こった際に、メールを送信する機能を設定します。
	送信イベント選択 (P.3-22)	プリントスタート	ON / OFF	OFF	プリント開始時にメールを送信する / しないを設定します。
		プリントエンド	ON / OFF	OFF	プリント終了時にメールを送信する / しないを設定します。
		エラー	ON / OFF	OFF	エラー発生時にメールを送信する / しないを設定します。
		ワーニング	ON / OFF	OFF	ワーニング発生時にメールを送信する / しないを設定します。
		その他	ON / OFF	OFF	上記以外のイベント発生時にメールを送信する / しないを設定します。

機能名称	設定値	初期値	内 容		
イベントメール	メールアドレス (☞ P.3-22)	イベントメールを送信するメールアドレスを設定します。	- 英数字、記号 (96 文字)		
	件名 (☞ P.3-23)	イベントメールの件名に記載する文字を設定します。	- 英数字、記号 (8 文字)		
	サーバー設定 (☞ P.3-23)	SMTP アドレス	-	SMTP サーバーを設定します。	
		SMTP ポート No.	-	SMTP のポート番号を設定します。	
		送信元メールアドレス	-	メールの送信元として使用するメールアドレスを設定します。	
		認証方式	OFF	-	SMTP サーバーの認証方式を設定します。
			POP before SMTP	-	
			SMTP 認証	-	
		ユーザー名 *3	-	認証に使用するユーザー名を設定します。	
		パスワード *3	-	認証に使用するパスワードを設定します。	
POP3 アドレス *4	-	POP サーバーを設定します。			
APOP *4	-	APOP の ON/OFF を設定します。			
テストメール送信 (☞ P.3-24)	テストメールの送信を実行します。				
自動リモート (Plus シリーズ) (☞ P.3-25)	ON / OFF	OFF	ローカルでデータを受信すると自動的にリモートモードへ移行し、プリントを開始する / しないを設定します。		
リセット (☞ P.3-25)		-	すべての設定項目を初期値に戻します。		

*1. インクスロットに 600ml カートリッジをセットしていないときは表示しません。(対応機種：Plus シリーズ)

*2. [DHCP]、[AutoIP] が両方オフの場合のみ設定可能

*3. [ニンショウホウシキ] がオフでない場合のみ設定可能

*4. [ニンショウホウシキ] が POP before SMTP の場合のみ設定可能

オートパワーオフの設定

設定した時間操作がない場合、自動で電源をオフにします。

- 1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す
 ・マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **▲▼** を押して “オートパワーオフ” を選び、**ENTER** キーを押す
- 3 **▲▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す
 ・設定値：しない、10 ~ 600 min
- 4 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

オートパワーオンの設定

● 対応機種：Plus シリーズ (FW Ver.1.30 以降)

設定した曜日、時間に自動で装置を起動します。オートパワーオン設定とヒーター設定などを組み合わせると、プリント準備までの待ち時間が短縮されます。



・自動で電源をオフしたい場合はオートパワーオフ機能を使用してください。

- 1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す
 ・マシン設定メニューが表示されます。

- 2 **▲▼** を押して “オートパワーオン” を選び、**ENTER** キーを押す
- 3 “設定” が選ばれている状態で、**ENTER** キーを押す
- 4 **▲▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す
 ・設定値：ON/ OFF
 ON：オートパワーオンあり
 OFF：オートパワーオンなし
- 5 **▲▼** を押して “時刻” を選び、**ENTER** キーを押す
- 6 **FUNC2 ▲▼** を押してオートパワーオンする時刻を設定し、**ENTER** キーを押す
 ・設定値：0:00 ~ 23:59 [24 時間制、1 分単位]
FUNC2：時間単位で変更する
▲▼：分単位で変更する
- 7 **▲▼** を押して “曜日” を選び、**ENTER** キーを押す
- 8 **▲▼** を押して設定を変更する曜日を選び、**FUNC2** キーを押して ON/OFF を切り替える
 ・設定値：ON/ OFF (各曜日)
 ON：指定した曜日にオートパワーオンする
 OFF：指定した曜日にオートパワーオンしない

9 全ての曜日について ON/OFF を設定したら、**END/POWER** キーを押す

10 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

巻取りユニットの設定

巻取装置の ON/OFF ボタンを押したときの動作方法を設定します。

また、オプションのテンションバー取り付けしているときに、テンションバーの使用する / しないを設定します。

1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す

・マシン設定メニューが表示されます。

2 **▲▼** を押して “巻取りユニット” を選び、**ENTER** キーを押す

3 **▲▼** を押して “巻取りユニット” を選び、**ENTER** キーを押す

4 **▲▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す

・設定値：ON / OFF

5 **▲▼** を押して “テンションバー” を選び、**ENTER** キーを押す

6 **▲▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す

・設定値：ON / OFF

7 **▲▼** を押して “巻取り / 繰り出しスイッチ” を選び、**ENTER** キーを押す

8 **▲▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す

・設定値：動作継続 / 一時動作

動作継続：スイッチを押すごとに、巻取動作の ON/OFF を切り替えます。(動作中の巻取装置は、再度 ON/OFF スイッチを押すまで止まりません。)

一時動作：スイッチを押している間だけ、巻取動作を行います。(スイッチを放すと、巻取動作は止まります。)

9 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

トップブロウの設定

トップブロウの送風により、インク臭が気になる場合に OFF とします。ただし、乾燥性は低下し、にじみ等の原因となる場合がありますので、注意してください。

1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す

・マシン設定メニューが表示されます。

2 **▲▼** を押して “トップブロウ” を選び、**ENTER** キーを押す

3 **▲▼** を押して ON を選び、**ENTER** キーを押す

・“ON” を選ぶと、“強さ” の選択が可能になります。
・“OFF” を選ぶと、トップブロウは設定されません。
手順 6へ進んでください。

4 **▲▼** を押して “強さ” を選び、**ENTER** キーを押す

・設定値：AUTO / 弱 / 標準

重要!

・基本的には “AUTO” での使用を推奨します。お使いのインク種、プロファイル^{*1} に応じて適切な強度が適用されます。
*1) RL6 をお使いの場合
・Sb54 インクセットでトップブロウ使用時、にじみ等が発生する場合は “弱” に設定してください。“弱” にすることで、にじみが改善する場合があります。
・臭気が気になる場合、トップブロウの設定を OFF にして使用してください。ただし OFF で使用した場合、乾燥性が低下します。

5 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

メディア残量表示の設定

メディア残量表示の設定をします。

メディア残量表示をONにすると	リモートでメディア残量が表示されます。 (ただし、リーフメディアを使用した場合は、プリント長が表示されます。)
メディア残量表示をOFFにすると	リモートでメディア残量は表示されません。



- プリント、JOG キーによるフィード量が、メディア残量に反映されます。
- メディア長 (残量初期値) はロールメディア検出時に入力します。(P.2-12)
- ここで行う設定は、設定終了後にメディア検出を行わないと有効になりません。

1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す

- マシン設定メニューが表示されます。

2 **▲ ▼** を押して “メディア残量” を選び、**ENTER** キーを押す

3 **▲ ▼** を押して、ON/OFF を選ぶ

4 **ENTER** キーを押す

5 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

メディア検出の設定

メディア検出の設定では、以下の項目の設定をします。

メディア検出の設定	メディアをセットしたとき、メディアの幅を自動的に検出する (AUTO) または手動でプリント (またはカット) 範囲を決定する (MANUAL) を設定します。
使用ピンチローラーの確認	メディア検出時に使用しているピンチローラーの数を入力するか、設定します。
検出速度 対応機種：Plus シリーズ	検出方式を変更します。

メディア検出の設定と使用ピンチローラーの確認



- 黒いカッティングシートなど、センサーで検出できないメディアを使用する場合、メディア検出の設定を “MANUAL” にしてください。

1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す

- マシン設定メニューが表示されます。

2 **FUNC3 (>>)** を押す

3 **▲ ▼** を押して “メディア検出” を選び、**ENTER** キーを押す

4 **▲ ▼** を押して “メディア検出” を選び、**ENTER** キーを押す

5 **▲ ▼** を押して、AUTO/MANUAL を選ぶ

6 **ENTER** キーを押す

7 **▲ ▼** を押して “使用ピンチローラー確認” を選び、**ENTER** キーを押す

8 **▲ ▼** を押して、ON/OFF を選ぶ

9 **ENTER** キーを押す

10 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す



- 手順8でピンチローラー数の入力を “OFF” にすると、RasterLink6で設定したピンチローラー圧と使用個数が一致しない場合があります。ピンチローラー圧の設定 (P.2-11) を本機で行う場合のみ、この設定を “OFF” にしてください。

検出速度の設定

● 対応機種：Plus シリーズ (FW Ver.1.20以降)

1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す

- ・マシン設定メニューが表示されます。

2 **FUNC3** (>>) を押す

3 **▲▼** を押して“メディア検出”を選び、**ENTER** キーを押す

4 **▲▼** を押して“検出速度”を選び、**ENTER** キーを押す

5 **▲▼** を押して、“高速/標準”を選び、キー **ENTER** を押す

・設定値：高速/標準



- “高速”に設定した場合
- ・検出時間が短縮されます。
- 以下の場合、検出に失敗する可能性があります。その場合は“標準”に設定してください。
- ・検出センサーが通過するメディア上にプリントデータがある場合。
 - ・透明、反射メディア、カッティングシートなど白色以外のメディアを使用する場合。

6 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

600ml カートリッジをお使いの場合

600ml カートリッジ使用時に必要なもの

エコケース	600ml インクパックと付属のインク IC チップはエコケースにセットして使用します。本書ではこれを 600ml カートリッジと呼びます。
600 ml インクパック	
インク IC チップ *1	
はかり	本機では、インク残量計算のため、エコケース・600ml カートリッジの重量を入力する必要があります。重量測定用の秤をご用意ください。(正確なインク残量を管理するため、1g 単位まで測定できるものをご用意ください。)

*1. 600ml インクパックに付属。

600ml インクパックの取り付け / 取り外し

600ml インクパックの取り付け / 取り外し方法は、エコケースに添付しているラベルを参照してください。

600ml カートリッジご使用上のご注意

600ml カートリッジをインクステーションにセットするときは、必ずインクパックとインク IC チップを取り付けてください。



- ・本機では、カートリッジケースの中にインクパックが入っているかを判断できません。カートリッジをお使いになる場合は、必ず、インクパックを取り付けてください。
- ・インク IC チップを取り付けていない状態のエコケースを本機にセットすると、装置を破損するおそれがあります。必ず、エコケースにはインク IC チップを取り付けて使用してください。

カートリッジケースの重量を登録する

本機では、600mlカートリッジの重量からインク残量を計算するため、エコケースの重量を登録しておく必要があります。



次の場合にカートリッジケースの重量を登録してください。

- ・初めて 600ml カートリッジを使う場合
- ・エコケースの交換などにより、ケースの重量が変わった場合



- ・エコケースの重量は、ケース毎に誤差があります。正確なインク量を管理するために、必ず個々のエコケースの重量を登録してください。

初めて 600ml カートリッジをお使いになる とき

インクステーションのスロットに 600ml カートリッジをセットすると、自動的に重量登録機能が起動します。



1 カートリッジケースの重さを量る

- カートリッジケースのみの重さを量ります。
- インクパックが入っているときは、インクパックを抜いてから量ってください。

2 600ml カートリッジをインクスロットにセットする

- エコケースに 600ml インクパックとインク IC チップを取り付け、インクスロットにセットします。
- カートリッジケースの重量入力画面が表示されます。

3 を押して、カートリッジケースの重 さを入力する

- [][] を押して、重さを入力します。

4 キーを押す

- 複数のスロットに 600ml カートリッジをセットした場合、手順 2～3 の操作を繰り返します。
- 全ての登録が完了したら、重量登録機能が起動する前の状態に戻ります。

エコケースの重量が変わったとき

エコケースの交換などによりケースの重量が変わった場合、次の手順に従って、カートリッジケースの重量登録を行ってください。

1 ローカルで、 (MENU) (2 回) キーを押す

- マシン設定メニューが表示されます。

2 (>>) を押す

3 を押して “600ml カートリッジ” を 選び、 キーを押す

- スロットに 600ml カートリッジがセットされていないときは、[600ml カートリッジ] は表示されません。
- あらかじめ、カートリッジケースのみの重さを量ってから手順 3 以降の操作をすることをお勧めします。



4 キーを押す

5 を押して、スロットを選ぶ

- 選んだスロットが反転表示されます。

6 キーを押す

7 を押して、カートリッジケースの重 さを入力する

- [][] を押して、重さを入力します。

8 キーを押す

- スロットの選択画面に戻ります。
- 続けて、他のスロットの重量登録をする場合は、手順 4 からの操作をしてください。

9 終了するとき、 キーを数回押す

インクカートリッジ全体の重量を登録する

インク残量を補正する必要がある場合、次の手順に従って、インクカートリッジ全体の重量を登録します。

1 ローカルで、 (MENU) (2 回) キーを押す

- マシン設定メニューが表示されます。

2 (>>) を押す

3 を押して “600ml カートリッジ” を 選び、 キーを押す



- スロットに 600ml カートリッジがセットされていないときは、[600ml カートリッジ] は表示されません。
- あらかじめ、カートリッジケースのみの重さを量ってから手順 3 以降の操作をすることをお勧めします。

4 を押し、 キーを押す

5 を押して、スロットを選ぶ

6 キーを押す

7 を押して、カートリッジの重 さを入力する

- [][] を押して、重さを入力します。

8 キーを押す

- スロットの選択画面に戻ります。
- 続けて、他のスロットの重量登録をする場合は、手順 4 からの操作をしてください。

9 終了するとき、 キーを数回押す

[インクレベル ロー]を表示したら

600ml カートリッジのインク残量が少なくなると、[インクレベル]ワーニングが表示されます。このときは、インクレベルセット機能でカートリッジの重さを入力してください。

- 重要!**
- 本機は、600ml のカートリッジの重さを入力することによって、使用可能なインク残量を再計算します。
 - インクレベルセット機能は、ローカルモードまたはリモートモード（待機中または印刷中）のカートリッジ再セットで起動します。
 - カートリッジの重量は、グラム単位まで正確に量ってください。実際の重量よりも大きい数値を入力すると、ノズル抜けの原因となります。

● インクレベルセット機能の使い方

1 [インクレベル ロー]を表示したら、カートリッジを抜いて重さを量る

- 必ず、600ml インクパックがセットされている状態で量ってください。

インク レベル ロー
_ 2 _ 4 5 _ _ _

[インクレベル]ワーニングが発生しているカートリッジが表示されます。



- [インクレベル エンド]ワーニング表示をインクパック交換の目安としてお使いください。
- [インクレベル エンド]ワーニングを表示しているのに、インクパックにインクが残っているときは、手順2以降の操作をしてください。

- 重要!**
- インクパック内のインクを完全に使い切ることはできません。インク供給不良を防止するため、パック内には30ml程度のインクを残す必要があります。

2 カートリッジを再挿入する

3 ◀を押す

4 ▲▼を押して、カートリッジの重さを入力する

残量設定
残量設定 = 555 g 2

- ▲▼を押して、重さを入力します。

5

ENTER キーを2回押す

- 複数のスロットに600mlカート使用可能なインク残量が再計算されます。
- インク残量によって、表示された内容は異なります。
- [インクレベル]ワーニングが複数のカートリッジで発生した場合、手順4を繰り返します。

(1) 使用可能なインクが残っている場合

- ローカルまたはリモートモードに戻ります。
- インクレベルセット機能を実行した600mlカートリッジの状態が[インクレベル]ワーニングから[インクニアエンド]ワーニングに変わります。
- [インクニアエンド]ワーニングは、ガイダンス機能により確認できます。(P.3-30)

(2) インクが残っていない場合

- インクパックの交換を促すメッセージが表示されます。
- [ENTER] キーを押すと、ローカルまたはリモートモードに戻ります。
- インクレベルセット機能を実行した600mlカートリッジの状態が[インクエンド]ワーニングに変わります。
- [インクエンド]ワーニングは、ガイダンス機能により確認できます。(P.3-30)

重要!

- [インクパック交換]が表示されたら、速やかに新しいインクパックと交換してください。(使用可能なインクを使い切った状態になっています。)
- インクパック内のインクを完全に使い切ることはできません。インク供給不良を防止するため、パック内には30ml程度のインクを残す必要があります。(600ml使えるように、パック内にはあらかじめ630ml以上のインクが入っています。)

● 手順5でエラーになるとき

本機能は、600ml カートリッジの重量からインクパックに残っているインク残量を算出し、算出したインク残量をカートリッジのインク IC チップに保存します。カートリッジが抜かれていたり、インク IC チップの接触に問題があると、保存ができないため、エラーメッセージ“ERROR 614 ホゾン シッパイ”を表示してお知らせします。メッセージが表示されたら、カートリッジを正しくセットし、再度手順2からの操作をしてください。

メンテナンス機能実行時のエラーについて

600ml カートリッジで、ヘッドクリーニングやインク充填などのメンテナンス機能を行う場合、インクニアエンドが発生していても、機能を実行するのに必要なインクが残っていれば、指定した機能を実行することができます。インク残量が不足している場合はエラーメッセージ“ERROR 614 ホゾン シッパイ”が表示され、選択したメンテナンス機能は実行されません。

言語の設定

表示言語を変更します。

- 1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す
 ・マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **FUNC3** (>>) を押す
- 3 **▲▼** を押して “LANGUAGE” を選び、**ENTER** キーを押す
- 4 **▲▼** を押して言語を選び、**ENTER** キーを押す
- 5 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

時刻の設定

お使いの国に合わせた時刻(時差)に設定することができます。

- 1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す
 ・マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **FUNC3** (>>) を押す
- 3 **▲▼** を押して “時刻” を選び、**ENTER** キーを押す
- 4 **▲▼◀▶** を押して時刻を入力し、**ENTER** キーを押す
 ・時分の選択 : [◀][▶] で選ぶ
 ・時分の入力 : [▲][▼] で入力
- 5 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す
 ・-20 ~ +4 時間の間で、設定できます。



単位(温度/長さ)の設定

本機で使用する単位を設定します。

- 1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す
 ・マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **FUNC3** (>>) を押す
- 3 **▲▼** を押して “単位/温度” または “単位/長さ” を選び、**ENTER** キーを押す
- 4 **▲▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す
 ・温度の設定値 : °C/°F
 ・長さの設定値 : mm/inch
- 5 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

重要! ・カッティング系の表示では一部 “mm” 単位表示のままのものがああります。

キーブザーの設定

キーを押したときのブザー音を消すことができます。

- 1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す
 ・マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **FUNC3** (>>) を 2 回押す
- 3 **▲▼** を押して “キーブザー” を選び、**ENTER** キーを押す
- 4 **▲▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す
 ・設定値 : ON/ OFF
- 5 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す



・設定を “OFF” にしても、エラー / 警告 / 動作完了等のブザー音を消すことはできません。

確認フィードの設定

テストプリントなどのプリント結果を確認するためにメディアのフィードを行うか設定します。

- 1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(▼)** (2回) → **(ENTER)** キーを押す
 - ・マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **(FUNC3) (>>)** を 2 回押す
- 3 **(▲▼)** を押して “確認フィード” を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 4 **(▲▼)** を押して設定値を選び、**(ENTER)** キーを押す
 - ・設定値：ON/ OFF
- 5 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す

余白フィード方式の設定

画像データに含まれる余白部分(プリントするデータの無い部分)のフィード方式を変更します。余白部分の多いデータをプリントする場合、“連続” に設定することで、プリント時間を短縮することができます。

- 1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(▼)** (2回) → **(ENTER)** キーを押す
 - ・マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **(FUNC3) (>>)** を 2 回押す
- 3 **(▲▼)** を押して “余白フィード方式” を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 4 **(▲▼)** を押して設定値を選び、**(ENTER)** キーを押す
 - 間欠：パス分割単位での間欠フィード動作を行う
 - 連続：データがない部分を一度にフィードする
- 5 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す

ネットワークの設定

- 1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(▼)** (2回) → **(ENTER)** キーを押す
 - ・マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **(FUNC3) (>>)** を 2 回押す
- 3 **(▲▼)** を押して “ネットワーク” を選び、**(ENTER)** キーを押す

- 4 **(▲▼)** を押して “IP アドレス確認” を選び、**(ENTER)** キーを押す
 - ・現在、本機で使用中の IP アドレスが表示されます。
 - ・確認が終わったら [ENTER] キーを押してください。



- ・ネットワークに接続後、IP アドレスが確定するまで時間がかかります。IP アドレス未確定の場合、「0.0.0.0」と表示します。

- 5 **(▲▼)** を押して “MAC アドレス確認” を選び、**(ENTER)** キーを押す
 - ・現在、本機で使用中の MAC アドレスが表示されます。
 - ・確認が終わったら [ENTER] キーを押してください。
- 6 **(▲▼)** を押して “DHCP” を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 7 **(▲▼)** を押して設定値を選び、**(ENTER)** キーを押す
 - ・設定値：ON/ OFF
 - ・ON の場合、DHCP サーバーより与えられた IP アドレスを使用します。

- 8 **(▲▼)** を押して “AutoIP” を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 9 **(▲▼)** を押して設定値を選び、**(ENTER)** キーを押す
 - ・設定値：ON/ OFF
 - ・オンの場合、AutoIP プロトコルにより使用する IP アドレスを決定します。ただし、DHCP が ON の場合は DHCP を優先します。

- 10 **(▲▼)** を押して “IP アドレス” を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 11 **(▲▼)** を押して設定値を選び、**(ENTER)** キーを押す
 - ・設定値：ON/ OFF
 - ・DHCP、AutoIP が両方オフの場合、IP アドレスの設定ができます。それ以外の場合、手順 14 へ進みます。

- 12 **(FUNC3)** キーを押す
 - ・デフォルトゲートウェイ/DNS アドレス/サブネットマスクの設定項目が表示されます。
 - ・DHCP、AutoIP が両方オフの場合、デフォルトゲートウェイ /DNS アドレス /サブネットマスクの設定ができます。それ以外の場合、手順 14 へ進みます。

- 13 **(▼)** を数回押して設定項目を選び、**(ENTER)** キーを押す

- 14 **(▲▼)** を押して設定値を選び、**(ENTER)** キーを押す

- 15 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す



- ネットワークの設定を反映するには、一度電源をオフにし、再度電源をオンにしてください。

イベントメール機能の設定

プリントの開始/終了や、エラーによる中断などのイベントが発生した際に、設定したメールアドレスにメールを送信する機能を設定します。

- 免責事項
- メール通知その他、インターネットの通信が発生した場合の通信費用は、お客様負担となります。
- イベントメール機能による通知は、インターネット環境や機器の故障、電源の故障などの要因により、不達となることがあります。不達や遅延があった場合などおいて発生した損害について、弊社では責任を負いかねます。

- 重要!**
- イベントメール機能は本機をLAN接続することによって使用できます。あらかじめLANケーブルの接続をしておいてください。
 - SSL通信には対応していません。

イベントメール機能を有効にする

- 1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(▼)** (2回) → **(ENTER)** キーを押す
 • マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **(FUNC3) (>>)** を2回押す
- 3 **(▲)** **(▼)** を押して“イベントメール”を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 4 **(▲)** **(▼)** を押して“メール送信”を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 5 **(▲)** **(▼)** を押して“ON”を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 6 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す

イベントメールを送るイベントを設定する

- 1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(▼)** (2回) → **(ENTER)** キーを押す
 • マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **(FUNC3) (>>)** を2回押す
- 3 **(▲)** **(▼)** を押して“イベントメール”を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 4 **(▲)** **(▼)** を押して“送信イベント選択”を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 5 **(▲)** **(▼)** を押してイベントを選び、**(FUNC2) (✓)** を押す
 • イベント選択後に **[FUNC2]** を押して、チェックボックスにチェックを入れてください。チェックが入っているイベントが起こったときに、メール送信を行います。
 • 複数のイベントを選択したい場合は、**[▲][▼]** を押して選択したいイベントにカーソルを合わせ、**[FUNC2]** を押してチェックを入れてください。

イベント名	概要
プリントスタート	プリント開始時にメールを送信する/しないを設定します。
プリントエンド	プリント終了時にメールを送信する/しないを設定します。
エラー	エラー発生によるプリント中断時にメールを送信する/しないを設定します。
ワーニング	プリント中のワーニング発生時にメールを送信する/しないを設定します。
その他	上記以外のイベント発生時にメールを送信する/しないを設定します。

- 6 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す

メールアドレスを設定する

- 1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(▼)** (2回) → **(ENTER)** キーを押す
 • マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **(FUNC3) (>>)** を2回押す
- 3 **(▲)** **(▼)** を押して“イベントメール”を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 4 **(▲)** **(▼)** を押して“メールアドレス”を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 5 **(▲)** **(▼)** **(◀)** **(▶)** を押してアドレスを設定し、**(ENTER)** キーを押す
 • イベントメールを送信するメールアドレスを設定します。
 • 英数字、記号、96文字以内で設定します。
- 6 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す

件名を設定する

- 1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す
・マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **FUNC3 (>>)** を2回押す
- 3 **▲▼** を押して“イベントメール”を選び、**ENTER** キーを押す
- 4 **▲▼** を押して“件名”を選び、**ENTER** キーを押す
- 5 **▲▼◀▶** を押して件名を設定し、**ENTER** キーを押す
・イベントメールの件名に記載する文字を設定します。
・英数字、記号、8文字以内で設定します。
- 6 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

サーバーを設定する

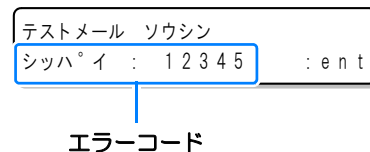
- 1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す
・マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **FUNC3 (>>)** を2回押す
- 3 **▲▼** を押して“イベントメール”を選び、**ENTER** キーを押す
- 4 **▲▼** を押して“サーバー設定”を選び、**ENTER** キーを押す
- 5 **▲▼** を押して“SMTP アドレス”を選び、**ENTER** キーを押す
- 6 **▲▼◀▶** を押してSMTPアドレスを設定し、**ENTER** キーを押す
・**▲▼◀▶** を押して、SMTP アドレスを設定します。
・SMTP アドレス名を入力してください。
- 7 **▲▼** を押して“SMTP ポート No.”を選び、**ENTER** キーを押す
- 8 **▲▼** を押してSMTPポートNo.を設定し、**ENTER** キーを押す
・SMTP のポート番号を設定します。
- 9 **▲▼** を押して“送信元メールアドレス”を選び、**ENTER** キーを押す

- 10 **▲▼◀▶** を押して送信元メールアドレスを設定し、**ENTER** キーを押す
・**▲▼◀▶** を押して、送信元メールアドレスとして使用するアドレスを設定します。
・英数字、記号、64文字以内で設定します。
 ・使用するサーバーによっては、アカウントに対応したメールアドレスを設定しないとメールを送信できない場合があります。
- 11 **▲▼** を押して“認証方式”を選び、**ENTER** キーを押す
- 12 **▲▼** を押して認証方式を設定し、**ENTER** キーを押す
・SMTP サーバーの認証方式を設定します。
・[オフ]を選択した場合、手順20に進みます。
- 13 **▲▼** を押して“ユーザー名”を選び、**ENTER** キーを押す
- 14 **▲▼◀▶** を押してユーザー名を設定し、**ENTER** キーを押す
・**▲▼◀▶** を押して、認証に使用するユーザー名を設定します。
・英数字、記号、30文字以内で設定します。
- 15 **▲▼** を押して“パスワード”を選び、**ENTER** キーを押す
- 16 **▲▼◀▶** を押してパスワードを設定し、**ENTER** キーを押す
・**▲▼◀▶** を押して、認証に使用するパスワードを設定します。
・英数字、記号、15文字以内で設定します。
 ・パスワードの設定画面では、現在入力中の値のみ確認が可能です。
・手順11で [POP before SMTP] を選択した場合、手順16～19を設定します。
- 17 **▲▼** を押して“POP3 アドレス”を選び、**ENTER** キーを押す
- 18 **▲▼◀▶** を押してPOP3 アドレスを設定し、**ENTER** キーを押す
・**▲▼◀▶** を押して、POP サーバーを設定します。
・POP サーバー名を入力してください。
- 19 **▲▼** を押して“APOP”を選び、**ENTER** キーを押す
- 20 **▲▼** を押してON/OFFを設定し、**ENTER** キーを押す
- 21 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

テストメールを送信する

- 1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す
 ・マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **FUNC3** (>>) を2回押す
- 3 **▲** **▼** を押して“イベントメール”を選び、**ENTER** キーを押す
- 4 **FUNC3** (>>) → **ENTER** キーを押す
 ・“テストメール送信”が選択されます。

- 5 **ENTER** キーを押す
 ・送信結果が表示されます。
 ・テストメールの送信に失敗した場合、エラーコードが表示されます。
 次ページを参照し、対処してください。



- 6 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

- 重要!**
- ・テストメールの送信結果は、本機がメールサーバーに対して行ったメール送信処理の結果です。メールが宛先に届いたことを示すものではありません。
 - ・メールを受信する端末側で迷惑メールフィルタなどを設定している場合、「ソウシンカンリョウ」となってもメールが届かない場合があります。
 - ・テストメールの送信に失敗した場合、以下のエラーコードが表示されます。
 - ・エラーが解消されない場合、時間を置いてから試してみてください。
 - ・サーバーの設定等については、ネットワーク管理者またはプロバイダにご相談ください。

エラーコード	予想される原因	対処方法
10	ネットワーク接続エラー	<ul style="list-style-type: none"> ・装置がネットワークに接続されていることを確認してください。 ・装置の IP アドレスが正しいことを確認してください。 ・装置が DNS を利用することのできる環境であることを確認してください。
20	有効なメールアドレスがありません	<ul style="list-style-type: none"> ・正しいメールアドレスを入力してください。
11003 11004	POP サーバーが見つかりません または、DNS サーバーにアクセスできません	<ul style="list-style-type: none"> ・POP サーバーのアドレスを確認してください。 ・装置が DNS を利用することのできる環境であることを確認してください。
11021	POP サーバーに接続できません	<ul style="list-style-type: none"> ・POP サーバー設定を確認してください。 ・ファイアウォールの設定を確認してください。
12010	POP サーバーからエラーが返答されました	<ul style="list-style-type: none"> ・POP サーバーの設定を確認してください。
13000	POP 認証に失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー名とパスワードを確認してください。 ・APOP の設定を確認してください。 ・認証方式を確認してください。
10013 10014	SMTP サーバーが見つかりません または、DNS サーバーにアクセスできません。	<ul style="list-style-type: none"> ・SMTP サーバーのアドレスを確認してください。 ・装置が DNS を利用することのできる環境であることを確認してください。
10021	SMTP サーバーに接続できません	<ul style="list-style-type: none"> ・SMTP サーバー設定を確認してください。 ・SMTP ポート番号を確認してください。 ・ファイアウォールの設定を確認してください。
10*** 11*** 20*** 21***	SMTP サーバーからエラーが返答されました または応答がありません	<ul style="list-style-type: none"> ・SMTP サーバーの設定を確認してください。 ・SSL 通信が必須のサーバーとは通信できません。 ・プロトコルフィルタの設定を確認してください。
12***	無効な送信元メールアドレスです	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー名、パスワードに入力したアカウントに対応したメールアドレスが送信元メールアドレスに設定されているか、確認してください。
13***	メールの宛先が見つかりません または、無効なメールアドレスです	<ul style="list-style-type: none"> ・メールアドレスを確認してください。 ・メールアドレスに間違いがあっても、本エラーが検出できない場合があります。 ・ユーザー名、パスワードに入力したアカウントに対応したメールアドレスが送信元メールアドレスに設定されているか、確認してください。
22000 22008	SMTP 認証エラー	<ul style="list-style-type: none"> ・認証方式を確認してください。
23*** 24*** 25***	SMTP 認証に失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー名とパスワードを確認してください。

“***” はメールサーバーから返答されたエラーコード

自動リモート

● 対応機種：Plus シリーズ (FW Ver.1.30以降)

ローカルでデータを受信すると自動的にリモートモードへ移行し、プリントを開始する機能です。

- 1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す
 ・マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **FUNC3 (>>)** を押す
- 3 **▲ ▼** を押して“自動リモート”を選び、**ENTER** キーを押す。
- 4 **▲ ▼** を押して、**ON/OFF** を選び、**ENTER** キーを押す。
 - ・ **ON** : ローカルでデータを受信すると自動的にREMOTEへ移行しプリントを開始します。
 - ・ **OFF** : REMOTEキーを押すとリモート移行しプリントを開始します。
- 5 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す。

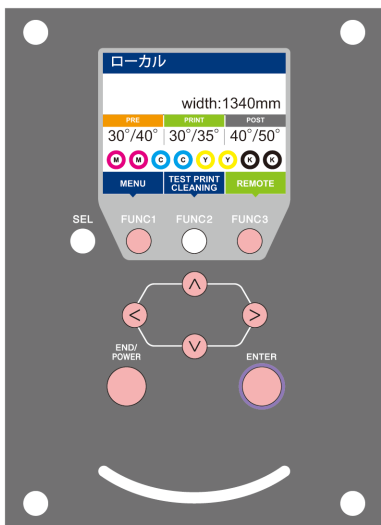
設定した内容を初期状態に戻す

「設定」「メンテナンス」「マシン設定」で設定した内容をお買い上げ時の状態に戻します。

- 1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **▼** (2回) → **ENTER** キーを押す
 ・マシン設定メニューが表示されます。
- 2 **FUNC1 (<<)** を押す
- 3 **▲ ▼** を押して“リセット”を選び、**ENTER** キーを押す
- 4 **ENTER** キーを押す
 ・設定を初期化します。
- 5 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

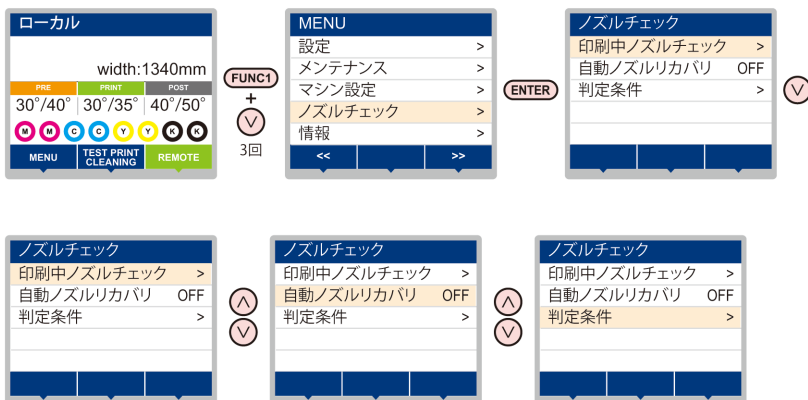
ノズルチェックメニューについて

ノズル抜け検出機能に関するオペレーションを設定します。



- FUNC1** : 情報メニューを選ぶときに押す
- FUNC3** : 次の画面に切り替えるときに押す
- ▲ ▼** : 設定項目を選択するときを押す
- ENTER** : 設定を確定するときなどに押す

◆ NCU 設定メニュー一覧



ノズルチェックメニュー一覧表

機能名称		設定値	初期値	概要	
印刷中ノズルチェック (P.3-28)		ON/OFF	OFF	オンライン印刷の開始時にノズルチェックしたい場合、設定します。	
(ON)	チェック 間隔	距離	0.1 ~ 50.0m	30.0m	設定した距離毎にノズルチェックを行います。
		ファイル	1 ~ 100 ファイル	30 ファイル	設定したファイル数毎にノズルチェックを行います。 ^{*1}
	復旧動作	クリーニング	ソフト/ノーマル/ハード	ソフト	復旧動作時に行うクリーニングの種類を設定します。
		リトライ回数	0 ~ 3 回	0 回	設定回数分、リトライ動作を繰り返します。
自動ノズルリカバリ (P.3-28)		ON/OFF	OFF	自動でノズルリカバリしたい場合に設定します。	
判定条件 (P.3-28)		1 ~ 180 ノズル	1 ノズル	色ごとに何本のノズル抜けを検出したら「ノズル抜け」と判定するか設定します。(1 ノズル列最大 16 本) ^{*2}	

*1. プリントの途中で設定した距離に達した場合は、次のプリント開始時にノズルチェックを行います。
 *2. プリント条件により、ノズルリカバリが適用されない場合があります。

印刷中ノズルチェックの流れ

プリント開始時に以下の流れでノズルチェックを行います。

- 重要!**
- ・「印刷中ノズルチェック」の設定を「ON」にすると、有効になります。
 - ・リトライ、自動ノズルリカバリの設定は、設定が有効な場合のみ行います。

1 ノズルチェック → 判定

ノズル抜けを検出します。

2 復旧動作 → ノズルチェック → 判定

ノズルチェック後「判定条件」以上のノズル抜けがあった場合、クリーニングを行ってから再度ノズルチェックを行います。

3 リトライ → 判定

復旧動作後「判定条件」以上のノズル抜けがあった場合、再度復旧動作を行います。

- ・「リトライ回数」の設定を1回以上にすると、有効になります。

4 自動ノズルリカバリ → 判定

ノズルチェックならびに復旧動作後、自動でノズルリカバリを行います。

- ・「自動ノズルリカバリ」の設定を「ON」にすると、有効になります。

5 ノズル抜け判定

最終的に「判定条件」以上のノズル抜けがあった場合は、プリント継続不可能と判定して、プリントを停止します。

3

「ノズル抜け」判定時ならびにエラー発生時の印刷動作

- 「ノズル抜け」と判定された場合 → プリントを停止します。
- ノズルチェック実施中にエラーが発生した場合 → 印刷を停止し、自動的に「印刷中ノズルチェック」を「OFF」に設定します。エラーから復旧後は、再度「印刷中ノズルチェック」の設定を行ってください。

印刷中ノズルチェックの設定

オンライン印刷の開始時にノズルチェックしたい場合、ON に設定します。

- 1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **▼** (3回) → **ENTER** キーを押す
 ・ノズルチェックメニューが表示されます。
- 2 **▲▼** を押して“印刷中ノズルチェック”を選び、**ENTER** キーを押す
- 3 **▲▼** を押して ON を選び、**ENTER** キーを押す
 ・“チェック間隔”の設定画面が表示されます。
 ・“OFF” を選ぶと、ノズルチェックは設定されません。手順 11 へ進んでください。
- 4 **ENTER** キーを押す
- 5 **▲▼** を押して設定項目を選び、**ENTER** キーを押す
 ・ノズルチェックの間隔を“距離”または“ファイル”から選びます。
 距離: プリントした距離が設定した長さに達すると、ノズルチェックを行う
 ファイル: プリントしたファイル数が設定した数に達すると、ノズルチェックを行う
- 6 **▲▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す
 ・手順 5 で選んだ設定項目により、設定値は異なります。
 距離: 0.1 ~ 100m
 ファイル: 1 ~ 300 ファイル
- 7 **ENTER** キーを 2 回押す
 ・“復旧動作”の設定画面が表示されます。
- 8 **ENTER** キーを押す
 ・“クリーニング種別”が選択されます。
- 9 **▲▼** を押してクリーニングタイプを選び、**ENTER** キーを押す
 設定値: OFF / ソフト / ノーマル / ハード
- 10 **▲▼** を押してリトライ回数を選び、**ENTER** キーを押す
 設定値: 0 ~ 3 回
- 11 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

自動ノズルリカバリの設定

ノズル抜け判定された場合に自動でノズルリカバリしたい場合に設定します。

- 1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **▼** (3回) → **ENTER** キーを押す
 ・ノズルチェックメニューが表示されます。
- 2 **▲▼** を押して“自動ノズルリカバリ”を選び、**ENTER** キーを押す
- 3 **▲▼** を押して ON/OFF を選び、**ENTER** キーを押す
- 4 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

判定条件の設定

ノズル抜けの判定条件を設定します。

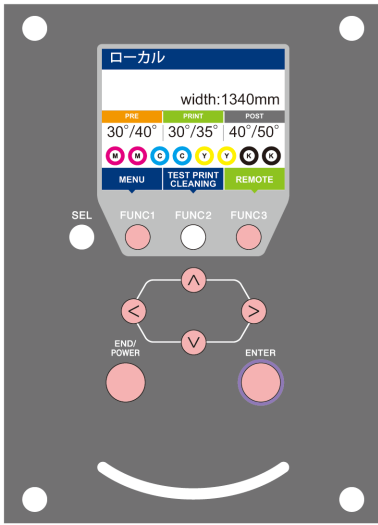
- 1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **▼** (3回) → **ENTER** キーを押す
 ・ノズルチェックメニューが表示されます。
- 2 **▲▼** を押して“判定条件”を選び、**ENTER** キーを押す
- 3 **▲▼** を押して色を選び、**ENTER** キーを押す
 ・インクセットにより、色の種類は変わります。
- 4 **▲▼** を押して判定ノズル数を設定して、**ENTER** キーを押す
- 5 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す



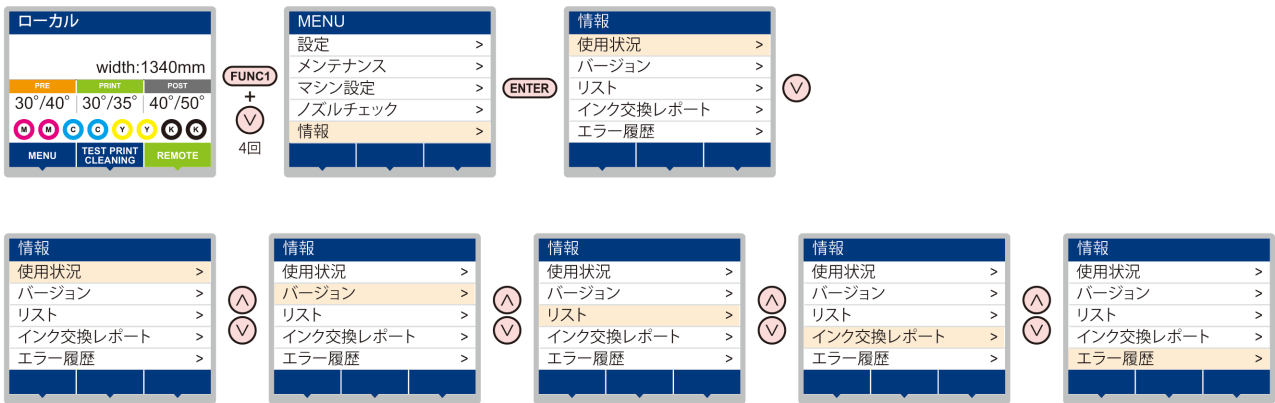
・インクセットにより、色の種類は変わります。

情報メニューについて

本機の装置情報を確認できます。
確認できる装置情報は、次の項目です。



- FUNC1** : 情報メニューを選ぶときに押す
- FUNC3** : 次の画面に切り替えるときに押す
- ▲▼** : 設定項目を選択するときに押す
- ENTER** : 設定を確定するときなどに押す



情報メニュー一覧表

項目		内容
使用状況	ワイピング情報	ワイピングした回数が表示されます。
	廃インクタンク情報	廃インクタンクに溜まっている廃インクが何%になっているか、目安が表示されます。
	プリント長情報	今までプリントした長さが表示されます。
	プリント面積情報	今までプリントした面積が表示されます。
	使用時間	今までの使用時間が表示されます。
	スパウトゴム	スパウトゴムの使用時間が表示されます。(MBIS 使用時のみ表示)
バージョン		装置のバージョン情報が表示されます。
リスト		装置の設定内容をプリントします。
インク交換レポート		装置で使用したインクの履歴をプリントします。
エラー履歴		現在までに発生したエラー、ワーニング履歴が表示されます。 【▲】【▼】を押して、発生順に発生日時(年月日時分)とエラー、ワーニング情報を切り替えて表示します。

情報を表示させる

1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **▼** (4回) → **ENTER** キーを押す

- ・情報メニューが表示されます。

2 **▲** **▼** を押して情報を選ぶ

- ・「情報メニュー一覧表」を参照して、表示する情報を選びます。

3 **ENTER** キーを押す

- ・手順2で[リスト]を選んだ場合、装置の設定内容がプリントされます。

4 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す



- ・ワイパーの使用カウントをリセットしたい場合、ディスプレイに“クリアしますか?”を表示中に [FUNC2] キーを押します。[ENTER] キーを押すと、ワイピング回数をリセットします。
 - ・使用状況の“ワイピング情報”、“廃インクタンク情報”、“スパウトゴム”を表示中にファンクションキーを押すと、使用カウントをリセットすることができます。
- ワイピング情報をリセットする場合: [FUNC2] を押す
 廃インクタンク情報をリセットする場合: [FUNC1] を押す
 スパウトゴムをリセットする場合: [FUNC3] を押す

第4章 カット機能



この章では ...

カット機能について説明します。

トンボ付きデータをカットする.....	2-2	トンボセンサーのメンテナンス	4-14
トンボ付きデータをカットする流れ.....	2-2	サンプルをカットして、カット異常の原因を調	
トンボ付きデータ作成に関する注意事項 ...	4-3	べる.....	4-16
トンボ検出の設定	4-5	一定の長さのメディアを複数枚カットする	
トンボを検出する	4-6	4-16
ID カット	4-6	トンボが無いデータをカットするために (PC	
カッティングメニューについて.....	4-7	原点オフセット).....	4-17
カッティングメニュー一覧表	4-8	スケール補正の設定をする.....	4-18
カットモードの設定.....	4-9		
同じデータを複数枚カットする (コピー機能) ..			
.....	4-9		
設定サブメニュー	4-10		
分割カットの設定	4-10		
メディアの切り残しをなくす (オーバーカット			
機能).....	4-12		
その他の設定サブメニュー	4-12		
設定リセット.....	4-13		
メンテナンス機能	4-14		

トンボ付きデータをカットする

トンボ付きデータをカットする流れ

重要!

- 次の各設定項目については、接続しているホスト PC でお使いの RIP ソフトウェアからプリント時に指定した設定値に従って動作するように設定できます。
- **設定項目**：乾燥時間 / マージン (左右) / 吸着 / フィード速度レベル
- 各項目を“ホスト”に設定すれば、RIP の設定内容に従って動作します。本機での設定を優先させたいときは、“ホスト”以外に設定してください。
- RIP ソフトウェアでの指定方法については、RIP ソフトウェアの取扱説明書をご参照ください。

トンボ付きデータを作成する

「トンボ付きデータ作成に関する注意事項」(P.4-3)を参照してください。

トンボ付きプリントデータをプリントする

「プリントの流れ」(P.2-2)を参照してください。

カッティングの準備をする

「カットの流れ」(P.2-20)の、「メディアをセットする」(P.2-4)～「テストカットをする」(P.2-26)を参照してください。

プリントしたトンボの情報を登録する

「トンボ検出の設定」(P.4-5)を参照してください。

トンボの原点を検出する

「トンボを検出する」(P.4-6)を参照してください。

データをカットする

「データをカットする」(P.2-26)を参照してください。

トンボ付きデータ作成に関する注意事項

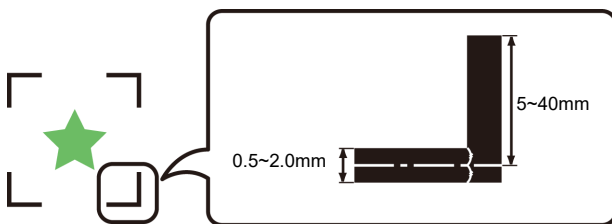
トンボ付きデータの作成方法にはいくつかの制限事項があります。
トンボ機能を十分に活用していただくために、以下の注意事項をよくご覧になり、正しい知識でトンボ作成を行ってください。

- 重要!** ・ここで説明するトンボは、メディアの傾きや X 軸・Y 軸の長さを検出するためのものであり、裁ち落とトンボとは異なります。

トンボの大きさ

トンボの長さは、線幅のおよそ 10 倍以上を目安にしてください。

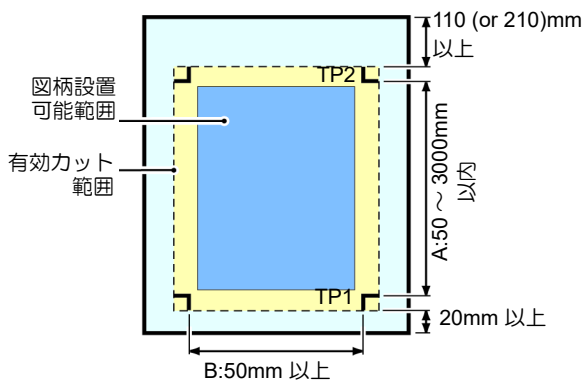
また、データに対するトンボの 1 辺の長さの目安は、「トンボの距離とトンボサイズの目安」(図 P.4-4) を参照してください。



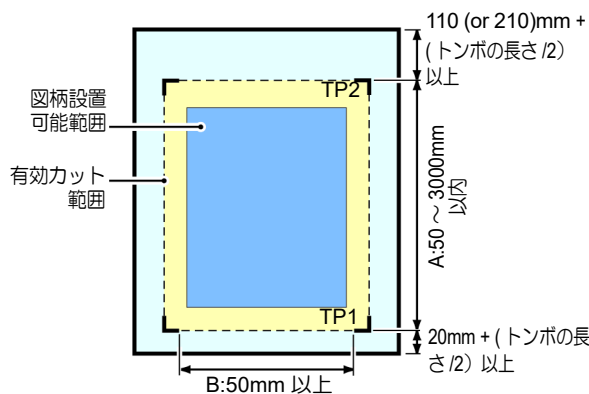
トンボと図柄の配置可能範囲

- ・ TP1 の開始位置は、メディア前端から 20mm 以上あげてください。
- ・ TP2 の終わりは、メディア後端から 110mm 以上あげてください。弊社 RIP 用ソフトウェア (RasterLink) を使ってデータをコピーする場合は、メディア後端から 210mm 以上あげてください。

トンボ形状：タイプ 1



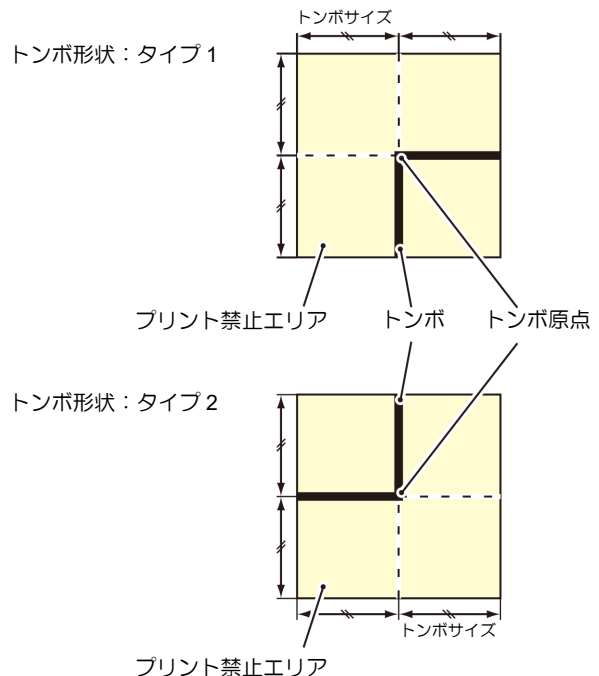
トンボ形状：タイプ 2



トンボ周辺のプリント禁止エリア

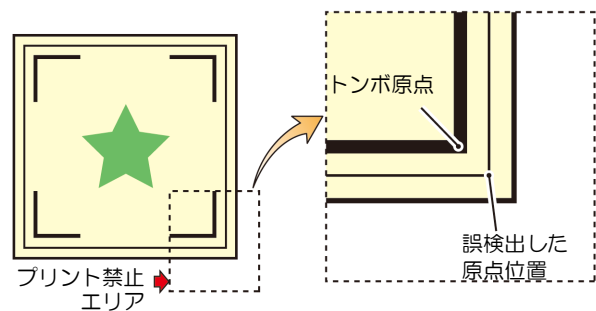
トンボ周辺 (トンボの原点からトンボサイズ分のエリア) は、プリント禁止エリアです。データをプリントしない、また、汚れがないようにしてください。
トンボ原点を誤検出したり、トンボ読み取りエラーになる場合があります。

- 重要!** ・トンボ原点を誤検出すると、カット位置がずれてしまいます。



トンボ原点誤検出の例 1

トンボの外側を囲むプリントがあった場合



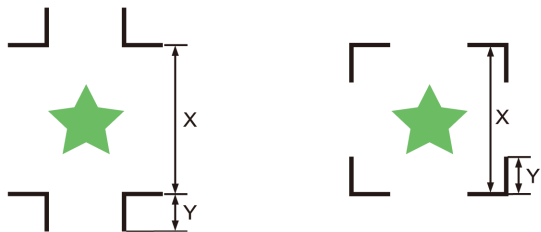
トンボ原点誤検出の例 2

トンボの間隔 (TP2 と TP1、TP4 と TP2) がトンボの長さ以上あいていない (トンボ形状がタイプ 2 の場合)



トンボの距離とトンボサイズの目安

トンボの距離 (X) に対するトンボサイズ (Y) の目安は以下の通りです。
 トンボの距離 (X) に対してトンボサイズ (Y) が小さすぎると、トンボを正しく検出できない場合があります。適正なサイズでトンボを作成してください。



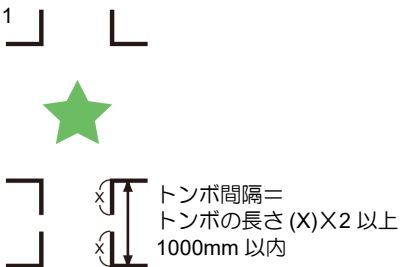
X	200 以下	500 以下	1000 以下	2000 以下	2001 以上
B	5 ~ 40	8 ~ 40	15 ~ 40	25 ~ 40	35 ~ 40

単位 (mm)

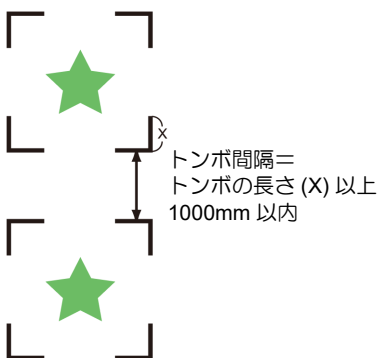
コピーする図形間のトンボ間隔

トンボ形状がタイプ1の場合には、トンボ1辺の長さの2倍以上 1000mm 以下にしてください。トンボ形状がタイプ2の場合は、トンボ1辺の長さ以上 -1000mm 以下にしてください。

トンボ形状：タイプ1

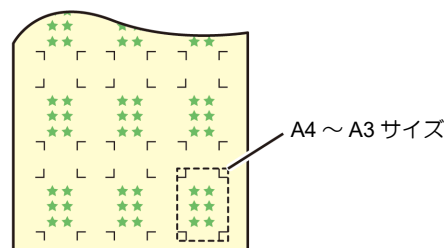


トンボ形状：タイプ2



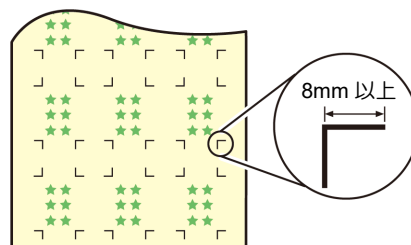
推奨するトンボ4辺を含めた大きさ

トンボ4辺を含めた大きさは A4 サイズ (210mm x 297mm) 以上 ~ A3 サイズ (297mm x 420mm) 程度にしてください。
 無駄な余白が少なくなり、効率よく図柄を配置することができます。



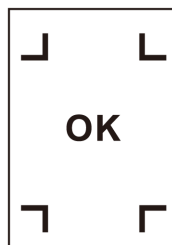
連続してトンボを印刷する場合

トンボ1辺の長さを 8mm 以上にしてください。8mm 以下のトンボを連続読み取りした場合、本機が誤動作をする場合があります。



トンボの色

白地に黒色のトンボであること。
 地の色が白色以外の場合やトンボが黒色以外の場合、トンボ検出を正常に行うことができません。



トンボのにじみ

トンボがにじんでいると、トンボ原点を誤検出してカットがずれる場合があります。



プリント&カットの複合動作に関する注意事項

RasterLink6 以降のアプリケーションソフトを使ってプリント&カットの複合動作を行う場合、次の項目にご注意ください。

- (1) 本機に付属したアプリケーションソフト (RasterLink/ FineCut) を使ったプリント&カットの複合動作では、以下の設定内容はソフト側の指示に従います。本機で設定した内容は無効になりますのでご注意ください。

- ・トンボサイズ
- ・トンボ形状

- (2) トンボマークが無い場合でのプリント&カットの複合動作では、巻取装置を使ったプリント&カットは実行できません。

- ・巻取装置を使ったプリント&カット



- ・上記の条件以外にも、プリントデータの大きさにより、カットラインがずれる場合がありますので、プリント&カットの複合動作をするときも、トンボ付のデータでの作業を推奨します。

トンボ検出の設定

トンボ付きのデータをカットするときは、必ず下の設定をしてください。

- 1** ローカルで、**[FUNC1] (MENU)** → **[FUNC3] (>>)**

→ **[ENTER]** キーを押す

- ・カッティングメニューが表示されます。

- 2** **[▲]** **[▼]** を押して “トンボ検出” を選び、**[ENTER]** キーを押す

- 3** **[▲]** **[▼]** を押して設定項目を選び、**[ENTER]** キーを押す

- ・「トンボ検出の設定項目」(P.4-5) を参照してください。

- 4** **[▲]** **[▼]** を押して設定値を選び、**[ENTER]** キーを押す

- ・設定値：標準、高速、高品位

- 5** 終了するとき、**[END/POWER]** キーを数回押す



- ・ローカルから **[FUNC1](MENU)** を押さなくても、トンボ検出の設定をすることができます。
- (1) ローカルで **[SEL]** キーを押して、“TEST CUT” を表示させる
 - (2) **[FUNC2](TEST CUT)** を押す
 - (3) **[ENTER]** キーを押す
 - ・この後は「トンボ検出の設定」手順 3 からの操作をしてください。

トンボ検出の設定項目

トンボ検出の設定項目には、次の 7 項目があります。

(1) 検出

設定値	概要
ON/OFF	ON にすると、トンボ検出ができるようになります。

(2) 形状

3 種類のトンボの形状から選択します。



- ・カッティングソフトウェアのコピー機能を使って連続カットをする場合、ゼロマーシンのトンボを選択すれば、トンボとトンボの間に余白がない状態に配置することができます。トンボ間の余白を無くして、効率的にカットをしたい場合は、“ゼロマージン”のトンボ形状をご使用になることをお勧めします。

設定値	概要
タイプ 1	
タイプ 2	
余白なし	

(3) サイズ

トンボ 1 辺の長さを設定します。

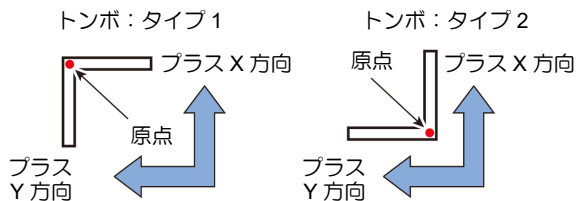
1 辺の長さ



設定値	概要
5 ~ 40mm	印刷したトンボの縦・横の線の長さが違う場合は、短い方に設定します。

(4) オフセット X/ オフセット Y

通常、原点の位置は下図の位置になります。
 しかし、お使いのアプリケーションやカットするメディアによっては、カット位置が同一方向にずれる場合があります。この場合、原点の位置を修正することができます。



設定値	概要
± 15.00mm	X方向/Y方向に原点位置をずらすことができます。

重要! 原点位置が有効カット範囲から外れると、[エラー 37 トンボゲンテン]が表示されます。この場合、トンボの位置を用紙の中心側に書くようにしてください。

(5) 検出 END キー起動

設定値	概要
ON/OFF	ONにすると、[END]キーでトンボ検出ができるようになります。

重要! ONに設定すると、電源OFFの操作でトンボ検出動作を起動してしまう場合があります。

(6) センサー感度

設定値	概要
1 ~ 7	数値が大きいほど、トンボセンサーが高感度になります。トンボの検出ができない場合、感度を上げます。トンボを誤検出してしまう場合、感度を下げます。通常、設定値は「4」でお使いください。

(7) 塗りつぶしトンボ

設定値	概要
ON/OFF	FineCutの機能「トンボ周りを塗りつぶす」を使用して印刷したトンボを検出する場合、設定値を「ON」に設定してください。またトンボの周りを塗りつぶす場合、トンボサイズは10mm以上で作成してください。

トンボを検出する

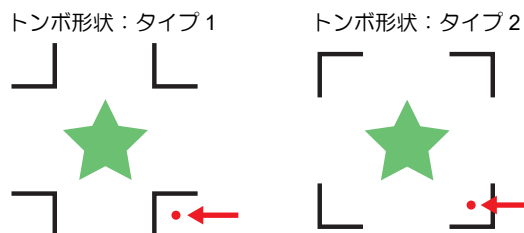
- 1 ローカル画面で **(FUNC2)** (TEST CUT) を押す
- 2 **(▲▼)** を押して“トンボ原点検出”を選び、**(ENTER)** キーを押す

- トンボ検出モードになります。
- カuttingユニットがプラテン上に移動します。



• トンボ検出モードにならない場合は、[TEST CUT] > [トンボ検出設定] > [トンボ検出] を "ON" に設定してください。

3 **(▲▼◀▶)** を押し、LEDポインターの光点をトンボの中心に移動する



4 **(ENTER)** キーを押す

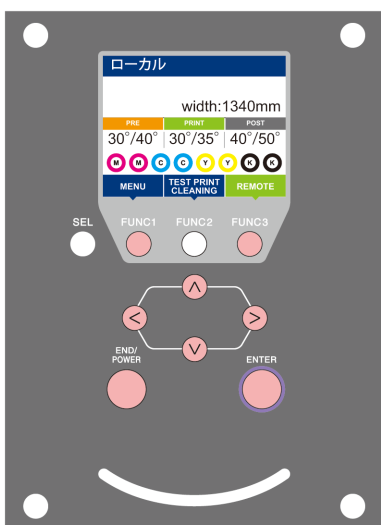
- トンボ検出を開始します。

ID カット

対応機種：Plus シリーズ
 ID を含むデータを検出するだけで、ID 情報通りに自動的にカットする機能です。データを印刷後、改めてカットデータを出力する必要がありません。
 詳しくは「ID カットガイド」を参照してください。

カッティングメニューについて

カッティングメニューでは、カット機能に関する様々な設定することができます。



- FUNC1** : カッティングメニューを選ぶとき、または、1つ前の画面に切り替えるときに押す
- FUNC3** : 次の画面に切り替えるときに押す
- ▲ ▼** : 設定項目を選択するときに押す
- ENTER** : 設定を確定するときなどに押す

◆カッティングメニュー一覧



カッティングメニュー一覧表

- 重要!**
- 次の各設定項目については、接続しているホスト PC でお使いの RIP ソフトウェアからプリント時に指定した設定値に従って動作するように設定できます。
 - **設定項目**：乾燥時間 / マージン (左右) / 吸着 / フィード速度レベル
 - 各項目を“ホスト”に設定すれば、RIP の設定内容に従って動作します。本機での設定を優先させたいときは、“ホスト”以外に設定してください。
 - RIP ソフトウェアでの指定方法については、RIP ソフトウェアの取扱説明書をご参照ください。

機能名		概要
トンボ検出の設定 (P.4-5)	検出	トンボ付きのデータをカットする際に設定します。
	形状	
	サイズ	
	オフセット X	
	オフセット Y	
	トンボ検出 END キー起動	
	センサー感度	
	塗りつぶしトンボ	
カットモードの設定 (P.4-9)		カットの品質を設定します。
コピー (P.4-9)		受信済みのデータを複数枚カットすることができます。
ツール交換 (P.2-22、P.2-22)		ツールを交換するときに選びます。
設定サブメニュー	分割カット (P.4-10)	シート幅よりも大きなデータを分割してカットすることができます。分割カットは、幅方向 (Y) および送り方向 (X) で設定できます。
	アップスピード (P.4-12)	ツールがアップしているときのメディアとキャリッジの移動速度を設定します。スピードを遅く設定すると、長尺送りの際のメディアすれを軽減できます。
	捨て切り (P.4-12)	カットを開始する前に、刃先が一定方向に向くようにする捨て切り動作を行うことができます。
	シート設定 (P.4-12)	セットするメディアの重さを設定します。
	補正圧オフセット (P.4-12)	カットの始点と終点到り残りがある場合、値を大きくします。
	オーバーカット (P.4-12)	開始点と終了点を任意にオーバーラップさせることにより、メディアの切り残しをなくします。
	カーブモード (P.4-13)	曲線部分のカッティング速度を設定します。比較的大きな円弧をカットして曲線部分が歪んでいる場合は、“SLOW” に設定すると状況が改善される場合があります。
	設定リセット (P.4-13)	設定した内容を初期状態に戻します。
	吸着ファン	カット時の吸着ファンの強さを設定します。通常は“弱”で使用してください。
メンテナンス	トンボセンサー (P.4-14)	トンボセンサーの調整を行います。
	サンプルカット (P.4-16)	正常にデータをカットできない場合など、本機に保存されているサンプルをカットして、異常の原因を調べます。
	オートメディアカット (P.4-16)	一定の長さのメディアを複数枚カットします。
原点オフセット (P.4-17)		トンボが無いデータをプリント&カットするため、プリントした画像とカットラインのスレを補正します。

カットモードの設定

カットの品質を設定します。
カットモードは、次の3種類から選べます。

設定値	概要
標準	通常のカットモードです。
高速	短時間でカットします。(重いメディアの使用には適していません)
高品位	カット品質を優先するカットモードです。



- 次のようなデータをカットする場合、“高品位”に設定してください。
 - 10 mm以下の文字をカットするとき
 - 鋭角部分が多い絵柄や文字をカットするとき
 - 微細なカットをするとき
- ただし、コンピュータからのデータが複雑すぎる場合、仕上がりがギザギザになる場合があります。この場合、“高速”を選択すると滑らかな仕上がりになります。

重要! “高品位”では、カット速度が20cm/sに制限されます。

1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(FUNC3) (>>)**
→ **(ENTER)** キーを押す

- カuttingメニューが表示されます。

2 **(▲) (▼)** を押して“カットモード”を選び、
(ENTER) キーを押す

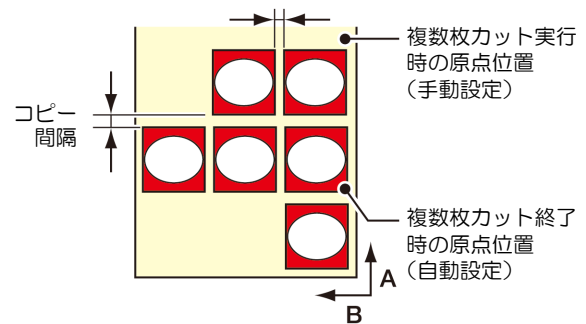
3 **(▲) (▼)** を押して設定値を選び、
(ENTER) キーを押す

- 設定値：標準、高速、高品位

4 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す

同じデータを複数枚カットする (コピー機能)

受信済みのデータを複数枚カットすることができます。
(最大 999 枚)



- 複数枚カットは、本機の受信バッファに保存したデータを指定して行います。
- 受信バッファには1データのみ保存できます。
- 新しいデータを受信すると、それまで保存されていたデータに上書きされます。
(前に受信したデータを指定して複数枚カットをすることはできません。)

1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(FUNC3) (>>)**
→ **(ENTER)** キーを押す

- カuttingメニューが表示されます。

2 **(▲) (▼)** を押して“コピー”を選び、
(ENTER) キーを押す

3 **(▲) (▼)** を押してカットする枚(1~999)を選択し、
(ENTER) キーを押す

4 **(▲) (▼)** を押してカットする図形の間隔(0~30mm)を選択し、
(ENTER) キーを押す

- 重要!**
- リモートでカットした直後にコピー機能を実行すると、重なってカットします。必ず原点を再設定してください。
 - コピー中は、コンピュータからの受信データを無視します。
 - コンピュータから送信するデータは、データの間隔を5秒以上あけて送信してください。5秒以内に次のデータを送信すると、2つのデータがコピー機能の対象となります。分割カットデータは、分割せずに指定した枚数分カットします。エラーを表示した場合は、エラーメッセージ (P.6-8) を参照してください。
 - FineCut をお使いの場合、原点更新コマンドの初期値は“オン”になっています。コピーを行う場合、チェックを外してください。(FineCut 取扱説明書 5章「カット終了後のヘッド位置を設定する」参照)
 - 本機能は RasterLink からのカットに対応していません。

設定サブメニュー

設定サブメニューには、カッティングで使用できる便利な機能が用意されています。

設定サブメニューでは、次の各項目が使用できます。

機能名	概要
分割カット (P.4-10)	シート幅よりも大きなデータを分割してカットすることができます。 分割カットは、幅方向 (Y) および送り方向 (X) で設定できます。
アップスピード (P.4-12)	ツールがアップしているときのメディアとキャリッジの移動速度を設定します。 スピードを遅く設定すると、長尺送りの際のメディアずれを軽減できます。
捨て切り (P.4-12)	カットを開始する前に、刃先が一定方向に向くようにする捨て切り動作を行うことができます。
シート設定 (P.4-12)	セットしたメディアの重さに応じて設定します。“重い”に設定すると、カット速度の上限が低く設定されます。
補正圧オフセット (P.4-12)	カットの始点と終点到に切り残しがある場合、値を大きくします。
オーバーカット (P.4-12)	開始点と終了点を任意にオーバーラップさせることにより、メディアの切り残しをなくします。
カーブモード (P.4-13)	曲線部分のカッティング速度を設定します。 比較的大きな円弧をカットして曲線部分が歪んでいる場合は、「SLOW」に設定すると状況が改善される場合があります。
設定リセット (P.4-13)	設定した内容を初期状態に戻します。
吸着ファン	カット時の吸着ファンの強さを設定します。 通常は“弱”で使用してください。

分割カットの設定

幅方向 (Y) の分割カットをセットしておけば、メディアの幅より大きいデータを分割してカットできます。また、送り方向 (X) の分割カットを設定しておけば、長尺データを分割カットし、メディアの蛇行によるカットずれを抑えることができます。

- 重要!**
- 分割カットでは、次の便利な機能もお使いになれます。
 - 枠カットをする：
カットデータとともに、カットデータのサイズに合わせた枠を自動的にカットします。
 - 貼りしろマークを付ける：
分割カットをしたメディアを貼り合わせるための目安となる“マーク”を付けることができます。

Y 方向 (幅方向) 分割カットの設定をする

- ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **FUNC3 (>>)** → **ENTER** キーを押す
・カッティングメニューが表示されます。
- FUNC3 (>>)** を押す
- ▲ ▼** を押して“設定サブメニュー”を選び、**ENTER** キーを押す
- ▲ ▼** を押して“分割カット”を選び、**ENTER** キーを押す
- ▲ ▼** を押して“Y”を選択し、**ENTER** キーを押す
・“OFF”を選択すると、分割カットの設定は行いません。手順9へ進んでください。
- ▲ ▼** を押して“枠カット”を選択し、**ENTER** キーを押す
- ▲ ▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す
・設定値：オン、オフ
・枠カットをするとき“オン”を選びます。
- ▲ ▼** を押して“マークカット”を選択し、**ENTER** キーを押す
- ▲ ▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す
・設定値：オン、オフ
・貼りしろマークを付けたいとき“オン”を選びます。
- 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

X方向(送り方向)分割カットの 設定をする

送り方向のデータサイズが、分割長 + クロスカット長以上になると、そこで分割カットします。
クロスカット長を設定すると、設定値分だけ重複してカットします。

- 1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **FUNC3 (>>)** → **ENTER** キーを押す
・カッティングメニューが表示されます。
- 2 **FUNC3 (>>)** を押す
- 3 **▲ ▼** を押して“設定サブメニュー”を選び、**ENTER** キーを押す
- 4 **▲ ▼** を押して“分割カット”を選び、**ENTER** キーを押す
- 5 **▲ ▼** を押して“X”を選択し、**ENTER** キーを押す
・“OFF”を選択すると、分割カットの設定は行いません。手順10へ進んでください。
- 6 **▲ ▼** を押して“分割長”を選択し、**ENTER** キーを押す
- 7 **▲ ▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す
・設定値：50cm～500cm(50cm単位)
・設定値以上になると、そこで分割カットを行います。
- 8 **▲ ▼** を押して“クロスカット長”を選び、**ENTER** キーを押す
- 9 **▲ ▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す
・設定値：0mm～50mm(1mm単位)
・設定分だけ重複してカットします。
- 10 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す
重要!
 - ・設定した値は、電源をオフにしても保持していません。
 - ・分割カット中は、ホストコンピュータからのデータは無視します。
 - ・次のいずれかのとき、分割カットはできません。
カットデータの容量が受信バッファの容量より大きい場合
カットデータ内に原点更新コマンドがある場合
2点軸補正が設定してある場合
トンボ検出をしている場合
本機内のテストデータをカットした場合

分割カットの設定を解除する

- 1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **FUNC3 (>>)** → **ENTER** キーを押す
・カッティングメニューが表示されます。
- 2 **FUNC3 (>>)** を押す
- 3 **▲ ▼** を押して“設定サブメニュー”を選び、**ENTER** キーを押す
- 4 **▲ ▼** を押して“分割カット”を選び、**ENTER** キーを押す
- 5 **▲ ▼** を押して“設定”を選択し、**ENTER** キーを押す
- 6 **▲ ▼** を押して“OFF”を選択し、**ENTER** キーを押す
- 7 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

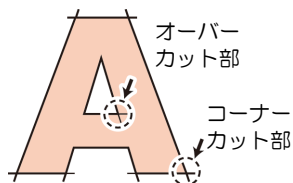
メディアの切り残しをなくす (オーバーカット機能)

開始点と終了点を任意にオーバーラップさせることにより、メディアの切り残しをなくします。

オーバーカット機能の有効・無効と、オーバーカットの長さを指定します。オーバーカット長が設定されていると、カット開始時に指定長分だけ手前からカットし、終了時に行き過ぎてからツールアップします。

また、コーナーカット機能を有効にすると、開始点・終了点以外のコーナーでもオーバーカットを行います。

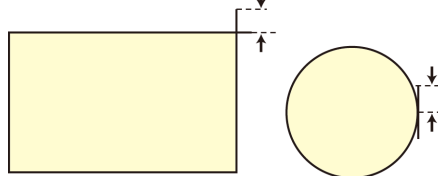
- 重要!** 適度なオーバーカットを設定すると、たわみやすいメディアでの始終点の切り残しを軽減できます。設定値を大きくしすぎると、成果物に傷を残す場合があります。



オーバーカット：OFF



オーバーカット：1.0mm



- 1** ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **FUNC3 (>>)** → **ENTER** キーを押す

・カッティングメニューが表示されます。

- 2** **FUNC3 (>>)** を押す

- 3** **▲ ▼** を押して“設定サブメニュー”を選び、**ENTER** キーを押す

- 4** **▲ ▼** を押して“オーバーカット”を選び、**ENTER** キーを押す

- 5** **▲ ▼** を押して設定値を選択し、**ENTER** キーを押す

・設定値：OFF/0.1～1.0m (0.1m 単位)
 ・**[ENTER]** キーを押すと、“コーナーカット”の設定が表示されます。

- 6** **▲ ▼** を押して ON/OFF を選択し、**ENTER** キーを押す

- 7** 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

その他の設定サブメニュー

ここでは、そのほかの便利な機能の設定方法について説明しています。使い方に合わせて設定を変えてください。

- 1** ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **FUNC3 (>>)** → **ENTER** キーを押す

・カッティングメニューが表示されます。

- 2** **FUNC3 (>>)** を押す

- 3** **▲ ▼** を押して“設定サブメニュー”を選び、**ENTER** キーを押す

- 4** **▼** を数回押し、設定する項目を選択する
 ・設定一覧表を参照して選択してください。

- 5** **ENTER** キーを押す

- 6** **▲ ▼** を押して設定値を選択する
 ・設定一覧表を参照して選択してください。

- 7** **ENTER** キーを押す

- 8** 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

重要! 設定した値は、電源をオフにしても保持していません。

設定一覧表

お買い上げ時は、下線の設定になっています。

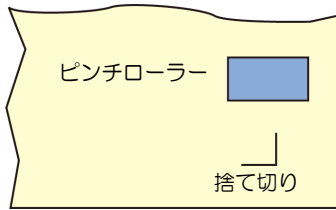
機能名	概要	設定値*1
アップスピードの設定	ツールがアップしているときのメディアとキャリッジの移動速度を設定します。スピードを遅く設定すると、長尺送りの際のメディアずれを軽減できます。	5,10,20,30,AUTO (cm/s)
捨て切りの設定 (☞ P.4-13)	捨て切り動作の設定をします。	OFF / ON
シート設定*2	お使いになるシートに合わせて、種類を設定します。	普通 / 重い
刃先補正圧オフセットの設定 (☞ P.4-13)	カットの始点と終点に切り残しがある場合、値を大きくします。	0 ~ 3 ~ 7
カーブモードの設定 (☞ P.4-13)	比較的大きな円弧をカットして曲線部分が歪んでいる場合は、“SLOW” に設定します。	FAST / SLOW

*1. お買い上げ時は、下線の値に設定されています。

*2. メディア設定を“重い”にすると、カット速度が20cm/sに制限されます。

捨て切りの設定

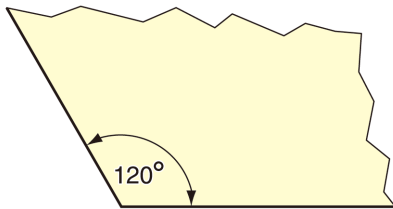
メディア検出後や、ツールタイプが変更されたときなどに、現在カッターユニットがある場所から両端に近い方のピンチローラーの手前で実行します。
抜き文字をカットするとき、メディアに傷を付けたくない場合は、OFF に設定します。



- 重要!**
- ツール条件 "PEN" を選択しているときは、捨て切りの設定はできません。
 - 捨て切りの初期値は、ON になっています。OFF に設定した時は、カット前に刃先の方向を合わせるために、テストカット (P.2-26) を実行してください。

刃先補正圧オフセットの設定

カッターがメディアにダウンするときの圧力が弱いために切り残しが発生します。
オプションの偏芯刃を使用した場合など、角度が 120° 以下のカット部分において切り残しが起きる場合があります。

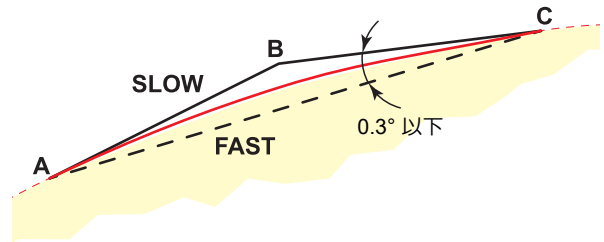


これは角をカットする際、メディアがめくれないように自動的に低いカット圧力 (約 5g) でカットするためです。カット圧力が低いと、刃先が進行方向にスムーズに回転せず、切り残しができる場合があります。このような場合は、角をカットする際の圧力を上げるための設定を行います。

カーブモードの設定

円弧が大きく線分が長いデータをカットする場合で、曲線部分が歪んでしまう時は、"SLOW" に設定してください。歪みが改善することがあります。

• 設定値: FAST / SLOW



円弧データの角度が 0.3° 以下の場合

FAST: 線 A-C でカットします。

SLOW: 線 A-B-C でカットします。



- お買い上げ時は "FAST" に設定されています。"SLOW" に設定すると、一般的なカットデータでは全体的に速度が遅くなります。






設定リセット

設定した内容を初期状態に戻します。

- 1 □-カルで、**FUNC1 (MENU)** → **FUNC3 (>>)** → **ENTER** キーを押す
• カuttingメニューが表示されます。
- 2 **FUNC3 (>>)** を押す
- 3 **▲** **▼** を押して "設定サブメニュー" を選び、**ENTER** キーを押す
- 4 **▲** を数回押し、設定する項目を選択する
• 設定一覧表を参照して選択してください。
- 5 **FUNC3 (>>)** 押し、**▼** を 2 回押し
• **FUNC3** "設定リセット" が選択されます。
- 6 **ENTER** キーを押す
• 設定内容が初期化されます。
- 7 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押し



メンテナンス機能

メンテナンス機能では、正常にカットできないときなどにカット精度を確認/調整する項目をまとめています。

機能名	概要
トンボセンサー ( P.4-14)	トンボセンサーの調整を行います。
サンプルカット ( P.4-16)	正常にデータをカットできない場合など、本機に保存されているサンプルをカットして、異常の原因を調べます。
オートメディアカット ( P.4-16)	一定の長さのメディアを複数枚カットします。
PC 原点オフセット ( P.4-17)	プリント原点とカット原点のズレを調整します。
スケール補正 ( P.4-18)	トンボ無しプリント&カットを行う場合、メディア右側と左側で、スキャン方向のずれが発生した場合、調整を行います。



トンボセンサーのメンテナンス

正常にカットできなかつたとき、次の各項目を確認してください。
トンボセンサーのメンテナンスでは、次の各項目のメンテナンスを行います。

項目	概要
センサーチェック ( P.4-14)	トンボセンサーの反応を確認します。
ポインタオフセット ( P.4-15)	トンボセンサーとライトポインタの位置関係があていないとき、ライトポインタの位置を補正します。

トンボセンサーの反応を確認する

あらかじめトンボが印刷されたメディアを用意します。

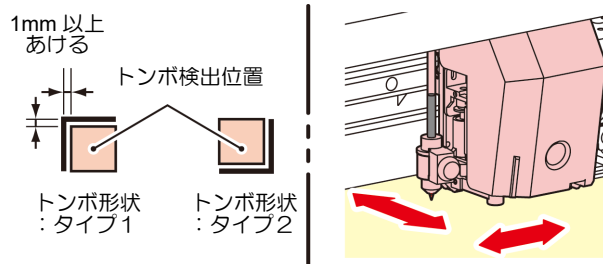
- 重要!**
- 手でヘッドやメディアを動かしても、正確な反応チェックは行えません。必ず、下の操作で反応チェックをしてください。
 - 印刷済みトンボの条件は、「トンボ付きデータ作成に関する注意事項」( P.4-3)を参照してください。
 - 設定した値は、電源をオフにしても保持しています。
 - 本設定で変更したトンボ形状/トンボサイズは、「トンボ検出」の設定に反映されます。
( P.4-6)
 - 設定した検出速度は、以後のトンボ検出動作時に使用されます。
 - 本オペレーションで設定したポインタオフセットは、設定リセットにより初期化されません。

1 ローカルで、 を押す

- ジョグモードに入ります。

2 を押して、ペン先をトンボ検出位置に移動する

- トンボ検出は、トンボより 1mm 以上離れた位置で実行してください。



3 キーを押してジョグモードを終了する

- ローカルに戻ります。

4 (MENU) (>>) キーを押す

- カuttingメニューが表示されます。


5 (>>) を押す

6 を押して“メンテナンス”を選び、 キーを押す

7 を押して“トンボセンサー”を選び、 キーを押す

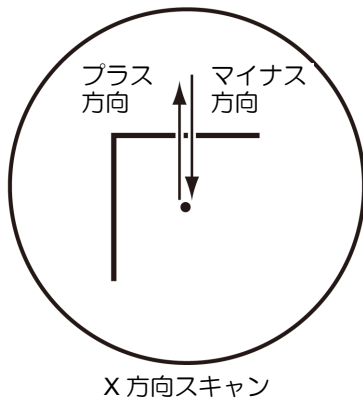
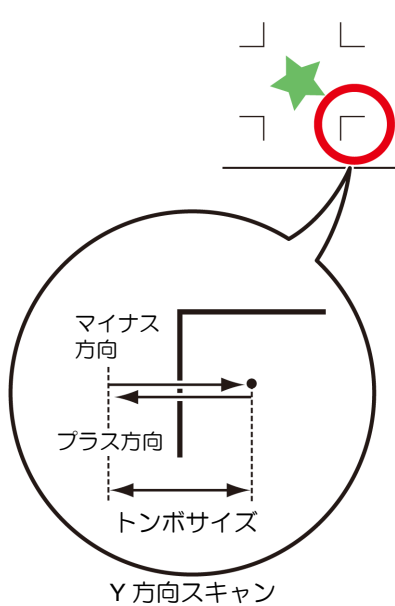
8 を押して“センサーチェック”を選び、 キーを押す

9 トンボの長さの選択、トンボ形状の各項目の設定を行う

- [サイズ]、[形状]の設定方法は「トンボ付きデータ作成に関する注意事項」を参照してください。
( P.4-3)

10 **ENTER** を押して、検出動作を行う (「検出動作」)

■ 検出動作



1 X 方向のプラス方向スキャンを行い、線分の検出が可能か確認する

- 線分の検出ができた場合、ブザーが鳴ります。できなかった場合、ブザーはなりません。

2 X 方向のマイナス方向スキャンを行い、線分の検出が可能か確認する

3 Y 方向のプラス方向スキャンを行い、線分の検出が可能か確認する

4 Y 方向のマイナス方向スキャンを行い、線分の検出が可能か確認する

5 1～4 までの動作を行い、ブザーが 4 回鳴るか確認する

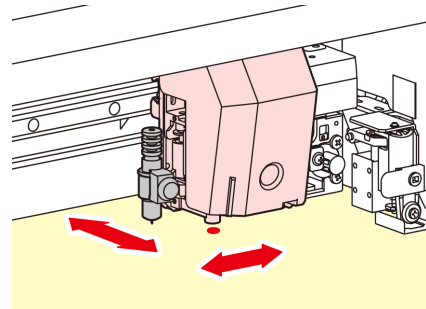
- 正常に検出動作が終了すると、ブザーを 4 回鳴らしてお知らせします。
- ブザーが鳴らなかった場合、トンボ条件を確認の上、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

ライトポインタの位置を補正する

トンボが正しく読めなくなった場合、トンボセンサーとライトポインタの位置関係が合っていないことが考えられます。この場合、ライトポインタの位置を補正します。

1 ツールホルダにカッターを取り付ける

2 コピー用紙を取り付ける



3 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **FUNC3** (>>) → **ENTER** キーを押す

- ・カuttingメニューが表示されます。

4 **FUNC3** (>>) を押す

5 **▲** **▼** を押して “メンテナンス” を選び、**ENTER** キーを押す

6 **▲** **▼** を押して “トンボセンサー” を選び、**ENTER** キーを押す

7 **▼** を 2 回押して “ポインタオフセット” を選ぶ


8 **ENTER** キーを押す

- ・縦・横の長さが 10mm の十字パターンをカットします。
- ・ライトポインタが点灯し、十字パターンの中央に移動します。

9 **▲** **▼** **◀** **▶** を押して、ライトポインタの中央と十字パターンの中央が一致するようにライトポインタを移動する

10 **ENTER** キーを押す

- ・補正量を登録し、ローカルに戻ります。

重要! ・ [ポインタオフセット] で設定した値は、「設定リセット」( P.4-13) を行っても初期化しません。

サンプルをカットして、カット異常の原因を調べる

正常にデータをカットできない場合など、本機に保存されているサンプルをカットして、異常の原因を調べます。

サンプル“Cut”

Cut

サンプル“Logo”

Mimaki

重要! ・サンプルカットを実行すると、受信バッファに保存されているデータは消去されます。

- 1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(FUNC3) (>>)** → **(ENTER)** キーを押す
・カッティングメニューが表示されます。
- 2 **(FUNC3) (>>)** を押す
- 3 **(▲) (▼)** を押して“メンテナンス”を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 4 **(▲) (▼)** を押して“サンプルカット”を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 5 **(▲) (▼)** を押してカットするサンプルデータを選択する
・サンプルには“Cut”と“Logo”の2種類があります。“Cut”を選んだ場合は、手順7へ進んでください。
- 6 **(ENTER)** キーを押す
- 7 Logoをカットする場合、**(▲) (▼)** で倍率を選択する
・倍率：1～999%
- 8 **(ENTER)** キーを押して、カットを開始する

サンプルカットの結果について

サンプルデータは正常にカットできるが、他のデータを正常にカットできない。

⇒ ホストコンピュータ側に異常があります。

サンプルデータや他のデータも正常にカットできない。
(始終点を切り残すとき)

⇒ [補正圧オフセット] で設定値を増やし (参照 P.4-12)、カッターがダウンするときの圧力を上げてください。

一定の長さのメディアを複数枚カットする

指定した長さのメディアを複数枚カットすることができます。(オートメディアカット機能)

機能名	概要
カット間隔	メディアをカットする間隔を設定します。
先端合わせカット	オートメディアカットを開始する前に、メディアの先端をカットする長さを設定します。 先端合わせカットをすることにより、メディアの先端が斜めにカットされている場合や切断面がきれいでない場合でも、指定した枚数のメディアを等間隔でカットできるようになります。
カット回数	メディアをカットする回数(枚数)を設定します。

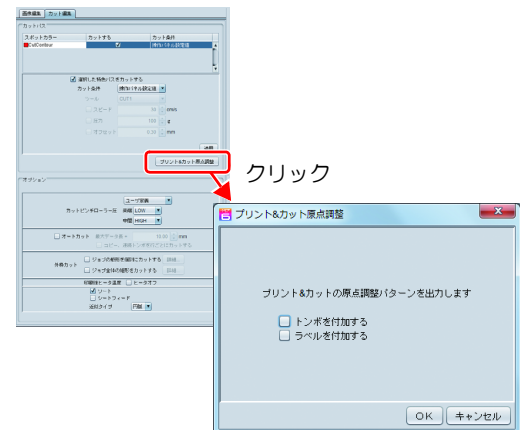
- 1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(FUNC3) (>>)** → **(ENTER)** キーを押す
・カッティングメニューが表示されます。
- 2 **(FUNC3) (>>)** を押す
- 3 **(▲) (▼)** を押して“メンテナンス”を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 4 **(▲) (▼)** を押して“オートメディアカット”を選び、**(ENTER)** キーを押す
- 5 **(▲) (▼)** を押してカット間隔を選び、**(ENTER)** キーを押す
・設定値：10～10000mm
- 6 **(▲) (▼)** を押して先端カット合わせの長さを選び、**(ENTER)** キーを押す
・設定値：0～500mm
- 7 **(▲) (▼)** を押して、カット回数(枚数)を選び、**(ENTER)** キーを押す
・設定値：1～9999回
・指定した回数分の裁断を行います。
・[END/POWER] キーを押すと、中断できます。
- 8 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す

トンボが無いデータをカットするために (PC 原点オフセット)

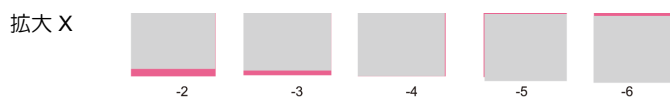
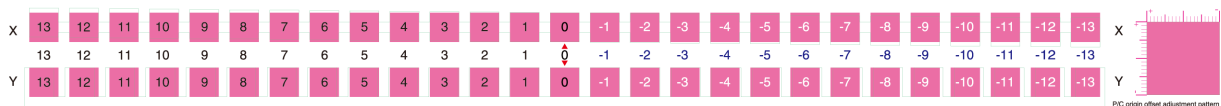
プリント&カットでのプリントとカットのずれを調整します。
RasterLink6 から調整パターンをプリントし、調整値を本体へ入力します。

トンボ無しプリント&カットの場合

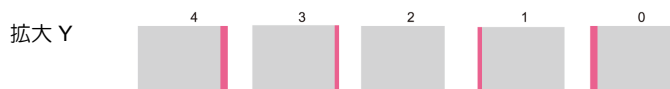
- 1 本機を “REMOTE” 状態にする
- 2 RasterLink6 でプリントしたいジョブのプリント条件 (プロファイル・カット条件) を設定する
- 3 RasterLink6 [カット編集] タブ内にある [プリント&カット原点調整] をクリックする
 - [OK] をクリックすると調整パターンをプリントします。



- 4 パターンのプリントが終わったら、**(FUNC1) (ADJUST)** を押し、“PC 原点オフセット” を選ぶ
 - メディアがフィードするので、パターンのカットされた部分をはがし、調整値を確認します。



上下のズレが一番小さい位置の数値を入力する
ここでは、-4 が一番小さいので、“-4” と入力してください。



左右のズレが一番小さい位置の数値を入力する
ここでは、2 が一番小さいので、“2” と入力してください。

- 5 調整値を入力する
 - [ENTER] キーを押すとメディアが戻り、完了です。

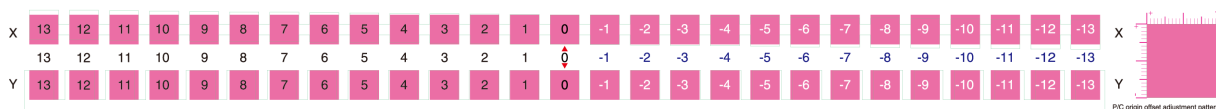
重要! 解像度 (Y) が異なるデータをプリントする場合、再度調整してください。(調整値は解像度ごとに保存します)
複数の条件の調整パターンを連続でプリントし、調整値を入力することはできません。必ず、1 条件ごとにプリントと調整値の入力をセットで行うようにしてください。



再度調整する場合は、テストカットを実行後、手順 1 から調整してください。

トンボ有りプリント&カットの場合

- 1 本機を“REMOTE”状態にする
- 2 RasterLink6でプリントしたいジョブのプリント条件(プロファイル・カット条件)を設定する
- 3 RasterLink6[カット編集]タブ内にある[プリント&カット原点調整]をクリックする
- 4 “トンボを付加する”にチェックを入れる
 - ・[OK]をクリックすると調整パターンをプリントします。
- 5 パターンのプリントが終わったら、**(FUNC1)** (ADJUST) を押し、“トンボオフセット”を選ぶ
 - ・メディアがフィードするので、パターンのカットされた部分をはがし、調整値を確認します。(実際のパターンにはトンボが付きません。)



拡大 X

-2 -3 -4 -5 -6

上下のズレが一番小さい位置の数値を入力する
ここでは、-4が一番小さいので、“-0.40”と入力してください。

拡大 Y

4 3 2 1 0

左右のズレが一番小さい位置の数値を入力する
ここでは、2が一番小さいので、“0.20”と入力してください。

- 6 調整値を入力する
 - ・[ENTER]キーを押すとメディアが戻り、完了です。

スケール補正の設定をする

トンボ無しプリント&カットを行う場合、メディア右側と左側で、スキャン方向のずれが発生した場合、調整を行います。スケール補正を実行すると、自動的に調整を行います。

- 1 メディアをセットする (🔧 P.2-4)
 - ・補正パターンをプリントため、白いメディアをセットしてください。
 - 2 ローカル画面の**(FUNC1)** (MENU) から[カッティング]を選択し、**(ENTER)**キーを押す
 - ・カッティングメニューが表示されます。
 - 3 [メンテナンス]を選択し、**(▲)****(▼)**を押して[スケール補正]を選び、**(ENTER)**キーを押す
 - 4 確認画面が表示されたら、**(ENTER)**キーを押す
 - ・補正パターンをプリントした後、パターンをトンボ検出して自動で補正します。
- 重要!** ・プリントする解像度 (Y540dpi または Y360/720dpi) に合わせ、調整してください。

第5章 お手入れ



この章では ...

日常行っていたりお手入れ方法やインクカートリッジのメンテナンスなど、本機を快適にお使いいただくために必要な項目を説明します。

日常のお手入れ.....	5-2	設定値をリセットする.....	5-15
お手入れ上のご注意.....	5-2	テストプリント時にノズルリカバリを有効にするか設定する.....	5-15
メンテナンス洗浄液について.....	5-2	オートメンテナンス機能.....	5-16
外装のお手入れ.....	5-2	リフレッシュ間隔を設定する.....	5-16
プラテンの清掃.....	5-2	チューブ/ノズル洗浄の間隔を設定する... ..	5-16
メディアセンサーの清掃.....	5-3	クリーニング間隔とタイプを設定する.....	5-17
メディア押さえの清掃.....	5-3	インク充填.....	5-17
ジャムセンサーの清掃.....	5-3	インクのメンテナンス.....	5-18
排気 BOX フィルタ、または排気 BOX の交換.....	5-4	インクのメンテナンス (ホワイト、シルバー、オレンジを除く)	5-18
吹付ファンフィルタの交換.....	5-4	ホワイトインク (特色) メンテナンス.....	5-18
吹付ファンフィルタの交換.....	5-4	オレンジインクのメンテナンス.....	5-18
CP パッドセットの交換.....	5-5	消耗品の交換.....	5-19
ペンラインゴム、ペンラインスポンジの交換.....	5-5	ワイパーを交換する.....	5-19
ピンチローラーの清掃、交換.....	5-6	廃インクタンク確認メッセージが表示されたら.....	5-19
メンテナンスニューについて.....	5-7	廃インクタンク確認メッセージが表示される前に廃インクタンクを交換する場合.....	5-21
メンテナンスメニュー一覧表.....	5-8	裁断カッター刃の交換.....	5-21
メンテナンスメニュー以外のメンテナンス.....	5-8	カッターの刃の交換と調整.....	5-22
キャッピングステーションのメンテナンス... ..	5-9	刃先の交換.....	5-22
ワイパーとキャップの清掃.....	5-9	刃先の調整.....	5-22
ヘッドノズルの洗浄.....	5-10	付属品以外のカッターの交換方法.....	5-22
インク排出路の洗浄.....	5-11	付属品以外のカッター刃先の調整.....	5-23
長期間使用しない場合.....	5-11		
ヘッド周辺の清掃.....	5-13		
ノズルリカバリ機能.....	5-14		

日常のお手入れ

本機の精度を保ちながら末永くお使いいただけるよう、使用頻度に応じて、または定期的にお手入れをしてください。

お手入れ上のご注意

本機のお手入れをするとき、次の各事項にご注意ください。



- ・主電源を切り、電源ケーブルを抜いてからメンテナンスをしてください。

	<ul style="list-style-type: none"> ・インクやメンテナンス洗浄液、廃インク、その他本機で使用されている液体を取り扱うときは、換気に十分注意して、必ず付属の保護メガネと手袋、マスクを着用してください。インクなどの液体が跳ねて、皮膚に付着したり、目や口に入ったりするおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ・本機を、絶対に分解しないでください。感電および破損の原因になります。また、お手入れは電源スイッチをオフにし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。思わぬ事故が発生する原因となります。
	<ul style="list-style-type: none"> ・本機の内部に水気が入らないようにしてください。内部が濡れると、感電および破損の原因になります。
	<ul style="list-style-type: none"> ・本機はインクの吐出安定性を確保するために、長時間ご使用（出力）されないときには、定期的に微量のインクを吐出（フラッシング）させる必要があります。 ・長時間使用されないときには、前面の電源スイッチのみをOFFとし、右側面の主電源スイッチはON（ の状態）およびコンセントは挿入した状態にしておいてください。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘッドのノズル面やワイパー、キャップ等を水、アルコールなどで拭かないでください。ノズル詰まりや故障の原因になります。 ・ベンジン、シンナーや研磨剤の入った薬品は使用しないでください。カバーの表面が変質・変形する恐れがあります。 ・本機の内部に潤滑油などを注油しないでください。故障する恐れがあります。 ・メンテナンス用洗浄液やインクが、カバーに付着しないように注意してください。カバーの表面が変質、変形します。

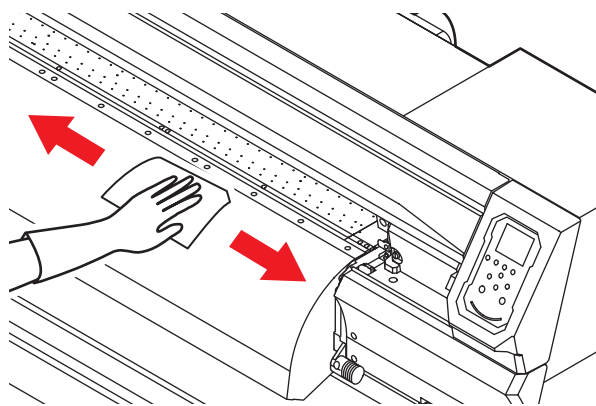
メンテナンス洗浄液について

メンテナンス洗浄液は、お使いになるインクに対応したものをお使いください。

インクの種類	対応するメンテナンス洗浄液
ソルベントインク	ソルベントインク用メンテナンス洗浄液 200 キット (SPC-0369) [別売]
昇華転写インク	洗浄液ボトルキット A29 (SPC-0137) [別売]

外装のお手入れ

本体の外装が汚れた場合は、柔らかい布に水、または水で薄めた中性洗剤を含ませ、強くしぼってから拭き取ってください。

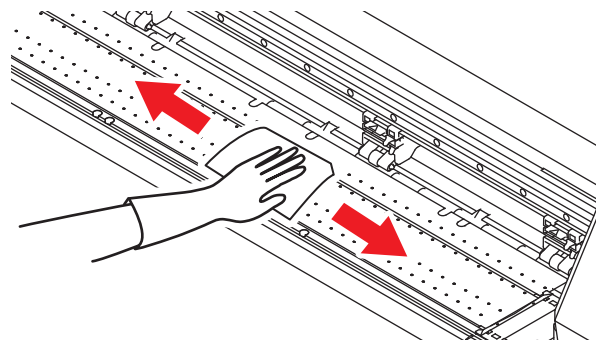


プラテンの清掃



- ・主電源を切り、電源ケーブルを抜いてからメンテナンスをしてください。

汚れたまま使用を続けると、メディアが正しくフィードできなくなったり、ヘッドノズル面にゴミや固まったインクをこすり付けて、吐出不良（ノズル詰まり、飛行曲がりなど）の原因となります。



- ・本機の内部に液体が入らないようにしてください。本機の故障や感電、火災の恐れがあります。



- ・汚れが目立つときは、柔らかい布に水で薄めた中性洗剤を含ませて、固く絞ってからふき取ってください。
- ・プラテンの清掃は、プラテンの温度が十分下がった状態で行ってください。

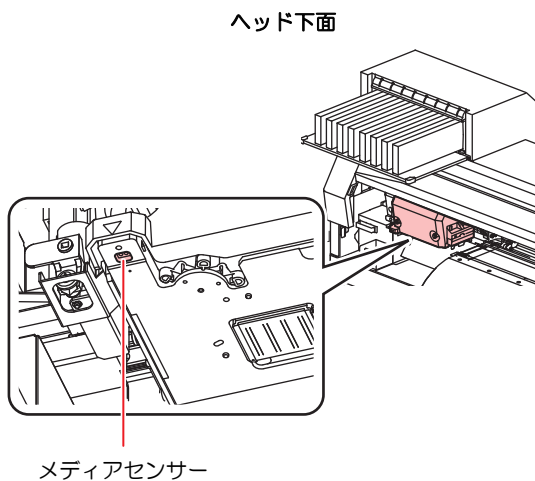
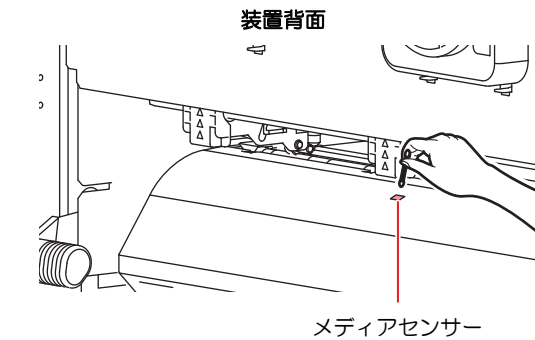


- ・メディア押さえをスライドする溝やメディアカットする溝は、特にゴミがたまりやすい場所です。丁寧にゴミを取り除いてください。

メディアセンサーの清掃

メディアセンサーは、背面側のプラテン上と、ヘッドの下面にあります。センサーにホコリ等がたまると、メディアの誤検出の原因となります。綿棒でセンサーの表面にたまったホコリ等を取り除いてください。

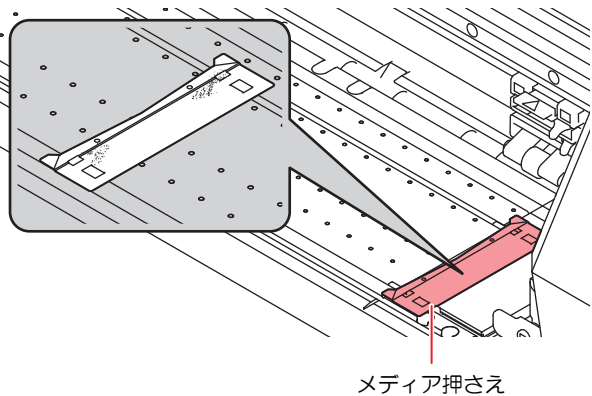
ヘッド下面のセンサーを清掃するときは、P.5-13「ヘッド周辺の清掃」手順 1 の操作をして、キャリッジを左端に移動させてから清掃してください。



- メディアセンサー付近にあるカッターには触らないでください。刃先が鋭利になっているため、怪我の原因となります。

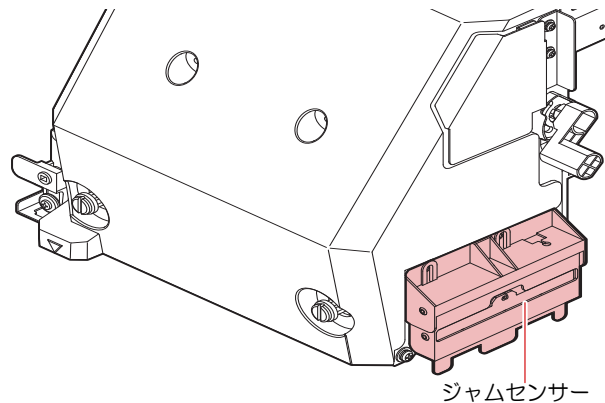
メディア押さえの清掃

メディア押さえにカットくずやホコリ等がたまると、プリント時のメディアの搬送が正常に行えなくなったり、ホコリ等がノズルに付着して正常なプリントができなくなることがあります。メディア押さえは、定期的に清掃してください。



ジャムセンサーの清掃

キャリッジの右側面に、ジャムセンサーユニットが付いています。センサーユニットにインク汚れやホコリがたまると、メディアジャムの原因になります。ジャムセンサーは定期的に清掃してください。

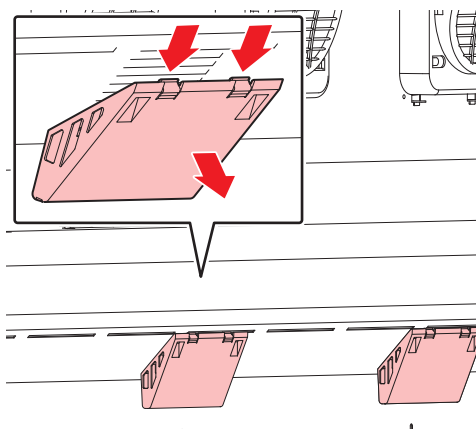


排気BOXフィルタ、または排気BOXの交換

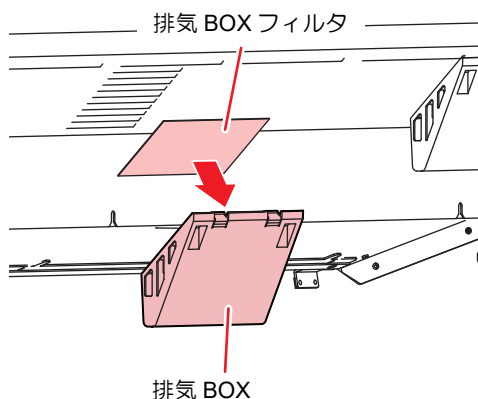
排気BOXフィルタ(品番:SPA-0249)、または排気BOX(品番:SPA-0248)がインクで汚れた場合、交換してください。

1 排気BOXのツメ(2箇所)を外す

- 排気BOX奥側も排気BOXのツメが引っかかっています。



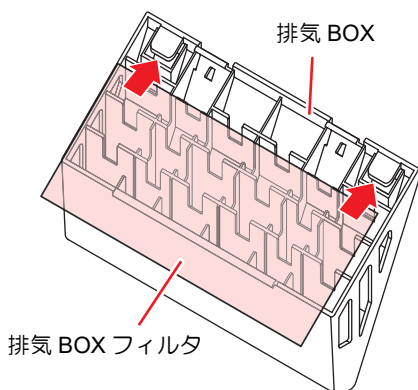
2 排気BOXと排気BOXフィルタを取り外す



3 排気BOXフィルタ、または排気BOXを新しいものに取り替える

4 排気BOXに排気BOXフィルタを取り付ける

- 排気BOXフィルタを排気BOXのツメのすき間に差し込みます。



5 排気BOXを元の場所に取り付ける

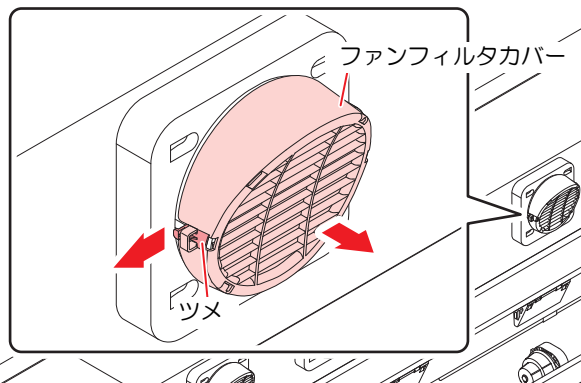
- 排気BOX奥側のツメを本体に引っかけてから、手前側をはめ込みます。

吹付ファンフィルタの交換

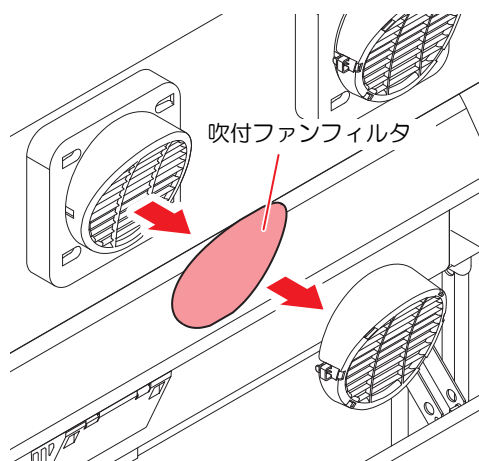
吹付ファンフィルタ(品番:SPA-0774)が汚れた場合、交換してください。

1 ファンフィルタカバーを外す

- ファンフィルタカバーのツメを外側に押し広げ、カバーを手前に引っぱります。

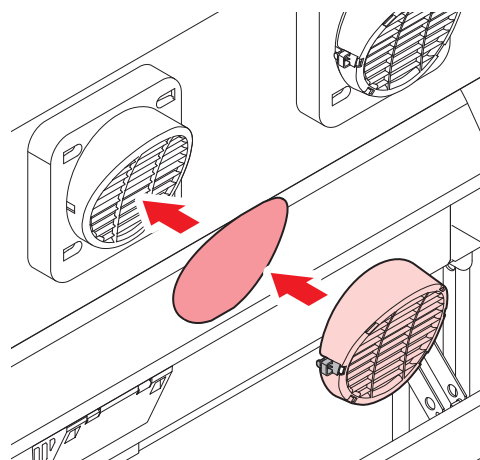


2 吹付ファンフィルタを取り外す



3 新しい吹付ファンフィルタを取り付け、ファンフィルタカバーを元に戻す

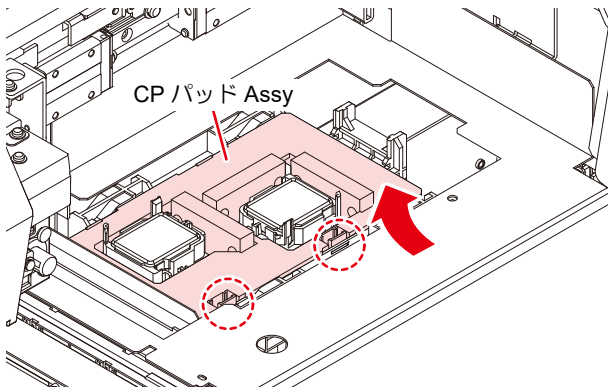
- ファンフィルタカバーは、カチッと音がするまで確実にはめ込みます。



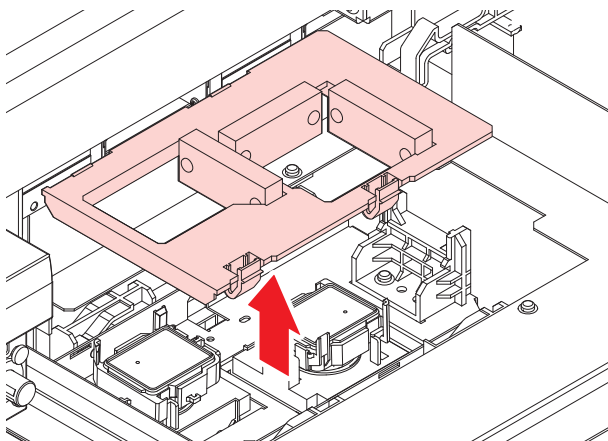
CP パッドセットの交換

CP パッドセット (品番: SPA-0257) が汚れた場合、交換してください。

1 CP パッドセットのツメ(2箇所)を押し上げる

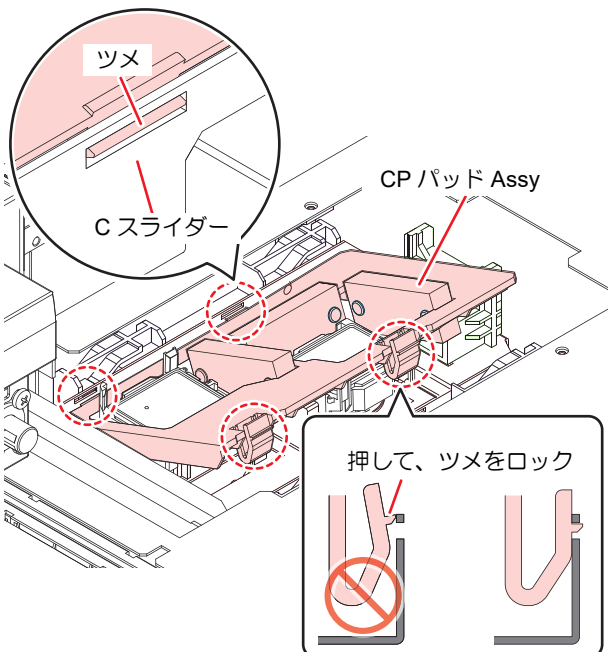


2 CP パッドセットを取り外す



3 新しいCP パッドセットを取り付ける

- C スライダーのスリットに CP パッドセットのツメを差し込んでから、全体をはめ込む。



ペンラインゴム、ペンラインスポンジの交換

ペンラインには、ペンラインゴムとペンラインスポンジの2種類があります。

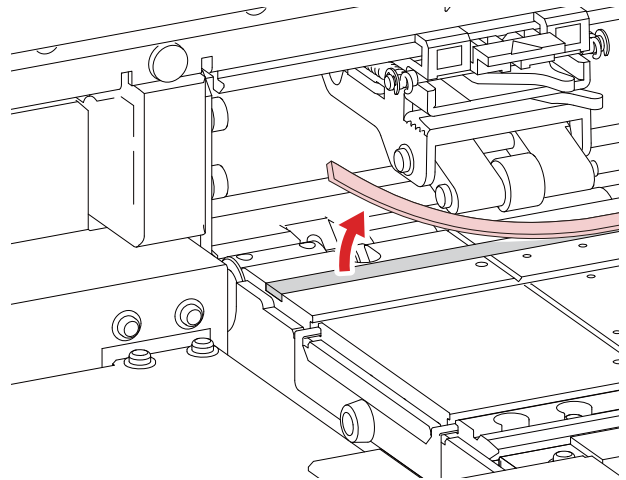
ペン書き、またはシートのカットを行う場合にペンラインゴムをご使用ください。

点線カットを行う場合にペンラインスポンジをご使用ください。

ペンラインゴム (品番: SPC-0770 または SPC-0771)、ペンラインスポンジ (品番: SPC-0775 または SPC-0776) が摩耗した場合、交換してください。

1 ピンセット等でペンラインゴムまたはペンラインスポンジを剥がす

- 本機の溝に両面テープの糊が残ってしまう場合は、アルコールで糊を拭き取ってください。



2 付属の両面テープを本機の溝に貼り付ける

3 新しいペンラインゴムまたはペンラインスポンジを両面テープの上に貼り付ける

- 平らになるように貼り付けてください。

ピンチローラーの清掃、交換

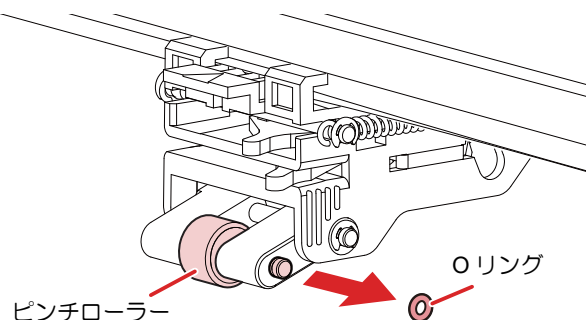
ピンチローラー(品番:SPA-0166 または SPA-0167)の汚れが気になるときに清掃してください。

また、摩耗が気になるときや汚れが落ちない場合は、ピンチローラーを交換してください。

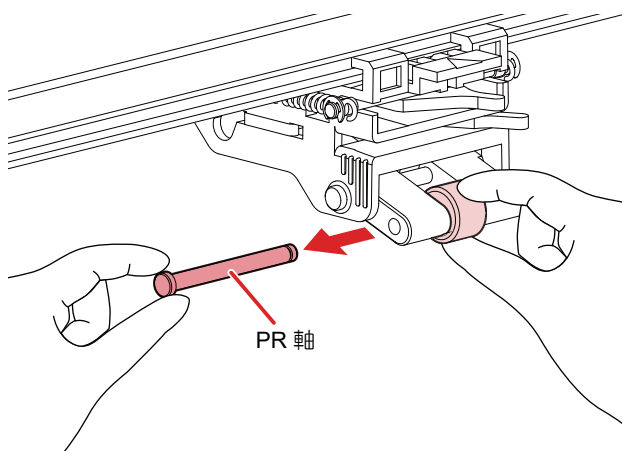
1 クランプレバーを上げる

2 ピンチローラーを固定しているOリングを外す

重要! ・部品が小さいため、装置のすき間に落下させないように、注意してください。



3 ピンチローラーを落とさないように注意して、PR軸を引き抜く



4 ピンチローラーを取り外す

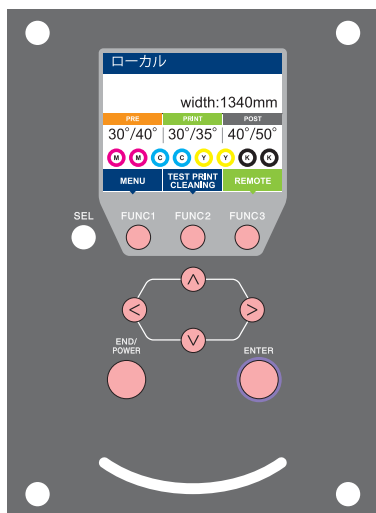
5 Oリングとピンチローラーを清掃する、または交換する

- ・クリーンスティックにメンテナンス洗浄液を含ませ、Oリングとピンチローラーに付着したインクを拭き取ります。メンテナンス洗浄液は、残らないように拭き取ってください。
- ・清掃してもきれにならない場合は、以下の手順でピンチローラーを交換してください。

- (1) 新しいピンチローラーを取り付ける
- (2) PR軸を挿しこみOリングをはめる

メンテナンスメニューについて

本機のメンテナンスをするための各種設定です。
メンテナンス設定で設定できる内容は、次の項目です。



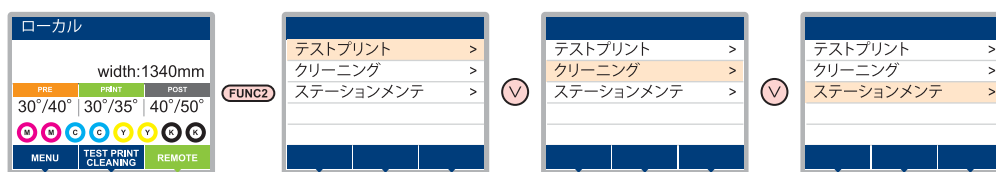
- FUNC1** : マシン設定メニューを選ぶとき、または、1つ前の画面に切り替えるときに押す
- FUNC2** : メンテナンス機能を使用するときに押す
- FUNC3** : 次の画面に切り替えるときに押す
- ▲ ▼** : 設定項目を選択するときに押す
- ENTER** : 設定を確定するときなどに押す

◆ メンテナンスメニュー一覧



*1: シルバーインクを使用している場合は [特色メンテナンス] と表示されます。

◆ FUNC2キーを押したときの画面遷移



メンテナンスメニュー一覧表

項目	設定値	内容
ステーションメンテ	キャリッジやステーション周辺のメンテナンスを行います。	
	キャリッジアウト (☞ P.5-9)	キャリッジを移動し、キャップ周辺やヘッド、ワイパー等の清掃を行います。
	ノズル洗浄 (☞ P.5-10)	1 ~ 99min ノズル面をメンテナンス洗浄液で浸し、ノズル抜けや曲がり等の復旧を行います。
	ポンプチューブ洗浄 (☞ P.5-11)	吸引ポンプチューブの洗浄を行います。
	保管洗浄 (☞ P.5-11)	1 ~ 99min 本機を長期間使わないときに行います。あらかじめノズル洗浄と排路洗浄を行い、本機を快適な状態に保ちます。
	ワイパー交換 (☞ P.5-19)	ワイパーの交換をするときに使用します。ワイパー交換を行うと、本機で管理されていたワイパー使用回数のリセットされます。
	メンテナンス洗浄液	洗浄経路内に洗浄液を充填し、インクによる洗浄経路内凝固を防止します。
ノズルリカバリ (☞ P.5-16)	ノズル洗浄等をしてノズル抜け等が復旧しない場合、他のノズルを使用してプリントします。	
	プリント	パターンをプリントし、ノズル詰まりを起こしているノズルを確認します。
	登録	“プリント”で確認した不良ノズルを登録します。
	リセット	登録した不良ノズルをリセットします。
	テストプリント	ON/OFF テストプリント時にノズルリカバリ機能の設定を行うか選びます。
オートメンテナンス (☞ P.5-16)	各種メンテナンス機能を自動的に実行します。各々のメンテナンス実行間隔を設定してください。	
	リフレッシュ	お使いのインク種によって、設定値が異なります。 リフレッシュ動作の間隔を設定します。
	チューブ/ノズル洗浄	インク排出路洗浄/ヘッドノズル洗浄の動作間隔とヘッドノズル洗浄時の放置時間を設定します。
	クリーニング(間隔)	ヘッドクリーニングの動作間隔を設定します。
クリーニング(タイプ)	ノーマル/ソフト/ハード ヘッドクリーニングをするときのクリーニングタイプを設定します。	
ホワイト(特色)メンテナンス (☞ P.5-18)	ホワイトインクおよびシルバーインクのメンテナンスを行います。	
オレンジメンテナンス (☞ P.5-18)	オレンジインクのメンテナンスを行います。	
インク充填 (☞ P.5-17)	インクの充填動作を行い、ノズル詰まりを解消します。	
廃インクタンク交換 (☞ P.5-21)	廃インクタンクの使用カウントをリセットまたは補正します。	

メンテナンスメニュー以外のメンテナンス

項目	内容	
インクのメンテナンス (☞ P.5-18)	インクのメンテナンス(ホワイト、シルバー、オレンジを除く) (☞ P.5-18)	インクのメンテナンスを行います。
	オレンジインクのメンテナンス (☞ P.5-18)	オレンジインクのメンテナンスを行います。
消耗品の交換 (☞ P.5-19)	ワイパーの交換 (☞ P.5-19)	ワイパーを交換します。
	カッターの刃の交換と調整 (☞ P.5-22)	カッターの刃の交換と調整を行います。

キャッピングステーションのメンテナンス

キャッピングステーションにあるインクキャップやワイパー等のメンテナンスをします。(ステーションメンテナンス)

- 重要!** ・ノズル状態を正常に保つため、ワイパーの清掃はこまめに実施してください。

インクキャップやワイパーは、それぞれ次のような働きをしています。

- ・ワイパー : ヘッドのノズルに付着したインクを拭き取る
- ・インクキャップ : ヘッドのノズルが乾燥により、目詰まりするのを防止する

本機を使用していると、インクやホコリ等でワイパーやキャップが汚れてきます。

ヘッドクリーニングを実行(☞P.2-17)しても、ノズル抜けが解消されない場合は、メンテナンス洗浄液キットとクリーンスティックを使用して清掃を行います。

メンテナンスに必要な道具

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ソルベントインク用メンテナンス洗浄液 200 キット (品番:SPC-0369) または 洗浄液ボトルキット A29 (品番:SPC-0137) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・クリーンスティック (品番:SPC-0527) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・手袋 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護メガネ |



- ・キャッピングステーションのメンテナンスを行うときは、必ず付属の保護メガネと手袋を着用して作業を行ってください。インクが目に入る場合があります。
- ・キャリッジを手でキャッピングステーションから出さないでください。キャリッジを移動させたいときは、[FUNC1]キーを押し、キャリッジアウトを実行してください。(☞P.5-9手順1～2)

ワイパーとキャップの清掃

画質や本機の状態を良好に保つため、こまめに清掃されることをお勧めします。

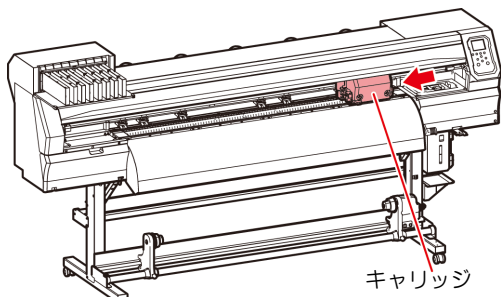
- 重要!**
- ・ワイパーの汚れ、曲がりなどがひどい場合は、新しいワイパーと交換してください。(☞P.5-19)
 - ・清掃の際は、クリーンスティックの繊維が残らないように注意してください。繊維が残っていると、プリント不良の原因になります。

1 ローカルで、**[FUNC1] (MENU)** → **[ENTER]** キーを押す

- ・メンテナンスメニューが表示されます。

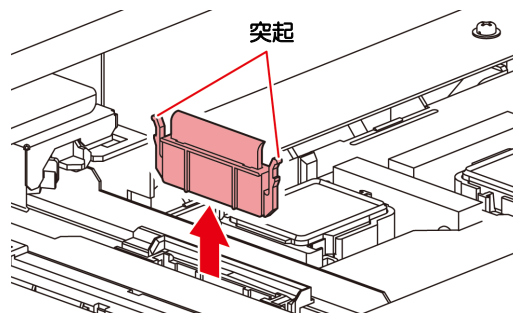
2 **[ENTER]** キーを2回押す

- ・キャリッジがプラテン上に移動します。



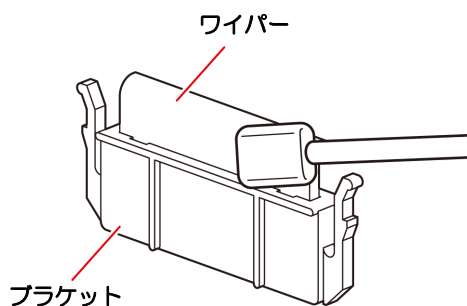
3 ワイパーを取り出す

- ・ワイパー両端の突起を持ち、引き抜きます。



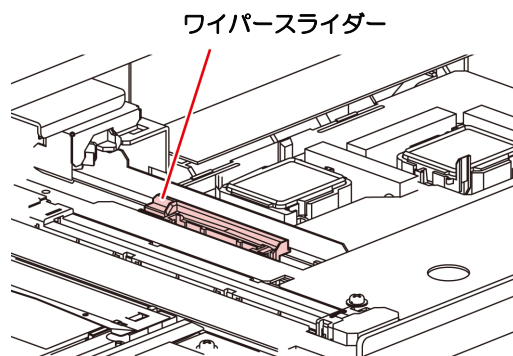
4 ワイパーとブラケットを清掃する

- ・ワイパーとブラケットに付着したインクを、メンテナンス洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。メンテナンス洗浄液は、残らないように拭き取ってください。



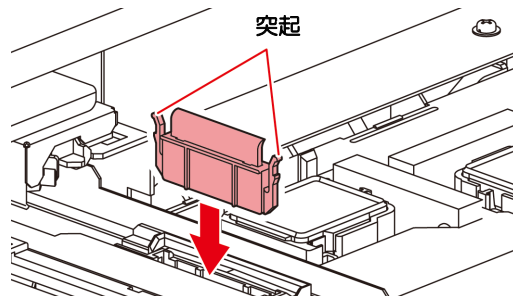
5 ワイパーライダーを清掃する

- ・ワイパーライダーに付着したインクを、メンテナンス洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。



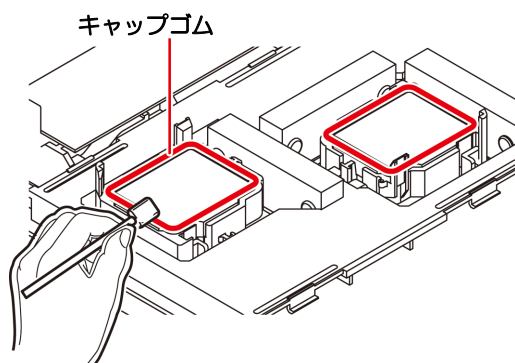
6 ワイパーを元の位置に戻す

- ・ワイパー両端の突起を持ち、差し込みます。



7 キャップゴムを清掃する

- キャップゴムに付着したインクを、メンテナンス洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。
- メンテナンス洗浄液は、残らないように拭き取ってください。



8 清掃が終了したら、**ENTER** キーを押す

9 フロントカバーを閉じ、**ENTER** キーを押す

- 初期動作後、手順1の表示に戻ります。

ヘッドノズルの洗浄

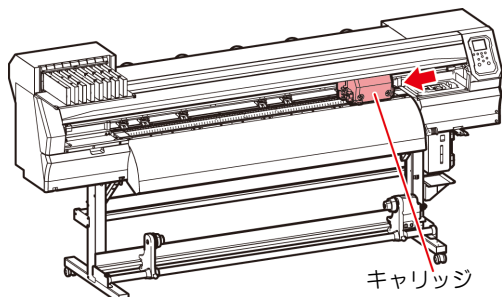
1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **ENTER** キーを押す

- メンテナンスメニューが表示されます。

2 **▲ ▼** を押して “ステーションメンテ” を選び、**ENTER** キーを押す

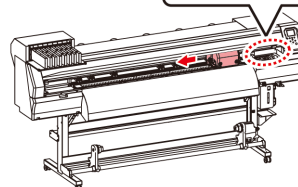
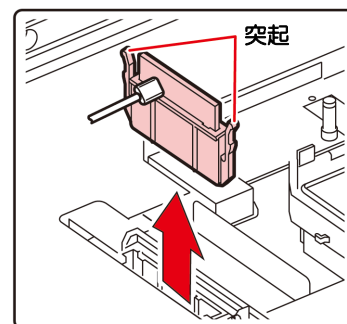
3 **▲ ▼** を押して “ノズル洗浄” を選び、**ENTER** キーを押す

- キャリッジがプラテン上に移動します。



4 ワイパーとブラケットを清掃し、**ENTER** キーを押す

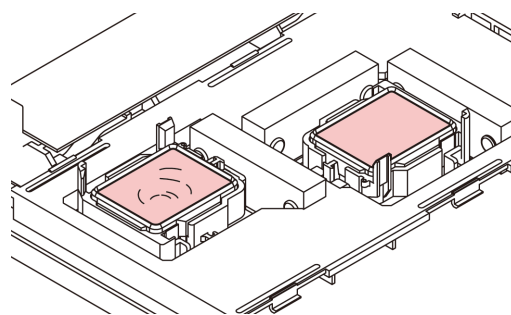
- (1) 右メンテナンスカバーを開け、ワイパー両端の突起を持って引き抜く
- (2) クリーンスティックにメンテナンス洗浄液を含ませて清掃する (SPC-0369: ソルベントインク用 / SPC-0137: 昇華転写インク用)
 - メンテナンス洗浄液は、残らないように拭き取ってください。
- (3) ワイパー両端の突起を持ち、元の位置に差し込む



5 キャップゴムを清掃し、**ENTER** キーを押す

- キャップゴムに付着したインクを、メンテナンス洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。
- メンテナンス洗浄液は、残らないように拭き取ってください。
- このとき、自動的に排路が洗浄されます。

6 メンテナンス洗浄液を、キャップ一杯に満たす



7 フロントカバーを閉め、**ENTER** キーを押す

8

▲▼を押して洗浄液の放置時間を設定し、ENTERキーを押す

- ・設定値：1～99分（1分単位）
- ・キャップに満たした洗浄液を吸引します。
- ・設定した時間が経過するまで、ディスプレイには“しばらくお待ちください”が表示されます。

重要!

- ・この洗浄を何回か実行してもノズル抜けが解消されない場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

インク排出路の洗浄

インク排出路内でのインクの凝固によるインク詰まりを防止するため、定期的に（1週間に1回程度）インク排出路の洗浄をしてください。

重要!

- ・インク排出路の洗浄を行う前に、必ずメンテナンス洗浄液がセットされていることを確認してください。メンテナンス洗浄液がセットされていないと、洗浄動作をせず、経路が詰まる恐れがあります。

1

ローカルで、FUNC1 (MENU) → ▼ → ENTERキーを押す

- ・メンテナンスメニューが表示されます。

2

▲▼を押して“ステーションメンテ”を選び、ENTERキーを押す

3

▲▼を押して“ポンプチューブ洗浄”を選び、ENTERキーを押す

- ・キャリッジがプラテン上に移動します。
- ・空吸引動作を洗浄の作業が終わるまで繰り返します。

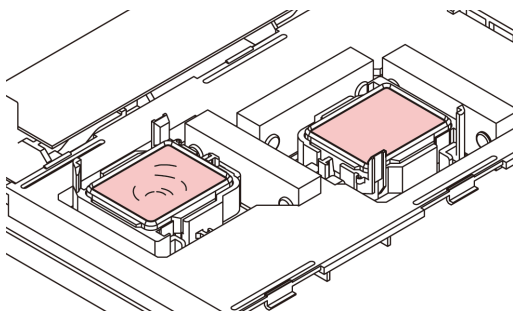
4

ENTERキーを押す

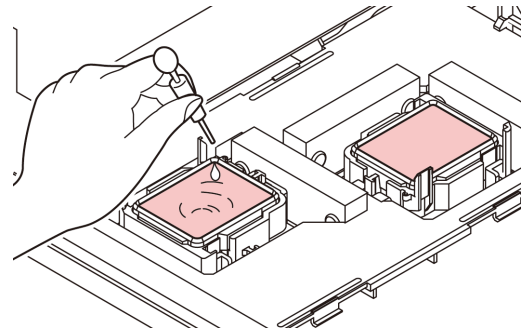
- ・空吸引動作を洗浄の作業が終わるまで繰り返します。

5

メンテナンス洗浄液を、キャップ一杯に満たす



- ・洗浄液カートリッジが有効でない場合、スポイトにメンテナンス洗浄液をとり、キャップ一杯になるまで満たします。キャップからあふれる寸前まで洗浄液を満たしてください。



6

ENTERキーを押す

長期間使用しない場合

1週間以上使用しない場合は、保管洗浄機能を使用し、ヘッドのノズルとインクの排路をクリーニングしてください。その後、本機を保管してください。

重要!

- ・主電源は、常時「オン」でお使い下さい。ヘッドのノズル保護のため、ノズル詰まりを防ぐ機能が自動的に働きます。
- ・主電源スイッチを「オフ」のまま長時間放置すると、ヘッドのノズル詰まりの原因となります。

事前に確認してください

[ニアエンド]、[インクエンド]は表示していませんか？

- ・洗浄動作の際に、洗浄液やインクの吸引を行います。このとき、インクエンドまたはニアエンドを検出していると、洗浄動作が行えなくなります。
- ・インクエンド等、未検出のカートリッジに交換してください。



- ・ワーニングメッセージ“廃インクタンク確認”が表示された場合、廃インクタンクを確認し、状況に応じてP.5-19「廃インクタンク確認メッセージが表示されたら」を参照して操作をしてください。

1

ローカルで、FUNC1 (MENU) → ▼ → ENTERキーを押す

- ・メンテナンスメニューが表示されます。

2

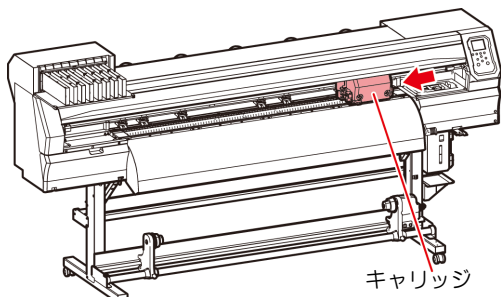
▲▼を押して“ステーションメンテ”を選び、ENTERキーを押す

5

3 ▲▼を押して“保管洗浄”を選び、
ENTER キーを押す

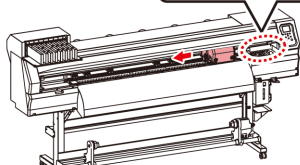
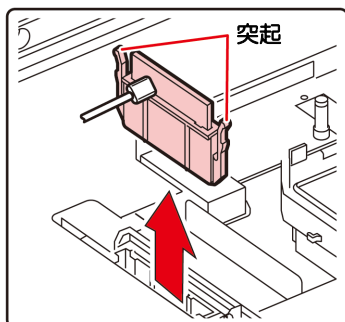
・キャリッジがプラテン上に移動します。

重要! ・ワイパーとブラケットの清掃が終了するまで、ディスプレイには“終了”が表示されます。手順3の作業が完了してから [ENTER] キーを押してください。クリーニングが終了する前に [ENTER] キーを押すと、次の洗浄手順に移行します。



4 ワイパーとブラケットを清掃する

- (1) フロントカバーを開け、ワイパー両端の突起を持って引き抜く
- (2) クリーンスティックにメンテナンス洗浄液を含ませて清掃する (SPC-0369: ソルベントインク用 / SPC-0137: 昇華転写インク用) メンテナンス洗浄液は、残らないように拭き取ってください。
- (3) ワイパー両端の突起を持ち、元の位置に差し込む



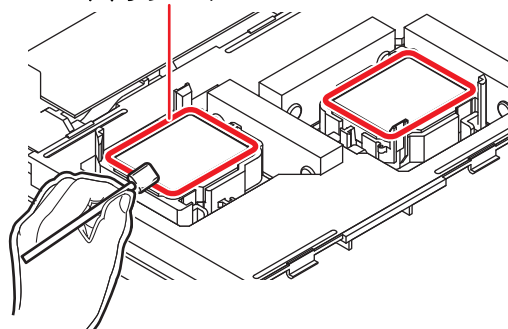
5 ENTER キーを押す

重要! ・キャップのクリーニングが終了するまで、ディスプレイには“終了”が表示されます。手順5の作業が完了してから [ENTER] キーを押してください。クリーニングが終了する前に [ENTER] キーを押すと、次の洗浄手順に移行します。

6 キャップゴムを清掃する

- ・キャップゴムに付着したインクを、メンテナンス洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。
- ・メンテナンス洗浄液は、残らないように拭き取ってください。
- ・このとき、自動的に排路が洗浄されます。

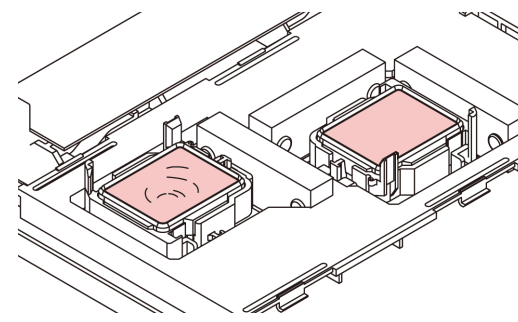
キャップゴム



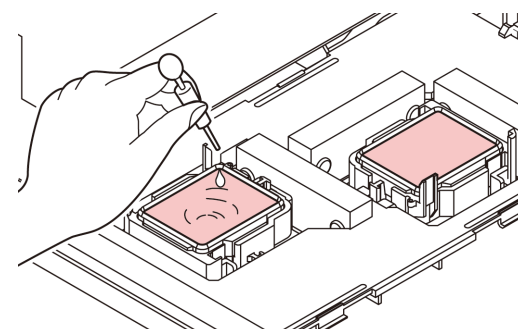
7 ENTER キーを押す

重要! ・洗浄液を満たすまで、ディスプレイには [シュウリョウ (ツギへ) :ENT] が表示されます。手順8の作業が完了しフロントカバーを閉じてから [ENTER] キーを押してください。洗浄液を満たす前に [ENTER] キーを押すと、キャリッジが元の位置に戻ります。

8 メンテナンス洗浄液を、キャップ一杯に満たす



- ・洗浄液カートリッジが有効でない場合、スポイトにメンテナンス洗浄液をとり、キャップ一杯になるまで満たします。キャップからあふれる寸前まで洗浄液を満たしてください。



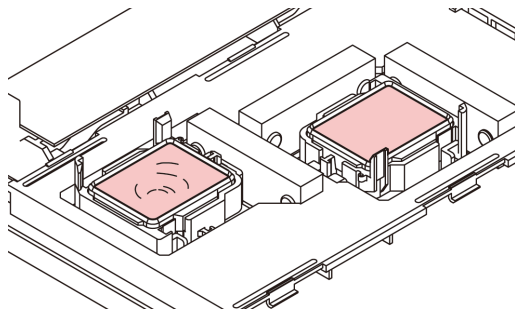
9 ENTER キーを押す

10 ▲▼を押して、洗浄液の放置時間を設定する

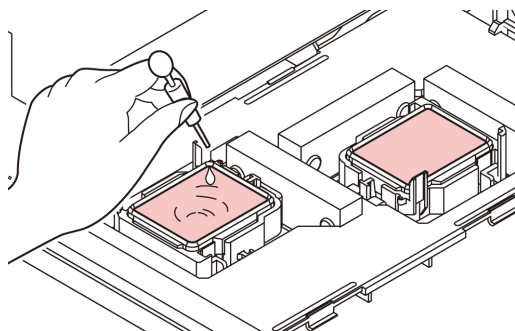
- ・設定値:1～99分(1分単位)

11 ENTER キーを押す

- ・ノズルの洗浄を実行します。
- ・ノズルの洗浄が終了すると、ヘッドがメンテナンス位置に移動します。

12 フロントカバーを開ける**13** メンテナンス洗浄液を、キャップ一杯に満たす

- ・洗浄液カートリッジが有効でない場合、スポイトにメンテナンス洗浄液をとり、キャップ一杯になるまで満たします。キャップからあふれる寸前まで洗浄液を満たしてください。

**14** フロントカバーを閉じ、ENTER キーを押す

- ・初期動作後、手順2の表示に戻ります。

ヘッド周辺の清掃

ヘッドそのものは非常に微細なメカニズムを採用しておりますので、お手入れの際には十分な注意が必要です。スライダ下部、ヘッド周辺にゲル状になったインクや、ホコリが付着することがありますので、クリーンスティックなどでこすり落としてください。その際、ヘッドのノズル部分は絶対にこすらないようにしてください。

清掃に必要な道具

- | | |
|------------|-----|
| ・クリーンスティック | ・手袋 |
| ・保護メガネ | |



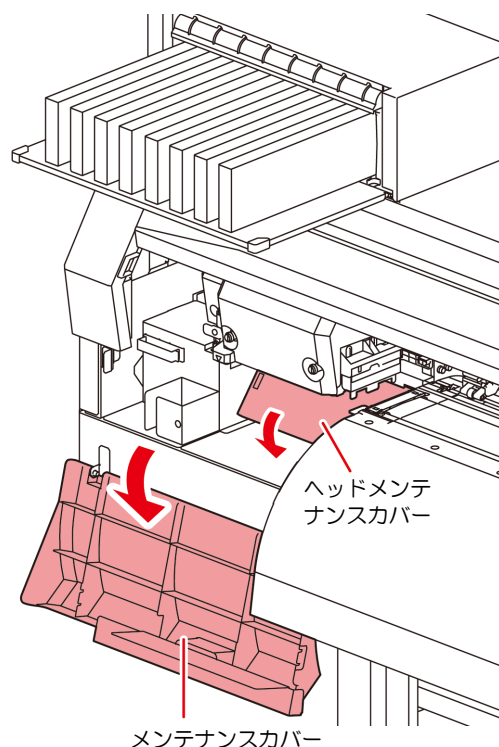
- ・清掃を行うときは、必ず付属の保護メガネと手袋を着用して作業を行ってください。インクが目に入る場合があります。
- ・インクは有機溶剤を使用しています。皮膚や目に入った場合は、直ちに水で十分に洗い流してください。

1 ローカルで、FUNC1 (MENU) → ▼ → ENTER キーを押す

- ・メンテナンスメニューが表示されます。

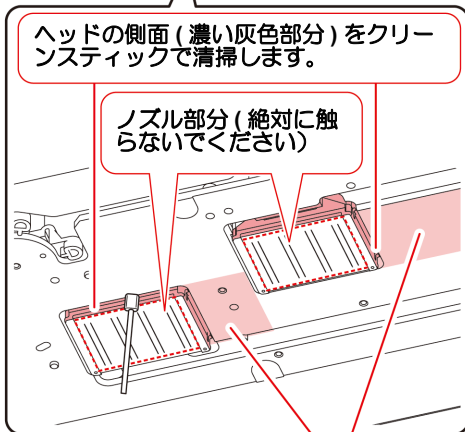
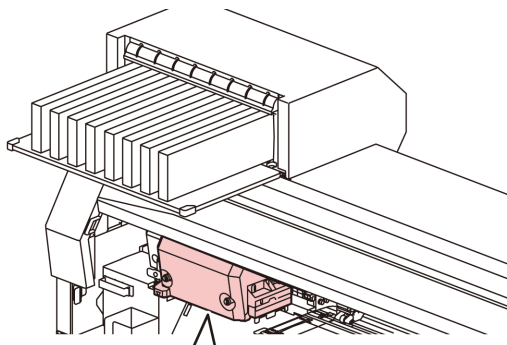
2 ENTER キーを2回押して“キャリッジアウト”を選ぶ**3** ▲▼を押して“ヘッドメンテ”を選び、ENTER キーを押す

- ・キャリッジがキャリッジが、本機の左端まで移動します。

4 メンテナンスカバーとヘッドメンテナンスカバーを開く

5 ヘッドの側面などに付着したインクを、メンテナンス洗淨液を含ませたクリーンスティックで拭き取る

- ・ノズル部分は、絶対にこすらないでください。



クリーンスティックまたはウエスで清掃します。

6 清掃が終了したら、**ENTER** キーを押す

7 メンテナンスカバーを閉じ、**ENTER** キーを押す

- ・初期動作後、ローカルに戻ります。

ノズルリカバリ機能

特定ノズルのノズル抜けが直らない場合、そのノズルは使用せず他の正常なノズルをかわりに使用(ノズルリカバリ)してプリントすることができます。

1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) キーを押す

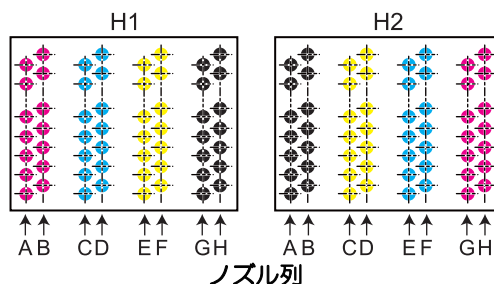
- ・メンテナンスメニューが表示されます。

2 **▲▼** を押して“ノズルリカバリ”を選び、**ENTER** キーを押す

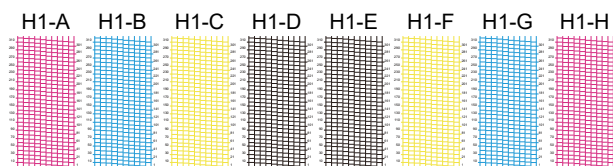
3 **ENTER** キーを 2 回押す

- ・ノズルパターンのプリントを開始します。
- ・“登録”を選択すると、プリントをしないで、ノズル列選択手順(手順4)に移ります。

ヘッドを上から見た図



ヘッド1のノズルパターン



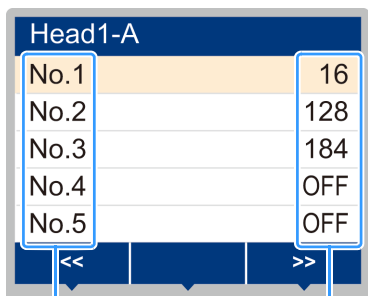
- 重要!**
- ・6色インクセットの場合、ノズルパターン“H1-B”、“H1-D”はプリントされません。
 - ・リーフメディアを使用する場合、A3サイズ横置き以上のサイズのメディアをセットしてください。幅の狭いメディアをセットすると、途中でしかプリントされません。

4 **▲▼** を押してノズルリカバリをするノズル列を選び、**ENTER** キーを押す



5 リカバリが必要なノズル番号を登録し、**[ENTER]** キーを押す

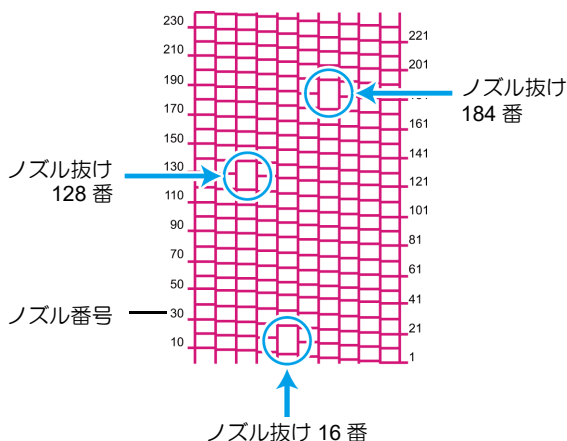
- (1) **[▲]**/**[▼]** を押して登録番号 (1~10) を選び、**[ENTER]** キーを押します。
- (2) **[▲]**/**[▼]** を押してリカバリするノズル番号を登録し**[ENTER]** キーを押します。



リカバリノズル番号または OFF

登録番号 : 1~10

リカバリノズル登録例



登録番号	リカバリノズル番号	状態
1	16	ノズルリカバリする
2	128	ノズルリカバリする
3	184	ノズルリカバリする
4	OFF	登録無し
5	OFF	登録無し

6 終了するとき、**[END/POWER]** キーを数回押す

重要!

- 1 ノズル列あたり 10 個までノズルを登録できます。
- 本機能を使用しても、プリント時間は変わりません。
- 最低パスでプリントをした場合は、ノズルリカバリが反映されません。また条件によって、ヘッド両端 (手前 / 奥) の 20 ~ 120 ノズルのみ有効となるものがあります。一度、試しプリントを行い確認してください。



- 白インクを使用している場合、透明フィルムに印刷して確認してください。

設定値をリセットする

- 1 ローカルで、**[FUNC1]** (MENU) **[▶]** **[▼]** **[▶]** **[ENTER]** キーを押す
• メンテナンスメニューが表示されます。
- 2 **[▲]** **[▼]** を押して“ノズルリカバリ”を選び、**[ENTER]** キーを押す
- 3 **[▲]** **[▼]** を押して“リセット”を選び、**[ENTER]** キーを押す
- 4 **[▲]** **[▼]** と **[FUNC1]** (<<) **[FUNC3]** (>>) を押してリセットするノズル列を選び、**[ENTER]** キーを押す
• リセット確認のメッセージが表示されます。
- 5 **[ENTER]** キーを押す
- 6 終了するとき、**[END/POWER]** キーを数回押す

テストプリント時にノズルリカバリを有効にするか設定する

以下の手順でノズルリカバリを“ON”に設定し、P.5-14「ノズルリカバリ機能」で回復したいノズル番号を登録することで、テストプリントのノズルリカバリ機能が有効になります (P.2-15)。

- 1 ローカルで、**[FUNC1]** (MENU) **[▶]** **[▼]** **[▶]** **[ENTER]** キーを押す
• メンテナンスメニューが表示されます。
- 2 **[▲]** **[▼]** を押して“ノズルリカバリ”を選び、**[ENTER]** キーを押す
- 3 **[▲]** **[▼]** を押して“テストプリント”を選び、**[ENTER]** キーを押す
- 4 **[▲]** **[▼]** を押して ON/OFF を選び、**[ENTER]** キーを押す
- 5 終了するとき、**[END/POWER]** キーを数回押す



- 以下のファームウェアバージョン以降で対応しています。
CJV300: Ver.2.80
CJV300 Plus: Ver.1.10

オートメンテナンス機能

本機を快適にお使いになるため、自動的に各種メンテナンスを行うように設定できます。

ここでは、各種自動メンテナンスの実行間隔を設定します。

定期的に自動メンテナンスを行うことにより、インク詰まりなどのトラブルを防止することができます。

(オートメンテナンス機能)

オートメンテナンス機能には、以下の項目があります。

- 重要!** ・手動で各種メンテナンスを行った場合、手動メンテナンス終了後、オートメンテナンス機能で設定した時間が経過したら自動的に各種メンテナンスを開始します。

機能名	説明
リフレッシュ	リフレッシュを実行するまでの間隔を設定します。
チューブ/ノズル洗浄	インク排出路洗浄/ヘッドノズル洗浄の動作間隔とヘッドノズル洗浄時の放置時間を設定します。 放置時間を設定すると、ノズル面を洗浄液に浸した後、洗浄します。ノズル詰まりを防止します。
クリーニング (間隔)	クリーニングを実行するまでの間隔を設定します。
クリーニング (タイプ)	クリーニングタイプを設定します。

- 重要!** ・ワーニングメッセージ「! 廃インクタンク」が表示されている場合、オートメンテナンス機能で設定した動作は実行されません。必要に応じて P.5-20 の操作をしてください。
・装置前面の電源スイッチをオフにする場合は、廃インクタンクの確認をしてください。

リフレッシュ間隔を設定する

ノズル詰まり防止のため、ノズルから若干のインクを吐出する間隔を設定します。

- ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(ENTER)** キーを押す
・メンテナンスメニューが表示されます。
- (▲) (▼)** を押して“オートメンテナンス”を選び、**(ENTER)** キーを押す
- (▲) (▼)** を押して“リフレッシュ”を選び、**(ENTER)** キーを押す
- (▲) (▼)** を押してリフレッシュ間隔を設定し、**(ENTER)** キーを押す
・設定値：お使いのインク種によって、設定値が異なります。
- 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す

チューブ/ノズル洗浄の間隔を設定する

インク排出路とヘッドノズル面でのインクの凝固によるインク詰まりを防止するため、インク排出路とヘッドノズル面の洗浄を行う間隔を設定します。ヘッドノズルを洗浄する場合は放置時間(キャップに充填した洗浄液にノズル面を浸す時間)も設定します。

- 重要!** ・オートメンテナンス機能をお使いになるときは、必ずメンテナンス洗浄液がセットされていることを確認してください。メンテナンス洗浄液がセットされていないと、チューブ/ノズル洗浄の動作を定期的に行わず、経路やヘッドノズルが詰まる恐れがあります。
・ノズル洗浄では最後にハードクリーニングが実行されます。(インク消費量：約 33ml/1回)
そのため、クリーニングを実行できない状態(インク量が十分でない場合など)ではノズル洗浄が実行されず、チューブ洗浄のみ実行されます。
ご注意ください。

- ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(ENTER)** キーを押す
・メンテナンスメニューを表示します。
 - (▲) (▼)** を押して“オートメンテナンス”を選び、**(ENTER)** キーを押す
 - (▲) (▼)** を押して“チューブ/ノズル洗浄”を選び、**(ENTER)** キーを押す
 - (▲) (▼)** を押して“間隔”を選び、**(ENTER)** キーを押す
 - (▲) (▼)** を押してチューブ/ノズル洗浄をする間隔を設定し、**(ENTER)** キーを押す
・設定値：24～48 時間 (h)
お使いのインク種によって、お買い上げ時の設定値が異なります。
 - (▲) (▼)** を押して“放置時間”を選び、**(ENTER)** キーを押す
 - (▲) (▼)** を押して、ノズル面を洗浄液に浸す時間を設定し、**(ENTER)** キーを押す
・設定値：OFF, 1～99 分 (min) (1 分単位)
・OFF に設定した場合、ノズル洗浄は実行されません。チューブ洗浄のみ実行されます。
- 重要!** ・お買い上げ時は放置時間が“OFF”に設定されています。そのため、ノズル洗浄が実行されません。ノズル洗浄を実行したい場合は放置時間を設定してください。推奨値は1分です。
- 終了するとき、**(END/POWER)** キーを数回押す

クリーニング間隔とタイプを設定する

クリーニングタイプと、クリーニングを実行するまでの間隔を設定します。

- 1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU) →** **▼** **→**
ENTER キーを押す
 - ・メンテナンスメニューが表示されます。
- 2 **▲** **▼** を押して“オートメンテナンス”を選び、**ENTER** キーを押す
- 3 **▼** を数回押して“間隔”または“タイプ”を選び、**ENTER** キーを押す
- 4 **▲** **▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す
 - ・設定値：お使いのインク種によって、設定値が異なります。
 - ・タイプの設定値：ソフト/ノーマル/ハード
- 5 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

600ml カートリッジをお使いのとき

- ディスプレイに[インクレベル]を表示していても、ヘッドクリーニングに必要な量のインクが残っている場合があります。
[インクレベル]が表示されたら、P.3-19「[インクレベル ロー]を表示したら」を参照して600ml インクカートリッジの重量を入力してください。
- インクパックにヘッドクリーニングに必要な量のインクが残っていないとき
インクの残量がヘッドクリーニングに必要な分だけ残っていない場合、「ヘッドクリーニングを行う」の手順3でエラーメッセージ“Error”を表示してお知らせします。この場合は、新しいインクパックに交換して、最初からヘッドクリーニングをやり直してください。

インク充填

インクの充填動作を行い、ノズル詰まりを解消します。

- 1 ローカルで、**(FUNC1) (MENU) →** **▼** **→**
ENTER キーを押す
 - ・メンテナンスメニューが表示されます。
- 2 **▲** **▼** を押して“インク充填”を選び、**ENTER** キーを押す
- 3 **▲** **▼** を押して充填の種類を選ぶ
 - ・スタンダード：ソフト充填では復旧しないドカ抜けやブロック抜けが発生した場合（CJV300Plus：FWバージョン2.3以降、CJV300：FWバージョン4.3以降）
 - ・ソフト：ヘッドクリーニングでは復旧しないような多量のノズル抜け、ドカ抜けが発生した場合
 - ・ノーマル：初期充填時にドカ抜けが発生する場合
 - ・ハード：ダンパー交換時など、ダンパーがからになっている場合
- 4 **ENTER** キーを押す
 - ・手順3で“スタンダード”・“ソフト”を選んだ場合、充填色選択画面が表示されます。
また、“ノーマル”または“ハード”を選んだ場合は、手順6へ進んでください。
- 5 **▲** **▼** を押して充填する色を選び、**ENTER** キーを押す
- 6 **ENTER** キーを押す
 - ・自動的にインク充填を開始します。
- 7 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

インクのメンテナンス

インクは定期的に振ってご使用ください。インクを定期的には振らないと、インクが沈降し、プリント品質が低下するおそれがあります。振る頻度はインクの種類、色により異なります。

また、インクカートリッジは、弊社推奨のものをご使用ください。

インクのメンテナンス(ホワイト、シルバー、オレンジを除く)

インクを定期的に振ってください。(☞P.1-10)
振る頻度(推奨)は以下のとおりです。

ソルベントインク(SS21/ES3): 1カ月に1回
昇華転写インク(Sb53/Sb54): 1週間に1回

ホワイトインク(特色)メンテナンス

ホワイトインクおよびシルバーインクは他のインクに比べて沈降しやすい性質があります。

本機を2週間以上使用しない場合、本機の内部またはカートリッジ内部で沈降してしまう場合があります。インクが沈降すると、プリント時にノズル詰まりを発生し、正常にプリントできなくなります。

プリント時のノズル詰まりの防止とホワイトインクおよびシルバーインクの状態を良好に保つため、以下の定期メンテナンスを行ってください。

- (1) 以下の場合にインクを取り外してゆっくり振ってください。(☞P.1-10)
 - 電源オン状態で24時間が経過
 - 電源オン時にワーニングメッセージ“White/Silver カートリッジを振ってください”を表示
- (2) 1週間に1度、始業前に必ず下記の手順でメンテナンスを行ってください。

1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **ENTER** キーを押す

• メンテナンスメニューが表示されます。

2 **FUNC1 (<<)** を押し、**ENTER** キーを押す

3 **▲ ▼** を押して“ホワイト(特色)メンテナンス”を選び、**ENTER** キーを押す

4 **ENTER** キーを押す

• 自動で排出、充填動作を行い、その後、クリーニングを行います。

5 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

オレンジインクのメンテナンス

オレンジインクは他のインクに比べて沈降しやすい性質があります。

成分が沈降したインクを使用した場合、プリント品質が著しく低下します。プリント品質の低下を防ぐために下記のメンテナンスを行ってください。

- (1) 以下の場合にインクを取り外してゆっくり振ってください。(☞P.1-10)
 - 1週間に1回程度
 - 前回の印刷から24時間が経過した場合
- (2) 1週間以上プリンターを使用しなかった場合は、インクを取り外してゆっくり振ってください。インクをマシンにセットし、インク充填(ハード)を1回実行してください。インク充填を実行しても色味が戻らない場合は、もう一度インク充填を実行してください。(☞P.5-17)

1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **ENTER** キーを押す

• メンテナンスメニューが表示されます。

2 **FUNC1 (<<)** を押し、**ENTER** キーを押す

3 **▲ ▼** を押して“オレンジメンテナンス”を選び、**ENTER** キーを押す

4 **ENTER** キーを押す

• 自動で排出、充填動作を行い、その後、クリーニングを行います。

5 終了するとき、**END/POWER** キーを数回押す

消耗品の交換

ワイパーを交換する

ワイパーは消耗品です。ディスプレイにワーニングメッセージ“ワイパー交換”が表示されたら、速やかにワイパーを確認・交換してください。
また、スライダ下面に付着したインクの清掃をしてください。

- 重要!**
- ワイパー交換のワーニングが表示された場合、ワイパーフィルム先端部にキズや毛羽立ち等がないか確認してください。ワイパーフィルム先端部にキズや毛羽立ちがない場合は、そのままお使いになれます。
 - クリーニングワイパーは別売品です。お近くの販売店、または弊社営業所でお求めください。

1 ローカルで、**FUNC1 (MENU)** → **▼** → **ENTER** キーを押す

- メンテナンスメニューが表示されます。

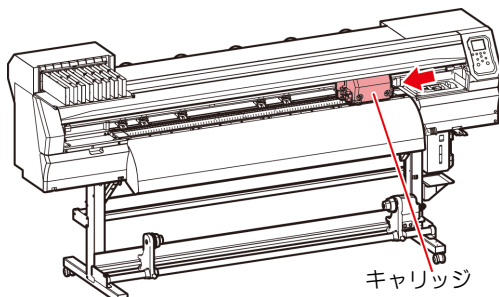
2 **▲** **▼** を押して“ステーションメンテ”を選び、**ENTER** キーを押す

3 **▲** **▼** を押して“ワイパー交換”を選び、**ENTER** キーを押す

- ワイパーの使用回数がリセットされます。

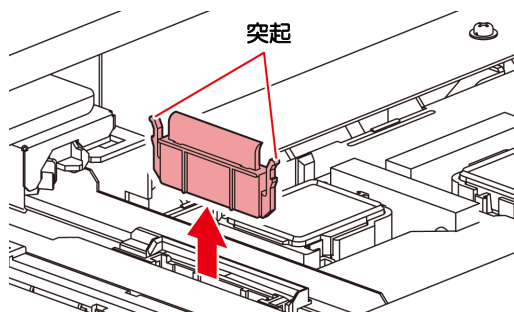
4 **ENTER** キーを押す

- キャリッジがプラテン上に移動します。



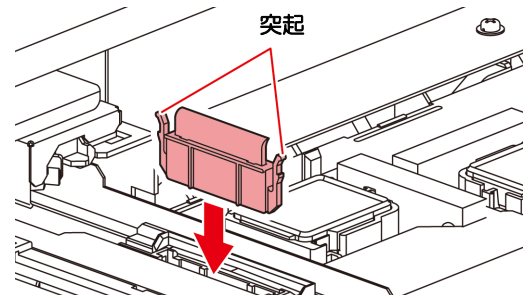
5 ワイパーを取り出す

- ワイパー両端の突起を持ち、引き抜きます。



6 新しいワイパーを差し込む

- ワイパー両端の突起を持ち、差し込みます。



7 **ENTER** キーを押す

- 初期動作後、ローカルに戻ります。

廃インクタンク確認メッセージが表示されたら

ヘッドクリーニングなどで使用したインクは、本機の右下にある廃インクタンクにたまります。本機では、インクの排出量を累積カウントし、一定の量になったら確認を促すメッセージが表示されます。(廃インクタンク交換の目安としてお使いください。)



- 2L タンクの 80%(1.6L) でメッセージが表示されます。

ローカルでの確認メッセージ

1 ディスプレイにワーニングメッセージ“廃インクタンク確認”が表示される

2 廃インクタンクを確認する

- 実際の量と誤差がある場合、**▲****▼** を押して補正します。
- 80% 未満に補正して **ENTER** キーを押すと、メッセージが消えます。
- 交換 (廃棄処分) しカウントクリアする場合、「廃インクタンクを交換する」の手順を実行してください。(P.5-20)

重要!

- 廃インクタンクの液量はこまめにご確認ください。廃インクを廃棄せずに本機を使用し続けると、廃インクタンクから廃インクがあふれ出るおそれがあります。

廃インクタンクを交換する

1 ディスプレイにワーニングメッセージ“ 廃インクタンク確認 ”が表示される

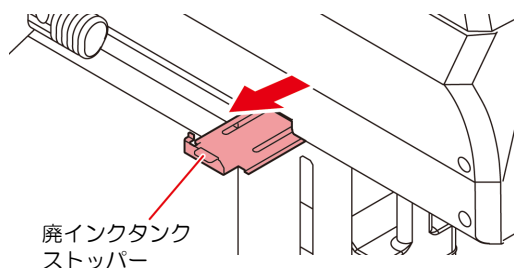
2 ローカルで、**(FUNC1) (MENU)** → **(▼)** → **(ENTER)** キーを押す
 ・メンテナンスメニューが表示されます。

3 **(▲)** **(▼)** を押して“ 廃インクタンク交換 ”を選び、**(ENTER)** キーを押す

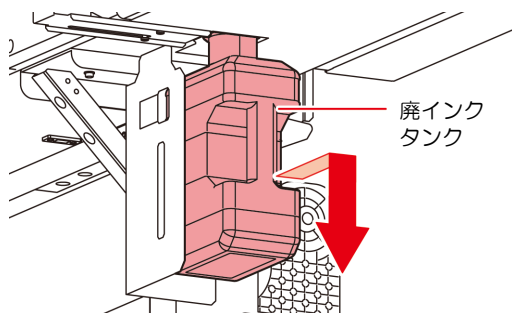
4 廃インク量の調整が必要な場合、**(ENTER)** キーを押す
 ・目視で確認した廃インク量とディスプレイに表示している廃インク量を比較し、おおよそディスプレイで表示している値に問題がない場合は、「ENTER」キーの代わりに[END]キーを押して、手順6へ進んでください。

5 **(▲)** **(▼)** を押してレベルを調整し、**(ENTER)** キーを押す

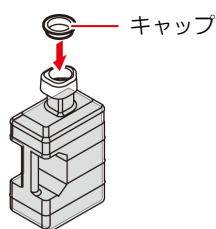
6 廃インクタンクストッパーを手前に引く



7 廃インクタンクの取っ手を持ち、手前に引いて取り出す

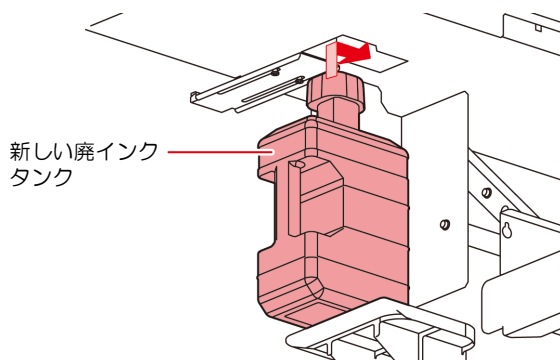


・取り出した廃インクタンクにキャップをはめてください。



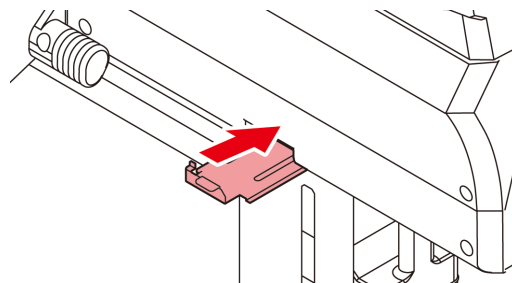
8 廃インクタンクを交換する

- (1) 新しい廃インクタンク (SPA-0246) を用意する
- (2) 廃インクタンクの取っ手を持ち、差し込む



・廃インクは、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

9 廃インクタンクストッパーを閉じる



10 **(ENTER)** キーを押す

- ・本機で管理しているインク排出量のリセットを行い、メッセージを解除します。

廃インクタンク確認メッセージが表示される前に廃インクタンクを交換する場合

廃インクタンク確認メッセージが表示される前(2Lタンクの80%(1.6L)に達する前)に廃インクタンクを交換する場合、情報メニューで廃インク情報を0%に設定します。

1 「廃インクタンクを交換する」(P.5-20)の手順6～9を実行し、廃インクタンクを空にする

2 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **ENTER** キーを押す

・メンテナンスメニューが表示されます。

3 **▲** **▼** を押して“廃インクタンク交換”を選び、**ENTER** キーを押す

4 廃インクタンク情報を表示させる

5 **▲** **▼** を押してレベルを調整し、**ENTER** キーを押す

・廃インクタンク量のリセット画面が表示されます。

6 **ENTER** キーを押す

・本機で管理している廃インクタンク量がリセットされます。

裁断カッター刃の交換

メディア裁断カッター刃は消耗品です。切れ味が悪くなってきたら、新しい裁断カッター刃 (SPA-0107) に交換してください。



- ・カッターの刃先は鋭利です。触らないでください。
- ・カッター刃は、子供の手の届かないところに保管してください。また、使用済みのカッター刃は、地域の条例に従い廃棄してください。



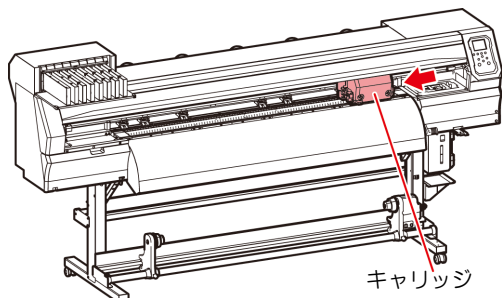
- ・裁断カッター刃の下に用紙を敷いておくと、刃先が落ちた時に拾いやすくなります。

1 ローカルで、**FUNC1** (MENU) → **ENTER** キーを押す

・メンテナンスメニューが表示されます。

2 **ENTER** キーを2回押す

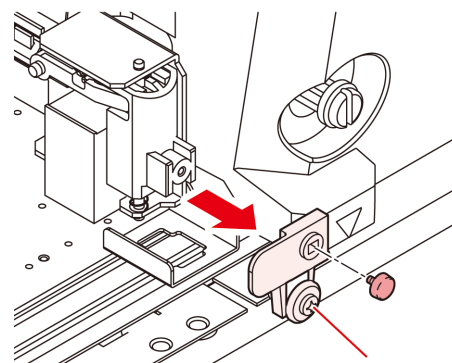
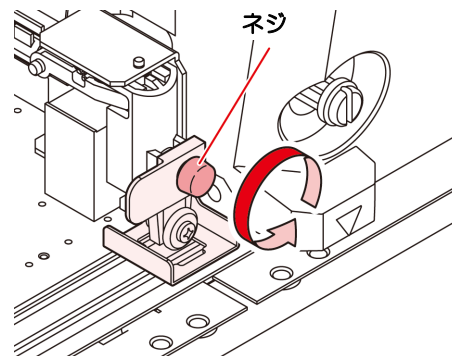
・キャリッジがプラテン上に移動します。



3 キャリッジ手前の裁断カッターユニットを交換する

- ・カッターユニットが手動で移動できるようになります。交換しやすい位置に移動させてから交換してください。

- (1) 裁断カッターユニットのネジを緩める
- (2) 裁断カッターユニットを取り外す
- (3) 新しい裁断カッターユニットを取り付ける
- (4) 裁断カッターユニットのネジを締めて、裁断カッターユニットを固定する



カッターユニット

4 交換が終わったら、**ENTER** キーを押す

- ・ローカルに戻ります。

カッターの刃の交換と調整



- ・カッターの刃先は鋭利です。触らないでください。
- ・カッター刃は、子供の手の届かないところに保管してください。また、使用済みのカッター刃は、地域の条例に従い廃棄してください。
- ・カッターをセットした後、カッターホルダーを振らないでください。刃先が飛び出し、怪我の原因となります。

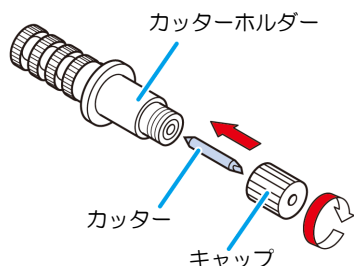
刃先の交換

カッターは消耗品です。刃先が欠けたり切れ味が悪くなってきたら、新しいカッターに交換してください。(付属品型番：SPA-0030)

新しいカッター (塩ビシート用低圧刃セット：型番 SPB-0030) は、販売店または弊社営業所でお買い求めください。

品名	品番	仕様	備考
偏芯替刃塩ビシート用	SPB-0001	3本組	
偏芯替刃小文字用	SPB-0003	3本組	
偏芯替刃ゴムシート用	SPB-0005	3本組	
偏芯替刃反射シート用	SPB-0006	2本組	
偏芯替刃蛍光シート用	SPB-0007	3本組	
偏芯替刃塩ビシート用低圧	SPB-0030	3本組	標準添付(1本)
偏芯替刃厚ゴムシート用	SPB-0084	3本組	

1 先端のキャップを回して外す



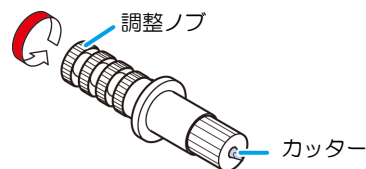
2 ピンセット等で新しいカッターに交換する

刃先の調整

刃先の調整後、カット条件の設定および試し切りを行い、切れ具合を確認してください。

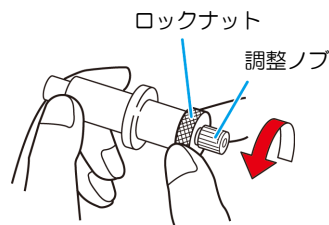
1 調整ノブを回し、カッターの出し量を調整する

- ・調整ノブを右側に回すと刃が出ます。(1周で0.5mm)



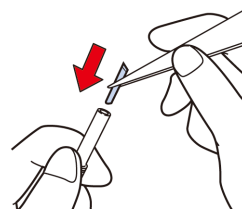
付属品以外のカッターの交換方法

1 ロックナットを緩め、調整ノブをホルダーから抜き取る

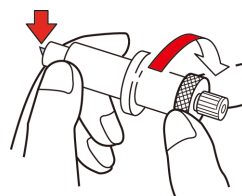


2 カッターを調整ノブに入れる

- ・ピンセット等でカッターをつまんで入れてください。

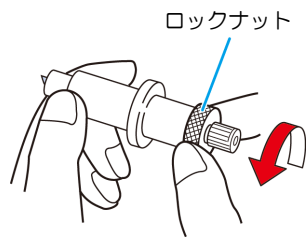


3 ロックナットを締める

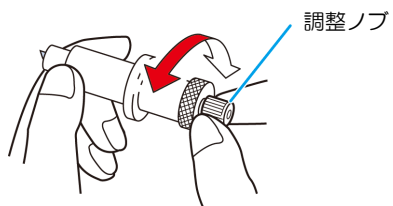


付属品以外のカッター刃先の調整

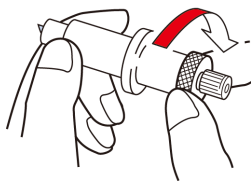
1 ロックナットを緩める



2 調整ノブを回し、カッター刃の出し量を調整する



3 調整ノブが回らないようにロックナットを締める



• オプションの刃先調整器 (型番 OPT-S1005) を使用すると、正確に刃先の出し量を調整できます。

第6章 困ったときは



この章では ...

故障かな?と思ったときの対処方法や、ディスプレイに表示するエラー番号の解消方法などを説明をしています。

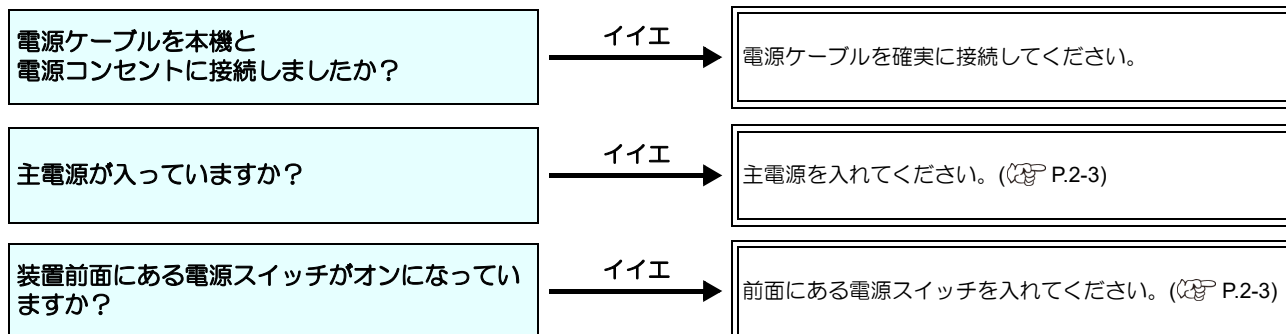
故障かな?と思う前に	6-2
電源が入らない	6-2
プリントできない	6-2
メディア詰まり/メディアが汚れる	6-2
ヒーターの温度が設定値まで上昇しない	6-3
画質不良が発生したときは	6-3
ノズル詰まりを解消したいとき	6-3
カートリッジ異常が発生したら	6-4
インク漏れが発生したら	6-4
メッセージを表示するトラブル	6-5
ワーニングメッセージ	6-5
エラーメッセージ	6-8

故障かな？と思う前に

故障？と思う前にもう一度確認してください。対処しても正常に戻らない場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

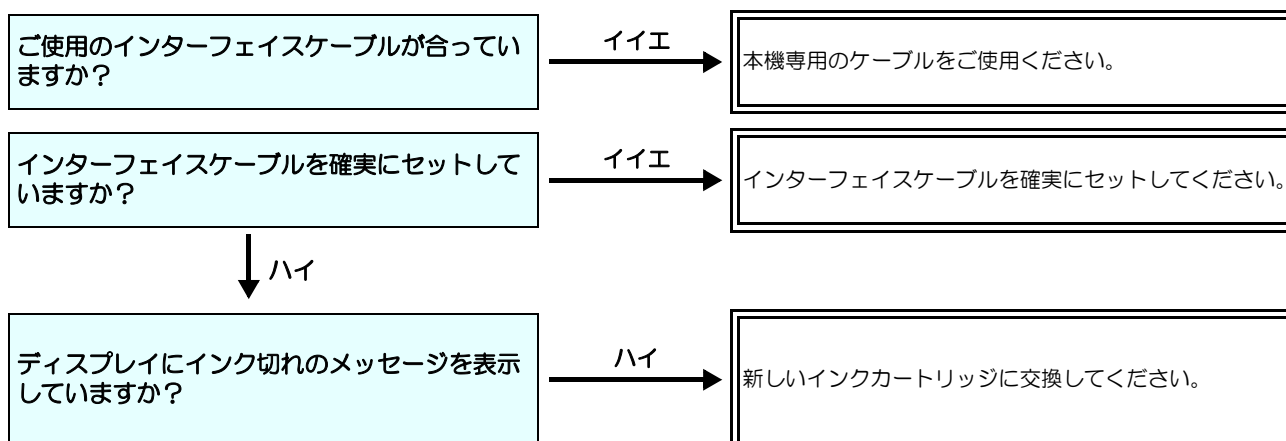
電源が入らない

電源が入らない場合の原因の多くは、電源やコンピュータのケーブル接続ミスによるものです。接続が適正かもう一度確認してください。



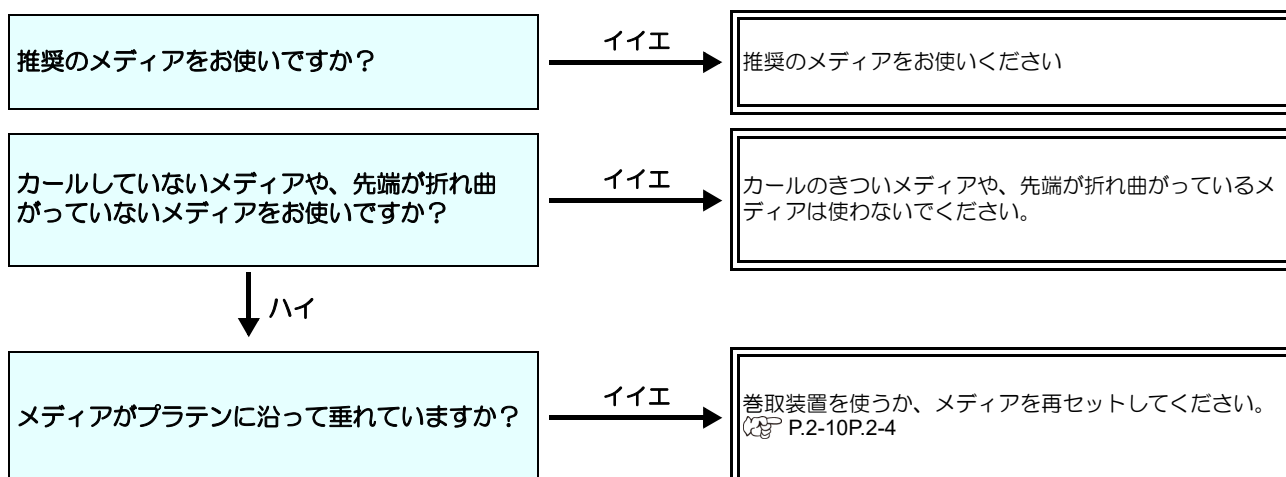
プリントできない

プリントができない場合は、データが適正に本機に送られていない場合があります。また、プリント機能に不良がある場合や、メディアのセット方法に問題がある場合などが考えられます。



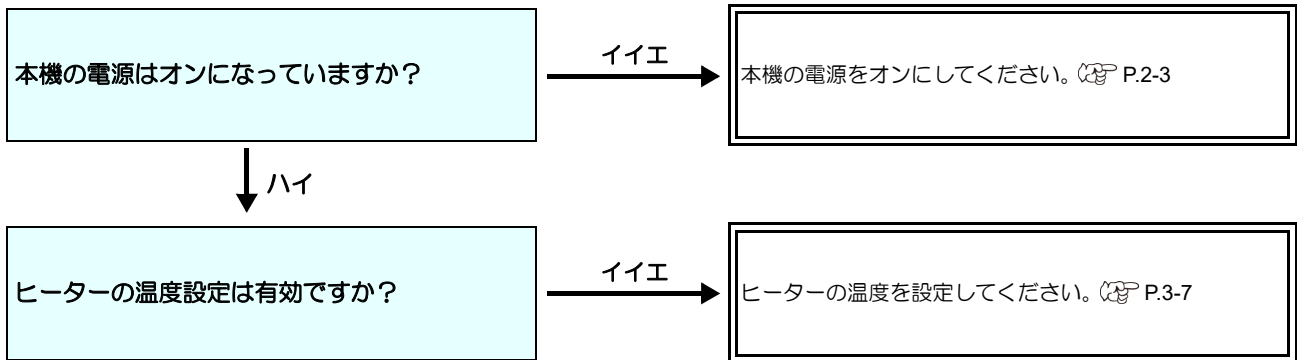
メディア詰まり / メディアが汚れる

メディア詰まりやメディアの汚れは、ご使用のメディアやセット方法に問題があるなどが考えられます。



ヒーターの温度が設定値まで上昇しない

基本操作を確認してください。



画質不良が発生したときは

ここでは、プリント品質に問題があるときの対処方法を説明します。症状に従って対処してください。対処しても改善しない場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

現象	対処方法
白スジ / カスレ / 色の濃いスジが発生する (ヘッド移動方向)	(1) ヘッドクリーニングを行ってください。 P.2-17 (2) ステーション内部のメンテナンスをしてください。 P.5-9 (3) 「フィード補正」機能を実行してください。 P.3-5 (4) メディア押さえの上などヘッドが通過する部分に、紙片などのゴミが付着している場合は、ゴミを取り除いてください。
文字が用紙送り方向に2重、3重にブレる	(1) 「フィード補正」機能を実行してください。 P.3-5
往復印字でズレが発生する	(1) 「ドット位置補正」機能を実行してください。 P.3-6
プリント中にインク滴が落ちる	(1) ワイパーを清掃してください。 P.5-9 (2) インクキャップのクリーニングをしてください。 P.5-9 (3) ヘッドの周辺を清掃してください。 P.5-13 (4) ヘッドクリーニングの[ノーマル]を実行してください。 P.2-17 (5) 定期ワイピングを、設定してください。 P.3-11

ノズル詰まりを解消したいとき

P.2-17 の操作でヘッドのクリーニングをしてもノズル詰まりが解消しない場合は、次の項目を確認してください。

- P.5-10 の操作をして、ヘッドノズルの洗浄をしてください。
- P.5-13 の操作をして、ヘッドノズル面の洗浄をしてください。
- P.5-14 の操作をして、ノズルリカバリをしてください。

カートリッジ異常が発生したら

インクカートリッジに異常が発生したら、カートリッジ LED「赤」が点灯し、ワーニングメッセージが表示されます。プリント、クリーニング等、インク吐出に関する動作は全てできなくなります。速やかに新しいインクカートリッジに交換してください。

カートリッジ異常の詳細を表示する

次の操作をして、カートリッジ異常の内容を確認できます。

- 重要!** ・カートリッジ異常を表示したまま長時間放置しないでください。ノズル詰まりの防止機能が動作しなくなります。ノズルが詰まった場合、サービスマンによる修理が必要になります。

1 ローカルモードで、**ENTER** キーを押す

2 **ENTER** キーを押す

インク漏れが発生したら

インク漏れが発生した場合は、主電源スイッチをオフにして電源プラグを抜いてから、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

メッセージを表示するトラブル

何らかの異常が発生すると、ブザーが鳴りディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージの内容によって対処してください。

ワーニングメッセージ

操作を実行したときに表示されるエラー

表示	原因	対処方法
実行できません :メディア未検出	メディア未検出のため、機能が実行できない。	<ul style="list-style-type: none"> メディア検出後実行してください。
実行できません :MOTOR POWER OFF	カバーオープン後などモーターが OFF している。	<ul style="list-style-type: none"> ローカルに戻り、初期化動作が完了してから機能を実行してください。
実行できません :インクエラーあり	インクエラーが発生している。	<ul style="list-style-type: none"> 新しいインクカートリッジに交換後、機能を実行してください。
実行できません カバーオープン	カバーが開いている。	<ul style="list-style-type: none"> カバーを閉めてから、機能を実行してください。
実行できません プリントデータあり	データを受信している。	<ul style="list-style-type: none"> データクリアを実行後、機能を実行してください。(P.2-19)

ローカルで表示されるメッセージ

表示	原因	対処方法
プリント不可 / カートリッジ	複数のインクエラー（使用不可インク）が発生し、インクの供給（プリントやクリーニングなど）が行えない。	<ul style="list-style-type: none"> 新しいインクカートリッジに交換してください。
廃インクタンク確認	廃インクタンクのカウン트가規定量を超えた。	<ul style="list-style-type: none"> 廃インクタンクの排液量を確認してください。 メンテナンス・廃インクタンク交換を実行し、廃液量をリセットしてください。
ワイパー交換	ワイパ使用カウン트가規定量を超えた。	<ul style="list-style-type: none"> メンテナンス・ステーションメンテ・ワイパ交換を実行し、ワイパを交換してください。
ヒーター温度異常 電源を OFF しました	「ERROR 710 ヒーターオンディジョウ」発生後、強制的に電源オフし、再起動した場合、表示します。	<ul style="list-style-type: none"> 再度 ERROR 710 が発生した場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターへ問い合わせください。
メディアがありません	メディアがセットされていない。もしくはセンサー故障。	<ul style="list-style-type: none"> メディアをセットしてください。セットしても表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
プリントデータあり	ローカルでプリントデータを受信した。	<ul style="list-style-type: none"> リモートに移行し、プリントを実行します。またはデータクリアを実行し、印刷を中止します。
装置温度 / 高 ** °C	設置環境（装置）の温度が高く、安定したプリントが行えない。	<ul style="list-style-type: none"> 仕様（20 °C ~ 35 °C）の範囲内に室温を調節してください。
装置温度 / 低 ** °C	設置環境（装置）の温度が低く、安定したプリントが行えない。	

表示	原因	対処方法
ホワイトインクカートリッジを振ってください	ホワイトインクカートリッジの沈こうを防ぐための警告を定期的に表示。	・インク成分の沈こうを防ぐため、ホワイトインクカートリッジを振ってください。
エコケースのスパウトゴムを交換してください。	エコケース (MBIS) のスパウトゴム交換時期になった。	・エコケースからインクが漏れる場合があります。スパウトゴムを交換してください。
洗浄カートリッジ無し	メンテナンス洗浄液カートリッジがセットされていない。 ワイパー洗浄やチューブ / ノズル洗浄が実行できない。(オートメンテナンス動作)	・メンテナンス洗浄液カートリッジをセットしてください。
洗浄液エンド	メンテナンス洗浄液の残量がない。 ワイパー洗浄やチューブ / ノズル洗浄が実行できない。(オートメンテナンス動作)	・新しい洗浄液カートリッジに交換してください。
NCU センサー感度低下	NCU のセンサー感度が低下してきている。	・NCU の交換をお勧めします。 ・販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ノズル抜け検出 印刷停止しました	ノズルチェックでノズル抜けと判定されたため、プリントを停止した。	・ヘッドクリーニング (P.2-17) ならびにノズル詰まりの対処 (P.6-3) を行ってください。
"NCU トシューイチケンシュツエラー ノズルチェック OFF	ノズルチェック実行中に NCU 関連のエラーが発生したため、印刷を停止してノズルチェック機能を OFF にした。	・「ERROR 655 / NCU トシューイチケンシュツエラー」の説明に従って対処を行ってください。
NCU センターイチケンシュツエラー ノズルチェック OFF		・「ERROR 654 / NCU センターイチケンシュツエラー」の説明に従って対処を行ってください。
NCU SN チョウセイエラー ノズルチェック OFF		・「ERROR 656 / NCU SN チョウセイエラー」の説明に従って対処を行ってください。
NCU ケンシュツエラー (HW) ノズルチェック OFF		・「ERROR 652 / NCU ケンシュツエラー (HW)」の説明に従って対処を行ってください。
NCU ケンシュツエラー (マーク) ノズルチェック OFF		・「ERROR 653 / NCU ケンシュツエラー (マーク)」の説明に従って対処を行ってください。
NCU 接続異常	NCU のユニットが接続されていない。 ノズルチェック機能が使用できない。	・一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。 再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
NCU 交換	NCU のセンサー感度が低く、正常にノズル抜けを判定できない。 ノズルチェック機能が使用できない。	・NCU の交換が必要です。 ・販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
NCU インク吸収材交換	NCU のインク吸収材が満杯になった。	・NCU のインク吸収材交換が必要です。 ・販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
NCU エラー ノズルチェック OFF	ノズルチェック実行中に NCU 関連のエラーが発生したため、プリントを停止してノズルチェック機能を OFF にした	・販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

インクエラー

インクエラーは、ローカルガイドンスでも表示されます。(☞ P.3-30)

表示	原因	対処方法
インク IC 異常	インクカートリッジのインク IC チップが正常に読み込めない。	<ul style="list-style-type: none"> ワーニングが発生しているカートリッジを再挿入してください。 ワーニングが解消しない場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
インク種類	インクカートリッジのインク種類が充填してあるインクと異なる。	<ul style="list-style-type: none"> ワーニングが発生しているカートリッジのインク種類を確認してください。
インク カラー	インクカートリッジのインクカラーが充填してあるインクと異なる。	<ul style="list-style-type: none"> ワーニングが発生しているカートリッジのインクカラーを確認してください。
カートリッジ異常	インクカートリッジのインクICチップの情報に異常が生じた。 使用量が規定値を超えている。	<ul style="list-style-type: none"> ワーニングが発生しているカートリッジを交換してください。 ノズルづまりがないことを確認してください。(特にホワイトインク)
カートリッジ無し	インクカートリッジがスロットに挿入されていない。	<ul style="list-style-type: none"> ワーニングが発生しているスロットにカートリッジを挿入してください。 カートリッジが正しく挿入されているか確認してください。 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
インク エンド	インクカートリッジのインクがなくなつた。	<ul style="list-style-type: none"> ワーニングが発生しているカートリッジを交換してください。
インク ニアエンド	インクカートリッジのインクが残りわずかなっている。	<ul style="list-style-type: none"> 間もなくインクがなくなります。ご注意ください。
インク 期限切れ	インクが期限切れになった。	<ul style="list-style-type: none"> 新しいインクに交換する、もしくは早めに使い切ってください。プリントすることは可能です。
期限切れ(1ヶ月)	インクが期限切れから1ヶ月経過した。	<ul style="list-style-type: none"> 新しいインクに交換する、もしくは早めに使い切ってください。プリントすることは可能です。
期限切れ(2ヶ月)	インクが期限切れから2ヶ月経過した。	<ul style="list-style-type: none"> 新しいインクに交換してください。プリントすることができません。
ERROR 63c インクザンリョウゼロ	カートリッジ残量が0になった。(インクエンド/4色インクセット時のみ)	<ul style="list-style-type: none"> 新しいインクに交換してください。
インクレベル ロー	600ml カートリッジ使用時、インク残量が60ml未満となった。	<ul style="list-style-type: none"> 表示している600mlカートリッジを取り外し、重量を量ってください。その後、測定した重量を入力してください。(☞ P.3-19「[インクレベル ロー]を表示したら」)
インクレベル エンド	600ml カートリッジ使用時、インク残量が25ml未満となった。	

エラーメッセージ

エラーメッセージを表示する場合は、下の表に従って、エラーを取り除いてください。
それでもメッセージを表示する場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

表示	原因	対処方法
ERROR 122 CHECK:SDRAM	SDRAM に異常が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。 再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 128 HDC FIFO OVER	ヘッド制御基板に異常が発生した。	
ERROR 128 HDC FIFO UNDER		
ERROR 129 バッテリー コウカン	内部時計の電池切れを検出した。	<ul style="list-style-type: none"> 販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 130 HD DATA SEQ	ヘッドデータ 転送エラーが発生した。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。 再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 146 E-LOG SEQ	イベントログのシーケンシャルナンバー異常が発生した。	
ERROR 151 Main PCB V1R2	メイン基板の電源に異常が発生した。	
ERROR 152 Main PCB V2R5		
ERROR 153 Main PCB V3R3		
ERROR 154 Main PCB V05		
ERROR 157 Main PCB VTT		
ERROR 16e Main PCB V3R3B		
ERROR 15f HEAD DRIVE HOT	COM ドライバが高温になっている。	
ERROR 171 NEW HEAD CONNECT	新しいヘッドの接続を認識した。	
ERROR 186 HDC OVERFLOW	印字している波形の異常を検出した。	
ERROR 186 HDC UNDERFLOW		
ERROR 187 HDC SLEW RATE		
ERROR 188 HDC MEMORY		

表示	原因	対処方法	
ERROR 18a Main PCB V_CORE	メイン基板の電源に異常が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。 再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。 	
ERROR 18c Main PCB V12			
ERROR 190 Main PCB V42-1			
ERROR 192 COMIO PCB V1R2	COM16/32IO 基板の電源に異常が発生した。		
ERROR 193 COMIO PCB V2R5			
ERROR 194 COMIO PCB V3R3			
ERROR 195 COMIO PCB V24			
ERROR 1a0 SLDR2H PCB V1R2	スライダ 2H 基板の電源に異常が発生した。		
ERROR 1a6 SLDR2H PCB V2R5			
ERROR 1a7 SLDR2H PCB V3R3			
ERROR 1a8 SLDR2H PCB V5			
ERROR 1a9 SLDR2H PCB V42			
ERROR 1e6 サイズ フソク	PRAM 基盤の接続不良 (未接続を含む)、または故障。 * 本エラー発生時、オンラインプリントが実行できなくなります。 メンテナンス機能含むそれ以外の機能については使用可能です。		<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源をオフにしてしばらくたってから主電源をオンにしてください。 再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 201 コマンド エラー	プリントデータ以外のデータを受信した。 または送信したプリントデータに異常が発生した。		<ul style="list-style-type: none"> インターフェイスクーブルを確実に接続してください。 規格に適合したインターフェイスクーブルを使用してください。
ERROR 202 パラメータ エラー	送信したプリントデータに異常が発生した。		
ERROR 304 USB INIT ERR	USB の通信に異常が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。 再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。 	
ERROR 305 USB TIME OUT			
ERROR 401 モーター-アラーム X	X モーターに過大な負荷がかかった。		

表示	原因	対処方法
ERROR 402 モーター-アラーム Y	Y モーターに過大な負荷がかかった。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。 再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 403 X オーバー カレント	X モーターの過電流エラーを検出した。	
ERROR 404 Y オーバー カレント	Y モーターの過電流エラーを検出した。	
ERROR 44 f マキトリ ロール センサ イジョウ	巻軸センサ異常 ・巻軸センサを正しく読めない	<ul style="list-style-type: none"> マシン設定の巻取ユニットとテンションバーの設定が“ON”になっていることを確認してください。 メディアのセット状態を確認してください。 マニュアルSWで巻取装置が動作することを確認してください。
ERROR 45a P-HEAD キリハナシエラー	プリントヘッドを切り離しできなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。 再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 45b P-HEAD セツゾクエラー	プリントヘッドと接続できなかった。	
ERROR 45c C-HEAD キリハナシエラー	カッターヘッドを切り離しできなかった。	
ERROR 45d P-HEAD セツゾクエラー	カッターヘッドと接続できなかった。	
ERROR 45e PR/GR イチカクニン	ピンチローラーの位置が不適切	
ERROR 48a 巻取不良検出	巻取不良検出 ・小巻取ユニットがメディアを正しく巻き取りできていないため、プリントを中止した。	<ul style="list-style-type: none"> メディアのセット状態を確認してください。 メディアが巻き取られていない場合は、正しく巻き取れる状態に再セットしてください。
ERROR 505 メディア ジャム	メディア詰まりが発生した。	<ul style="list-style-type: none"> メディアを取り除き、再セットしてください。 Plus シリーズをお使いの場合： メディアジャムが発生しプリントが停止した後、ヘッドが自動でステーションに戻ります。その後、以下のメッセージが表示されません。「メディアJAMはヘッドの破損原因となります。メディアを再セットしてください。」
ERROR 509 HDC POSCNT	位置制御に異常が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。 再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 50a Y ゲンテン ケンシュツ	Y 原点検出ができなかった。	
ERROR 50c メディアハバセンサー カクニン	メディア幅を正しく読むことができなかった。	<ul style="list-style-type: none"> メディアのセット位置を確認してください。 (☞ P.2-4) メディアセンサーの清掃を行ってください。 (☞ P.5-3) 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。
ERROR 50f L-SCALE BLACK	リニアスケール異常が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。 再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

表示	原因	対処方法
ERROR 516 メディアイチ ミギスギマス	メディアが範囲外にセットされている。	<ul style="list-style-type: none"> メディアのセット位置を確認してください。(P.2-4)
ERROR 521 レンケツ センサー イジョウ	カットヘッド連結遮光板を検出しません。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 522 カットヘッド タイキイチ	カットヘッド待機位置遮光板を検出しません。	
ERROR 523 PR センサー カクニン	ピンチローラー位置遮光板を検出しません。	
ERROR 528 ポンプモーター センサ	ポンプセンサ検出エラー	
ERROR 529 LEnc.Count HPC[___]	リニアスケール異常が発生した。	
ERROR 52a LEnc.Count HDC[___]		
ERROR 602 カートリッジ エンド	インクエンド（使用不可、4色セットでクリーニング時のみ使用可）	<ul style="list-style-type: none"> 新しいインクに交換してください。
ERROR 608 インク IC イジョウ	インクカートリッジのインクICチップが正常に読めない。	<ul style="list-style-type: none"> カートリッジが正しく挿入されているか確認してください。 カートリッジを挿入しなおしてください。 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 612 インクレベル ロー	600ml カートリッジ使用時、カートリッジ残量が60ml未満となった。	<ul style="list-style-type: none"> カートリッジの重量登録をおこなってください。(P.3-19「[インクレベル ロー]を表示したら」)
ERROR 613 インクレベル エンド	600ml カートリッジ使用時、カートリッジ残量が25ml未満となった。	
ERROR 614 ホゾン シッパイ	600ml カートリッジ使用時、重量入力時に、ICへの書き込み失敗した。	<ul style="list-style-type: none"> カートリッジが正しく挿入されているか確認してください。 カートリッジを挿入しなおしてください。 一度、主電源をオフにしてしばらく経ってから電源をオンにしてください。再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 627 カートリッジ セット	一定時間以上カートリッジが挿入されていないスロットがある。	<ul style="list-style-type: none"> カートリッジをセットしてください。
ERROR 628 カートリッジ イジョウ	インクカートリッジのインクICチップの情報に異常が生じた。使用量が規定値を超えている。	<ul style="list-style-type: none"> ノズルづまりがないことを確認してください。(特にホワイトインク)
ERROR 63c インク ザンリョウ ゼロ	カートリッジ残量0（インクエンド/4色インクセット時のみ）	<ul style="list-style-type: none"> 新しいインクに交換してください。
ERROR 64C NCU エラー	何らかの問題により、ノズルチェックが中断された。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 650 NCU セツク イジョウ	NCUのユニットが接続されていない。	
ERROR 651 NCU ヨウカン	NCUのセンサー感度が低く、正常にノズル抜けを判定できない。ノズルチェック機能が使用できない。	

表示	原因	対処方法
ERROR 652 NCU ケンシュツエラー (HW)	ノズル抜け、飛行曲りが多発していて、NCU がインクの吐出を正常に認識できない。	<ul style="list-style-type: none"> ノズル状態を確認し、ノズル抜け、飛行曲りが多い場合はクリーニングを実施し回復させてください。
ERROR 653 NCU ケンシュツエラー (マーク)		
ERROR 654 NCU センターイチケンシュツエラー		
ERROR 655 NCU トシュツイチケンシュツエラー		
ERROR 656 NCU SN チョウセイエラー	センサーの感度調整に失敗した。	<ul style="list-style-type: none"> ノズル状態を確認し、ノズル抜け、飛行曲りが多い場合はクリーニングを実施し回復させてください。 ノズル状態を回復しても、再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 657 NCU インクキュウシュウザイ コウカン	NCU のインク吸収剤が満杯になった。	<ul style="list-style-type: none"> 販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 658 NCU センサー カンド テイカ	センサーの感度が低下してきている。	<ul style="list-style-type: none"> NCU の交換をお勧めします。販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 702 サーミスタ セツソク	サーミスタ接続異常が発生している。	<ul style="list-style-type: none"> 乾燥ヒーターのサーミスタ接続を確認してください。 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 710 ヒーターオンド イジョウ	ヒーターの温度異常を検知した。本エラー発生後、温度異常が解消されない場合、強制的に装置電源をオフにします。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 901 ジッコウ デキマセン	何らかのエラーにより、機能が実行できません。	<ul style="list-style-type: none"> ローカル画面に戻ってエラー状況を確認し、対処してください。
ERROR 902 ミサクズ データ アリ	プリントデータが残っている。	<ul style="list-style-type: none"> データクリアを実行してください。(P.2-19)
ERROR 90d ヘッド センタク ナシ	搭載ヘッドに異常が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR 90f プリント エリア フソク	プリントに必要なメディア幅またはメディア長さが足りません。	<ul style="list-style-type: none"> メディア幅の広い、またはメディア長さが十分なメディアに交換してください。 原点移動によりメディア幅が狭くなっている場合、原点を右にずらして有効メディア幅を広げてください。
ERROR 04 PARAM ROM	MAIN 基板 FROM に異常が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

表示	原因	対処方法
ERROR C10 コマンド	コマンドデータ以外のコードを受信した。	<ul style="list-style-type: none"> • USBケーブルの接続を確認してください。規格に適合した USB ケーブルをお使いください。装置に適合した MIMAKI ドライバを使用してください。 • 1度電源をオフにしてしばらくたってから再度電源をオンにしてください。再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。
ERROR C11 パラメータ	数値範囲外のパラメータを受信した。	
ERROR C12 デバイス	不当なデバイス制御コマンドを受信した。	
ERROR C31 データナシ	”コピー”を実行したが、受信バッファにデータが保存されていない。	<ul style="list-style-type: none"> • 該当のデータを1度実行してください。
ERROR C32 データガオオキイ	受信済みのデータが大きすぎて、枚数切りができない。	<ul style="list-style-type: none"> • データサイズを変更してください。
ERROR C33 シートサイズ	シートの送り方向が短すぎる。	<ul style="list-style-type: none"> • 長いシートをお使いください。
ERROR C36 トンボケンシュツ	トンボ検出ができなかった。	<ul style="list-style-type: none"> • トンボのつけ方が適切かどうか確認してください。(P.4-5) • 用紙がカールしていないか確認してください。 • トンボ検出開始点の指定が正しいか確認してください。 • 白地に黒のトンボが印刷してあるか確認してください。 • トンボ間に印刷や汚れがないか、ゴミが付着していないか確認してください。 • トンボ検出の各種設定に誤りがないか確認してください。 • 上記の確認事項に異常が無いのにトンボが検出できない場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。 • トンボの周りを塗りつぶしている場合、トンボ検出設定の「塗りつぶしトンボ」を「オン」に設定してください。
ERROR C37 トンボゲンテン	トンボ検出の結果、原点を作図範囲外に検出した。	<ul style="list-style-type: none"> • トンボをシートの内側に配置してください。
ERROR C38 トンボスケール	トンボ検出ができなかった。	<ul style="list-style-type: none"> • トンボのつけ方が適切かどうか確認してください。(P.4-5) • 用紙がカールしていないか確認してください。 • トンボ検出開始点の指定が正しいか確認してください。 • 白地に黒のトンボが印刷してあるか確認してください。 • トンボ間に印刷や汚れがないか、ゴミが付着していないか確認してください。 • トンボ検出の各種設定に誤りがないか確認してください。 • 上記の確認事項に異常が無いのにトンボが検出できない場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。 • トンボの周りを塗りつぶしている場合、トンボ検出設定の「塗りつぶしトンボ」を「オン」に設定してください。
ERROR C60 ペン エンコーダ	ペン高さが検出できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> • 1度電源をオフにしてしばらくたってから再度電源をオンにしてください。再度表示する場合は販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

表示	原因	対処方法
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ERROR C61 ペン ストローク </div>	ペン高さが適正でない	<ul style="list-style-type: none"> • ペンラインゴムが極端に摩耗していないか、また浮きや変形がないか確認してください。 • ペンラインゴムに異物が付着していないか確認してください。 • 市販ペンホルダにペンを取り付けた際、適正な位置に取り付けられているか確認してください。 • 上記の確認事項に異常がないのにエラーを表示する場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

SYSTEM HALT

表示	対処方法
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> SYSTEM HALT (*) 000 : メッセージ </div>	<ul style="list-style-type: none"> • 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。再度表示する場合は番号を確認のうえ、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。("000" はエラー No.)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> SYSTEM HALT (*) 406 : WIPER ORG </div>	<ul style="list-style-type: none"> • ワイパー周辺の清掃をしてください。 • 一度、主電源をオフにして、しばらくたってから再度オンにしてください。再度表示する場合は番号を確認のうえ、販売店または弊社営業所、コールセンターにお問い合わせください。

第7章 付録



この章では ...

本機の仕様一覧表や、機能の一覧表を記載しています。

仕様	7-2
プリンタ部仕様	7-2
カット部仕様	7-2
共通仕様	7-3
インク仕様	7-4
インクカートリッジのセット順	7-5
LICENSE Library	7-6
お問い合わせシート	7-7

仕様

プリンタ部仕様

項目		CJV300-130	CJV300-160	CJV300-130 Plus	CJV300-160 Plus
プリントヘッド部	方式	オンデマンドピエゾヘッド			
	仕様	2ヘッドスタガ			
プリントモード (スキャンxフィード)		360×360dpi/ 540×360dpi/ 540×720dpi/ 720×1080dpi/ 720×1440dpi/ 1440x1440dpi			
使用可能インク		昇華転写インク (Sb):6色 (Y,M,BI,K または Dk,LBI,Lm) ソルベントインク (SS21):10色 (Y,M,C,K, Lc,Lm, Or, Lk, Si, W) ソルベントインク (ES3):6色 (M, C, Y, K, Lm, Lc)			
インク供給		インクカートリッジからのチューブ供給 インクカートリッジ交換方式: 2カートリッジ/1色によるトグル切替供給 (4色時)			
インク容量		M, C, Y, K, Lm, Lc, Or, Lk : 440ml カートリッジ W, Si : 220ml カートリッジ		M, C, Y, K, Lm, Lc, Or, Lk : 440ml カートリッジ 600ml カートリッジ (SS21) 600ml エコカートリッジ W, Si : 220ml カートリッジ	
使用可能メディア		ラベル原紙 (紙ベース) / 塩ビシート (ラミネート加工を含み、厚さ 0.25mm 以下) / 蛍光シート / 反射シート (高輝度反射シートは除く) / 熱転写ラバーシート			
プリントマージン	リーフメディア	左右: 15.0 mm (デフォルト値) 前:120 mm 後: 150 mm			
	ロールメディア	左右: 15.0 mm (デフォルト値) 前:120 mm 後: 150 mm			
ヘッド高さ調整		手動 3段階 (2.0/2.5/3.0) +1mm or +2mm 設置時選択 ベースアップ可能			
廃インクタンク		ボトル式 (2000 ml)			
コマンド		MRL- V			

カット部仕様

項目	仕様	
最大速度 *1	30cm/s	
最大加速度	1G	
カット圧力	10 ~ 450g	
使用可能ツール	偏芯カッター / 水性ボールペン / 油性ボールペン / 手書き用ボールペン (市販品) *2	
カッター応答回数	10回 / sec	
使用可能メディア	塩ビシート (ラミネート加工を含み厚さ 0.25mm 以下 *3) / 蛍光シート *4 / 反射シート *4 (高輝度反射シートは除く) / ラベル厚紙 (紙ベース) / 熱転写ラバーシート	
デッドスペース	リーフメディア	左右: 15mm (デフォルト値)、最小 5mm/ 前:135 mm / 後: 150 mm
	ロールメディア	左右: 15mm (デフォルト値)、最小 5mm/ 前:135 mm / 後: 150 mm
反復精度 *5	± 0.2 mm または指定距離の ± 0.1%の大きい方	
受信バッファメモリ	256 MB	
コマンド	MGL-II c2	
プログラムステップ	25µm	

*1. メディアサイズによって最大速度が制限される場合があります。また、速度・加速度ともに最大での動作はできません。

*2. Φ8 ~ Φ9 でクランプされる部分に、出っ張りやテーパーの無いものを使用してください。また、ペン先位置がペンによってばらつきますので、画質は保障できません。

*3. 弊社規定のシートによる。

*4. 蛍光シート専用刃 (SPB-0007)、反射シート専用刃 (SPB-0006) 使用時。

*5. 反復精度については、ページ下部を参照してください。

共通仕様

項目		CJV300-130	CJV300-160	CJV300-130 Plus	CJV300-160 Plus	
最大プリント/カット範囲		1361mm	1610mm	1361mm	1610mm	
ロールメディア サイズ	最大幅	1371mm	1620mm	1371mm	1620mm	
	最小幅	210mm				
	厚さ	1.0mm 以下				
	プリント面	ロール外側面				
	繰り出し	ロール外径 ^{*1}	紙メディア：Φ250mm 以下 その他メディア：Φ210mm 以下		端面ガイド未使用時： Φ250mm 以下 (紙メディア) Φ210mm 以下 (その他) 端面ガイド使用時：φ200mm 以下 ^{*3}	
		ロール重量 ^{*1, *2}	40kg 以下		45kg 以下	
		紙管内径	2 インチまたは 3 インチ			
	巻き取り	ロール外径 ^{*1}	紙メディア：Φ250mm 以下 その他メディア：Φ210mm 以下		端面ガイド未使用時： Φ250mm 以下 (紙メディア) Φ210mm 以下 (その他) 端面ガイド使用時：φ200mm 以下 ^{*3}	
		ロール重量 ^{*1, *2}	40kg 以下		45kg 以下	
		紙管内径	2 インチまたは 3 インチ			
巻終わり処理		紙管にテープ止め、または弱粘着				
巻きスレ		-		～φ 120 : ± 1 mm ～φ 170 : ± 3 mm ～φ 200 : ± 5 mm (端面ガイド使用時)		
リーフメディア サイズ	最大幅	1371mm	1620mm	1371mm	1620mm	
	最小幅	210mm				
距離精度	絶対精度	± 0.3 mm または指定距離の ± 0.3 % の大きい方				
	再現性	± 0.2 mm または指定距離の ± 0.1 % の大きい方				
直角度	± 0.5 mm / 1000 mm					
メディアスキュー	5mm 以下 / 10m					
メディア裁断	カッターによる Y 方向の裁断。裁断精度 (段差) 0.5mm 以下					
排紙	ロール巻取装置標準 (内巻き / 外巻き 切り替え可能)					
インターフェイス	印刷データ転送機能	USB 2.0		USB 2.0、Ethernet 1000BASE-T		
	メール機能	Ethernet 10 BASE-T / 100 BASE-TX / 1000BASE-T				
騒音	待機時	58 dB 以下 (FAST-A, 前後左右 1m)				
	動作連続音	65 dB 以下				
	動作不連続音	75 dB 以下				
適合規格	VCCI-classA, FCC ClassA, CE マーキング (EMC 指令、機械指令、RoHS 指令、低電圧指令), CB レポート, IEC 62368-1 準拠 ETL, EAC マーク, RoHS 対応					
電源仕様	単層 (AC100 ~ 120V 1440W 以下 / 220 ~ 240V 1920W 以下) x2 ±10% 50/60Hz ± 1Hz					
消費電力	1440W x2 以下 (AC 100 ~ 120V 時)					
設置環境	使用可能温度	20 °C ~ 30 °C				
	相対湿度	35 ~ 65% Rh (結露なきこと)				
	精度保証温度	20 °C ~ 25 °C				
	温度勾配	±10 °C / h 以下				
	粉塵	0.15mg/m ³ (オフィス相当)				
	最高動作高度	2000 m				
重量	167 kg	178 kg	167 kg	178 kg		
外形寸法	幅	2525mm	2775mm	2525mm	2775mm	
	奥行き	700mm				
	高さ	1392 mm				

*1. メディア巻き取り後の外形および重量

*2. ただしロールの左右を保持した時、ロールがたわまないこと。

*3. φ200mm ~ 120mm 以下 (端面ガイドの取り付け位置によって変わります)

インク仕様

項目		昇華転写インク	ソルベントインク
形態		専用インクカートリッジ	
色		ブラックインクカートリッジ ブルーインクカートリッジ マゼンタインクカートリッジ イエローインクカートリッジ ライトブルーインクカートリッジ ライトマゼンタインクカートリッジ ディープブラックインクカートリッジ	ブラックインクカートリッジ シアンインクカートリッジ マゼンタインクカートリッジ イエローインクカートリッジ ライトシアンインクカートリッジ ライトマゼンタインクカートリッジ ライトブラックインクカートリッジ オレンジインクカートリッジ シルバーインクカートリッジ ホワイトインクカートリッジ
インク容量		440ml カートリッジ	220ml / 440ml カートリッジ / 600ml カートリッジ (SS21)* ¹ / 600ml エコカートリッジ * ¹
有効期限		有効期限は、インクカートリッジに記載されている通り。 ただし、開封後は有効期限内であっても3ヶ月以内。	
保存温度	保存時	10～35℃（1日の平均気温） ・容器は密閉した状態で保管すること。 ・乾燥した換気の良い冷暗所に保管すること。	
	輸送時	0～40℃ ・0℃より低温になる場所、40℃より高温になる場所は避けること。	

*1. 対応機種：Plus シリーズ

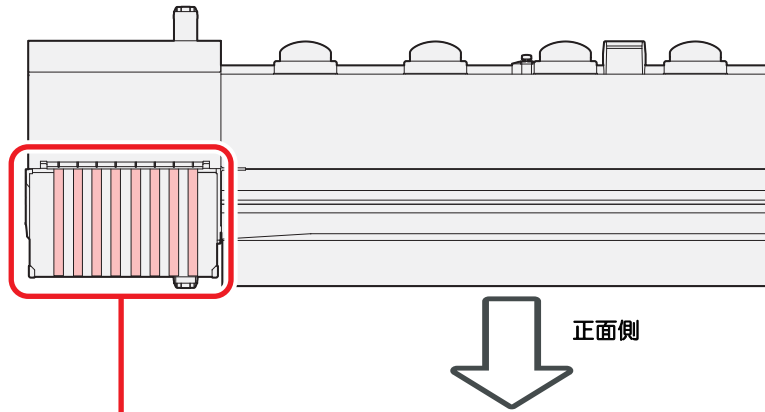
重要!

- ・インクカートリッジを分解したり、インクを詰め替えないでください。
- ・インクは、寒い場所で長時間放置すると凍結する場合があります。
- ・水性インクをお使いの場合、インクが凍結すると変質して使用できなくなります。インクが凍結しない環境で保管してください。

インクカートリッジのセット順



・インクステーション下にあるカートリッジのラベルに合わせ、インクカートリッジをセットしてください。



4色モデル	昇華転写インク (Sb53)	M	M	Bl	Bl	Y	Y	K or Dk	K or Dk
	昇華転写インク (Sb54)	M	M	Bl	Bl	Y	Y	K	K
	ソルベントインク (SS21/ ES3)	M	M	C	C	Y	Y	K	K
6色モデル	昇華転写インク (Sb53)	M	M	Bl	Bl	Y	Lm	K or Dk	LBl
	昇華転写インク (Sb54)	M	M	Bl	Bl	Y	Lm	K	LBl
	ソルベントインク (ES3)	M	M	C	C	Y	Lm	K	Lc
6色+ 特色モデル	ソルベントインク (SS21/ ES3)	M	W	C	W	Y	Lm	K	Lc
	ソルベントインク (SS21)	M	Si	C	W	Y	Lm	K	Lc
		M	W	C	W	Y	Or	K	Lk
		M	Or	C	Lk	Y	Lm	K	Lc
		M	Si	C	W	Y	Or	K	Lk

LICENSE Library

Mimaki printer Firmware

Copyright ©2020 MIMAKI ENGINEERING CO.,LTD. All rights reserved.

This product contain open source software listed in the tables below.

Component	License
StarterWare for ARM® based TI Sitara Processors	BSD-TI

The following license terms and conditions shall apply to the open source software listed in the table above:

BSD-TI

Copyright (C) 2010 Texas Instruments Incorporated - <http://www.ti.com/>

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of Texas Instruments Incorporated nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

お問い合わせシート

プリンタの故障、異常動作については、このシートをお使いください。
下記の必要事項をご記入の上、弊社営業所までFAXでお送りください。

御社名	
ご担当者名	
お電話番号	
プリンタ機種名	
お使いのOS	
マシン情報*1	
エラーメッセージ	
お問い合わせ内容	

*1.「第3章 便利な使い方」の、「情報を表示させる」をご覧ください。(P.3-30)

索引

数字

600cc インクカートリッジの組み立て方	1-12
600cc カートリッジをお使いの場合	3-17

C

CP パッドセットの交換	5-4, 5-5
--------------	----------

E

END/POWER キー	2-3
--------------	-----

I

ID カット	4-6
--------	-----

L

LAN ケーブル	1-8
LED ポインタ	2-14

U

USB2.0 インターフェイスケーブル	1-8
USB 2.0 インターフェイスについての注意事項	1-9

X

X 方向 (送り方向) 分割カット	4-11
-------------------	------

Y

Y 方向 (幅方向) 分割カット	4-10
------------------	------

あ

安全インターロック	10-ix
安全にお使いいただくために	
ご注意とお願い	10-viii
使用上の警告と注意	10-vi
使用上のご注意	10-vii
設置上のご注意	10-ix

い

イベントメール機能	3-22
イベントメール機能を有効にする	3-22
イベントを設定する	3-22
インクカートリッジ取り扱い上のご注意	1-10
インクカートリッジランプについて	1-11
インクカートリッジを交換する	1-11
インク交換レポート	3-29
インク使用期限について	1-11

インクのメンテナンス	5-18
オレンジ	5-18
ホワイト、シルバー、オレンジ以外	5-18
ホワイト (特色)	5-18

え

エラーメッセージ	6-8
エラー履歴	3-29

お

オートクリーニングの設定	3-10
オートパワーオフの設定	3-14
オートパワーオンの設定	3-14
オートメンテナンス機能	5-16
クリーニング間隔	5-17
タイプ	5-17
チューブ/ノズル洗浄	5-16
リフレッシュ間隔	5-16
お手入れ上のご注意	5-2
おねがい	10-v

か

カーブモード	4-13
外装のお手入れ	5-2
確認フィードの設定	3-21
各部の名称とはたらきについて	1-3
カッター刃とカット溝	1-7
キャッピングステーション	1-7
キャリッジ	1-7
操作パネル	1-5
装置前面	1-3
装置背面 / 側面	1-4
メディアセンサー	1-7
カッターの交換	5-22
カッターの刃の交換と調整	5-22
カッターホルダー	2-22
カッターホルダーを取り付ける	2-22
カッターを取り付ける	2-21
カッティングメニュー一覧表	4-2, 4-8
カット (作図) の一時停止	2-26
カット (作図) を開始する	2-26
カット条件で設定できる項目	2-24
カット条件について	2-24
カットの流れ	2-20
カットモードの設定	4-9
乾燥時間の設定	3-8

き

キーザーの設定	3-20
起動時検出	3-17
キャッピングステーションのメンテナンス	5-9
インク排出路の洗浄	5-11
長期間使用しない場合	5-11
ヘッドノズルの洗浄	5-10
ワイパーとキャップの清掃	5-9
吸着ファンの設定	3-9
切り込み量	2-21

け

ケーブルを接続する	1-8
警告ラベル	7-6
言語の設定	3-20
検出速度の設定	3-17
原点設定位置の目安	2-14
原点の設定	2-26
原点を変更する	2-14
件名を設定する	3-23

こ

故障かな?と思う前に	6-2
カートリッジ異常が発生したら	6-4
画質不良が発生したときは	6-3
電源が入らない	6-2
ノズル詰まりを解消したいとき	6-3
プリントできない	6-2
メディアが汚れる	6-2
メディア詰まり	6-2
ご注意	10-v
コピー機能	4-9

さ

サーバーを設定する	3-23
最大プリントエリア/カットエリア	2-8
裁断カッター刃の交換	5-21
サンプルカット	4-16
サンプルカットの結果	4-16

し

時刻の設定	3-20
自動リモート	3-25
受信障害	10-v
主電源スイッチ	2-3
仕様	7-2, 7-6
インク仕様	7-4
本体仕様	7-2
使用環境温度	1-2
使用状況	3-29
使用時間	3-29
廃インクタンク情報	3-29
プリント長情報	3-29
プリント面積情報	3-29
ワイピング情報	3-29
情報メニュー	3-29
情報メニュー一覧表	3-29
情報を表示させる	3-30
消耗品の交換	5-18
初期状態に戻す	3-25

す

推奨するトンボ	4-4
捨て切り	4-13
スリットライン	2-8

せ

正常にカットできなかったとき	4-14
設置場所について	1-2
設定メニュー	3-2
設定メニュー一覧表	3-3
設定リセット	4-13

そ

その他の設定	4-12
--------	------

た

単位(温度/長さ)の設定	3-20
--------------	------

ち

調整ノブ	2-21
調整レバーとレンジについて	2-4

つ

ツール条件を設定する	2-25
ツール条件を選択する	2-24
ツールホルダー	2-22
ツールを取り付ける	2-15, 2-21

て

データクリア	2-19
データをプリントする	2-19
定期ワイピングの設定	3-11
テストカットをする	2-26
テスト作図	2-18
テストプリント	
通常のテストパターン	2-16
テストプリントに関する注意事項	2-15
テストプリントの前に確認してください	2-15
ヘッドの配列とテストパターンの関係	2-15
ホワイト確認	2-16
テストプリントをする	2-15
テストメールを送信する	3-24
デッドスペース	7-2
電源ケーブル	1-9
電源を入れる	2-3
電源を切る	2-3
電源を切るときのご注意	2-3
電波障害自主規制	10-v

と

ドットの位置がずれたら	2-18, 3-6
トップブロワの設定	3-15
トルクリミッタ	2-13
トンボが無いデータをカットする	4-17
トンボ間隔	4-4
トンボ検出の設定	4-5, 4-6
トンボ検出の設定項目	4-5

トンボ原点誤検出の例 1	4-3
トンボ周辺の作図禁止エリア	4-3
トンボセンサーの反応を確認する	4-14
トンボ付きデータ作成に関する注意事項	4-3
トンボと図柄の配置可能範囲	4-3
トンボの色	4-4
トンボの大きさ	4-3
トンボの距離とトンボサイズの目安	4-4
トンボのにじみ	4-4

に

日常のお手入れ	5-2
---------	-----

ね

ネットワーク経由で印刷を行う	1-8
ネットワークの設定	3-21

の

ノズルチェック	
印刷中ノズルチェックの設定	3-28
「ノズル抜け」判定時ならびにエラー発生時の印刷動作	3-27
自動ノズルリカバリの設定	3-28
判定条件の設定	3-28
ノズルチェックメニュー	3-26
ノズルチェックメニュー一覧表	3-26
ノズルリカバリ機能	
設定値をリセットする	5-15

は

バージョン	3-29
ハーフカットについて	2-24
廃インクタンク確認メッセージ	5-19
廃インクタンクを交換する	5-20
排気 BOX フィルタ、排気 BOX の交換	5-4
刃先の調整	5-22
刃先補正圧オフセット	4-13
刃先を調整する	2-21
パターンプリント	2-18, 3-6

ひ

ヒーターの温度設定を変更する	2-15
ヒーターの準備	2-15
ヒーターの準備をする	2-15
ヒーターの設定	3-7
標準マージン	3-8
ピンチローラーの合わせ方	2-5
ピンチローラーの位置を調整する	2-5
ピンチローラーの清掃、交換	5-6

ふ

フィード速度の設定	3-9
フィード補正の設定	2-18, 3-5
吹付ファンフィルタの交換	5-4

付属品以外のカッターの交換	5-22
付属品以外のカッター刃先の調整	5-23
プラテンの清掃	5-2
プリント結果	2-16
プリント条件別フィード補正	3-6
プリント中にメディア送りを補正したいとき	3-6
プリントの流れ	2-2, 4-2
プリントを開始する	2-19
プリントを中止する	2-19
分割カットの設定を解除する	4-11

へ

ヘッドクリーニング	2-17
テストプリントの結果に合わせてヘッドクリーニングを行う	2-17
ヘッドクリーニングについて	2-17
ヘッド周辺の清掃	5-13
ヘッド高さを調整する	2-4
ペンアダプタ	2-22
ペンラインゴム、ペンラインスポンジの交換	5-5

ほ

ボールペンの取り付け方	2-22
補正パターン	3-5
本機の制限について	1-11
本装置の移動	1-2

ま

マーク表示	10-vi
マージン(左/右)の設定	3-8
巻取装置について	2-12
巻取装置を使わないとき	2-13
巻取りユニットの設定	3-15
マシン設定メニュー	3-12
マシン設定メニュー一覧表	3-13

め

メールアドレスを設定する	3-22
メッセージを表示するトラブル	6-5
メディア押えの清掃	5-3
メディア押さえの清掃	5-3
メディア押さえをお使いになるときの注意事項	2-14
メディア検出の設定	3-16
メディアサイズとグリットローラーについて	
CJV30-130	2-7
CJV30-160	2-6
メディア残量入力	2-11, 2-12
メディア残量表示の設定	3-16
メディアセンサーの清掃	5-3
メディアについて	1-13
使用可能メディアサイズ	1-13
メディア取り扱い上の注意	1-13
メディアのセット位置	2-8
メディアのセット位置について	2-8
メディアを裁断する	2-19, 2-27

メディアをセットするときの注意事項	2-8
メニューモードについて	1-14
ノットレディモード	1-14
ファンクションモード	1-14
リモートモード	1-14
ローカルモード	1-14
メンテナンス洗浄液	5-2
メンテナンスニュー	5-7
メンテナンスメニュー一覧表	5-8

よ

余白フィード方式の設定	3-21
-------------------	------

ら

ライトポインタの位置を補正する	4-15
-----------------------	------

り

リーフメディアをセットする	2-13
リスト	3-29
リセット	3-25

ろ

ロールメディアをセットする	2-9
ロジカルシークの設定	3-7

わ

ワーニングメッセージ	6-5
インクエラー	6-7
操作を実行したときに表示されるエラー	6-5
ローカルで表示されるメッセージ	6-5
ワイパーを交換する	5-19

CJV300-130/160, CJV300-130/160 Plus 取扱説明書

2022年11月

発行者 株式会社ミマキエンジニアリング
発行所 株式会社ミマキエンジニアリング
〒389-0512
長野県東御市滋野乙 2182-3



KM
FW : 4.30 (CJV300)
2.30 (CJV300 Plus)